岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第483集

沼袋（ぬまぶくろ）遺跡発掘調査報告書

一般県道田野畑岩泉線緊急地方道路整備事業関連遺跡発掘調査

2006

岩手県宮古地方振興局岩泉土木事務所

(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

沼袋遺跡発掘調査報告書

一般県道田野畑岩泉線緊急地方道路整備事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包含地があり、10,000ヵ所に及ぶ遺跡が確認されております。先人の残した文化遺産を保護し保存していくことは私たち県民に課せられた重大な責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、快適な生活を送るための地域開発と社会資本の充実もまた県民の切実な願いであります。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって消滅する遺跡について、歴史資料・史料としての遺跡情報の記録保存を目的とした調査・研究を行ってまいりました。

本報告書は、一般県道田野畑岩泉線緊急地方道路整備事業に伴って平成16年度に行われた沼袋遺跡の発掘調査の結果をまとめたものであります。調査によって縄文時代後期を主体とする遺構・遺物や弥生時代の土器が出土しました。また、中世以降の調査では掘立柱建物跡と陶器・古銭などの遺物が発見され、本県沿岸北部においては貴重な資料を多数得ることができました。この報告書が広く活用されることで、東北地方における地方史研究の発展や、埋蔵文化財に対する県民の理解を深めるための一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査および報告書作成にご理解とご協力を賜りました岩手県宮古地方振興局岩泉土木事務所、田野畑村教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成18年２月

財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　合　田　　武

例　　言

1　本報告書は、岩手県下閉伊郡田野畑村尾肝要118-3他に所在する沼袋遺跡の発掘調査結果を収録したものである。

2　本遺跡の発掘調査は「一般県道田野畑岩泉線緊急地方道路整備事業」に関わる事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と岩手県宮古地方振興局岩泉土木事務所との協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。

3　本遺跡の調査成果の概略は、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第469集『平成16年度発掘調査報告書』に公表しているが、本書の内容を優先するものとする。

4　本遺跡の岩手県遺跡台帳番号と遺跡略号は、以下のとおりである。

遺跡台帳番号……ＫＧ21－0127

遺　跡　略　号……ＮＢ－04

5　野外の調査期間・調査面積・調査担当者は、以下のとおりである。

調査期間　　平成16年５月19日～10月５日

調査面積　　4,910m²

担 当 者　　米田　寛・立花　裕

6　室内整理期間及び整理担当者は、以下のとおりである。

整理期間　　平成16年11月１日～平成17年３月31日

担 当 者　　米田　寛・立花　裕

7　野外調査での遺構写真撮影は調査員、遺物写真撮影は当センター写真撮影を専門とする期限付き職員と米田が担当した。

8　本報告書の執筆はⅠを岩手県宮古地方振興局岩泉土木事務所、Ⅱ～Ⅵを米田が担当し、編集・校正は米田が行った。

9　出土遺物の鑑定・分析及び業務委託は次の機関に委託した。

石質鑑定……花崗岩研究会　　黒曜石産地同定分析…㈱第四紀地質研究所

火山灰同定…㈱古環境研究所　　遺構内土壌分析…パリノ・サーヴェイ株式会社

10　発掘調査・整理作業・報告書作成にあたって以下の方々に御教示・御協力をいただいた。(敬称略)

安達尊伸（田野畑村教育委員会)、井上雅孝（滝沢村教育委員会)、神原雄一郎（盛岡市教育委員会)、小林正史（北陸短期大学)、中村公宣（函館市博物館)

11　本報告書に掲載した地図等には、図中にスケールを付した。使用した地図・地形図は以下の通りである。

国土交通省国土地理院１：25,000地形図「沼袋」（ＮＪ－54－13－１－３）

12　本遺跡から出土した遺物及び調査に関わる資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。

目　次

Ⅰ　調査に至る経過……1

Ⅱ　遺跡の立地と環境
1　地形と気候……1
2　周辺の遺跡……4

Ⅲ　調査の方法
1　発掘調査……8
2　室内整理……12
3　掲載図版・表解説……15
4　基本土層……18

Ⅳ　遺構・遺物
1　概　　要……19
2　遺　　構……19
3　遺　　物……45

Ⅴ　まとめ
1　遺　　構……89
2　遺　　物……90
3　近世墓碑の年代論的位置……91

Ⅵ　考　　察
1　縄文時代後期における土器の野焼き方法……92

Ⅶ　分析・鑑定
1　分析目的……99
2　沼袋遺跡土壌理化学分析……99
3　火山灰屈折率測定分析……102
4　沼袋遺跡出土の近世人骨……103
5　沼袋遺跡黒曜石産地分析……107
報告書抄録……149

表目次

第1表　周辺の遺跡……6
第2表　遺構計測表（柱穴）……46
第3表　遺構計測表（土坑）……48
第4表　土器観察表（縄文～弥生）……76
第5表　土製品・粘土塊観察表……86
第6表　石器観察表……86
第7表　陶器観察表……88
第8表　金属器観察表……88

図版目次

第１図　岩手県全図と遺跡の位置 ……2
第２図　田野畑村内の遺跡……3
第３図　沼袋遺跡と周辺の遺跡 ……5
第４図　調査区グリッド設定図 ……9
第５図　Ｂ区遺構配置図（１）……10
第６図　Ｂ区遺構配置図（２）……11
第７図　Ｂ区遺構配置図（３）……12
第８図　Ｃ区遺構配置図、
　　ロングセクション（１）……13
第９図　Ｃ区ロングセクション（２）……14
第10図　石鏃平面類型……16
第11図　石鏃遺存類型……17
第12図　基本土層図 ……18
第13図　１号掘立柱建物跡……20
第14図　２号掘立柱建物跡……21
第15図　３号掘立柱建物跡（１）……22
第16図　３号掘立柱建物跡（２）……23
第17図　４号掘立柱建物跡……24
第18図　５号掘立柱建物跡……25
第19図　６号掘立柱建物跡……27
第20図　７号掘立柱建物跡……29
第21図　８号掘立柱建物跡……30
第22図　９号掘立柱建物跡……31
第23図　１～４・６・７号土坑 ……33
第24図　５号土坑 ……35
第25図　８～10号土坑……37
第26図　Ｂ区柱穴群（１）……38
第27図　Ｂ区柱穴群（２）……39
第28図　１号捨て場 ……41
第29図　２号捨て場 ……43
第30図　１号埋設土器、１号焼土遺構、
　　墓碑集中部 ……44
第31図　土坑、柱穴内出土土器 ……49
第32図　１号埋設土器、１号捨て場
　　出土土器（１）……50
第33図　１号捨て場出土土器（２）……51
第34図　１号捨て場出土土器（３）……52
第35図　１号捨て場出土土器（４）……53
第36図　１号捨て場出土土器（５）……54
第37図　１号捨て場出土土器（６）……55
第38図　１号捨て場出土土器（７）……56
第39図　１号捨て場出土土器（８）、
　　２号捨て場出土土器（１）……57
第40図　２号捨て場出土土器（２）……58
第41図　２号捨て場出土土器（３）……59
第42図　２号捨て場出土土器（４）……60
第43図　２号捨て場出土土器（５）、
　　Ｂ区遺構外出土土器……61
第44図　Ｃ区遺構外出土土器 ……62
第45図　土製品（１）……63
第46図　土製品（２）……64
第47図　土製品（３）……65
第48図　石器（１）……66
第49図　石器（２）……67
第50図　石器（３）……68
第51図　石器（４）……69
第52図　石器（５）……70
第53図　石器（６）……71
第54図　陶器、鉄製品……72
第55図　煙管、銭貨 ……73
第56図　近世墓碑（１）……74
第57図　近世墓碑（２）……75
第58図　黒斑の分布（沼袋遺跡）……95
第59図　黒斑の分布（石倉貝塚①）……96
第60図　黒斑の分布（石倉貝塚②）……97
第61図　清水遺跡後期層の深鉢 ……97

写真図版目次

写真図版１　Ｂ区調査風景、１号捨て場遺物出土状況 ……114
写真図版２　２号捨て場 ……115
写真図版３　Ｃ区完掘、層序（１）……116
写真図版４　Ｃ区層序（２）……117
写真図版５　１号掘立柱建物跡 ……118
写真図版６　２号掘立柱建物跡 ……119
写真図版７　３・４号掘立柱建物跡（１）……120
写真図版８　３・４号掘立柱建物跡（２）……121
写真図版９　５・６号掘立柱建物跡 ……122
写真図版10　７号掘立柱建物跡 ……123
写真図版11　８号掘立柱建物跡 ……124
写真図版12　９号掘立柱建物跡 ……125
写真図版13　１～４号土坑 ……126
写真図版14　５～８号土坑 ……127
写真図版15　９・10号土坑、１号埋設土器、１号焼土 ……128
写真図版16　Ｂ区柱穴群、１号溝跡 ……129
写真図版17　墓碑集中部、試掘、周辺の近世～近代供養碑 ……130
写真図版18　土器（１）……131
写真図版19　土器（２）……132
写真図版20　土器（３）……133
写真図版21　土器（４）……134
写真図版22　土器（５）……135
写真図版23　土器（６）……136
写真図版24　土器（７）……137
写真図版25　土器（８）……138
写真図版26　土器（９）……139
写真図版27　土器（10）……140
写真図版28　土器（11）……141
写真図版29　土器（12）……142
写真図版30　土製品 ……143
写真図版31　石器（１）……144
写真図版32　石器（２）……145
写真図版33　石器（３）……146
写真図版34　陶器、鉄製品、煙管、銭貨……147
写真図版35　近世墓碑 ……148

Ⅰ　調査に至る経過

沼袋遺跡は、一般県道田野畑岩泉線緊急地方道路整備事業沼袋地区の事業区域内に位置しているため、当該事業の施行に伴い発掘調査を実施することとなったものである。

一般県道田野畑岩泉線緊急地方道路整備事業は、下閉伊郡田野畑村沼袋地区内の交通の隘路を解消し、通行車両の円滑な通行と歩行者の安全を確保することを整備目的とし、平成13年度から事業着手している。(平成13年～平成14年：地方特定道路整備事業　平成15年～：緊急地方道路整備事業)

これに係る埋蔵文化財包蔵地の取扱いについては、平成15年10月1日付「岩土第222号」により宮古地方振興局岩泉土木事務所長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長に試掘調査についての依頼があり、岩手県教育委員会は平成15年11月5日試掘調査を実施した。その結果、平成15年11月25日付「教生第1423号」により沼袋遺跡の発掘調査が必要となったことから岩手県教育委員会と岩泉土木事務所が協議を行い、発掘調査を財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに委託することとなったものである。

(岩手県宮古地方振興局岩泉土木事務所)

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　地形と気候

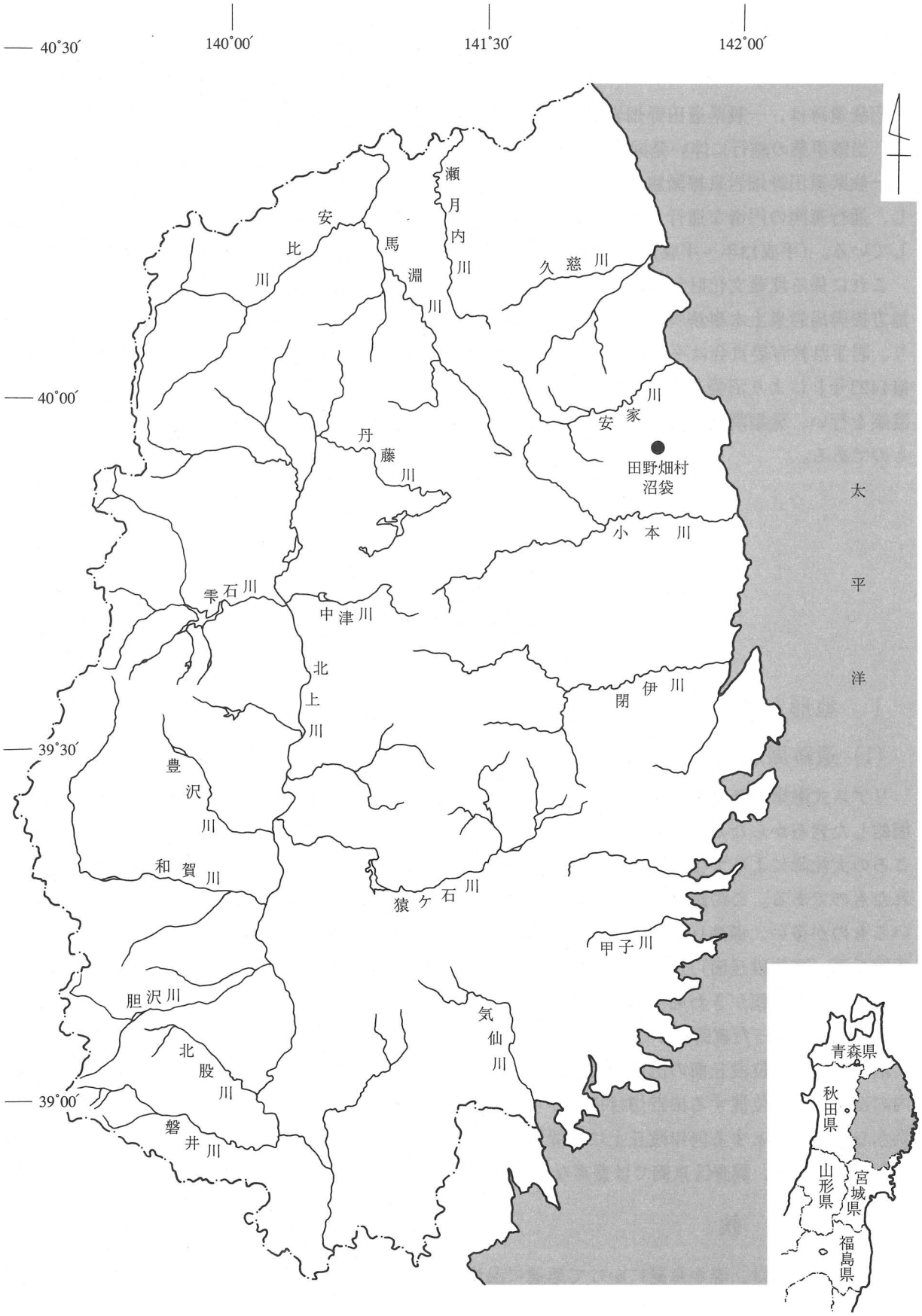
(1) 遺跡周辺の地形

リアス式海岸が発達する三陸海岸中・南部とは対照的に、宮古市よりも北の海岸線は比較的平滑で、固結した岩石からなる高い海食崖が連なっている。宮古以南のリアス式海岸が第三紀末～第四紀初頭ころの大沈降によって生じたのに対し、沿岸北部の段丘は第四紀における海食と隆起によって形成されたものである。この地域の河川は侵食力が弱く、海岸崖に小規模な沢や滝を形成して海に流入しているものが多い。標高100～300mには、最終間氷期よりも古い段階の海進によって形成された広い海成段丘面（高位段丘面）が分布している。最終間氷期に形成された中位段丘面は標高30～50mに分布しているものの幅がきわめて狭く、遺跡が多く分布する高位段丘面とくらべると完新世における人類生活の舞台となった痕跡は少ない。

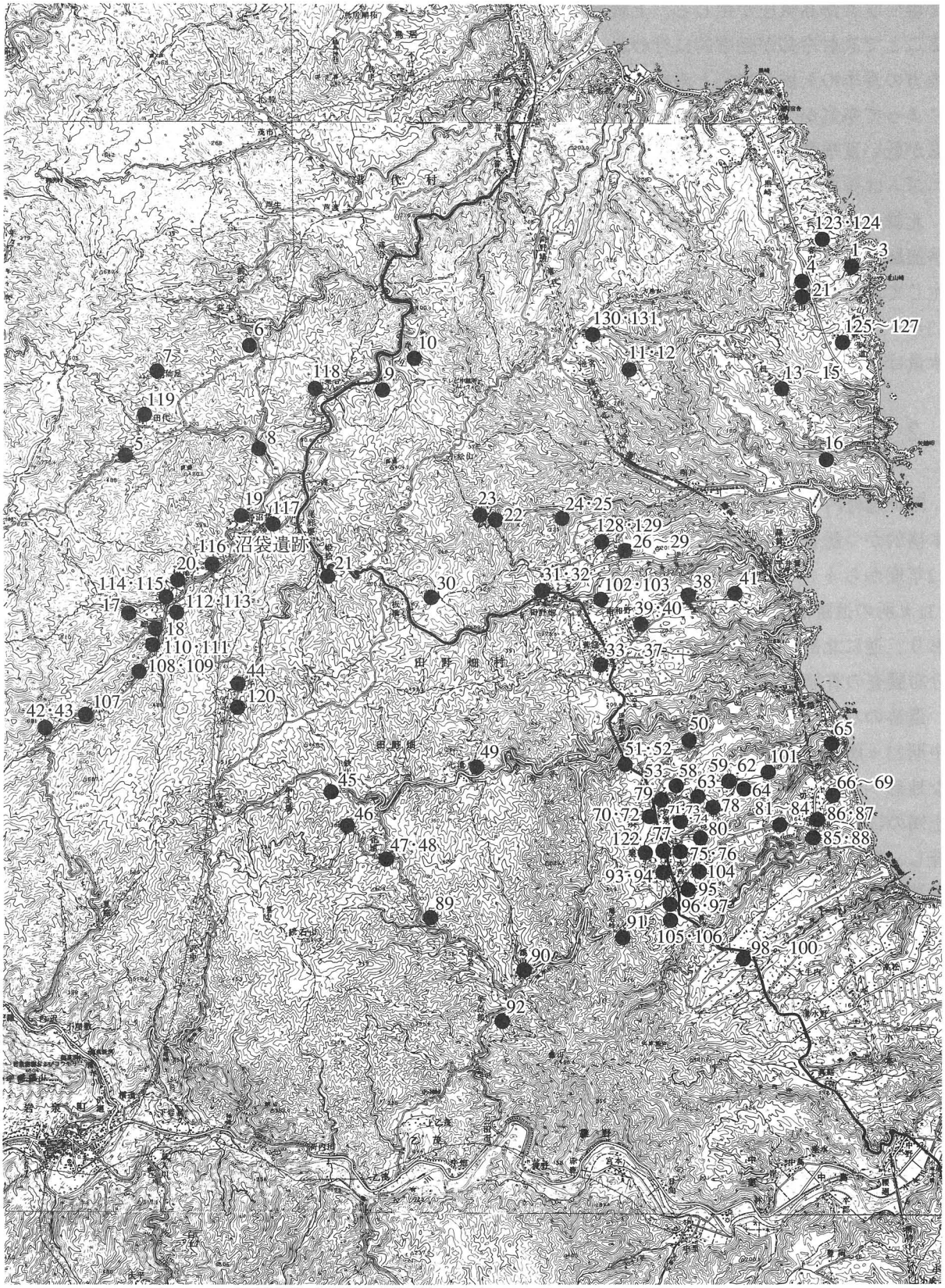
沼袋遺跡は高位段丘面の山地側に位置し、海岸との距離は約10㎞、標高は約230～240mである。村内のほぼ中央に位置する田野畑村役場からは北西約５㎞の距離に所在し、微視的には普代川の蛇行・洪水などを成因とする河岸段丘上に位置する。今回の調査区は普代川との比高５～10mの低位面を中心とした範囲で、調査区東側では豊富な湧水が見られる。

(2) 気　　候

シベリア大陸は、春から夏にかけて急速に温度が上昇する。これに対して、オホーツク海では融氷に日射エネルギーが費やされるため温度上昇が抑えられ、両者の気温差によってオホーツク海上には



第１図　岩手県全図と遺跡の位置



第２図　田野畑村内の遺跡

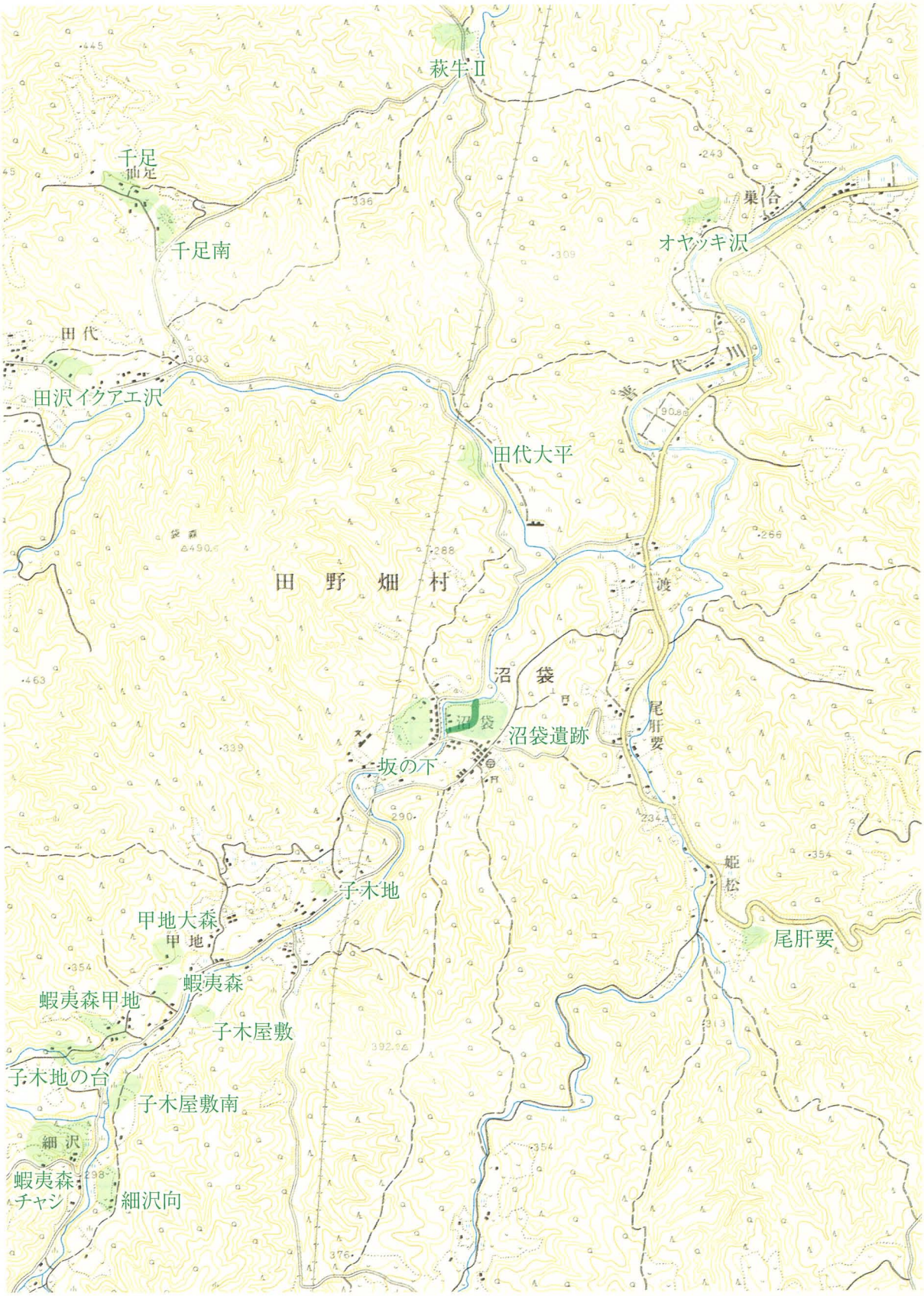
オホーツク海高気圧が生じる。上暖下冷の安定した成層状態のなかで下層雲が発達し、日照が遮られることで放射冷却が効率的に行われ、オホーツク海に冷気が停滞する。千島列島や北海道釧路・根室地方の夏季の天候が冷気と濃霧に特徴づけられるのと同様に、三陸海岸北部にもオホーツク海高気圧によって寒気が「ヤマセ」として時計回り方向で流入する。岩手県沿岸北部ではこのほかにも沿岸水温が低い夏季前半に日中の海風によって気温が急速に低下する「晴れヤマセ」も存在し、発生のメカニズムは異なるものの、この地方をたびたび襲ってきた冷害をもたらす複数の要因が存在している。

北緯40度に近い田野畑・普代付近では冬季は最深積雪深が100㎝を越える。この地域の降雪は、冬季季節風ではなく、オホーツク海の高気圧が低気圧をブロックして湿潤な東風を送り込むことによって生じており、ヤマセの変種とも考えられる。また、『平成14年度版　岩手県統計年鑑』によれば、平成13年７～10月における小本（岩泉町）の月平均気温は17.7℃、月平均日照時間は119.8時間、月平均降水量は191㎜であった。平成10～12年度の平均値はそれぞれ18.9℃、132.8時間、230㎜である。

2　周辺の遺跡

田野畑村内ではこれまで約100ヵ所に及ぶ遺跡が確認されていた。しかし、昭和38年の分布調査以来、本格的かつ総合的な調査はほとんどおこなわれてこなかったことから、田野畑村教育委員会では平成12年度から４ヵ年計画で村内の埋蔵文化財一般調査をすすめることとなった。平成12年度終了時点で131ヵ所の遺跡が確認されている。村内全域でみると遺跡の多くは南西部の高位段丘面上で確認されており、逆に北部や西部は希薄である。このような状況は本来的な遺構の分布というより、これまでの分布調査の有無や土地利用の結果による部分が大きいと考えられる。

遺跡のなかでは縄文時代の遺跡が最も多く、時期が特定できるものでは早期９ヵ所、前期19ヵ所、中期23ヵ所、後期38ヵ所、晩期33ヵ所と後・晩期に増加傾向を示し、地域も海岸段丘上からさまざまな地形へ分布が拡大する傾向がみられる。主な遺跡を概観すると、村の南西部の浜岩泉地区に遮光器土偶のほぼ完形品が出土した浜岩泉Ⅱ遺跡（田野畑村1985）、岩手県埋蔵文化財センターが1996年に調査し、縄文時代中期の集落であったことが確認された浜岩泉Ⅱ遺跡などがある。また、その隣接地の島越地区には館石野Ⅰ遺跡がある。早稲田大学文学部考古学研究室によって1987年から1993年にかけて８次にわたる調査が行われ、縄文時代中期～後期にかけての遺跡であり、列石を伴う大規模な遺構が確認されている。なお、館石野Ⅰ遺跡は岩手県指定史跡となっており、現在も田野畑村教育委員会が継続調査を行っているが、平成16年度の調査では遺跡の範囲確認調査を実施しており、遺跡の範囲が東側、すなわち海側への延びることが確認された。田野畑地区では平成16年４月～７月まで田野畑村役場の北側に隣接する平波沢遺跡の発掘調査が行われ、縄文後・晩期の竪穴住居跡が多数確認された。また、下層からは縄文前期の土器が発見されている。田野畑村の北西に位置する沼袋地区周辺では本格的な調査は沼袋遺跡から西に約２㎞離れた子木地の台遺跡（大澤1994）など少なく、沼袋遺跡の発掘調査は村内北西部の様相を知る手がかりとして期待された。



遺跡範囲
沼袋調査範囲

1：25,000
500m　0　500　1000　1500

第３図　沼袋遺跡と周辺の遺跡

第１表　周辺の遺跡（１）

地図番号	遺跡コード	遺　跡　名	種　　別	時　　代	遺　　構・遺　　物
1	KG03-1346	久春内Ⅰ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（前・中・後・晩期）、弥生土器、石斧、石匙、石鏃
2	KG03-1346	久春内Ⅱ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（前期）、弥生土器、土師器
3	KG03-1346	久春内Ⅲ	集落跡	縄文・弥生	縄文土器（中期以降）、弥生土器
4	KG03-2217	山王沢	散布地	縄文	縄文土器
5	KG10-2322	田代タテ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（前・中・後・晩期）、縄文石器（早期）、三角型磨石
6	KG11-0125	萩牛Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）
7	KG11-1091	千足	散布地	縄文・近世	縄文土器（前・後期）、石斧、擦切磨製石斧
8	KG11-1089	田代大平	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）
9	KG11-1317	巣合	散布地	縄文・弥生	縄文土器（中・後・晩期）、弥生土器、石皿
10	KG12-0051	巣合エゾ館	城館跡	中世	主郭、三段腰部、二重空堀
11	KG13-0050	池名Ⅰ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（前・中・晩期）、弥生土器
12	KG13-1229	池名Ⅱ	散布地	弥生	弥生土器
13	KG13-1229	机Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器（早・前・中・後・晩期）、石斧、石匙、人面付き石製品
14	KG13-1229	机Ⅱ	散布地	弥生	縄文土器、弥生土器（中期以降）
15	KG13-1229	机Ⅲ	散布地	縄文・古代	縄文土器（中～後期）、土師器
16	KG13-2313	明戸	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）
17	KG20-1389	子木地の台	集落地	縄文・古代	縄文土器（後・晩期）、竪穴住居（古代）、金交具
18	KG20-2329	蝦夷森シャシ	散布地・城館跡	縄文・中世	堀切2条、縄文土器
19	KG21-0124	坂の下	集落地	縄文・弥生	縄文土器（中・後・晩期）、弥生土器
20	KG21-1022	甲地大森	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）
21	KG31-1229	尾肝要	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）
22	KG21-0126	川平	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）
23	KG22-0238	田野畑シャシ	城館跡	中世	狐面石
24	KG22-0238	田野畑Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（中・後・晩期）
25	KG22-0238	田野畑Ⅱ	散布地	弥生	弥生土器
26	KG22-0349	羅賀Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（早・前・中・後期）、後期耳飾
27	KG22-0349	羅賀Ⅱ	散布地	弥生	弥生土器
28	KG22-0349	羅賀Ⅲ	散布地	古代	土師器
29	KG22-0349	羅賀Ⅳ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（後期）、弥生土器、須恵器
30	KG22-1056	板橋	散布地	縄文	縄文土器（中・後・晩期）、弥生土器、石斧
31	KG22-1243	平波沢Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（前・中・後・晩期）
32	KG22-1243	平波沢Ⅱ	散布地	弥生	弥生土器
33	KG22-1243	菅窪窯跡	窯跡	縄文	縄文土器（後期）、炭層、焼土
34	KG22-1243	菅窪Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器（晩期）、石匙、石斧、石鏃
35	KG22-1243	菅窪Ⅱ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（中期以降）
36	KG22-1243	菅窪Ⅲ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（後期）、弥生土器、土師器
37	KG22-1243	菅窪Ⅳ	散布地	縄文・古代	縄文土器（後・晩期）、須恵器
38	KG23-1047	和野Ⅰ	集落地	縄文	縄文土器（早・前・中・後・晩期）
39	KG23-1092	西和野Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（早・前・中・後・晩期）、石斧、石匙、石鏃
40	KG23-1092	西和野Ⅱ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（中期以降）、弥生土器
41	KG23-1129	和野Ⅱ	集落地	弥生・古代	弥生土器、土師器
42	KG30-0188	三沢蝦夷館	城館跡	中世	
43	KG30-0199	三沢	散布地	縄文・近世	縄文土器（中・後・晩期）、近世磁器、寛永通宝
44	KG31-0121	千丈熊っ平	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）、石斧
45	KG31-1391	鉄山	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）
46	KG31-2353	寺地	散布地	縄文	縄文土器（中・後・晩期）
47	KG31-2395	大谷地Ⅱ	散布地	縄文？	縄文土器
48	KG31-2399	大谷地	散布地	弥生	弥生土器
49	KG32-1144	七滝Ⅻ	散布地	縄文	縄文土器（中・後・晩期）、石棒
50	KG33-0099	島越Ⅻ	散布地	縄文	縄文土器
51	KG33-1021	浜岩泉Ⅶ	散布地	縄文	縄文土器
52	KG33-1030	浜岩泉Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器
53	KG33-1033	島越ⅩⅢ	散布地	縄文	縄文土器
54	KG33-1038	島越Ⅺ	散布地	縄文	縄文土器
55	KG33-1055	島越Ⅹ	散布地	縄文	縄文土器
56	KG33-1077	島越Ⅷ	散布地	縄文	縄文土器
57	KG33-1089	島越Ⅶ	散布地	縄文	縄文土器
58	KG33-1095	島越Ⅸ	散布地	縄文	縄文土器
59	KG33-1139	館石野Ⅰ	集落地	縄文	縄文土器（前・中・後・晩期）、列石遺構、竪穴住居、石斧、石匙
60	KG33-1157	館石野Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器
61	KG33-1177	館石野Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器
62	KG33-1187	館石野Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器
63	KG33-1191	島越Ⅴ	集落跡	縄文	縄文土器
64	KG33-1260	館石野Ⅱ	散布地	縄文	石器
65	KG33-1263	クヅノ崎	散布地	縄文	縄文土器
66	KG33-1273	切牛Ⅵ	散布地		

第１表　周辺の遺跡（２）

地図番号	遺跡コード	遺　跡　名	種　　別	時　　代	遺　　構・遺　　物
67	KG33-1376	切牛Ⅴ	散布地		
68	KG33-1392	切牛Ⅳ	散布地		
69	KG33-1395	切牛Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器
70	KG33-2003	浜岩泉Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器
71	KG33-2018	島越Ⅲ	集落地	縄文	縄文土器、石器
72	KG33-2044	浜岩泉Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器
73	KG33-2047	島越Ⅱ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（中・後・晩）、弥生土器、石鏃
74	KG33-2049	島越Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器
75	KG33-2069	大芦Ⅰ	集落地	縄文	縄文土器（前・中期）、竪穴住居、竪穴状遺構、石鏃、石槍
76	KG33-2078	大芦Ⅱ	散布地		
77	KG33-2096	浜岩泉Ⅲ	集落跡	縄文	縄文土器
78	KG33-2102	島越Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器
79	KG33-2110	島越Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器
80	KG33-2141	大芦Ⅲ	集落跡	縄文	縄文土器
81	KG33-2223	大芦Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器
82	KG33-2226	大芦Ⅶ	散布地	縄文	縄文土器
83	KG33-2225	大芦Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器、石斧
84	KG33-2241	大芦Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器
85	KG33-2248	真木沢Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器、石器
86	KG33-2303	切牛Ⅱ	集落跡	縄文・古代	縄文土器（早・前・後・晩期）、住居跡（後期）、石斧、土師器
87	KG33-2320	切牛Ⅰ	散布地		
88	KG33-2332	真木沢Ⅰ	散布地	縄文・弥生・古代	縄文土器（早・前・中・後・晩期）、弥生土器（後期）、土師器
89	KG42-1006	目名館	城館跡	中世	平場、空掘
90	KG42-1291	猿山	散布地	古代	土師器
91	KG42-1319	大芦館	散布地・城館跡	縄文・弥生・中世	縄文土器（早・前・中期）、弥生土器、腰郭、帯郭
92	KG42-2179	年呂部	散布地		
93	KG43-0016	浜岩泉Ⅱ	集落地	縄文	縄文土器（後・晩期）、遮光器土偶
94	KG43-0036	浜岩泉Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（中期）、竪穴住居、住居状遺構、土坑、アスファルト塊
95	KG43-0039	真木沢Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器
96	KG43-0057	南大芦Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器
97	KG43-0066	南大芦Ⅱ	散布地		
98	KG43-1145	真木沢Ⅴ	集落跡	縄文	縄文土器
99	KG43-1147	真木沢Ⅳ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（早・前・後・晩期）、弥生土器、土師器、石斧、石匙
100	KG43-1270	真木沢Ⅵ	散布地	縄文	縄文土器（中期）、石篦
101	KG33-1233	大芦野場	散布地	縄文	縄文土器、ビエスエスキェ
102	KG22-1355	和野ソマナイ	集落跡	縄文	縄文土器
103	KG22-1262	和野新墾神社	集落跡	縄文	縄文土器（中・後期）、石器
104	KG33-2191	大芦赤空洞	土坑群	縄文・弥生	縄文土器（晩期）、弥生土器、配石を伴う土坑群、竪穴状遺構
105	KG43-0085	南大芦Ⅲ	集落跡	縄文	縄文土器（早期）、竪穴住居、土坑
106		南大芦Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器（中～後期）
107	KG30-0257	下三沢	散布地	縄文	縄文土器
108	KG20-2394	細沢日向橋北	散布地	縄文	縄文土器（前・後～晩期）、石器
109	KG20-2387	細沢日向	散布地	縄文	縄文土器（前・後期）
110	KG21-2020	細沢向	散布地	縄文	縄文土器
111	KG20-2316	細沢	散布地	縄文	縄文土器
112	KG21-1081	子木屋敷南	散布地	縄文	縄文土器
113	KG21-1036	子木屋敷	散布地	近世	磁器、陶器、鉄滓
114	KG21-1033	蝦夷森	散布地・産業遺跡	縄文・近世	縄文土器、磁器、陶器、鉄滓
115	KG21-1042	蝦夷森甲地	散布地・集落跡	縄文・古代	縄文土器、石器、土師器、陶器
116	KG21-0099	子木地	散布地	縄文	縄文土器、磨石、剥片石器
117	KG21-0127	沼袋	集落跡	縄文・弥生・近世	縄文土器、石器、土製品、弥生土器、陶器
118	KG11-0297	オヤッキ沢	散布地	縄文	打製石斧
119	KG10-1378	田沢イクアエ沢	散布地	縄文・近世	縄文土器、打製石斧、剥片石器、鉄滓
120	KG31-0161	千丈	散布地	縄文	縄文土器
121	KG03-2265	北山	散布地	縄文	縄文土器
122	KG03-2063	浜岩泉フケノ沢	散布地	縄文	縄文土器、石器
123	KG03-1321	北山オッツケⅠ	散布地	縄文・弥生	縄文土器（前期）、弥生土器？
124	KG03-1340	北山オッツケⅡ	散布地	縄文	縄文土器（前期）、剥片石器
125	KG03-2387	北山Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（後～晩期）、石錐、剥片石器
126	KG13-0316	北山Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器（中期以降）
127	KG13-0336	北山Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器、剥片石器、磨石
128	KG22-0325	田野畑新田Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（後期？）
129	KG22-0344	田野畑新田Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
130	KG02-2392	池名Ⅲ	集落跡	縄文	縄文土器
131	KG012-0315	池名Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器、剥片石器

Ⅲ　調査の方法

1　発掘調査

(1) グリッドの設定

発掘区全体を４ｍグリッドによって区分し（第４図）、グリッドの区分および方位は平面直角国家座標世界測地系による座標を採用した。沼袋遺跡のグリッド設定は調査区に近在した三等点から座標値を割り出し、光波測量機器によって調査員がグリッド計算、および基準点の設置を行った。水準点については平成15年度に宮古地方振興局岩泉土木事務所が㈱吉田測量設計に委託した「一般県道田野畑岩泉線沼袋地区道路修正設計業務」の測量成果によるベンチマークの標高値から算出した。調査中に主な基準とした座標値を以下２ヵ所提示する。

点名	グリッド	座標Ｘ	座標Ｙ	標高（ｍ）
①	ＶＣ1aグリッド	-6000.000	85360.000	233.400
②	ⅢＥ1aグリッド	-5920.000	85440.000	230.200

なお、発掘調査区については西から便宜的にＡ区、Ｂ区、Ｃ区に３区分した（第４図）。

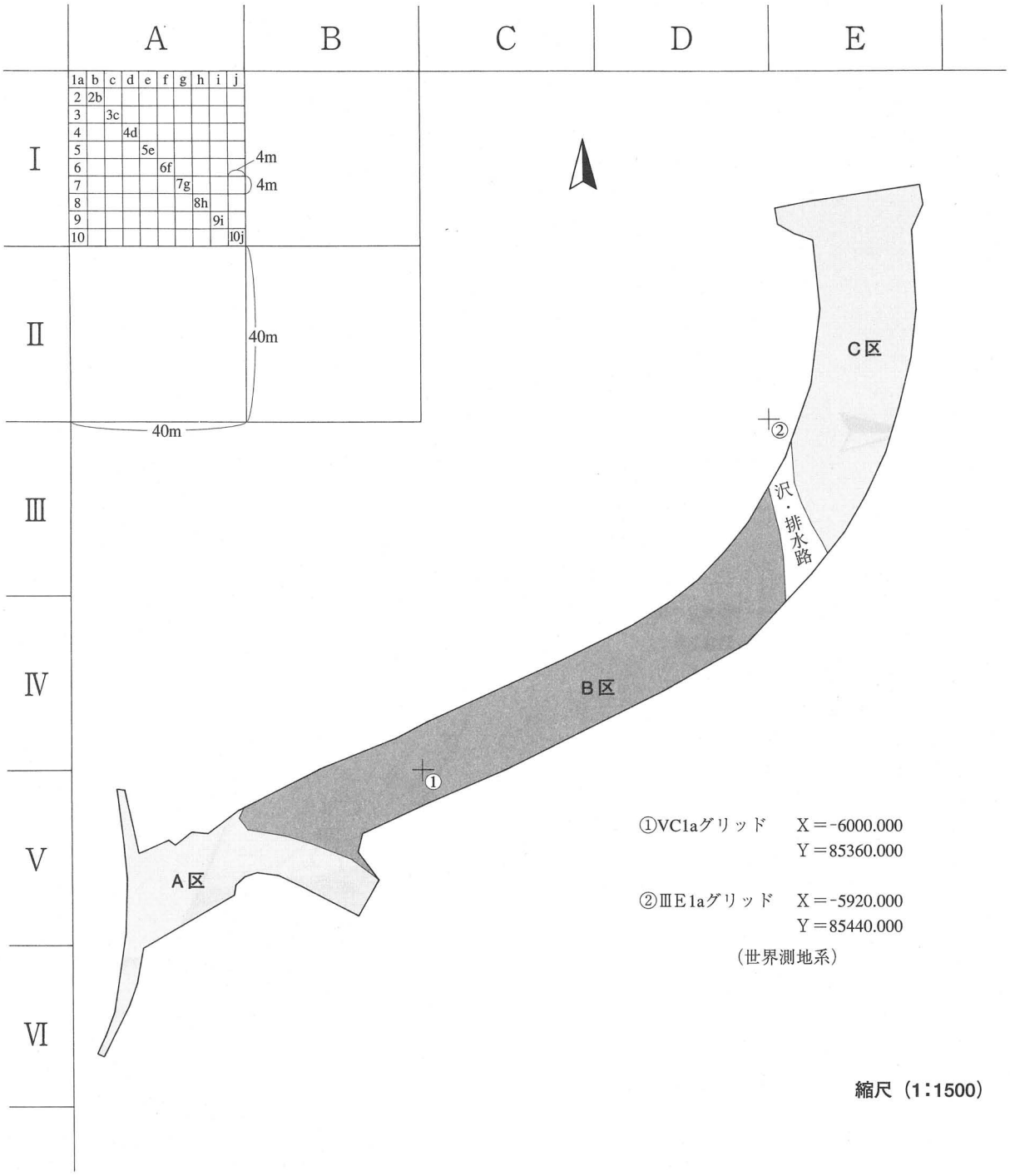
(2) 調　査　経　過

調査は道路整備事業に伴うものであり、今回の調査区は幅約23ｍで東西に細長い。平成16年5月19日に調査機材を搬入し、下草の除去および切り株周辺の清掃を行った。試掘トレンチは23ヵ所設定した。各試掘トレンチは地層を確認の上、写真撮影を行った。

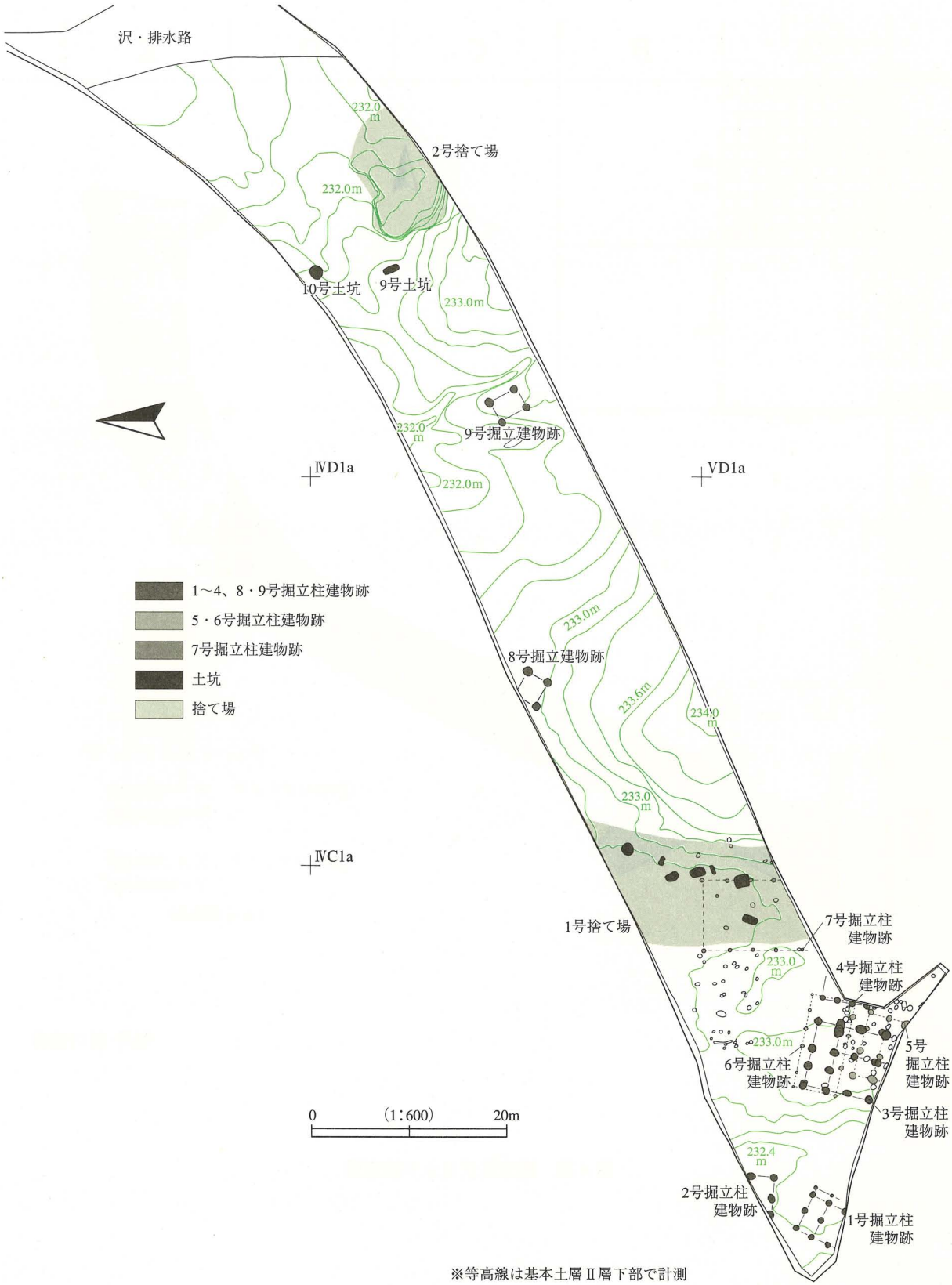
調査区西端に位置するＡ区は舗装道路により850㎡破壊されており、普代川付近では洪水や堤防の敷設工事により削平されていた。堆積の良好な道路両脇に試掘トレンチを７ヵ所、普代川沿いに３ヵ所設定したが、遺構・遺物は発見できず、地層の確認作業のみで調査を終了した。

表土の除去作業は土捨て場とＢ区中央に位置する電柱および電線の撤去作業を考慮し、調査区北端のＣ区からはじめた。Ｃ区は普代川へ向かって標高が下がる区域で北端は３ｍに及ぶ盛土によって整地されていた。県生涯学習文化課の試掘調査では遺構・遺物が出土せず、土捨て場予定区としていたが、調査区中央から縄文後期前葉の土器片と石器が出土したことからＣ区全面の調査に変更した。調査区断面図は南北に２ヵ所ロングセクションを設定し、洪水堆積層の様相や小支谷の形成を確認することができた。Ｃ区では146点の遺物を回収し、なかでも１号埋設土器はほぼ完形の状態で出土した。

Ｂ区については電柱撤去の日程にあわせて７月から表土掘削を開始した。Ｂ区では西側に紡績工場を建設した際の1.5～２ｍの盛土が厚く堆積していたが、この建設当時の整地作業に伴って遺物包含層もほとんどが削平されたと考えられる。現況でガラス片やコンクリート片、建築物基礎などが多量に散乱していた。地形改変を受けた西側以外のＢ区現況は畑地であった。Ｂ区は掘立柱建物跡や捨て場２ヵ所を中心に多量の遺構・遺物が発見された。柱穴はそのほとんどがＢ区基本土層第Ⅳ層の十和田中掫火山灰（To-cu：縄文時代前期）層を掘り込み、埋土には火山灰粒・ブロックが流入するものが多数見られた。Ｂ区とＣ区の境界には水量豊富な沢が普代川に向かって北流していたため、ヒューム管敷設によって土捨て場との通行路を確保し、沢の保護領域を設けて掘削を行わなかった。沢の保護領域に隣接する調査区では、縄文時代遺物包含層が存在し、沢の保護区内へ続いている。



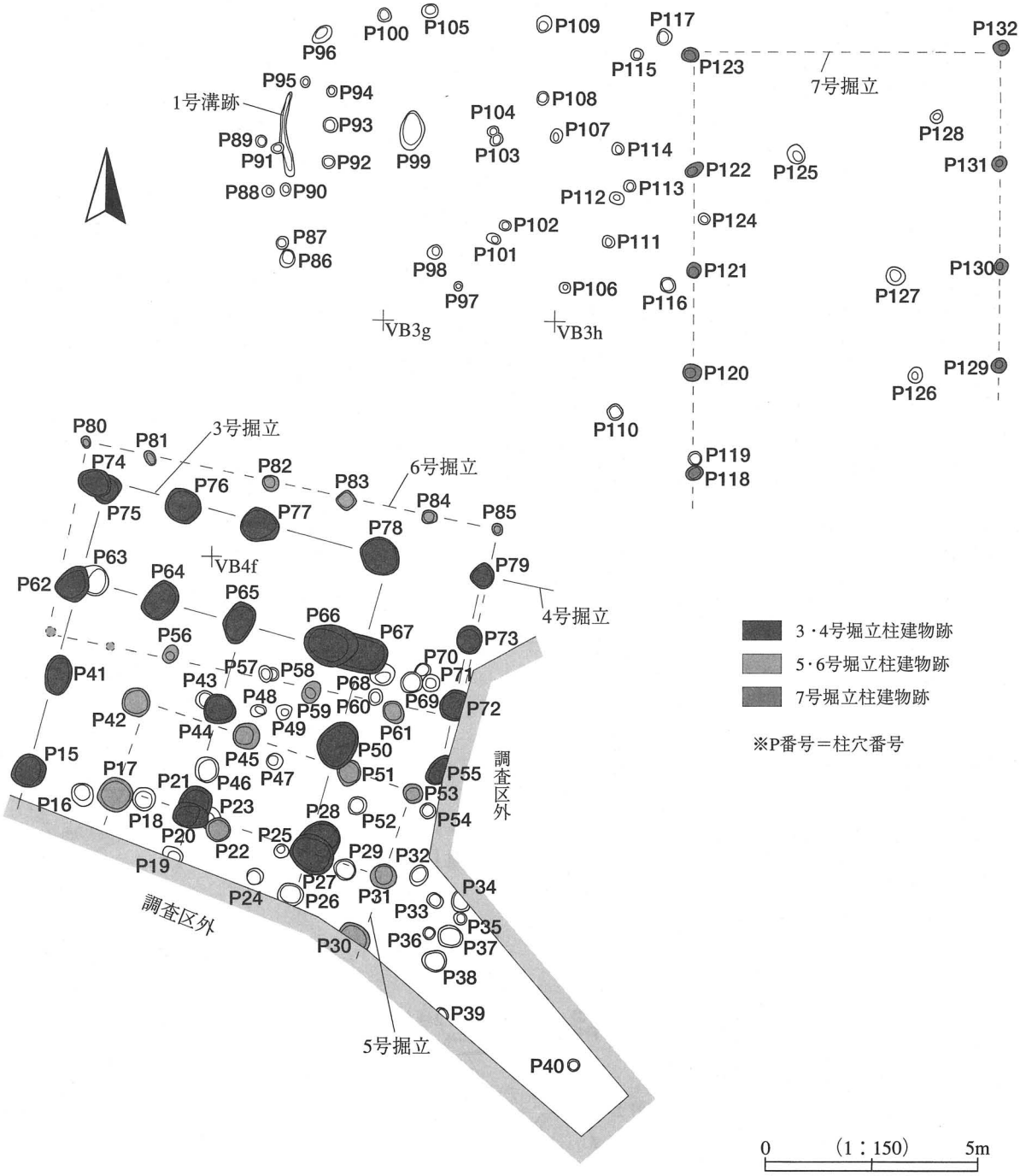
第４図　調査区グリッド設定図



※等高線は基本土層Ⅱ層下部で計測

第5図　B区遺構配置図（1）

調査は沢に隣接するＢ区包含層の調査をもって終了し、重機による埋め戻し後、平成16年10月５日に撤収した。



第６図　Ｂ区遺構配置図（２）

(3) 遺構調査と遺物の取り上げ

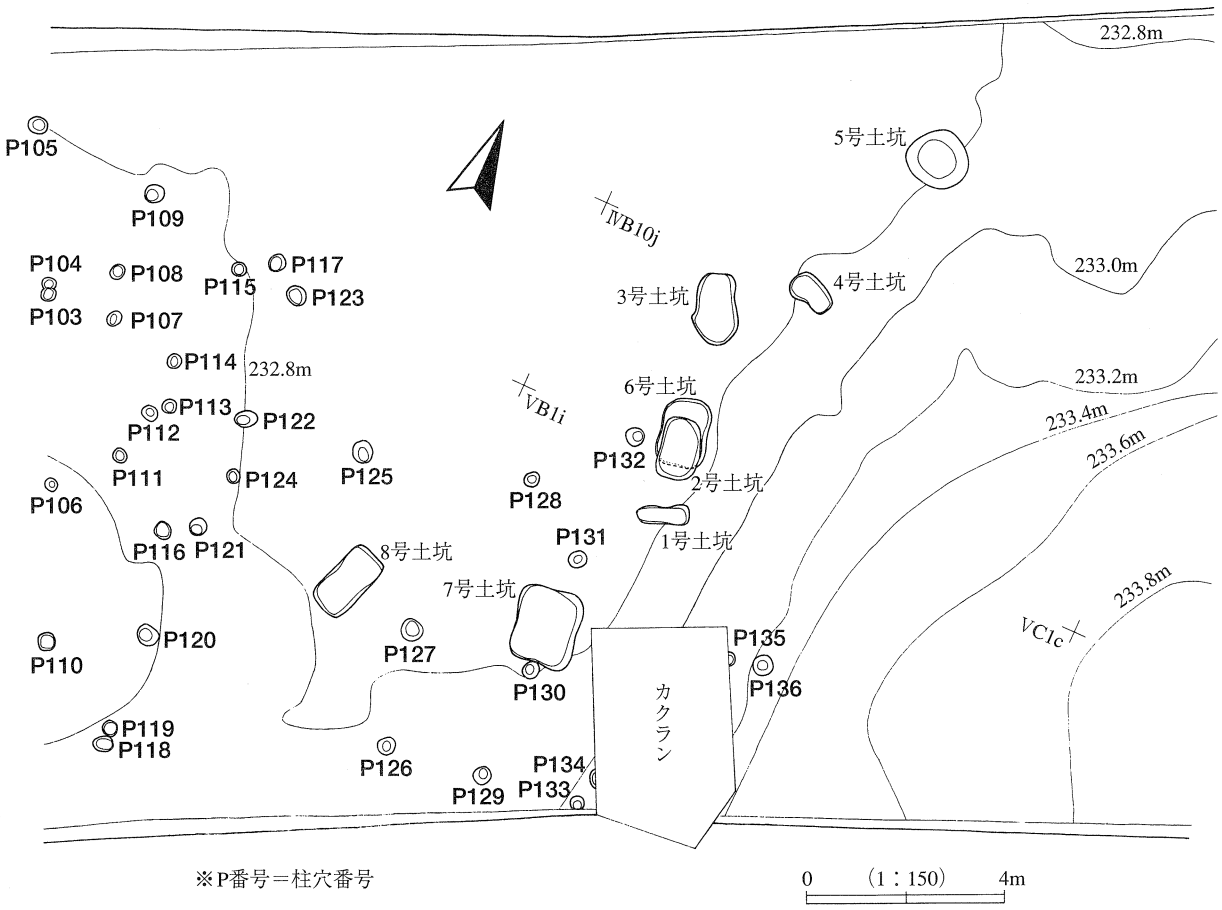
遺構は検出後に平面形と他の遺構との関係を検討してから埋土掘削し、平面・断面・完掘状況の写真撮影・記録を行った。写真撮影には35㎜判モノクロネガフィルム・カラーリバーサルフィルム、6×7㎝判モノクロ・カラーネガフィルムを使用した。

遺物は遺物包含層については4×4mのグリッドごとに回収したが、調査区等高線作成作業と併行して1号捨て場については光波測量気と㈱シン技術コンサル遺跡管理システムにより各遺物のX・Y・Z座標値を採取した。

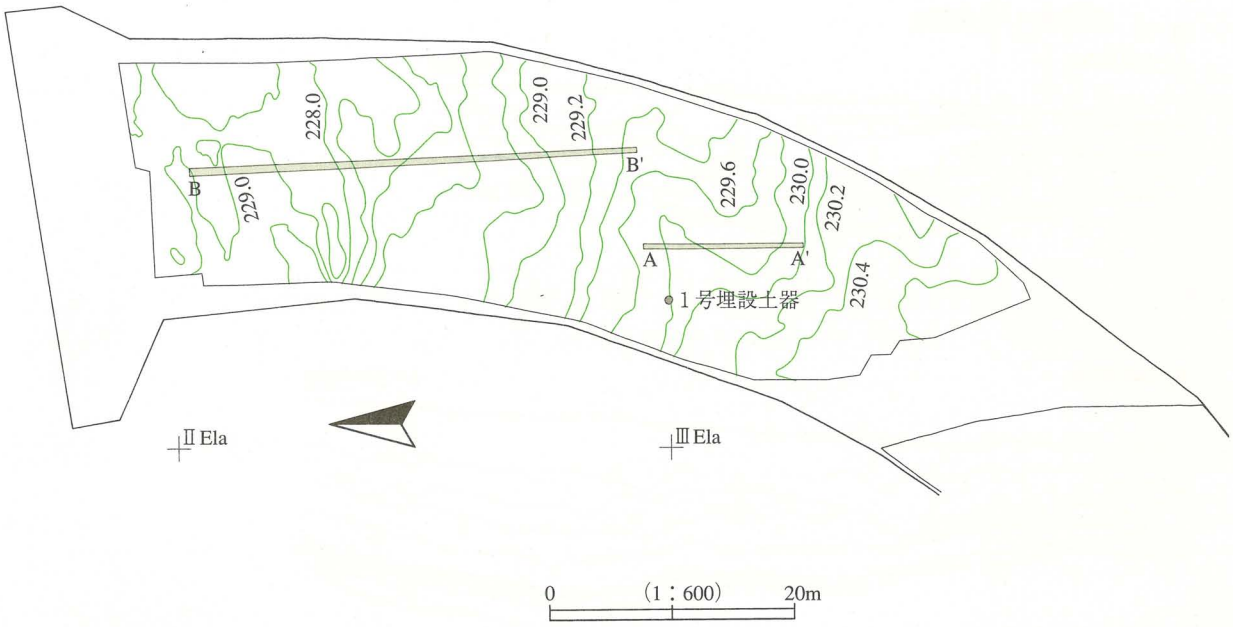
2　室　内　整　理

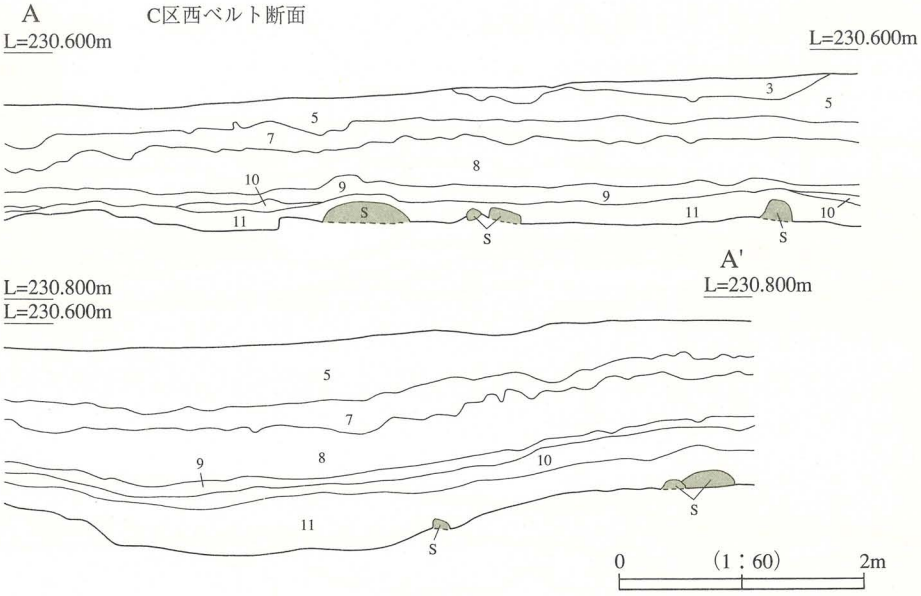
平成16年11月1日より室内整理作業を開始した。遺物は洗浄・注記・接合・選別・登録後に計測・拓本採取を行った。縄文土器は後期前葉を主体とすることから、遺存部に応じて文様ごとに類別した。石器群については二次加工のあるトゥールに限定して実測図を掲載している。遺物は土器・土製品・石器・礫・陶器・金属器・近世墓碑など種別ごとに掲載番号を付した。

整理作業は図版・写真図版の作成、図面・写真ファイル、遺物など各資料を収納し平成17年3月31日に終了した。回収した遺物は小コンテナ（30×40×10㎝）10箱、中コンテナ（30×40×20㎝）7箱、大コンテナ（30×40×30㎝）4箱に分けられる。なお、遺物は岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。



第7図　B区遺構配置図（3）

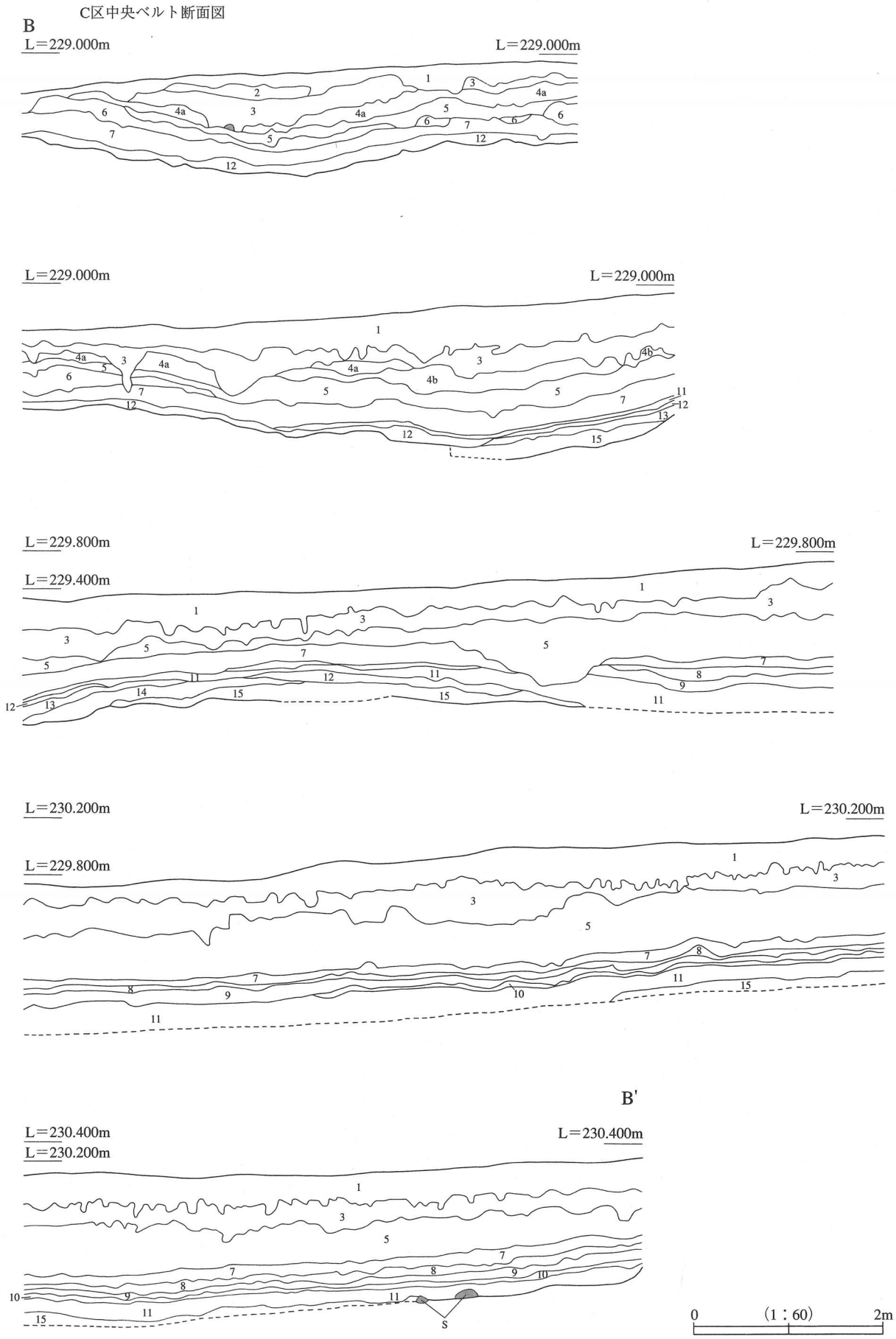




C区ロングセクション

1　10YR2/1　黒色土層　しまり弱　粘性弱（旧表土）
2　10YR5/4　にぶい黄褐色砂層　しまりなし　粘性なし　金雲母微量（洪水砂層）
3　10YR3/1～3/3　黒褐色土層～暗褐色土層　しまりなし　粘性なし（森林土壌層）
4a　10YR5/4　にぶい黄褐色砂層　しまりなし　粘性なし　金雲母微量（洪水砂層：2層と同堆積か）
4b　10YR4/1　褐灰砂層　しまりなし　粘性なし（洪水砂層）
5　10YR3/3　暗褐色土層　しまり弱　粘性なし　黄褐色砂粒30％包含
6　10YR5/4　にぶい黄褐色砂層　しまりなし　粘性なし　金雲母微量（洪水砂層：2・4層と同堆積か）
7　10YR2/1　黒色粘性土層　しまり中　粘性中　炭化物微量（遺物包含層：第1泥炭層）
8　10YR5/1　褐灰砂層　しまりなし　粘性なし（洪水砂層）
9　10YR2/1　黒色粘性土層　しまり中　粘性中（第2泥炭層）
10　10YR5/2　灰黄褐色砂層　しまりなし　粘性なし（洪水砂層）
11　10YR1.7/1　黒色粘性土層　しまり中　粘性強　水分多量（第3泥炭層）
12　10YR5/3　にぶい黄褐色砂層　しまりなし　粘性なし　金雲母微量　細粒砂多量（洪水砂層）
13　10YR2/1　黒色土層　しまり弱　粘性なし　細粒砂30％包含（上位からの泥炭の浸食により黒色化か）
14　10YR4/1　褐灰色砂層　しまりなし　粘性なし（15層と同じ由来の砂層。洪水砂層が上部を第3泥炭で浸食されて黒色化）
15　10YR5/2　灰黄褐色砂層　しまりなし　粘性なし（洪水砂層：下位に河末礫を包含する）

第8図　C区遺構配置図、ロングセクション（1）



第9図　C区ロングセクション（2）

3 掲載図版・表解説

(1) 遺　　構

縮尺は概ね1/60を主体としているが、サイズに合わせて適時変更している。遺構番号は発掘調査時の遺構番号から報告用の番号に振り替えている。第３・４表の遺構計測表を参照されたい。遺構図上でスペースの関係上、柱穴番号を「Ｐ10」・「Ｐ35」のように表記しているが、旧番号ではなく、すべて新番号である。登録や本文中の説明ではそれぞれ「第10号柱穴」・「第35号柱穴」と記載している。

(2) 遺　　物

遺物図版は土器、土製品、石器、陶器、金属器、近世墓碑の順に掲載し、下記のごとく遺物番号を付した。

土　器	No　1～326	土製品	No401～423
石　器	No501～571	陶　器	No601～609
金属器	No701～725	近世墓碑	No801～806

また、出土した遺構名や層位を適時付している。

掲載順序は、土器については遺構ごと→残存部位ごと→文様ごとに並べた。他の遺物は資料数が土器に比べて少ないことから、器種別に掲載した。

a）土器の分類

土器は器形から深鉢・鉢・浅鉢・壺に分類されるが、大半が破片資料であるため器形が不明確なものがある。また、文様モチーフが判別困難なことが多いため、施文のバラエティーによって類別した。なお、器高５㎝未満をミニチュア土器と捉え、土製品として報告している。

土器の分類は以下の通りである。

Ⅰａ群　後期前葉の土器	１類：沈線文	２類：隆帯文
	３類：撚糸文	４類：縄文
	５類：沈線＋撚糸	６類：沈線＋縄文
	７類：撚糸＋隆帯文	８類：沈線文＋隆帯文＋縄文
	９類：撚糸＋縄文	10類：沈線文＋隆帯文＋撚糸文
	11類：無文（無文部含む）	12類：その他・不明
Ⅰｂ群　後期中葉の土器		
Ⅰｃ群　後期土器の底部	１類：木葉痕	
	２類：網代痕	
Ⅱ　群　晩期の土器		
Ⅲ　群　弥生時代の土器		

b）石器の分類

石　　鏃　　完形長（破損品は推定完形長）が4.5㎝未満の尖頭状石器。平面形態により９分類（第10図）、遺存形態により21分類（第11図）した。

石　　錐　　器体端部に錐部を有するもの。形態により４分類した。

１類：摘み部と長い錐部で構成。

２類：剥片の一端を加工して錐部を作り出したもの。錐部は短い。

３類：棒状で明確な摘み部のないもの。

４類：技術的な観点から錐と判断できるが欠損により形状が不明なもの。

石　　匙　　摘み部を持つスクレイパー。３分類している。

１類：摘み部と器体長軸が平行。（横型）

２類：摘み部と器体長軸が直行。（縦型）

３類：摘み部と器体長軸が斜行。（斜行型）

掻　　器　　素材端部あるいは側縁部に連続的な調整によって刃部を作出したもののうち、直角に近い刃部角を有するもの。大半は素材端部に刃部をもつ。

削　　器　　素材端部あるいは側縁部に連続的な調整によって刃部を作出したもののうち、鋭角な刃部角を有するもの。

楔形石器　　両極剥離痕のある石器のうち剥離面がネガ面で構成されているもの。石鏃製作に係わる素材供給を行った石核と捉える。ポジ面を含むものはいわゆる両極剥片と捉え、楔形石器の範疇には入れない。

磨製石斧　　磨面を有する斧形石器。

磨 石 A　　磨面＋凹み痕＋敲打痕を有する石器。

磨 石 B　　磨面＋敲打痕を有する石器。

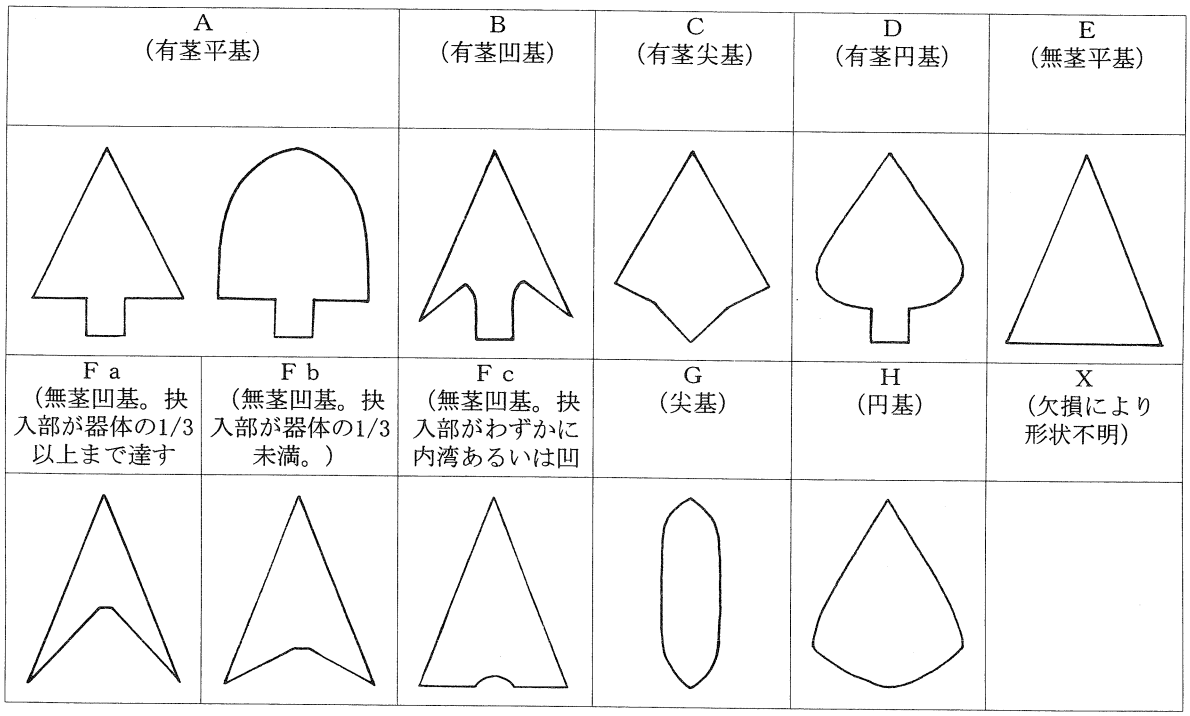
磨 石 C　　磨面＋凹み痕を有する石器。

磨 石 D　　磨面を有する石器。

凹 石 A　　凹み痕＋敲打痕を有する石器。

凹 石 B　　凹み痕を有する石器。

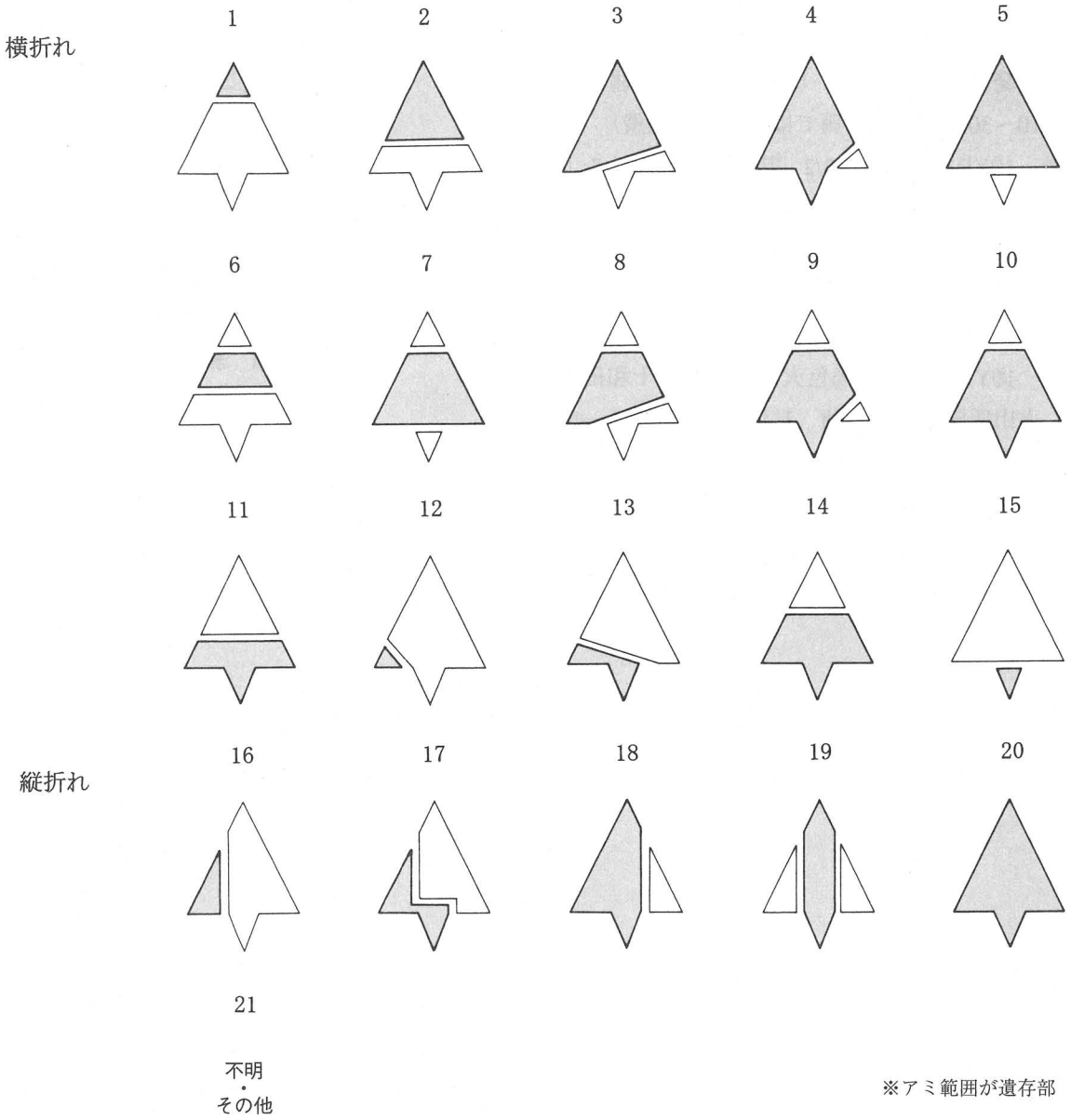
敲　　石　　敲打痕を有する石器。



第10図　石鏃平面類型

c）石材略号

頁岩：Sh、メノウ：Ag、珪質頁岩：S.Sh、黒曜石：Ob、安山岩：An、デイサイト：Da、
凝灰岩：Tuff、閃緑岩：Dio、ひん岩：Pro、斑レイ岩：Gab、軽石：Pu、砂岩：S.S、
礫岩：Cong、チャート：Ch、蛇紋岩：Serp、結晶片岩：Sch、ホルンフェルス：Ho



第11図　石鏃遺存類型

4　基　本　土　層

基本土層はＢ区の柱穴が密集するＶＢ区調査区壁で観察・記載した（第12図）。層厚については、Ｂ区西側での状況であり、１号捨て場ではⅡ層が厚く堆積する。

(1) Ｂ区基本土層

Ⅰａ層　10YR6/6～8/6　黄褐色～明黄褐色土層（盛土）層厚10～30㎝（Ｃ区では3ｍ堆積）

Ⅰｂ層　10YR3/2～2/2　黒褐色シルト層（旧表土）根の発達が見られる。しまり弱　粘性弱　層厚10～30㎝（Ｂ区東側では80㎝以上堆積）

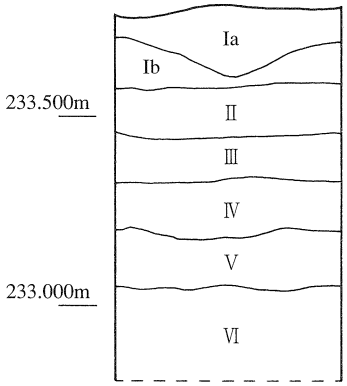
Ⅱ　層　10YR2/1～10YR3/2　黒色～黒褐色シルト層（遺物包含層）しまり中　粘性中層厚10～60㎝

Ⅲ　層　10YR3/2～10YR3/4　黒褐色～暗褐色シルト層（遺物包含層）しまり強　粘性中層厚10～30㎝

Ⅳ　層　10YR7/6　明黄褐色火山灰層　（十和田中掫火山灰層）しまり強　粘性なし　層厚15～40㎝

Ⅴ　層　10YR2/1～10YR3/2　黒色～黒褐色シルト層　しまり中　粘性中　層厚15～40㎝

Ⅵ　層　10YR8/2　灰白色シルト層　（基盤白色凝灰岩層）しまり強　粘性なし　層厚不明



縮尺（1：20）

第12図　基本土層

Ⅳ 遺構・遺物

1 概　　要

調査遺構は、掘立柱建物跡９棟、土坑10基、溝跡１条、柱穴状土坑143個、土器埋設遺構１基、焼土遺構１基、捨て場２ヵ所である。所属時期は縄文時代後期と近世以降に大別される。

縄文時代については、掘立柱建物跡、土坑および捨て場を確認したが、竪穴住居跡は検出されていない。８・９号掘立柱建物跡は微高地上に位置し、１・２号捨て場と近接している。縄文時代の遺構からは、後期前葉の縄文土器・石器が出土している。普代川対岸には、今回の調査区とほぼ同標高の河岸段丘面に坂の下遺跡が存在し、後期後葉の資料が多量に表採されている。

近世以降については、民家と考えられる掘立柱建物跡から陶器・金属器・寛永通宝が出土し、その周辺で近世墓碑集中部と墓壙（５号土坑）を検出した。遺跡周辺は鉄山で栄えた旧沼袋村の居住領域であり、これまで本格的な発掘調査が少なかった沼袋地区の歴史的環境を知る上で貴重な資料となろう。

遺物は大コンテナ（30×40×30㎝）で18箱分出土した。このうち縄文土器14箱、石器３箱、その他に陶器・腕輪形土製品・鐸形土製品・円盤形土製品・ミニチュア土器・土偶・人骨・古銭・煙管などで1箱分である。縄文土器は後期前葉の資料が主体を占める。また、2号捨て場では上部から弥生土器が出土している。普代川との比高差の小さいC区北端は遺物分布密度が低くかったが、C区東側では縄文時代後期前葉の埋設土器や晩期の土器片が出土している。

2 遺　　構

(1) 掘立柱建物跡

１号掘立柱建物跡

遺　構（第13図、写真図版５）

［位置・検出状況］Ｂ区西端のＶＢ3aグリッド付近に位置する。盛土が厚く堆積し、Ⅱ～Ⅳ層は削平されていたため、Ⅴ層で検出を実施した。遺構検出の結果、長方形プランに配列する柱穴を確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。各柱穴を掘り下げの結果、検出面から深さ約50㎝のところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断して精査を進めた。

［重複関係］なし。

［規模・平面形式］掘立柱建物で、調査区内で確認された規模は桁行372㎝以上、梁行470㎝の長方形プランを呈する。床面積は推定で17.48㎡以上（5.30坪以上）である。

［建物方位］N-26°-E。

［埋土］黒褐色シルト主体である。７号柱穴では礫が柱痕跡底部に配置されている。

［柱間寸法］6.1尺（約186㎝）と6.5尺（約196㎝）を多用している。

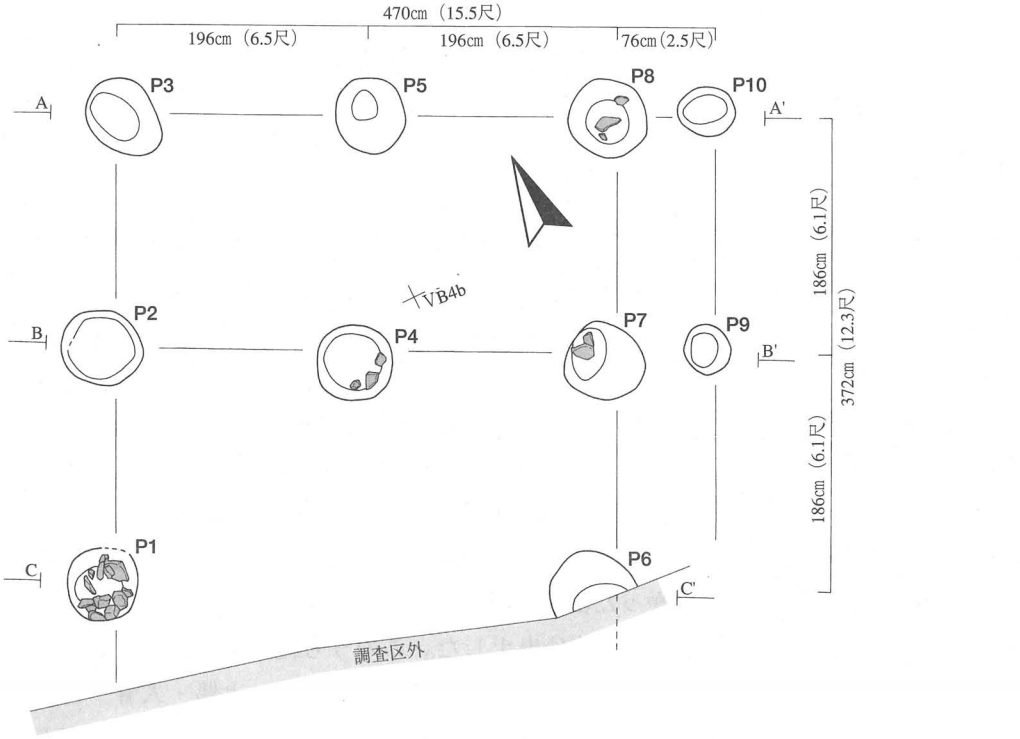
［柱穴］調査区内で本遺構に使用された柱穴は10個である。埋土には柱痕跡が確認できる３個ある。

［付属施設］不明。

［建物の性格］規模及び平面形式から民家の母屋と考えられる。

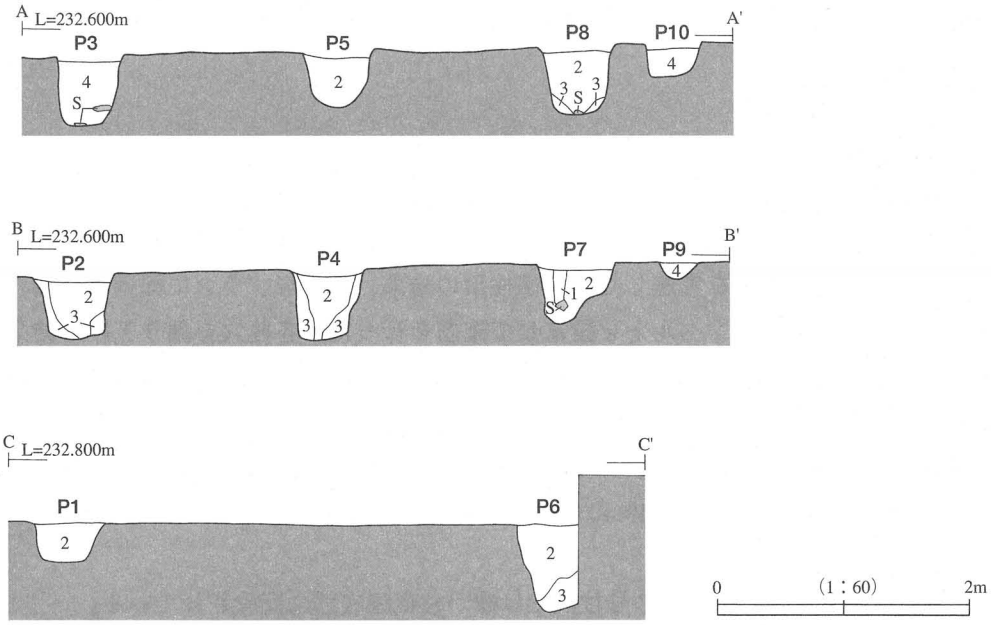
遺　物　出土していない。

時　期　遺構形態と埋土の特徴から近世～近代に所属すると考えられる。



1号掘立柱建物跡

1　10YR3/2　黒褐色シルト層　しまり弱　粘性弱　灰褐～灰黄褐色ブロック包含
2　10YR2/3　黒褐色シルト層　しまり強　粘性弱　灰褐粒径5～15mmを5%包含
3　10YR3/1　黒褐色砂質シルト層　しまり弱　粘性微弱　にぶい黄褐色砂粒1mmを30%包含
4　10YR3/2　黒褐色シルト層　しまりやや強　灰褐～灰黄褐色ブロック30%包含



第13図　1号掘立柱建物跡

2号掘立柱建物跡

遺　構（第14図、写真図版６）

［位置・検出状況］Ｂ区西端のＶＢ2bグリッド付近に位置する。1号掘立柱建物跡と同じくＶ層で検出を行った。遺構検出の結果、長方形プランに配列する柱穴を確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。各柱穴を掘り下げた結果、検出面から深さ70～80cmのところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断して精査を進めた。

［重複関係］なし。

［規模・平面形式］掘立柱建物である。調査区内で確認された規模は桁行242cm以上、梁行393cm以上の長方形プランを呈する。床面積は推定で9.51㎡以上（2.88坪以上）である。

［建物方位］N-７°-E。

［埋土］砂層とシルト層の互層が主体で、互層には硬化面がなく、しまりも弱い。柱痕跡は黒褐色シルト主体である。また多くの場合、黄褐色粘土質土粒を微量～少量含む。

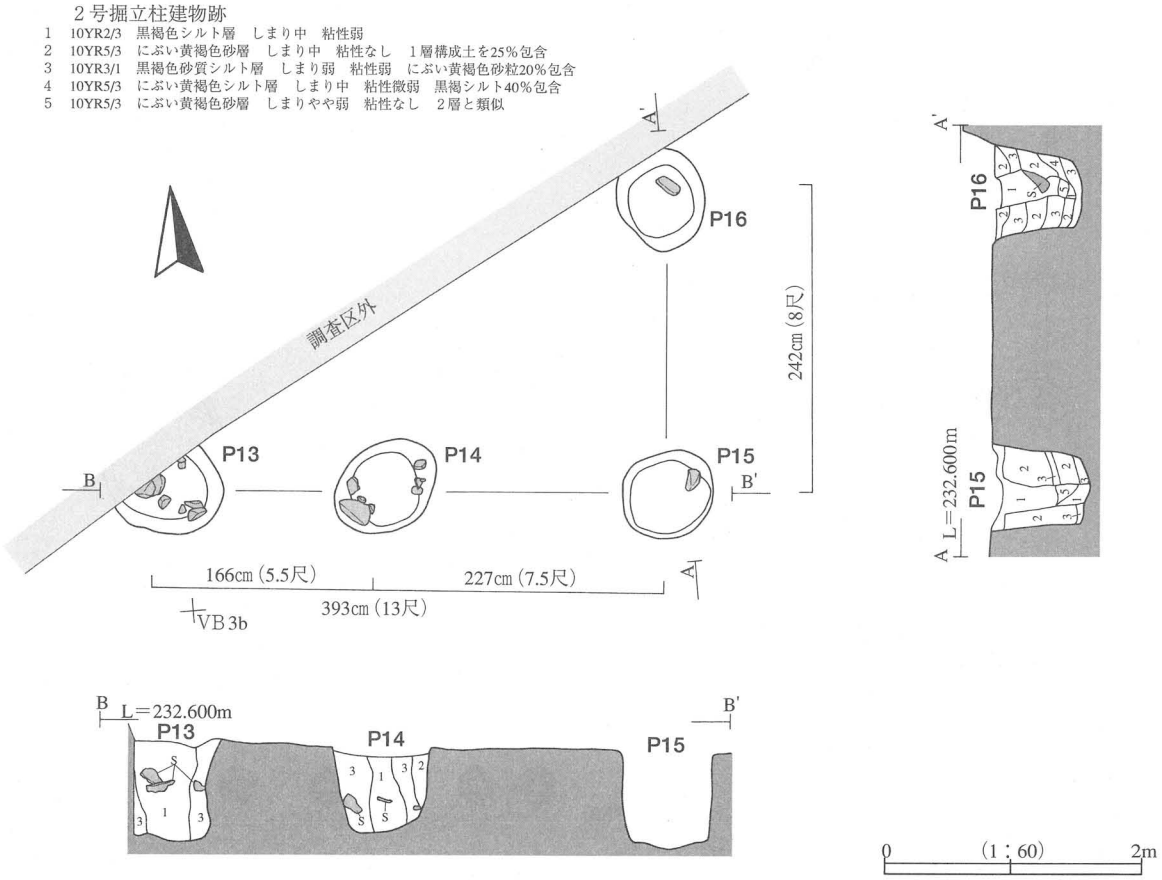
［柱間寸法］８尺、7.5尺、5.5尺など一定でない。

［柱穴］調査区内で確認できた柱穴は４個である。いずれの柱穴にも柱痕跡が残存しているため、建物廃絶後も柱は遺棄されたとみられる。埋土中の礫は柱を支えるように配置されている。

［付属施設］不明。

遺　物　なし。

時　期　不明。

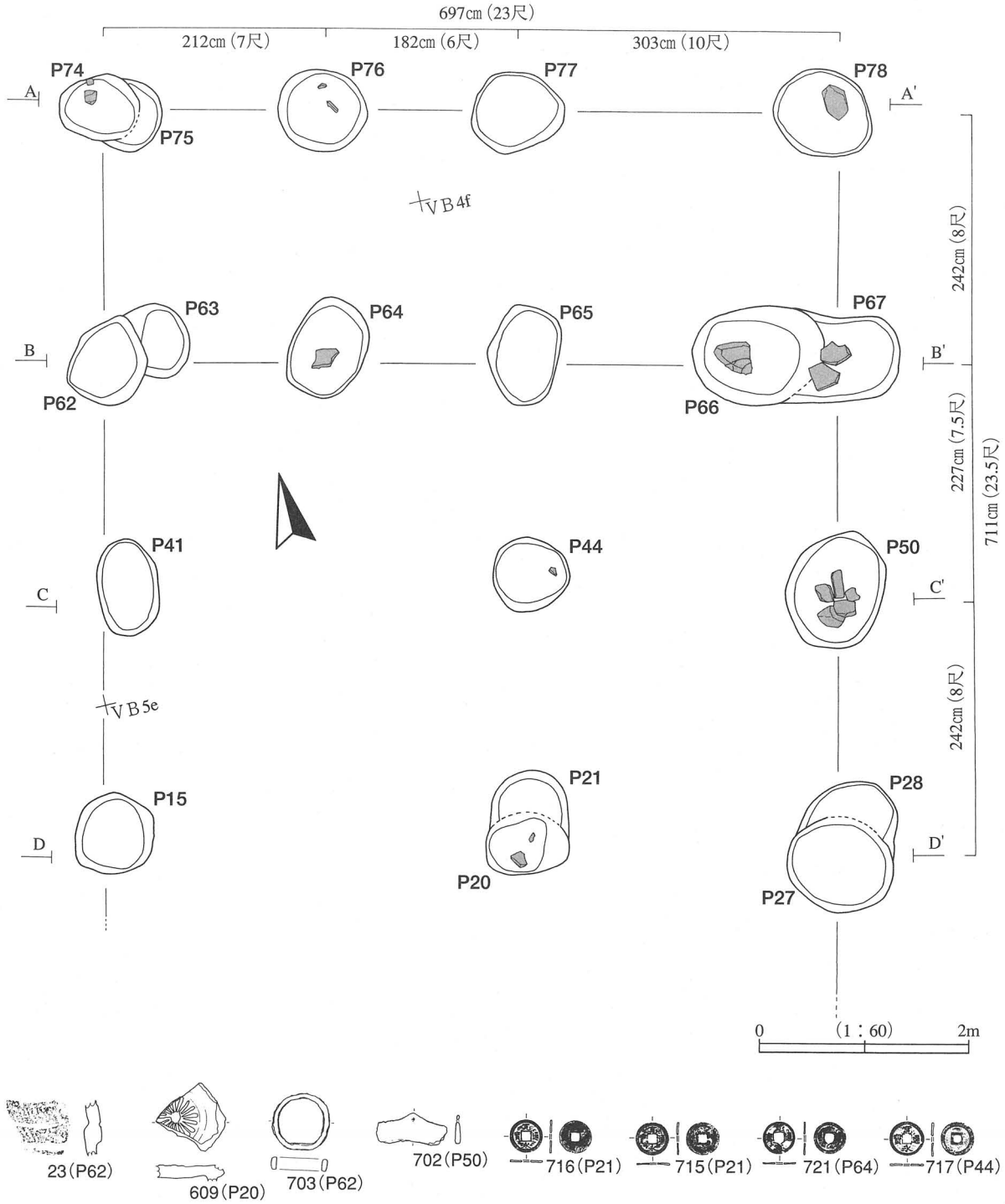


第14図　２号掘立柱建物跡

3号掘立柱建物跡

遺　構（第15・16図、写真図版７・８）

［位置・検出状況］Ｂ区のＶＢ4eグリッド付近に位置する。Ｉ層（表土層）直下で検出している。大半はⅡ層で遺構確認したが、場所によってはⅣ層（To-cu）が露出していた。遺構検出の結果、柱穴が多数密集する地区であることが判明し、そのうち径60～110cmのやや大型の柱穴で構成される長方形プ



第15図　3号掘立柱建物跡（1）

ランを確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。各柱穴を掘り下げた結果、検出面から深さ15～40㎝のところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断して精査を進めた。

［重複関係］ 本遺構を構成する20号・50号柱穴は、それぞれ５号掘立柱建物跡を構成する22号・51号柱穴と重複し、新しい。したがって、本遺構は５号掘立柱建物跡廃絶後に構築されたと考えられる。

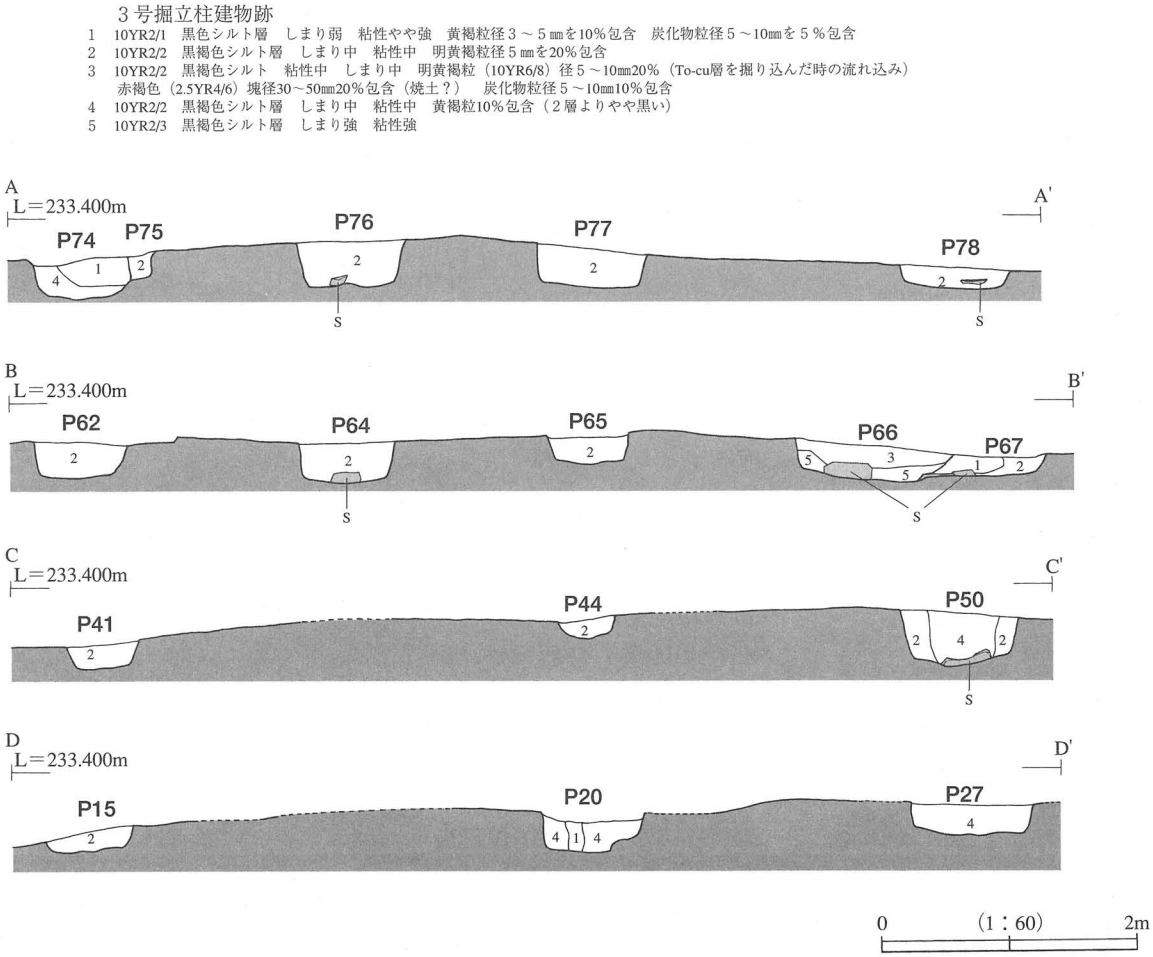
［規模・平面形式］ 掘立柱建物である。規模は桁行711㎝以上、梁行697㎝の長方形プランを呈する。床面積は調査区内で49.56㎡（15.02坪）で、本遺構範囲は調査区外へ広がる想定される。

［建物方位］N-12°-E。

［埋土］単一層が多く、黒褐色土主体である。また多くの場合、黄褐色土粒や明黄褐色土粒（To-cu）を微量～少量含む。埋土は５種類確認できたが、柱痕跡の見られる20・50・74号柱穴の埋土は黒色シルトを主体とする。

［柱間寸法］８尺（約242㎝）を主体としている。

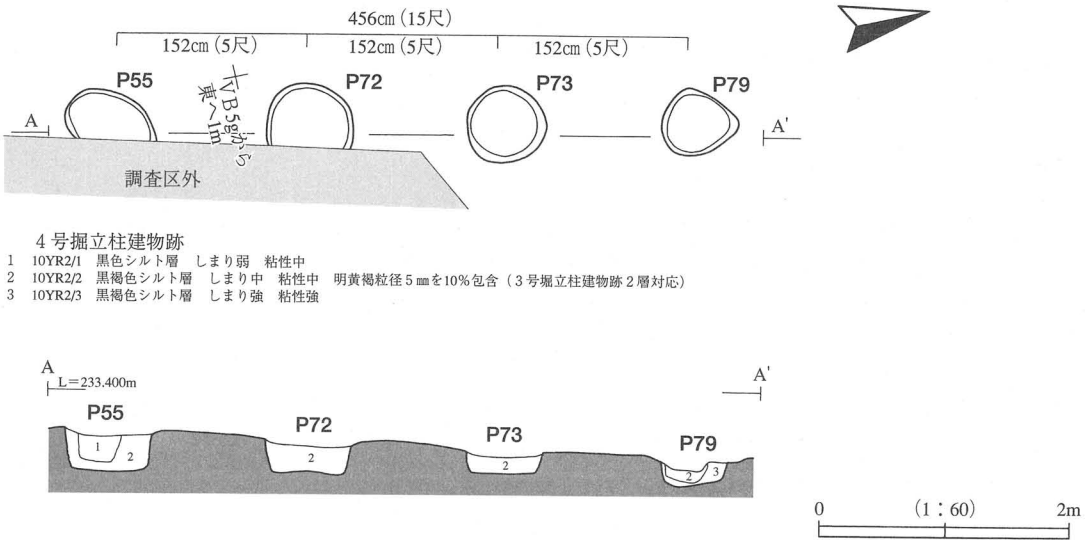
［柱穴］本遺構に使用されたと考えられる柱穴は19個である。このうち、５ヵ所で重複や柱の取替えが行われた可能性があり、埋土の状況も単一でない。



第16図 ３号掘立柱建物跡（２）

［付属施設］切り合い関係から、隣接する４号掘立柱建物跡が付属施設と思われる。
［建物の性格］規模及び平面形式から母屋で、本遺構範囲は調査区外へ及ぶと考えられる。
遺　物（第54・55図、写真図版34）
［出土状況］20・21・44・50・62号柱穴埋土から出土している。
［遺物］20号柱穴から609の在地系陶器、21号柱穴から715・716の寛永通宝、44号柱穴から715の寛永通宝、50号柱穴から702の火打ち金、64号柱穴から721の寛永通宝、62号柱穴から23の縄文土器と703の環状鉄製品が出土している。
時　期　19世紀初頭である。

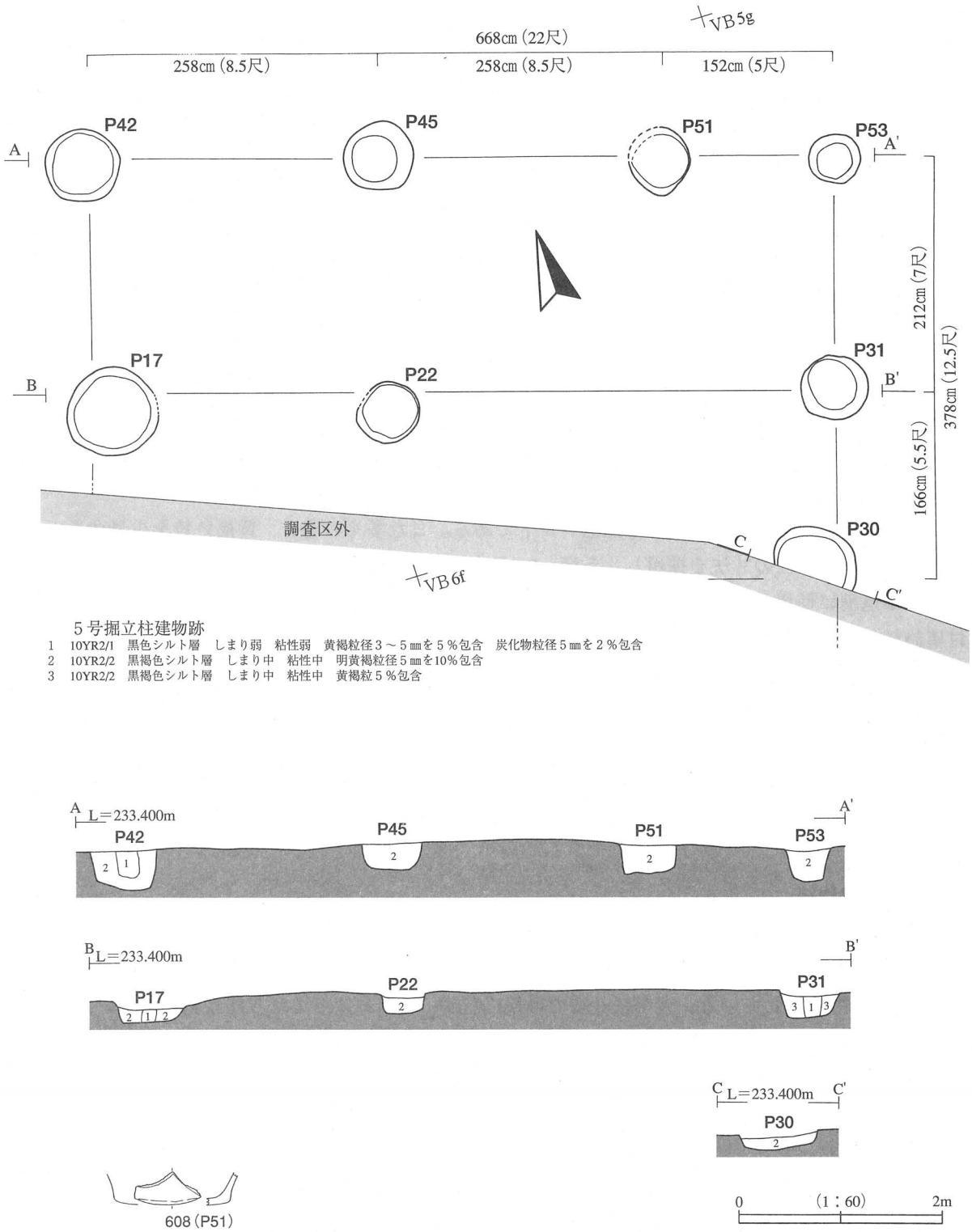
４号掘立柱建物跡
遺　構（第17図、写真図版７・８）
［位置・検出状況］調査区西側のＶＢ５ｇグリッド付近に位置する。３号掘立柱建物跡と同じくＩ層（表土層）直下で検出している。大半はⅡ層での検出だが、場所によってはⅣ層が露出していた。遺構検出の結果、柱穴が密集する地区であることが判明し、そのうち径60～70㎝の柱穴で構成される長方形プランを確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。当初は３号掘立柱建物跡を構成する柱穴の可能性も検討したが、柱穴規模がやや異なることから、別施設と捉えた。柱穴を掘り下げの結果、検出面から深さ13～30㎝のところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡ないしは柵列として精査を進めた。
［重複関係］なし。
［規模・平面形式］規模不明。確認できた柱列は456㎝である。柵列と掘立柱建物の２者の可能性がある。柵列とすれば、軸線上に同規模の柱穴がさらに発見される可能性が高いが、確認できなかった。掘立柱建物跡とすれば、調査区外へ遺構範囲が及ぶものと想定される。ここでは便宜的に掘立柱建物跡として報告する。
［建物方位］不明。



第17図　４号掘立柱建物跡

［埋土］黒褐色シルト主体である。現場所見では、埋土２層が３号掘立柱建物跡第２層に対応する。第79号柱穴の埋土３層は粘性が強く、埋没過程で水分の浸透作用によって２層から分離した可能性がある。

［柱間寸法］５尺（約157㎝）を使用している。



第18図　５号掘立柱建物跡

［柱穴］本遺構に使用されたと考えられる柱穴は４個である。
［付属施設］隣接する３号掘立柱建物跡が主屋と想定される。
［建物の性格］不明。
遺　物　なし。
時　期　埋土の特徴と遺構の配置関係から３号掘立柱建物跡と同時期の19世紀初頭と考えられる。

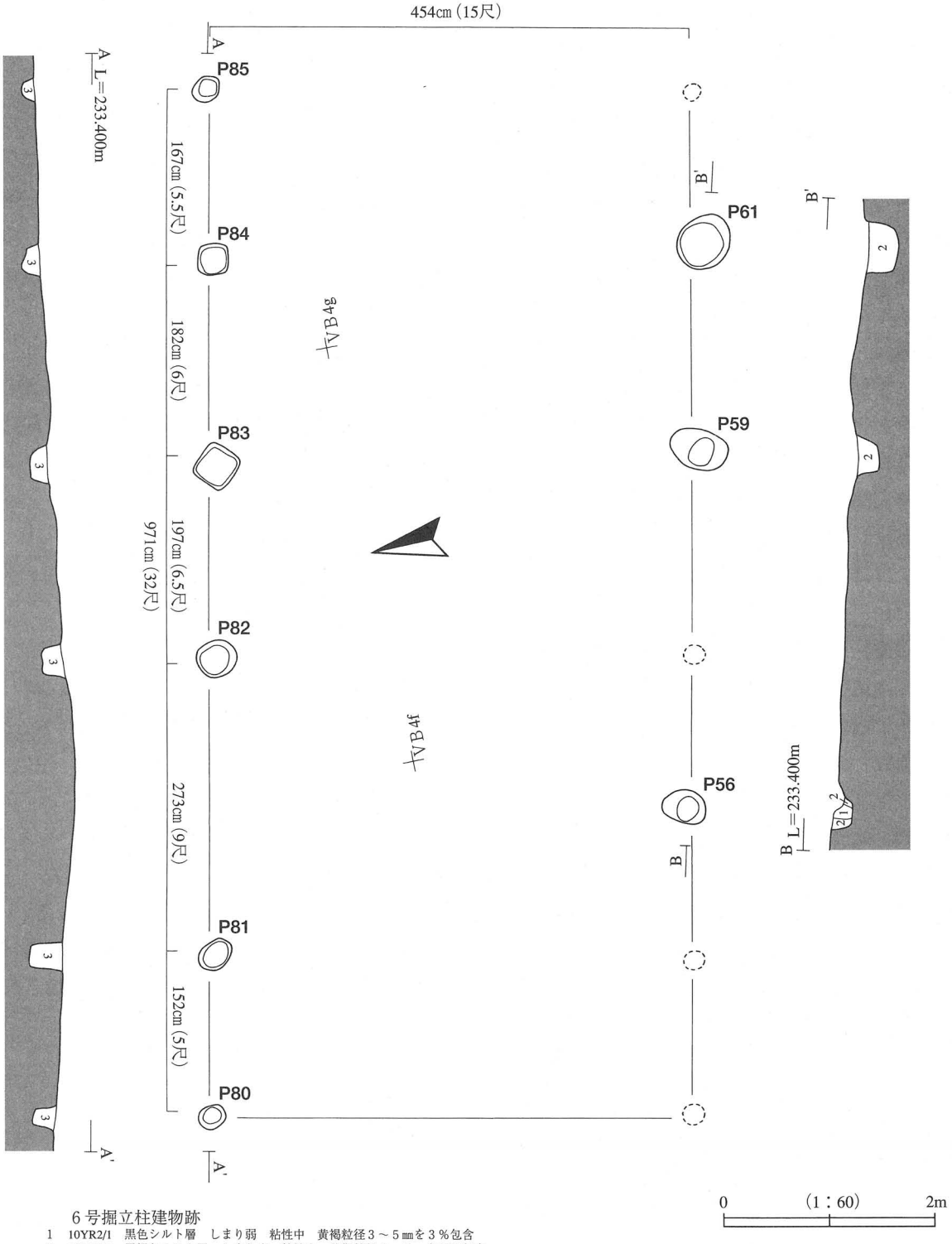
５号掘立柱建物跡

遺　構（第18図、写真図版９）
［位置・検出状況］Ｂ区西側のＶＢ5ｆグリッド付近に位置する。３号掘立柱建物跡と同じくＩ層（表土層）直下で検出している。大半はⅡ層での検出だが、場所によってはⅣ層が露出していた。遺構検出の結果、柱穴密集地区であると判明し、そのうち主に径60～80㎝程度の柱穴で構成される長方形プランを確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。検出面から深さ15～40㎝のところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断した。当初は３号掘立柱建物跡を構成する可能性を考慮したが、配置関係にやや難があり、独立した建物として精査を進めた。
［重複関係］本遺構を構成する22号・51号柱穴は、それぞれ３号掘立柱建物跡を構成する20号・50号柱穴と重複し、古い。したがって、本遺構は３号掘立柱建物跡よりも古期に位置づけられる。
［規模・平面形式］掘立柱建物である。確認できた規模は桁行378㎝以上、梁行668㎝の長方形プランを呈する。床面積は25.25㎡（7.65坪）以上で、本遺構範囲は調査区外へ広がると想定される。
［建物方位］N-18°-E。
［埋土］黒褐色シルト主体で柱痕跡は黒色シルトである。また多くの場合、黄褐色粒を少量含む。
［柱間寸法］５寸単位の寸法を採用し、５尺～8.5尺までを使用している。
［柱穴］本遺構に使用されたと考えられる柱穴は８個である。
［付属施設］建物の配置関係から６号掘立柱建物跡が本遺構に付属する小屋として想定される。
［建物の性格］全体の平面形式は不明であるが、規模から母屋と考えられる。
遺　物（第54図、写真図版34）
［出土状況］51号柱穴埋土から出土している。
［遺物］608の在地系陶器が出土している。
時　期　柱穴の重複関係と埋土内出土遺物の年代から18～19世紀代が想定される。

６号掘立柱建物跡

遺　構（第19図、写真図版９）
［位置・検出状況］Ｂ区西側のＶＢ4ｆグリッド付近に位置する。３号掘立柱建物跡と同じくＩ層（表土層）直下で検出している。大半はⅡ層での検出だが、場所によってはⅣ層が露出していた。遺構検出の結果、多数の柱穴の密集する地区であることが判明し、そのうち主に径25～50程度で構成される長方形プランを確認した。検出面から深さ15～35㎝のところで底面に達した。当初は３号掘立柱建物跡に付属する柵列の可能性を考慮したが、柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断した。
［重複関係］なし。
［規模・平面形式］掘立柱建物である。調査区内で確認できた規模は、桁行971㎝、梁行454㎝の長方形プランを呈すると考えられ、調査区外へ広がると想定される。床面積は44.1㎡（13.35坪）以上である。
［建物方位］N-80°-W。

[埋土] 黒褐色シルト主体である。また多くの場合、黄褐色土粒を微量～少量含む。
[柱間寸法] 5寸単位で5尺～9尺を使用している。
[柱穴] 本遺構に使用されたと考えられる柱穴は9個である。



6号掘立柱建物跡
1　10YR2/1　黒色シルト層　しまり弱　粘性中　黄褐粒径3～5㎜を3％包含
2　10YR2/2　黒褐色シルト層　しまり中　粘性中　黄褐粒径3～5㎜を10％包含
3　10YR2/3　黒褐色シルト層　しまり強　粘性中

第19図　6号掘立柱建物跡

［付属施設］配置関係から、隣接する５号掘立柱建物跡が付属施設として想定される。
［建物の性格］全体の平面形式は不明であるが、規模から小屋と考えられる。
遺　物　なし。
時　期　配置関係から５号掘立柱建物跡と同時期の18～19世紀代が想定される。

７号掘立柱建物跡

遺　構（第20図、写真図版10）
［位置・検出状況］　Ｂ区西側のＶＢ２ｉグリッド付近に位置する。Ｉ層（表土層）直下で検出している。Ⅱ層での検出を主体とするが、本遺構は1号捨て場範囲内にあるため、1号捨て場調査のほぼ終了した段階のⅣ層（To-cu）上面で明確になった。遺構検出の結果、長方形プランに配列する柱穴を確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。各柱穴を掘り下げの結果、検出面から深さ40～60㎝のところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断して精査を進めた。
［重複関係］なし。
［規模・平面形式］掘立柱建物である。調査区内で確認できた規模は桁行985㎝以上、梁行726㎝の長方形プランを呈すると考えられる。床面積は残存値で71.51㎡（21.67坪）以上である。梁行が非常に長いため２列の柵列としての可能性もある。捨て場内に位置し、中央部が低く、窪地状になっていることから中央部の柱穴が捨て場調査によって消滅したかもしれない。
［建物方位］N-１°-E。
［埋土］ほぼ単一層を呈し、黒色～黒褐色シルト主体である。Ⅳ層を掘り込む柱穴はTo-cuブロックを少量含む。
［柱間寸法］桁の柱間寸法は両列とも北から９尺－８尺－7.5尺を使用している。
［柱穴］本遺構に使用されたと考えられる柱穴は９個以上である。柱痕跡の確認できた柱穴は少なく、118・129号柱穴のみである。
［付属施設］なし。
［建物の性格］小屋である。
遺　物（第31・54図、写真図版18・34）
［出土状況］123号柱穴埋土上部と132号柱穴底面から遺物が出土している。
［遺物］123号柱穴上部から縄文土器（24）、132号柱穴底面から永楽通宝（720）が出土している。
時　期　132号柱穴底面出土の永楽通宝を根拠として中世～近世が想定される。遺構の存続時期は不明だが、遺構範囲内からは16世紀後半代の唐津産陶器が出土していることから中世末期に構築された可能性もある。

８号掘立柱建物跡

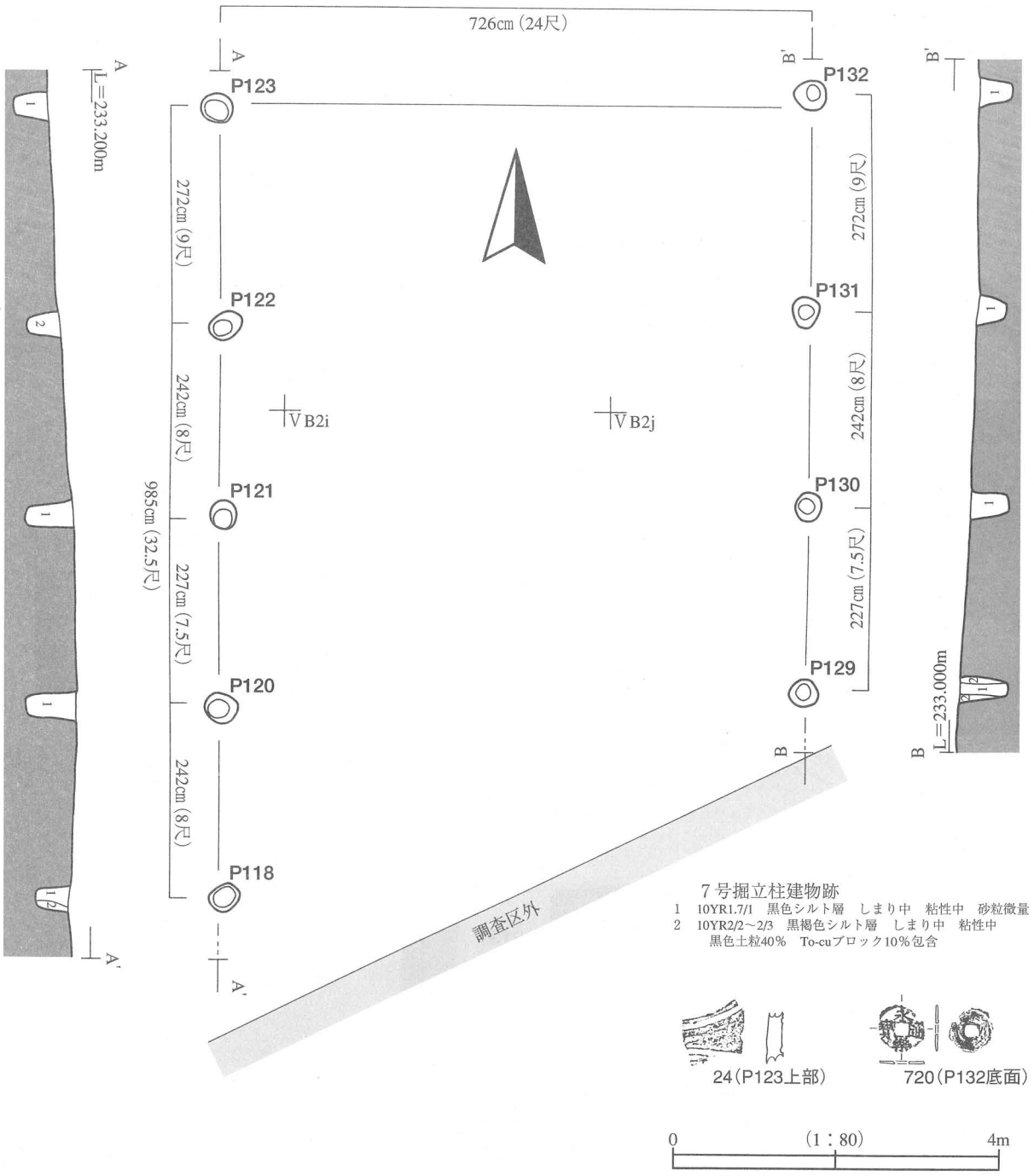
遺　構（第21図、写真図版11）
［位置・検出状況］Ｂ区中央のⅣC7ｅグリッド付近に位置する。Ｉ層（表土）を除去した後、Ⅱ層の層厚が薄く、すぐにⅣ層に達したため、Ⅳ層で遺構検出を実施した。遺構検出の結果、一部が調査区外へと延びるほぼ正方形プランに配列する柱穴を確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して調査を行った。各柱穴を掘り下げた結果、検出面から深さ約100㎝のところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断して精査を進めた。

［重複関係］なし。

［規模・平面形式］掘立柱建物である。規模は調査区外に延びているため残存値であるが、ほぼ正方形プランを呈すると考えられる。床面積は残存値で6.58㎡（1.99坪）以上である。柱穴掘り方は径70～80㎝、柱痕跡は径15～25㎝である。

［建物方位］N-27°-E。

［埋土］柱痕跡が確認でき、柱材は遺棄されたと考えられる。埋土はにぶい黄褐色砂層を主体とする。139号柱穴は台風によって遺構を覆っていたブルーシート、土のう、コンパネ材が移動して雨水が流入し、堆積観察用のセクションが崩落したため、セクション図作成が出来なかった。



第20図　7号掘立柱建物跡

［柱間寸法］242cmと272cmが使用されている。

［柱穴］本遺構に使用されたと考えられる柱穴は３個以上である。139号柱穴は底面に礫が設置されている。

［付属施設］なし。

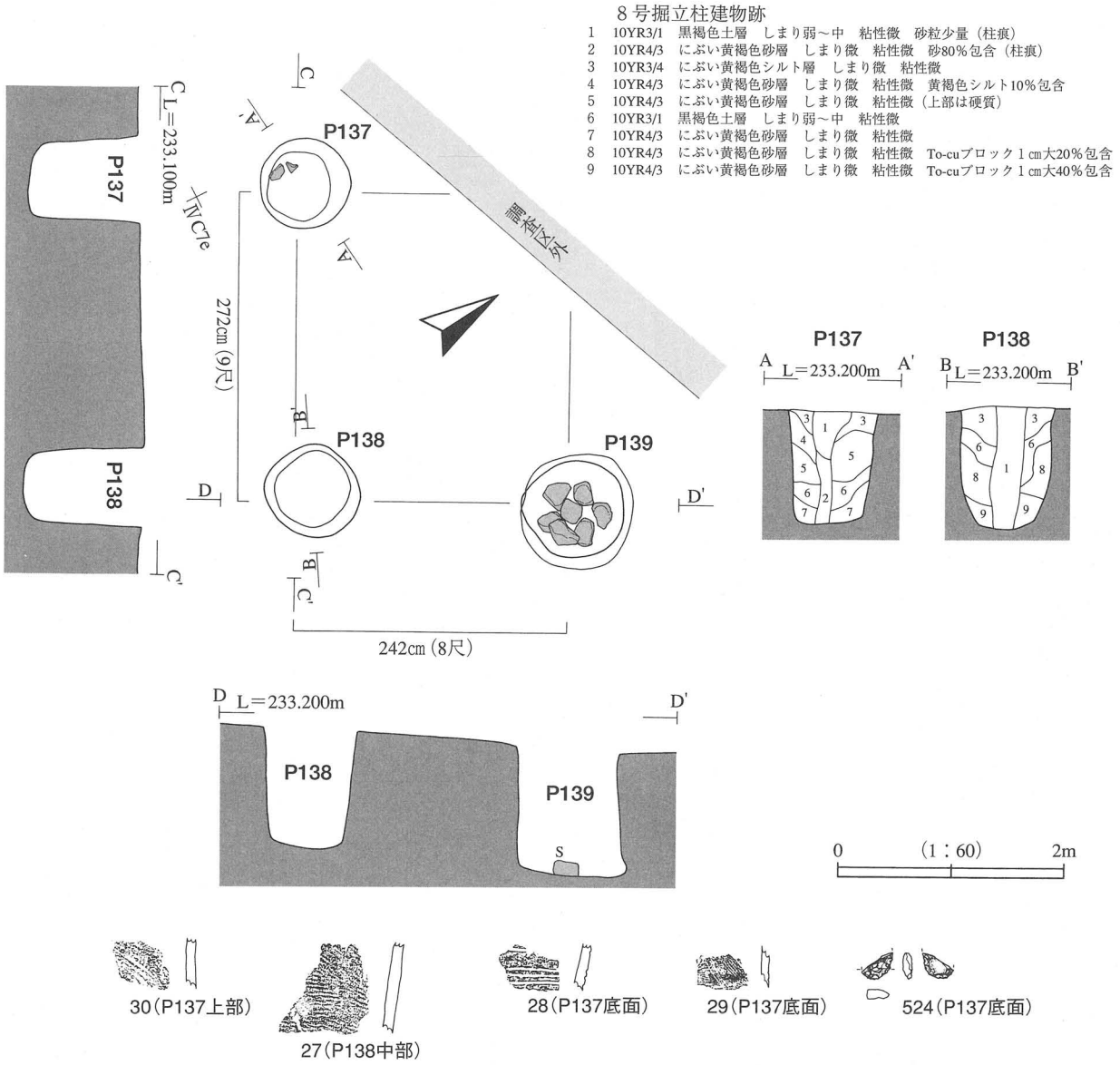
［建物の性格］不明。1号捨て場に隣接する。

遺　物（第31・48図、写真図版18・31）

［出土状況］137号柱穴底面と138号柱穴中部から遺物が出土している。柱穴には柱痕跡が残されていることから、これらの遺物は遺構構築時の流入と考えられる。

［遺物］137号柱穴から縄文土器（28・29）と石器（524）、138号柱穴から縄文土器（27）が出土している。

時　期　縄文時代後期と思われる。



第21図　8号掘立柱建物跡

9号掘立柱建物跡

遺　構（第22図、写真図版12）

［位置・検出状況］Ｂ区東側のⅣＤ6ｃグリッド付近に位置する。Ⅰ層（表土）を除去した後、140・143号柱穴のプランを確認し、Ⅱ層除去後に141・142号柱穴を確認した。遺構検出の結果、これら4個の柱穴が長方形プランに配列することを確認したため遺構と想定し、セクションベルトを設定して調査を行った。各柱穴を掘り下げた結果、検出面から深さ約40～80cmのところで底面に達した。柱穴配置・平面形式などから建物跡と判断して精査を進めた。

［重複関係］なし。

［規模・平面形式］掘立柱建物である。床面積は6.92㎡である。

［建物方位］N-20°-W。

［埋土］３個で柱痕跡が確認でき、多量の礫を包含する。黒褐色土主体である。また143号柱穴埋土は極暗赤褐色を呈し、酸化鉄を包含する。柱穴掘り方は径70～80cm、柱痕跡は径15～30cmである。

［柱間寸法］303cmと227cmを使用している。

［柱穴］本遺構に使用された柱穴は４個である。すべての柱穴底面には大型礫が敷き詰められている。柱痕跡が確認できた柱穴は柱材が遺棄されたと考えられる。

［付属施設］なし。

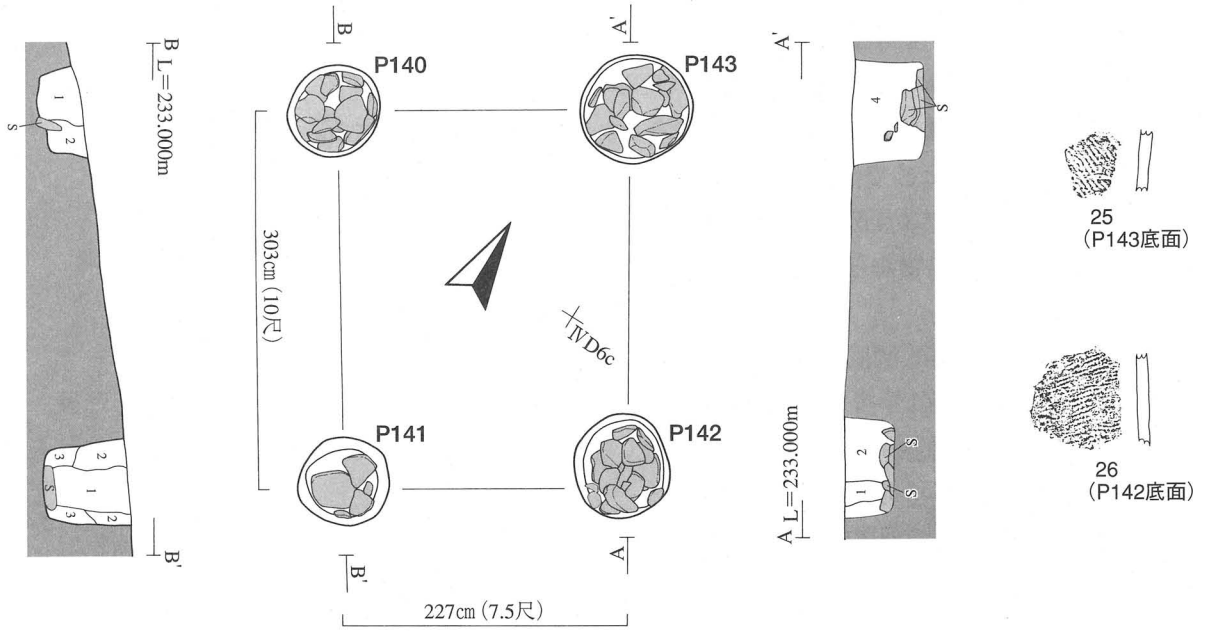
［建物の性格］不明。２号捨て場に隣接する。

遺　物（第31図、写真図版18）

［出土状況］142・143号柱穴埋土底面から出土している。142号柱穴は柱痕跡が確認できたことから、出土遺物は建物構築時に流入したと考えられる。

［遺物］142号柱穴底面から縄文土器（26）、143号柱穴底面から縄文土器（25）が出土している。

時　期　遺物の年代から縄文時代後期と思われる。



9号堀立柱建物跡
1　10YR3/1　黒褐色土層　しまり弱　粘性弱　小礫・砂粒少量（柱痕）
2　10YR2/1　黒色土層　しまり中　粘性弱　小礫微量
3　10YR2/1　黒色土層　しまり中　粘性弱
4　2.5YR2/2　極暗赤褐色土層　しまり中　粘性微　砂粒20％包含

第22図　9号掘立柱建物跡

(2) 土　　坑

1号土坑（第23図、写真図版13）

［位置・検出状況］Ｂ区1号捨て場内のＶＢ1ｊグリッドに位置する。Ｉ層（表土）を除去した後、Ⅱ層（黒褐色）上面で遺構検出を実施した。1号捨て場の調査途中で、やや砂粒の多い長方形に拡がる黒褐色プランを確認した。

［重複関係］1号捨て場の形成過程で構築されたと考えられる。

［形状・規模］平面形は104×41㎝の長方形である。底面標高232.76m。

［埋土］黒褐色シルトと砂で構成され、砂粒を多量に包含する。

［時期］検出面から縄文時代後期と思われる。

2号土坑（第23図、写真図版13）

［位置・検出状況］Ｂ区1号捨て場内のⅣＢ10ｊグリッドに位置する。Ｉ層（表土）を除去した後、Ⅱ層（黒褐色）上面で遺構検出を実施した。1号捨て場の調査途中で、やや砂粒の多い長方形に拡がる黒褐色プランを確認した。

［重複関係］1号捨て場の形成過程で構築されたと考えられる。６号土坑と重複し、本遺構が新しい。

［形状・規模］平面形は122×81㎝の楕円形である。断面形は皿形を呈する。底面標高232.95m。

［埋土］黒褐色シルトと砂で構成され、砂粒を多く包含する。

［出土遺物］縄文土器が３点出土している。1号捨て場形成時に混入したと考えられる。

［時期］検出面と出土遺物から縄文時代後期と思われる。

3号土坑（第23図、写真図版13）

［位置・検出状況］Ｂ区1号捨て場内のⅣＢ10ｊグリッドに位置する。Ｉ層（表土）を除去した後、Ⅱ層（黒褐色）上面で遺構検出を実施した。1号捨て場の調査途中で、やや砂粒の多い楕円形に拡がる黒褐色プランを確認した。４号土坑と隣接する。

［重複関係］1号捨て場の形成過程で構築されたと考えられる。

［形状・規模］平面形は142×88㎝の楕円形である。断面形は皿形を呈する。底面標高232.92m。

［埋土］黒褐色シルトと砂で構成され、砂粒を多く包含する。埋土は1号土坑と類似する。

［出土遺物］縄文土器が３点出土している。

［時期］検出面と出土遺物から縄文時代後期と思われる。

4号土坑（第23図、写真図版13）

［位置・検出状況］Ｂ区1号捨て場内のⅣＢ9ｊグリッドに位置する。Ｉ層（表土）を除去した後、Ⅱ層（黒褐色）上面で遺構検出を実施した。1号捨て場の調査途中で、やや砂粒の多い長方形に拡がる黒褐色プランを確認した。３号土坑と隣接する。

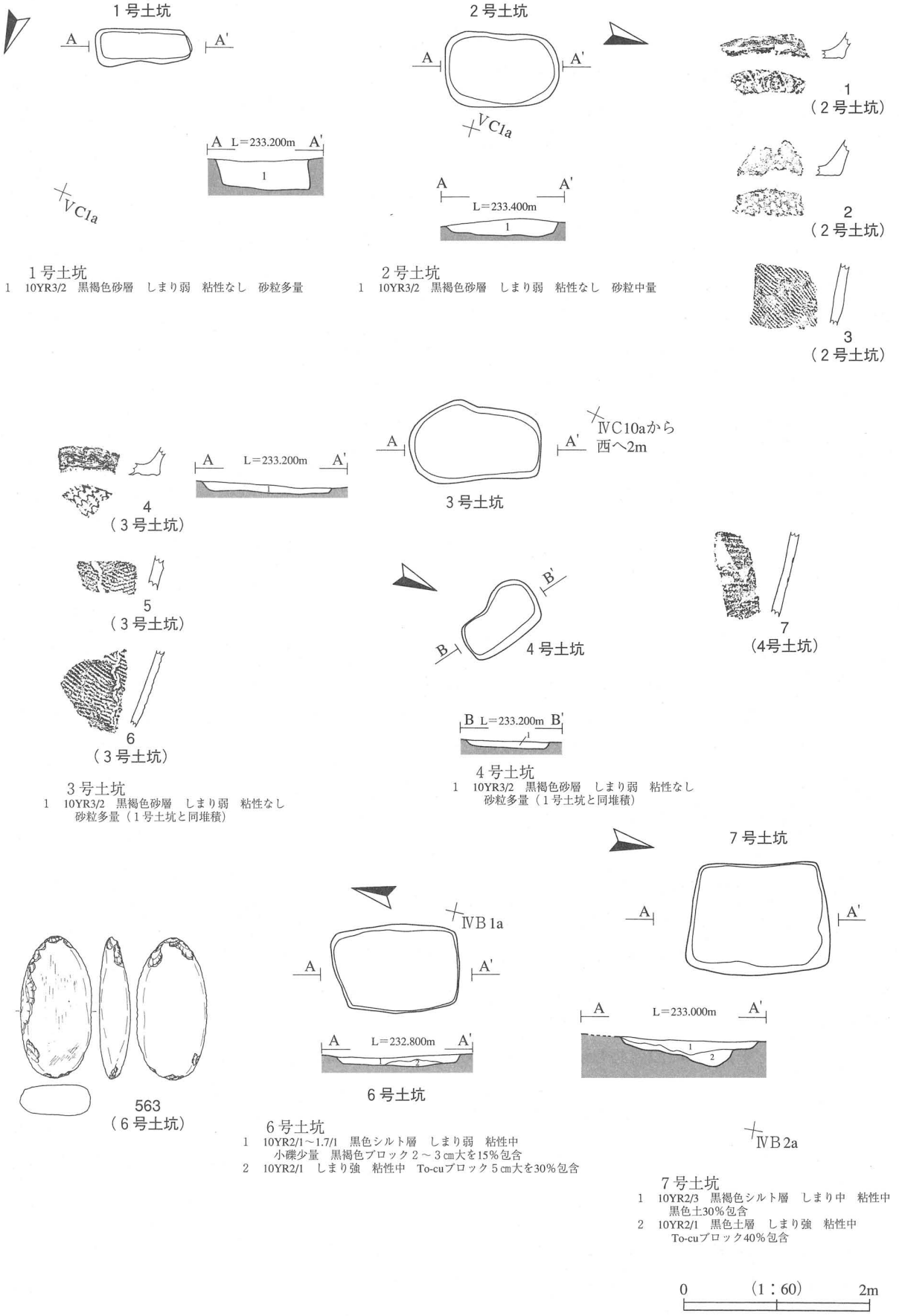
［重複関係］1号捨て場の形成過程で構築されたと考えられる。

［形状・規模］平面形は92×60㎝の長方形である。断面形は皿形を呈する。底面標高232.98m。

［埋土］黒褐色シルトと砂で構成され、砂粒を多く包含する。埋土は1号土坑と類似する。

［出土遺物］縄文土器が１点出土している。

［時期］検出面と出土遺物から縄文時代後期と思われる。



第23図 1～4・6・7号土坑

5号土坑（第24図、写真図版14）

［位置・検出状況］Ｂ区1号捨て場内のⅣＣ9ａグリッドに位置する。Ⅰ層（表土）を除去した後、Ⅱ層（黒褐色）上面で遺構検出を実施した。１号捨て場調査中に捨て場内堆積土よりも黒く円形に拡がる黒色シルトのプランを確認した。

［重複関係］埋土の検討から1号捨て場の廃絶後に構築されたと考えられる。

［形状・規模］平面形は120×117㎝の円形、断面形はバケツ形を呈する。底面標高232.10ｍ。

［埋土］黒色シルトと砂で構成され、砂粒は少量である。

［出土遺物］埋土の上部から縄文土器・石器、下部・底面から近世人骨１体・寛永通宝・煙管が出土している。本遺構構築時に1号捨て場を掘り込んでいることから、縄文時代遺物は1号捨て場内出土遺物の混入と考えられる。寛永通宝は古寛永、文銭、新寛永で構成される。人骨は頭部の一部大腿骨の遺存状態が良好であった。歯の磨耗度から老年期の男性と推定される。詳細は第Ⅶ章第４節を参照されたい。

［遺構の性格］近世墓壙である。

［時期］出土遺物から18世紀後半である。

6号土坑（第23図、写真図版14）

［位置・検出状況］Ｂ区1号捨て場内のⅣＢ10ｊグリッドに位置する。Ⅰ層（表土）を除去した後、Ⅱ層（黒褐色）上面で遺構検出を実施した。1号捨て場の調査途中で、長方形に拡がる黒褐色プランを確認した。

［重複関係］1号捨て場の形成過程で構築されたと考えられる。２号土坑と重複し、本遺構が古い。

［形状・規模］平面形は135×95㎝の長方形である。断面形はⅢ形を呈する。底面標高232.60ｍ。

［埋土］黒褐色シルトを主体とする。本遺構はⅣ層（To-cu）を掘り込み、埋土にTo-cuブロックを包含する。

［出土遺物］磨石が出土している。1号捨て場形成時に混入したと考えられる。

［時期］検出面と出土遺物から縄文時代後期と思われる。

7号土坑（第23図、写真図版14）

［位置・検出状況］Ｂ区1号捨て場内のＶＢ1ｊグリッドに位置する。Ⅰ層（表土）を除去した後、Ⅱ層（黒褐色）上面で遺構検出を実施した。1号捨て場の調査途中で、長方形に拡がる黒褐色プランを確認した。

［重複関係］1号捨て場の形成過程で構築されたと考えられる。

［形状・規模］平面形は152×121㎝の長方形である。断面形はⅢ形を呈する。底面標高232.45ｍ。

［埋土］黒褐色シルトを主体とする。本遺構はⅣ層（To-cu）を掘り込み、埋土にTo-cuブロックを包含する。

［出土遺物］なし。

［時期］検出面から縄文時代後期の可能性がある。

8号土坑（第25図、写真図版14）

［位置・検出状況］Ｂ区1号捨て場内のＶＢ2ｉグリッドに位置する。Ⅰ層（表土）を除去した後、Ⅱ層（黒褐色）上面で遺構検出を実施した。1号捨て場の調査途中で、長方形に拡がる黒褐色プランを確認した。

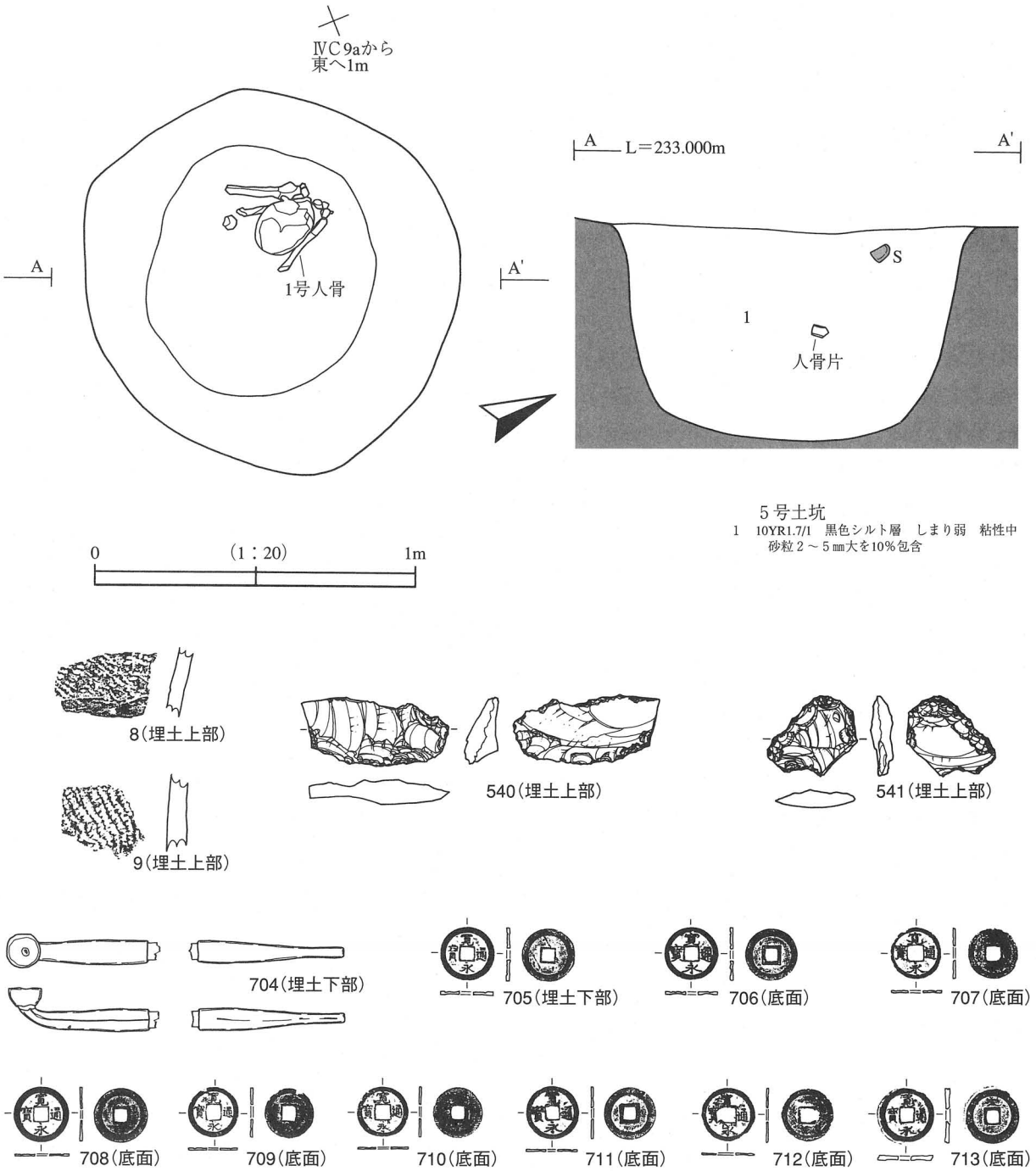
［重複関係］1号捨て場の形成過程で構築されたと考えられる。

［形状・規模］平面形は148×76cmの長方形である。断面形は皿形を呈する。底面標高232.62m。

［埋土］黒褐色シルトを主体とする。本遺構はⅣ層（To-cu）を掘り込み、埋土にTo-cuブロックを包含する。

［出土遺物］なし。

［時期］検出面から縄文時代後期の可能性がある。



第24図　5号土坑

9号土坑（第25図、写真図版15）

［位置・検出状況］２号捨て場に隣接するⅣD2ｆグリッドに位置する。Ⅰ層（表土）を除去した後、Ⅱ層（黒褐色）下部とⅢ層でそれぞれ遺構検出を実施し、長方形に拡がる黒色プランを確認した。

［重複関係］なし。

［形状・規模］平面形は173×68cmの長方形である。断面形はⅢ形を呈する。底面標高232.24m。

［埋土］黒色シルトを主体とする。埋土に砂粒を少量包含する。

［出土遺物］縄文土器が3点出土している。

［時期］検出面と遺物から縄文時代後期。

10号土坑（第25図、写真図版15）

［位置・検出状況］２号捨て場に隣接するⅢD10ｆグリッドに位置する。Ⅰ層（表土）を除去した後、Ⅱ層（黒褐色）下部で遺構検出を実施し、円形に拡がる黒色プランを確認した。

［重複関係］なし。

［形状・規模］平面形は133×124cmの円形である。断面は擂鉢形を呈する。底面標高231.78m。

［埋土］黒色土を主体とする。埋土に砂粒・To-cu粒を微量包含する。多量の遺物が２・３層を主体として出土している。

［出土遺物］（第31・47～49図、写真図版18・30・31）

縄文土器・石器がまとまって出土している。縄文土器は13がほぼ完形にまで復元された。18は２号捨て場第３層出土土器（263）と同一個体の可能性がある。

［時期］検出面と遺物から縄文時代後期前葉。

(3) 溝　　跡

1号溝跡（第26図、写真図版16）

［位置・検出状況］Ｂ区西側のＶＢ1ｆグリッドに位置する。B区西側は土地改変に伴う削平が著しい。厚く堆積していた盛土を除去したところ、Ⅳ層が露出していた。Ⅳ層で検出し、緩いカーブを描く溝形に拡がる黒褐色プランを確認した。

［重複関係］91号柱穴と重複し、本遺構が古い。

［形状・規模］平面形は198×23cmの溝形。断面形は浅いⅢ形を呈する。

［長軸方位］N-18°-E。

［埋土］黒褐色土主体の単一層で構成される。

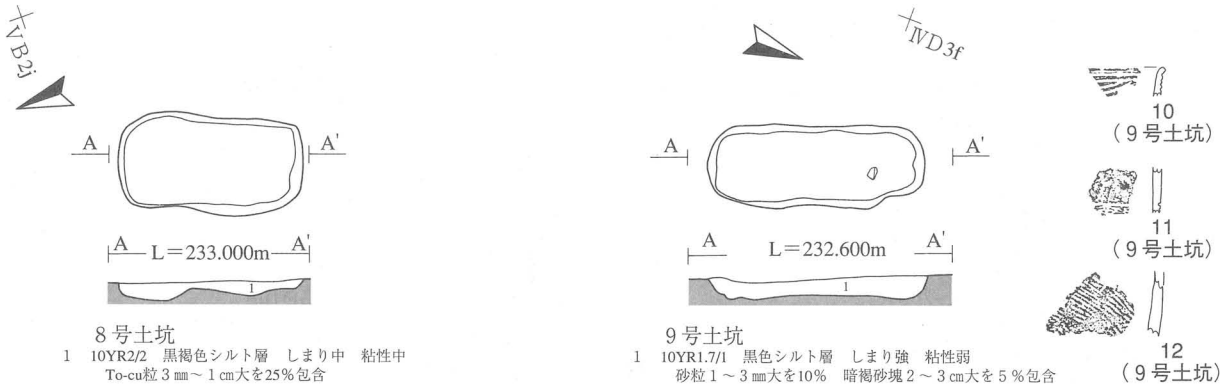
［遺構の性格］不明。ただし、Ｂ区柱穴密集区に位置し、密集区域内出土遺物、遺構配置関係および遺構埋土の特徴などから竪穴住居跡の壁溝ないしは柱間溝の可能性がある。

［時期］出土遺物が皆無のため不明だが、上記の理由から縄文時代の可能性がある。

(4) Ｂ 区 柱 穴 群（第26・27図、写真図版16）

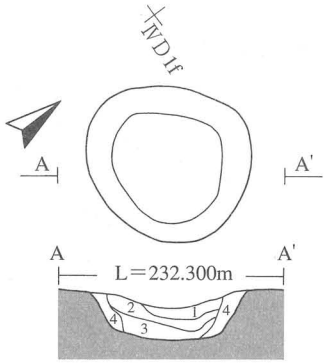
Ｂ区西側には柱穴跡が密集している。ＶＢ4ｆグリッド付近には近世掘立柱建物跡が４棟確認でき、埋土の状況は類似していることから、ほぼ近世の所産と考えられる。

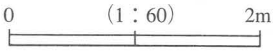
一方、ＶＢ2ｇグリッド付近の柱穴は近世掘立柱建物跡の埋土より全体的に黒色が強く、しまりの良い堆積土であった。1号捨て場の上位堆積土に類似することから、縄文時代の柱穴の可能性がある。1号溝跡の延長線上には柱穴が並び、住居状遺構の可能性を試案として第26図に示した。



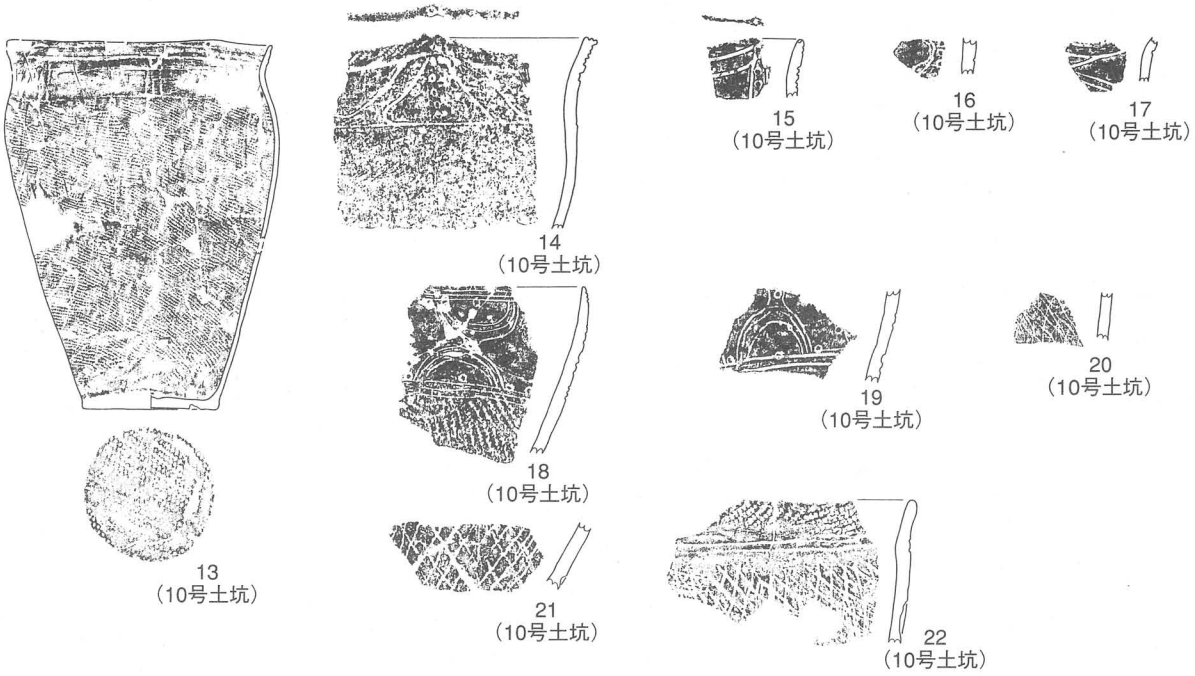
8号土坑
1　10YR2/2　黒褐色シルト層　しまり中　粘性中
　To-cu粒3㎜～1㎝大を25%包含

9号土坑
1　10YR1.7/1　黒色シルト層　しまり強　粘性弱
　砂粒1～3㎜大を10%　暗褐砂塊2～3㎝大を5%包含

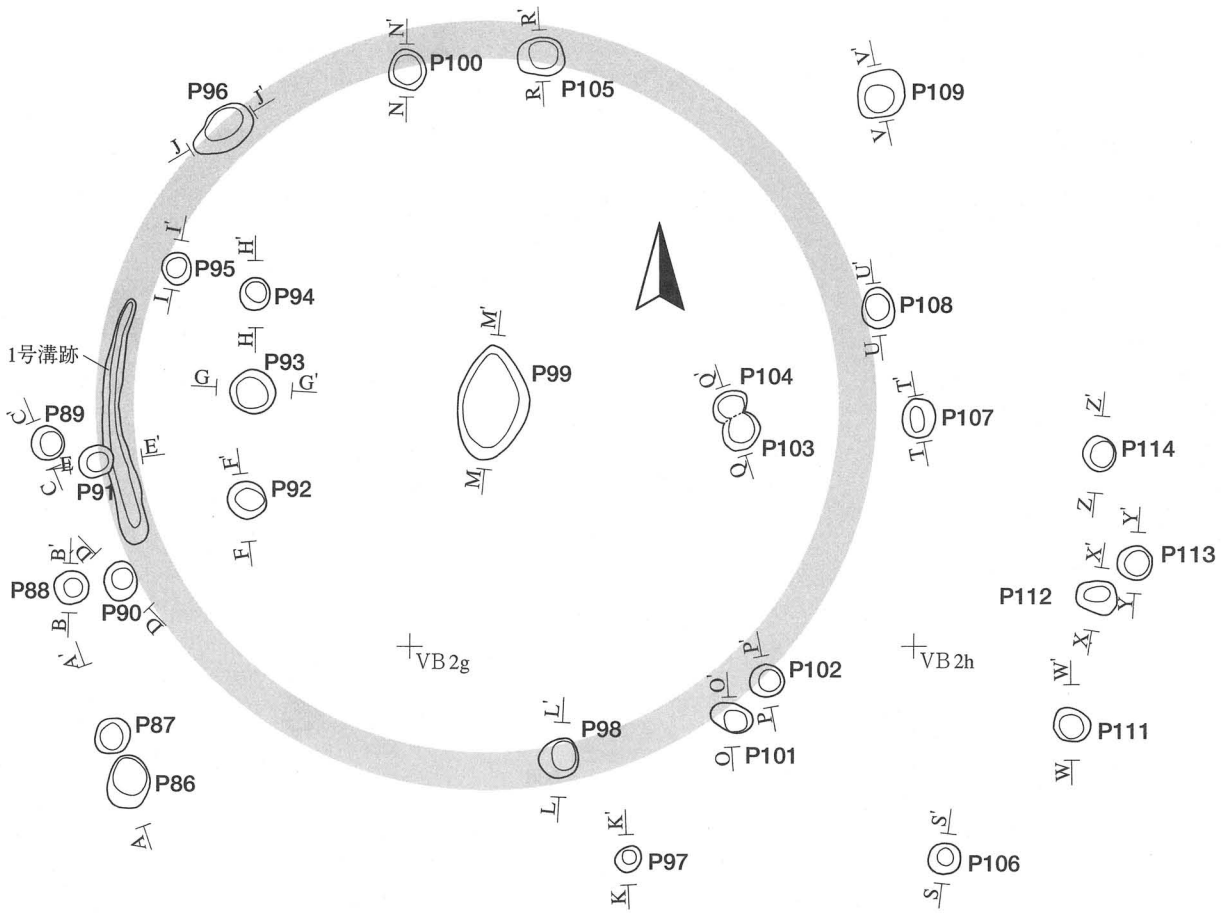




10号土坑
1　10YR2/1　黒色土層　しまり中　粘性弱　砂粒1%包含
2　10YR3/3　暗褐色土層　しまり中　粘性弱　To-cuブロック1㎝大を
　10%包含（縄文土器多量）
3　10YR2/2　黒褐色土層　しまり弱　粘性弱　砂粒1%包含（縄文土器包含）
4　10YR1.7/1　黒色土層　しまり強　粘性弱　To-cuブロック1㎝大を1%包含

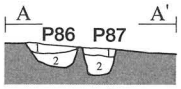


第25図　8～10号土坑



※アミ範囲：試案　住居状遺構
※断面基準レベルはすべて　L＝233.200m

0　(1：60)　2m



86・87号柱穴
1　10YR2/2　黒褐色シルト層　しまり強　粘性弱
　炭化物微量　To-cu粒径３～５㎜大を30％包含
2　10YR2/2　黒褐色シルト層　しまり強　粘性中
　炭化物微量　To-cu粒３～５㎜大を３％包含

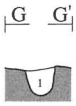
88号柱穴
1　10YR2/2　黒褐色シルト層　しまり中　粘性弱
　炭化物微量

89号柱穴
1　10YR2/3　黒褐色シルト層　しまり弱　粘性弱
　黄褐色土粒３～５％包含

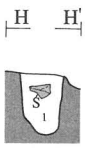
90号柱穴
1　10YR2/2　黒褐色シルト層　しまり中
　粘性弱　炭化物微量

91号柱穴・１号溝跡
1　10YR2/3　黒褐色シルト層　しまり中　粘性弱
　砂粒10％　黄褐粒径３～５㎜大を10％包含
2　10YR2/3　黒褐色シルト層　しまり中　粘性弱
　黄褐粒径３～５㎜大を20％包含(91号柱穴に切られる)

92号柱穴
1　10YR2/2　黒褐色シルト層　しまり中　粘性中
　黄褐粒径５㎜大を５％包含



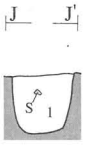
93号柱穴
1　10YR2/2　黒褐色シルト層　しまり中　粘性中
　黄褐粒径５㎜大を５％包含



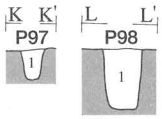
94号柱穴
1　10YR2/2　黒褐色シルト層　しまり中　粘性弱
　砂粒10％包含　To-cu粒径１～３㎜大を20％包含

95号柱穴
1　10YR2/3　黒褐色シルト層　しまり弱　粘性弱
　黄褐色土粒３～５％包含

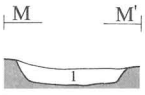
第26図　Ｂ区柱穴群（１）



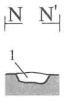
96号柱穴
1　10YR2/2～2/3　黒褐色シルト層　しまり中
粘性中　To-cu粒径10㎜大を５％包含



97・98号柱穴
1　10YR2/2　黒褐色シルト層　しまり強　粘性中
To-cuブロック径20㎜大を８～10％包含



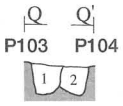
99号柱穴
1　10YR2/3　黒褐色シルト層　しまり強　粘性弱
To-cu粒40～50％包含（配置：試案住居状遺構の中央



100号柱穴
1　10YR2/2　黒褐色シルト層　しまり強　粘性弱
炭化物微量　To-cu粒径３～５㎜大を20％包含

101号柱穴
1　10YR2/3　黒褐色シルト層　しまり中　粘性弱
砂粒10%　To-cu粒５％包含

102号柱穴
1　10YR2/3　黒褐色シルト層　しまり中　粘性弱
砂粒10%　To-cu粒５％包含
2　10YR3/3　暗褐色シルト層　しまり中　粘性中
砂粒20％包含

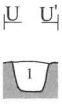


103・104号柱穴
1　10YR2/2　黒褐色シルト層　しまり強　粘性弱
炭化物微量　To-cu粒径３～５㎜大を30％包含
2　10YR2/2　黒褐色シルト層　しまり強　粘性中
炭化物微量　To-cu粒３～５㎜大を３％包含

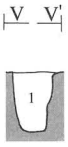
105号柱穴
1　10YR2/3～3/3　黒褐色シルト層　しまり中
粘性弱　To-cu粒５～10％包含

106号柱穴
1　10YR3/1　黒褐色シルト層　しまり強　粘性弱
砂粒20％包含

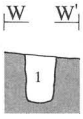
107号柱穴
1　10YR2/3　黒褐色シルト層　しまり強　粘性弱
To-cu粒20％包含



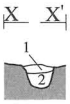
108号柱穴
1　10YR2/3　黒褐色シルト層　しまり強　粘性弱
To-cuブロック10％包含　炭化物１％包含



109号柱穴
1　10YR2/3～3/3　黒褐色シルト層　しまり中
粘性弱　To-cu粒５％包含　（105号柱穴と堆積類似）



111号柱穴
1　10YR2/1～2/2　黒褐色シルト層　しまりやや強
粘性中　To-cu粒径３㎜大を３％包含



112号柱穴
1　10YR2/1～2/2　黒褐色シルト層　しまりやや強
粘性中
2　10YR2/3　黒褐色シルト層　しまり中　粘性中
砂粒20％　To-cu粒径10㎜大を40％包含

113号柱穴
1　10YR2/1～2/2　黒褐色シルト層　しまりやや強
粘性中　To-cu粒３％包含（111号柱穴と堆積類似）

114号柱穴
1　10YR2/3　黒褐色シルト層　しまり強　粘性弱
To-cu粒30％包含（99号柱穴と堆積類似）

※断面基準レベルはすべてＬ＝233,200m

0　（1：60）　2m

第27図　Ｂ区柱穴群（２）

(5) 土器埋設遺構

1号埋設土器（第30図、写真図版15）

［位置・検出状況］黒色土が厚く堆積するC区ⅡE10cグリッドに位置する。C区7層（第1泥炭層）で出土した。C区は全面を埋没谷と捉え、洪水層と黒色層（一部泥炭層）の互層を層ごとに掘削しており、遺物包含層を確認した。本遺構は7層調査時に単独出土した。土器は正位に配置され、明確な掘り込みは見られなかったが、7層は水分を多く含む粘性堆積物層であり、土器埋設後に7層が水性作用によって伸縮を繰り返し、本来の掘り方のラインを消失させたものと考えられる。

［形状・規模］口径18.2cm、器高20.2cmの深鉢を埋設している。

［埋土］2層に分離され、1層は黒色土を主体とし、2層は砂粒が多い。2層内にはわずかながら白色粒子が見られ、骨片の可能性を考慮して土壌分析を実施した。本遺構に骨蔵器としての用途があるかを検証目的としたが、有意義な結果は得られなかった。第Ⅶ章第2節の土壌分析を参照されたい。

［遺物］深鉢（31）で磨消手法を多用している。沈線によって巴状のモチーフを描出する。

［時期］検出面と遺物から縄文時代後期前葉である。

(6) 焼　土　遺　構

1号焼土遺構（第30図、写真図版15）

［位置・検出状況］B区西側VB2jグリッドの1号捨て場内に位置する。1号捨て場調査中に暗赤褐色土粒を検出した。住居内地床炉の可能性を検討すべく、柱穴・住居壁などの竪穴住居施設の検出を試みたが、発見できなかった。捨て場内に投げ込まれた可能性もあるが、散在していない。

［形状・規模］平面形は30×24cmの不整形。断面形は浅い皿形を呈する。

［埋土］黒褐色土内に暗赤褐色土粒が含まれる。

［時期］検出面から縄文時代後期である。

(7) 捨　て　場

1号捨て場

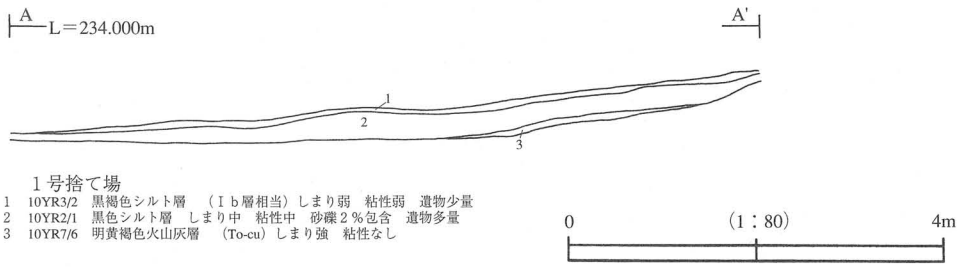
遺　構（第28図、写真図版1）

［位置・検出状況］B区西側のⅣB9j・ⅣB10j・VB1j・VB2jを中心に遺物が表採できたため、薄く堆積していたⅠ層（表土）から人力で掘削し、Ⅱ層上面で遺構検出作業を行った。この範囲は浅い埋没沢を覆うように地層の堆積がみられた。当初Ⅲ層（黒色土層）と区別できなかったが、Ⅱ層より土壌化が進行し、マサ土の流入も見られた。遺物は2層の黒色土層を中心に出土している。範囲内からは1～8号土坑と1号焼土遺構を検出したが、明確な居住痕跡である竪穴住居跡は発見できなかった。本遺構については遺物の集合・飛散状態を検討するため、遺物点を可能な限り採取したが、その結果、完形品近くまで復元される個体の土器片が放射状に散在する状況や埋没沢を覆うように分布することを確認できた。したがって、遺物の投げ込み行為が遺構形成の1要因として考えられたため、捨て場として登録することとした。

［規模］約255m²を調査区内で検出し、調査区外へと南北に広がると想定される。層厚は50～60cmで、V層直上まで遺物が出土する。

遺　物（第32～39・45～53図・写真図版19～24・30～33）

［出土状況］緩やかな斜面部に最も遺物量が多い。投げ込み行為の大半は、本遺構東側の微高地上か



1号捨て場
1　10YR3/2　黒褐色シルト層　（Ⅰb層相当）しまり弱　粘性弱　遺物少量
2　10YR2/1　黒色シルト層　しまり中　粘性中　砂礫2％包含　遺物多量
3　10YR7/6　明黄褐色火山灰層　（To-cu）しまり強　粘性なし

第28図　1号捨て場

らと考えられる。

［遺物］本遺跡の出土遺物のうち、約７割が1号捨て場出土である。

土器は、完形近くまで復元できた個体が少なく、ほとんど破片資料である。深鉢主体で鉢・浅鉢少量存在する。十腰内１式あるいはそれと併行する時期の土器が主体を占める。沈線の施文に特徴があり、沈線を２ないし３本並行させるものが多い。沈線で描出するモチーフは渦巻き（69・125～127）、円形、三角形、入組み、魚鱗状（73）、波状（32）など多彩である。装飾として刺突が多用され（50・57・88・89・94・95等）、鎖状隆帯（102）も見られる。底部は木葉痕・網代痕の見られる土器が多い。縄文・撚糸文の施文される土器は全体の６割を占め、縄文LRが主体的である。口縁部にLR圧痕による区画（148～150）を施すものも一定量見られる。139は後期中葉の土器で、外面は羽状縄文施文後に磨かれている。

土製品は腕輪型土製品（401～405）・土偶（406）・鐸形土製品（407～412）・ミニチュア（413）・円盤形土製品（417～419・421）が出土している。腕輪形土製品は無文で厚手である。鐸形土製品は無文（407・408）と、沈線や刺突を施すものがあるが、409は刺突を入念に施し、開口部が横位に位置する。

石器は、石鏃・錐・石匙・スクレイパー・楔形石器・剥片・砕片などの剥片石器と、磨製石斧・敲石・凹石・磨石の礫石器が出土した。礫石器はいずれも片掌に乗る小型品であり、石皿のような大型品は見られない。

時　期　遺物の年代から縄文時代後期前葉を主体とする。

２号捨て場

遺　構（第29図、写真図版２）

［位置・検出状況］沢に近いＢ区東側のⅣＤ３h・ⅣＤ４ｈを中心に遺物が表採できたため、厚く堆積していたⅠ層（表土）を重機によって除去し、Ⅱ層上面で遺構検出した。この範囲は沢に近いため、湧水が数箇所でみられた。遺物は黒色土層を中心に出土している。周辺には９・10号土坑があり、10号土坑からは本遺構の第３層出土土器と同一個体の可能性がある土器片が出土している。竪穴住居跡の可能性を考慮して調査を進めたが、硬化面・焼土・柱穴など居住に係わる痕跡を見つけられなかった。本遺構の北側に水の流入によって土層が削り取られた痕跡を確認した。土器は破片資料で、磨耗が激しい。廃棄場の様相を呈していると考え、２号捨て場として登録した。

［規模］約95㎡を調査区内で検出した。南側方向に調査区外へと広がると想定される。層厚は1.2～1.3ｍで、Ⅳ層（To-cu）を切るように堆積している。

遺　物（第39～43・47～52図、写真図版25～27・30・31～33）

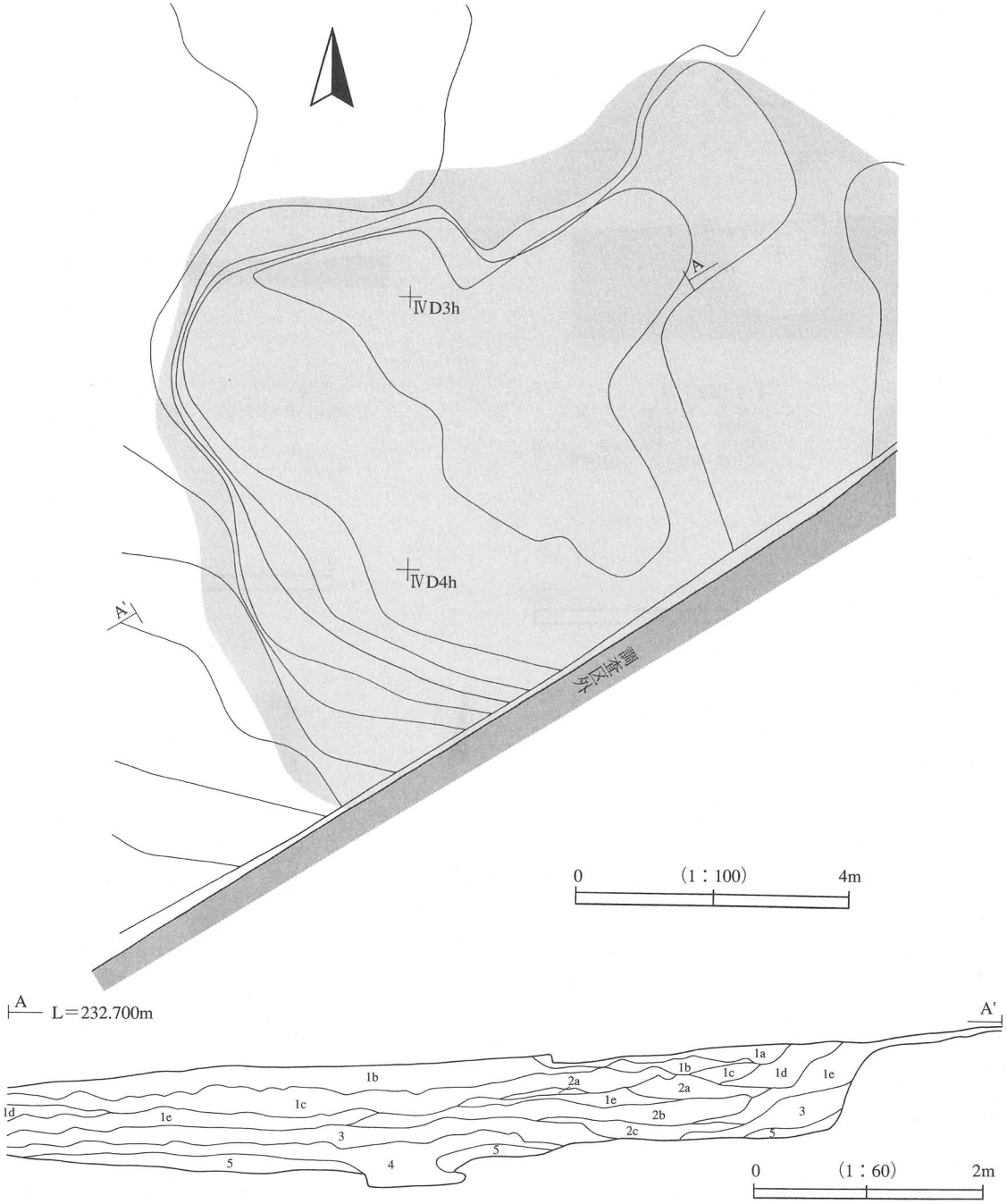
［出土状況］にぶい黄褐色砂礫層（３層）に最も遺物が多く、大半は摩滅している。

［遺物］土器は、1層から後北A式併行段階の弥生土器（227～232）が出土している。大半は１層下部から３層で出土した。器形は深鉢主体だが、赤彩された壺形土器（198）も見られる。完形近くまで復元された個体はなく、すべて破片資料である。十腰内１式あるいはそれと併行する時期の土器が主体を占める。縄文・撚糸文の施文される土器は全体の６割を占め、縄文LRが主体的である。

土製品はミニチュア（414・416）・円盤形土製品（420・422）が出土している。

石器は、石鏃・錐・石匙・スクレイパー・楔形石器・剥片・砕片の剥片石器と、磨製石斧・敲石・凹石・磨石の礫石器で構成される。

時　期　遺物の年代から縄文時代後期前葉を主体とする。

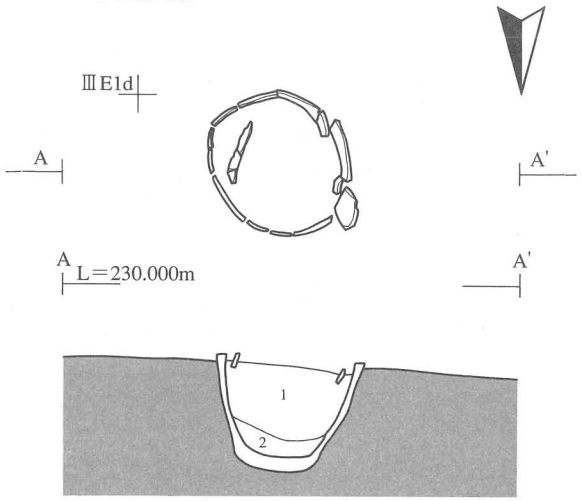


2号捨て場

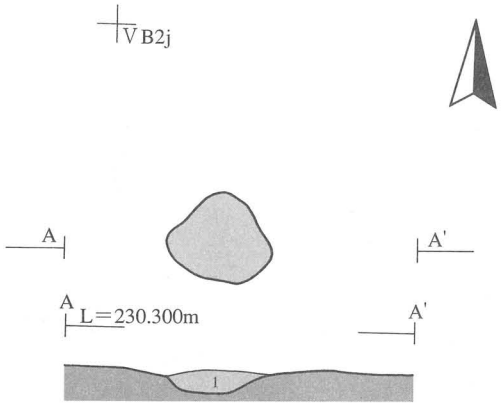
1 a　10YR2/1　黒色シルト層　しまり中　粘性中　砂礫10%包含　遺物少量
1 b　10YR1.7/1　黒褐色シルト層　しまり強　粘性強　砂礫２%包含　遺物多量
1 c　10YR2/2　黒褐色粘土層　しまり強　粘性強　砂礫１%包含　水酸化鉄微量　遺物少量（上部の層から埋没後に分離した堆積層か？）
1 d　10YR2/2　黒褐色粘土層　しまり中　粘性中　砂礫１%包含　水酸化鉄微量（1cとほぼ同じだが粘性が弱い。2aに浸食されている）
1 e　10YR2/2　黒褐色シルト層　しまり中　粘性中　砂粒10%包含　（下部は下位の砂層から砂粒が供給されている）
2 a　10YR6/4　にぶい黄橙砂層　しまり弱　粘性微　砂粒90%包含　粘土粒10%　（洪水砂層）
2 b　10YR7/8　黄橙砂礫層　しまり弱　粘性微　砂粒90%包含　（2aより赤い）
2 c　10YR5/4　にぶい黄褐砂層　しまり弱　粘性弱　砂粒80%包含　（２層内で分離・沈殿した細粒物質堆積層か）
3　10YR2/1　黒色シルト層　しまり中　粘性強　砂礫10%包含　（２層からの砂粒流入がみられる。遺物も２層からの移動が考えられる）
4　10YR6/3　にぶい黄橙砂礫層　しまり弱　粘性微　砂粒20%包含　礫60%包含
5　10YR3/4　暗褐土層　しまり中　粘性中　砂粒10%包含

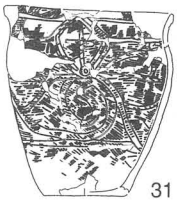
第29図　２号捨て場

1号埋設土器



1号焼土




31

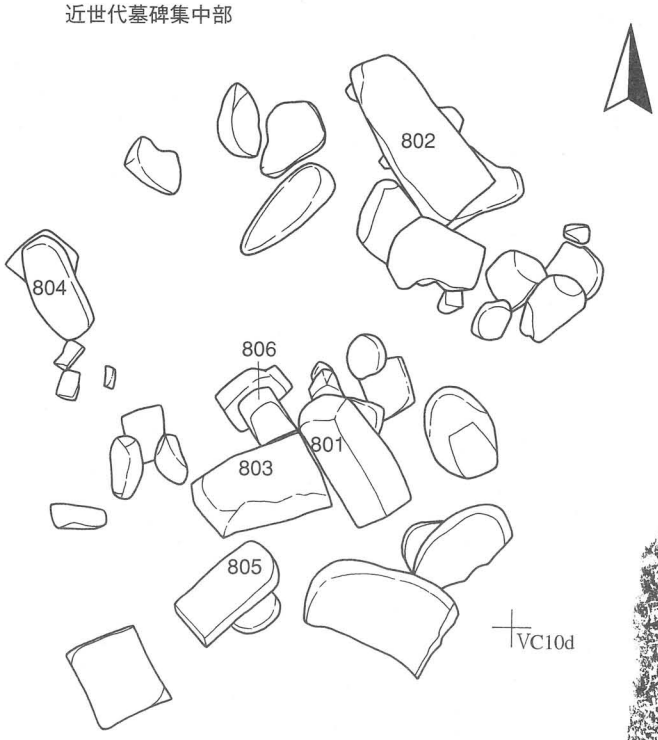
1号埋設土器
1　10YR1.7/1　黒色土層　しまり弱
粘性弱　炭化物少量
2　10YR5/4　にぶい黄褐色土層　しまり弱
粘性弱　砂粒中量　白色粒微量

1号焼土
1　5YR3/6　暗赤褐色土層　しまり弱　粘性弱

0　(1：10)　50cm

0　(1：20)　1m

近世代墓碑集中部



801

802

803

804

805

806

0　(1：40)　2m

第30図　1号埋設土器、1号焼土遺構、近世墓碑集中部

(8) 近世墓碑集中部（第30図、写真図版17）

調査前の現況確認時に、すでにＶＣ10ｄグリッド付近の木の根に絡まるように廃棄されていた。多数の大型礫の中に６基の墓碑（801～806）があり、年代は明和年間から文政年間までの18世紀後半～19世紀前半で纏まる。これらは３・５号掘立柱建物跡の存続年代に近く、関係性が高いと考えられる。なお、本遺構出土墓碑は、発掘調査中に拓本を採取し、旧地権者の墓碑置き場に移築した。

3 遺　　物

(1) 土　　器（第31～44図、写真図版18～29）

縄文時代後期前葉を主体として、後期中葉・晩期後葉・弥生中期の土器が出土している。後期前葉土器は大コンテナ14箱分あり、大半が捨て場遺構から出土した。完形近くまで復元できる資料（13・31・130等）は少なく、多くが破片資料である。地文を縄文とすることが多く、沈線・隆帯・刺突による文様描出が多用されている。赤彩痕跡の残る資料は82・198・199等ごくわずかだが、器面が磨耗している資料も多く、本来の赤彩土器の比率は不明である。

また、網目状撚糸文のある土器が一定量存在する。器形は深鉢を主体とし、浅鉢・壺も破片であるが、わずかに認められる。土器はＢ区を中心に出土している。Ｃ区は今回の調査区内では標高が低く、後期前葉と晩期の土器が出土している。310は後期前葉の土器で、C区試掘トレンチから出土し、器面は良く磨かれている。322は晩期大洞Ａ式の壺である。

(2) 土　製　品（第45～47図、写真図版29・30）

１・２号捨て場を中心に出土している。腕輪形土製品・鐸形土製品・ミニチュア土器・円盤形土製品・土偶が出土している。腕輪形土製品は、すべて無文で器厚が厚い。鐸形土製品は無文と沈線・刺突を多用するものがある。409は沈線による渦巻文を描出し、側面には刺突を入念に施し、開口部が横位に位置する。ミニチュア土器は完形品がない。413は鐸形土製品の破片の可能性がある。円盤形土製品は７点出土した。器面の磨耗が顕著で、左右の溝は不鮮明なものが多い。土偶は406の１点のみで脚部と思われる。

(3) 石　　器（第48～53図、写真図版31～33）

大半が１・２号捨て場から出土した。土器群との対比関係から縄文時代後期前葉が主体と考えられる。石製利器、製作残滓からなり、468点出土した。その大半は製作残滓の剥片・砕片・石核である。石製利器の中では石鏃の比率が高い。石器の利用石材は周辺地域で採取可能なものが多いが、青森県深浦産黒曜石と宮城県湯ノ倉産黒曜石がそれぞれ１点ずつ出土しており、遠隔地石材もわずかながら見られる（第Ⅶ章５節参照）。

石器組成は石鏃47点、石錐２点、石匙５点、掻器12点、削器17点、楔形石器10点、三稜石器１点、磨製石斧７点、磨石９点、凹石１点、敲石１点、剥片類351点、石核５点である。剥片石器の石材は頁岩・メノウ・黒曜石を、礫石器は閃緑岩・安山岩・砂岩を利用している。また、遺跡内へ搬入された多量の礫については大コンテナ28箱分出土したが、この中には石器の素材礫も含まれていると考えられる。

(4) 陶　　器（第54図、写真図版34）

B区西側の中・近世掘立柱建物跡の構築範囲とその周辺から出土している。16世紀後半の唐津焼（601・604・607）は7号掘立柱建物跡範囲内から出土した。他の陶器は3号掘立柱建物跡範囲内から出土し、製作年代は19世紀前半代である。

(5) 鉄　製　品（第54図、写真図版34）

鉄製品はわずかである。701の釘は表土直下で出土した。702は3号掘立柱建物跡を構成する50号柱穴から出土している。702は火打ち金で両端を欠損している。703は用途不明の環状鉄製品である。

(6) 煙　　管（第55図、写真図版34）

704の1点のみで、5号土坑（近世墓壙）から出土した。副葬品と考えられる。竹管部がわずかに残存し、吸口部は磨耗が著しく、断面が楕円形を呈している。

(7) 銭　　貨（第55図、写真図版34）

永楽通宝（720）は7号掘立柱建物跡を構成する132号柱穴から出土している。その他の銭貨は寛永通宝である。5号土坑では10枚の寛永通宝が出土し、古寛永・文銭・新寛永で構成される。また遺構には伴わないが、鉄銭（722～726）も少量出土した。

(8) 墓　　碑（第56・57図、写真図版35）

発掘調査以前に原位置を保持しない状況で散在していた。後世の土地利用によって寄せられたものと考えられる。比較的大形のもの（801～803）は表面の風化が少なく、文字の判読が容易であるが、小形もの（804～806）は判読できない文字もある。小形品のほうが時期の下る傾向にある。

第2表　遺構計測表（柱穴）

掲　載	旧番号	グリッド	長（cm）	幅（cm）	底面標高（m）	構　成
001号柱穴	P001	VB4a	58	58	231.90	1号掘立柱建物跡
002号柱穴	P002	VB3a	65	59	231.88	1号掘立柱建物跡
003号柱穴	P003	VB3a	57	54	231.83	1号掘立柱建物跡
004号柱穴	P004	VB3a	62	61	231.90	1号掘立柱建物跡
005号柱穴	P005	VB3b	60	54	231.99	1号掘立柱建物跡
006号柱穴	P006	VB4a	(42)	69	231.95	1号掘立柱建物跡
007号柱穴	P007	VB4b	62	64	232.05	1号掘立柱建物跡
008号柱穴	P008	VB3b	63	61	231.95	1号掘立柱建物跡
009号柱穴	P011	VB4b	40	36	232.40	1号掘立柱建物跡
010号柱穴	P012	VB3b	46	38	232.25	1号掘立柱建物跡
011号柱穴	P013	VB2b	81	(53)	231.65	2号掘立柱建物跡
012号柱穴	P014	VB2b	89	67	231.72	2号掘立柱建物跡
013号柱穴	P015	VB2b	77	70	231.58	2号掘立柱建物跡
014号柱穴	P017	VB2b	80	67	231.65	2号掘立柱建物跡
015号柱穴	P021	VB5d	85	76	232.76	3号掘立柱建物跡
016号柱穴	P029	VB5f	54	49	232.18	
017号柱穴	P030	VB5e	80	83	232.80	5号掘立柱建物跡
018号柱穴	P031	VB5f	54	53	232.80	
019号柱穴	P038	VB5f	49	(21)	232.85	
020号柱穴	P039	VB5e	81	60	232.73	3号掘立柱建物跡
021号柱穴	P125	VB5e	(42)	75	232.84	3号掘立柱建物跡
022号柱穴	P049	VB5g	57	57	232.88	5号掘立柱建物跡
023号柱穴	P127	VB5g	(51)	(10)	234.00	
024号柱穴	P051	VB5g	39	38	232.76	
025号柱穴	P131	VB5g	33	32	232.85	
026号柱穴	P064	VB5g	60	51	232.90	

第２表　遺構計測表（柱穴）

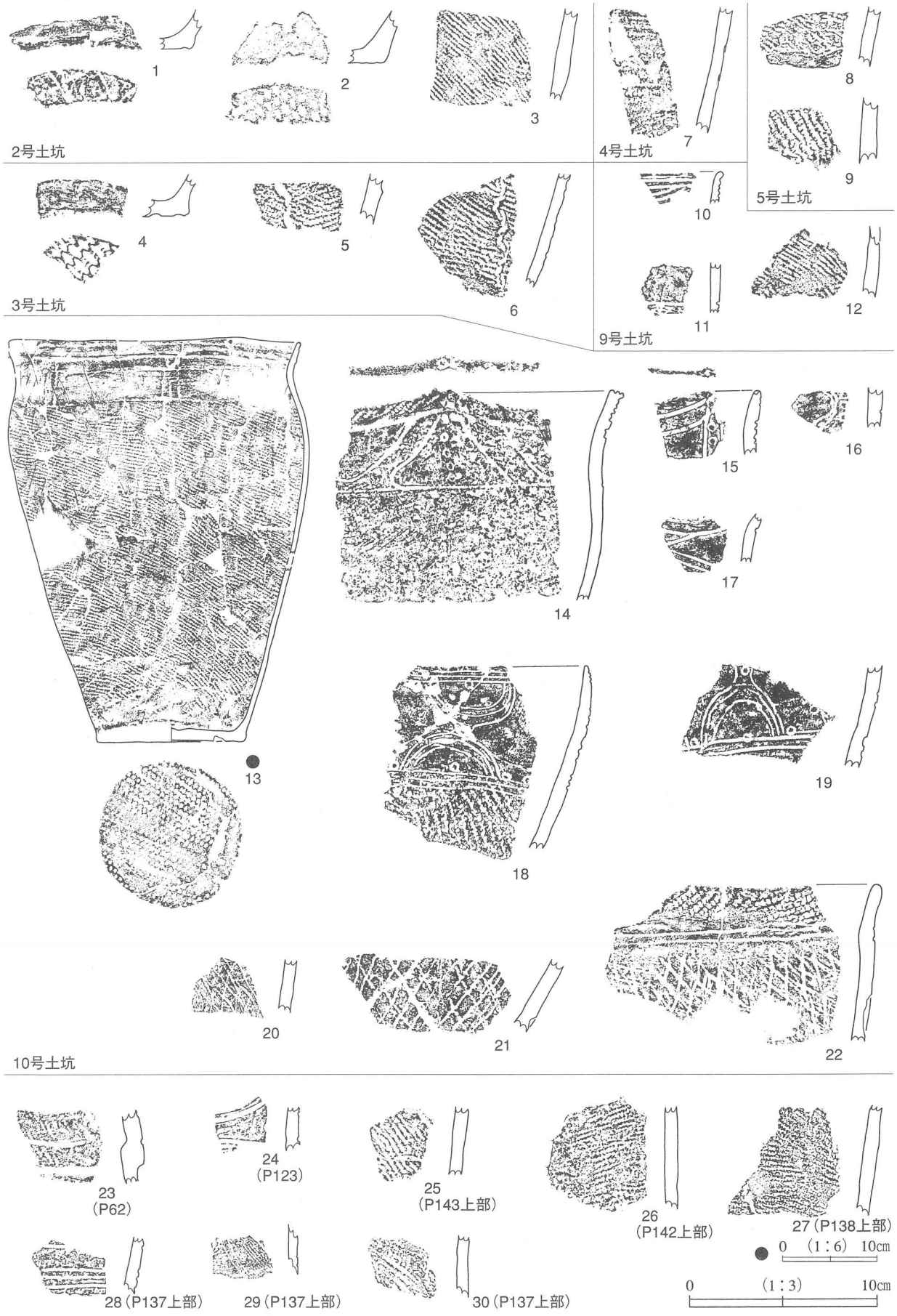
掲　載	旧番号	グリッド	長（cm）	幅（cm）	底面標高（m）	構　成
027号柱穴	P065	VB5f	103	90	232.85	3号掘立柱建物跡
028号柱穴	P066	VB5f	(39)	85	232.80	3号掘立柱建物跡
029号柱穴	P077	VB5g	55	50	232.84	
030号柱穴	P087	VB6g	77	(48)	232.92	
031号柱穴	P083	VB5h	61	58	232.82	5号掘立柱建物跡
032号柱穴	P088	VB5g	49	40	232.83	
033号柱穴	P099	VB5g	39	36	232.83	
034号柱穴	P101	VB5g	48	(32)	233.06	
035号柱穴	P100	VB6g	28	25	232.83	
036号柱穴	P110	VB6g	30	26	232.90	
037号柱穴	P097	VB6g	61	52	232.85	
038号柱穴	P096	VB6g	50	55	232.85	
039号柱穴	P128	VB6g	37	(7)	232.82	
040号柱穴	P106	VB6h	26	26	234.00	
041号柱穴	P022	VB4e	94	58	232.72	3号掘立柱建物跡
042号柱穴	P033	VB4e	66	56	232.78	5号掘立柱建物跡
043号柱穴	P126	VB4g	45	41	232.75	
044号柱穴	P043	VB4e	69	73	232.87	3号掘立柱建物跡
045号柱穴	P042	VB5g	63	62	232.90	5号掘立柱建物跡
046号柱穴	P041	VB5g	59	54	232.72	
047号柱穴	P052	VB5g	39	37	232.85	
048号柱穴	P132	VB4g	34	26	232.94	
049号柱穴	P053	VB4g	39	35	232.90	
050号柱穴	P068	VB5f	116	91	232.77	3号掘立柱建物跡
051号柱穴	P076	VB5g	62	55	232.85	5号掘立柱建物跡
052号柱穴	P067	VB5g	31	30	232.84	
053号柱穴	P084	VB5h	46	44	232.74	5号掘立柱建物跡
054号柱穴	P089	VB5h	35	37	232.55	
055号柱穴	P090	VB6g	73	(39)	232.75	4号掘立柱建物跡
056号柱穴	P121	VB4f	42	31	232.91	6号掘立柱建物跡
057号柱穴	P045	VB4g	38	32	232.80	
058号柱穴	P122	VB4g	(35)	(12)	233.00	
059号柱穴	P055	VB4g	56	38	232.73	6号掘立柱建物跡
060号柱穴	P070	VB4g	38	31	232.80	
061号柱穴	P080	VB4h	57	48	232.70	6号掘立柱建物跡
062号柱穴	P023	VB4e	88	68	232.80	3号掘立柱建物跡
063号柱穴	P024	VB4e	72	(46)	232.78	3号掘立柱建物跡
064号柱穴	P035	VB4e	94	70	232.75	3号掘立柱建物跡
065号柱穴	P044	VB4f	96	71	232.80	3号掘立柱建物跡
066号柱穴	P058	VB4f	124	96	232.54	3号掘立柱建物跡
067号柱穴	P057	VB4f	(74)	80	232.59	3号掘立柱建物跡
068号柱穴	P071	VB4h	56	48	232.80	
069号柱穴	P072	VB4h	51	49	232.78	
070号柱穴	P082	VB4h	35	31	232.80	
071号柱穴	P081	VB4h	41	38	232.80	
072号柱穴	P091	VB4g	70	(52)	232.73	4号掘立柱建物跡
073号柱穴	P092	VB4g	63	60	232.73	4号掘立柱建物跡
074号柱穴	P026	VB3e	78	64	232.74	3号掘立柱建物跡
075号柱穴	P123	VB3e	66	(44)	234.00	3号掘立柱建物跡
076号柱穴	P036	VB3e	85	80	232.74	3号掘立柱建物跡
077号柱穴	P047	VB3f	90	76	232.84	3号掘立柱建物跡
078号柱穴	P060	VB3f	96	83	232.64	3号掘立柱建物跡
079号柱穴	P093	VB4g	60	54	232.54	4号掘立柱建物跡
080号柱穴	P028	VB3e	26	22	232.82	6号掘立柱建物跡
081号柱穴	P037	VB3e	34	25	232.80	6号掘立柱建物跡
082号柱穴	P048	VB3f	37	35	232.89	6号掘立柱建物跡
083号柱穴	P061	VB3f	50	48	232.82	6号掘立柱建物跡
084号柱穴	P075	VB3g	30	28	232.74	6号掘立柱建物跡
085号柱穴	P095	VB3g	28	22	224.63	6号掘立柱建物跡
086号柱穴	P139	VB2f	43	35	232.84	
087号柱穴	P140	VB2f	29	28	232.79	
088号柱穴	P141	VB1f	26	28	232.79	
089号柱穴	P142	VB1f	27	27	232.75	
090号柱穴	P143	VB1f	30	28	232.83	
091号柱穴	P192	VB1f	(28)	25	232.78	
092号柱穴	P144	VB1f	30	30	232.70	
093号柱穴	P147	VB1f	36	37	232.35	

第２表　遺構計測表（柱穴）

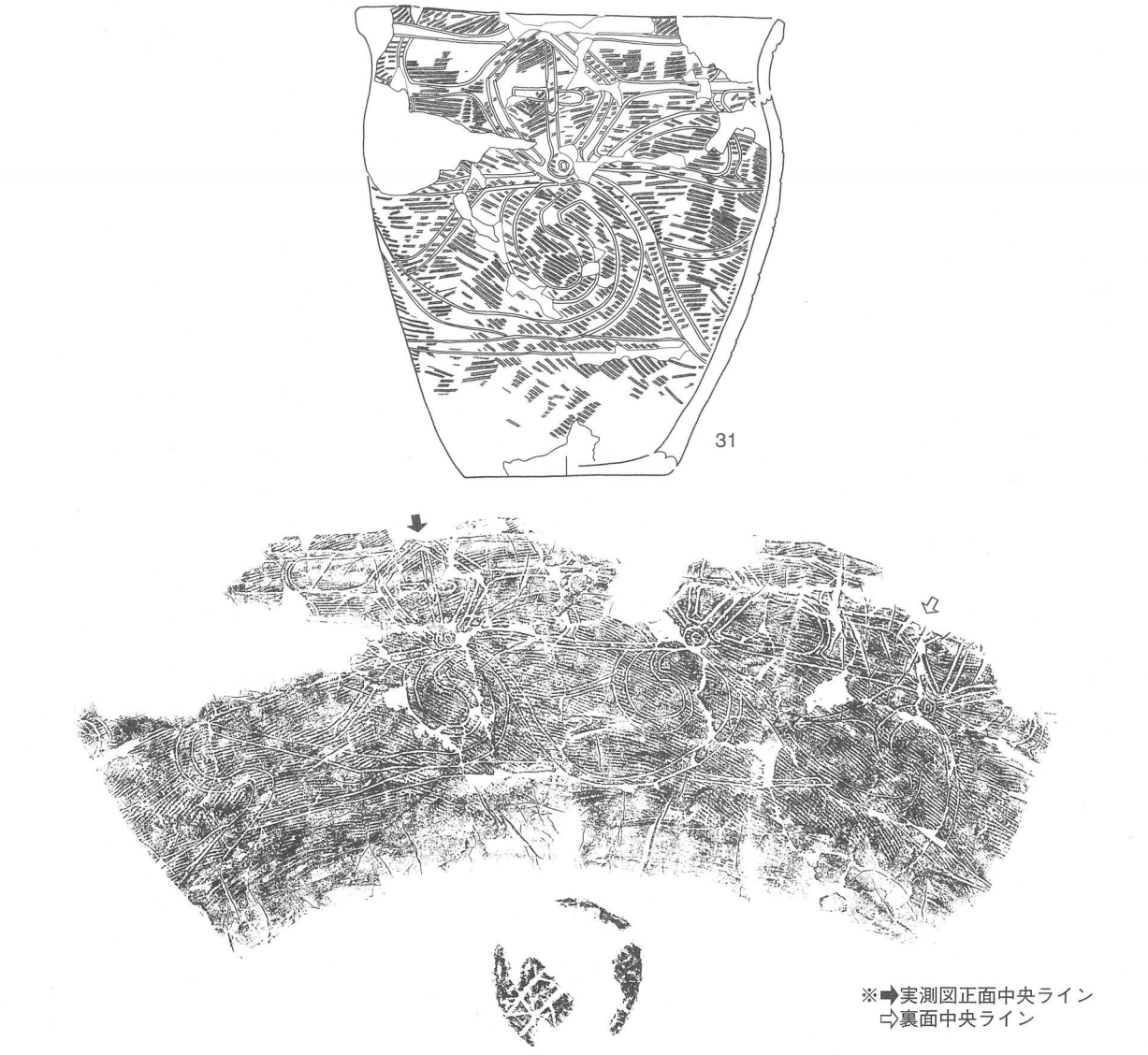
掲　載	旧番号	グリッド	長（cm）	幅（cm）	底面標高（m）	構　　成
094号柱穴	P148	VB1f	25	23	232.63	
095号柱穴	P145	VB1f	25	22	232.66	
096号柱穴	P149	ⅣB10f	51	25	232.30	
097号柱穴	P150	VB2g	20	20	232.74	
098号柱穴	P151	VB2g	32	32	232.52	
099号柱穴	P152	VB1g	93	57	232.70	
100号柱穴	P153	VB10f	32	30	232.72	
101号柱穴	P154	VB2g	22	34	232.72	
102号柱穴	P155	VB2g	26	27	232.68	
103号柱穴	P156	VB1g	25	30	232.64	
104号柱穴	P157	VB1g	22	30	232.62	
105号柱穴	P158	ⅣB10g	30	36	232.15	
106号柱穴	P159	VB2h	25	25	232.87	
107号柱穴	P160	VB1g	32	26	232.80	
108号柱穴	P161	VB1g	31	28	232.64	
109号柱穴	P162	ⅣB10g	35	36	232.32	
110号柱穴	P163	VB3h	36	37	232.86	
111号柱穴	P164	VB2h	26	28	232.55	
112号柱穴	P165	VB1h	28	32	232.67	
113号柱穴	P166	VB1h	28	27	232.73	
114号柱穴	P167	VB1h	29	27	232.75	
115号柱穴	P168	VB1h	27	27	232.62	
116号柱穴	P169	VB2h	30	35	232.37	
117号柱穴	P170	ⅣB10h	35	36	232.14	
118号柱穴	P118	VB3h	38	38	232.50	7号掘立柱建物跡
119号柱穴	P119	VB3h	28	27	234.00	
120号柱穴	P171	VB2h	38	41	232.38	7号掘立柱建物跡
121号柱穴	P172	VB2h	36	31	232.38	7号掘立柱建物跡
122号柱穴	P173	VB1f	43	32	232.35	7号掘立柱建物跡
123号柱穴	P174	VB1h	33	41	232.22	7号掘立柱建物跡
124号柱穴	P175	VB1h	27	28	232.75	
125号柱穴	P176	VB1i	47	41	232.44	
126号柱穴	P177	VB2j	35	34	232.57	
127号柱穴	P178	VB2i	43	44	232.65	
128号柱穴	P179	VB1j	31	31	232.61	
129号柱穴	P180	VB2j	34	38	232.25	7号掘立柱建物跡
130号柱穴	P181	VB2j	35	33	232.27	7号掘立柱建物跡
131号柱穴	P182	VB1j	37	35	232.32	7号掘立柱建物跡
132号柱穴	P183	ⅣB10j	38	40	232.27	7号掘立柱建物跡
133号柱穴	P193	VC2a	28	27	232.75	
134号柱穴	P184	VC2a	36	(10)	232.72	
135号柱穴	P185	VC1a	27	(15)	232.97	
136号柱穴	P187	VC1a	40	41	233.12	
137号柱穴	P135	ⅣC6d	80	80	231.92	8号掘立柱建物跡
138号柱穴	P136	ⅣC6e	84	80	231.90	8号掘立柱建物跡
139号柱穴	P137	ⅣC6e	106	96	231.67	8号掘立柱建物跡
140号柱穴	P188	ⅣD5b	78	70	232.05	9号掘立柱建物跡
141号柱穴	P189	ⅣD6b	76	72	232.00	9号掘立柱建物跡
142号柱穴	P190	ⅣD6c	84	80	232.26	9号掘立柱建物跡
143号柱穴	P191	ⅣD5b	90	85	232.00	9号掘立柱建物跡

第３表　遺構計測表（土坑）

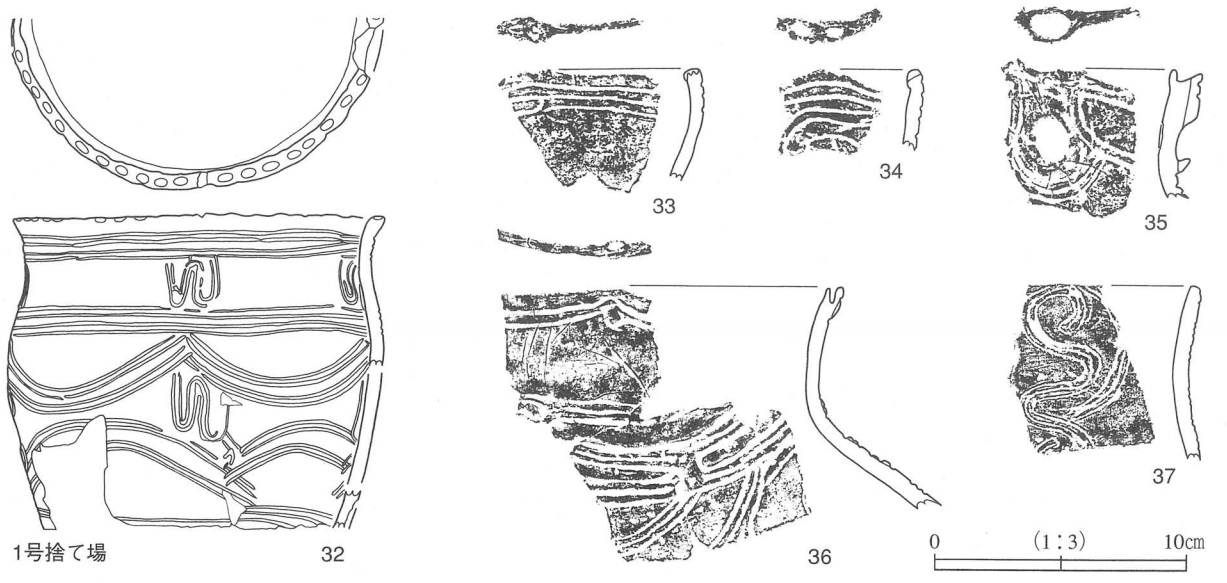
掲　載	旧番号	グリッド	長（cm）	幅（cm）	底面標高（m）	構　　成
１号土坑	SKI	VB1j	104	41	232.76	1号捨て場範囲内
２号土坑	SK2	ⅣB10j	122	81	232.95	1号捨て場範囲内
３号土坑	SK3	ⅣC10a	142	88	232.92	1号捨て場範囲内
４号土坑	SK4	ⅣB9j	92	60	232.98	1号捨て場範囲内
５号土坑	SK5	ⅣC8a	120	117	232.10	1号捨て場範囲内
６号土坑	SK6	ⅣB10j	135	95	232.60	1号捨て場範囲内
７号土坑	SK7	VB1j	152	121	232.45	1号捨て場範囲内
８号土坑	SK8	VB2i	148	76	232.62	1号捨て場範囲内
９号土坑	SK9	ⅣD2f	173	68	232.24	
10号土坑	SK10	ⅢD10f	133	124	231.78	



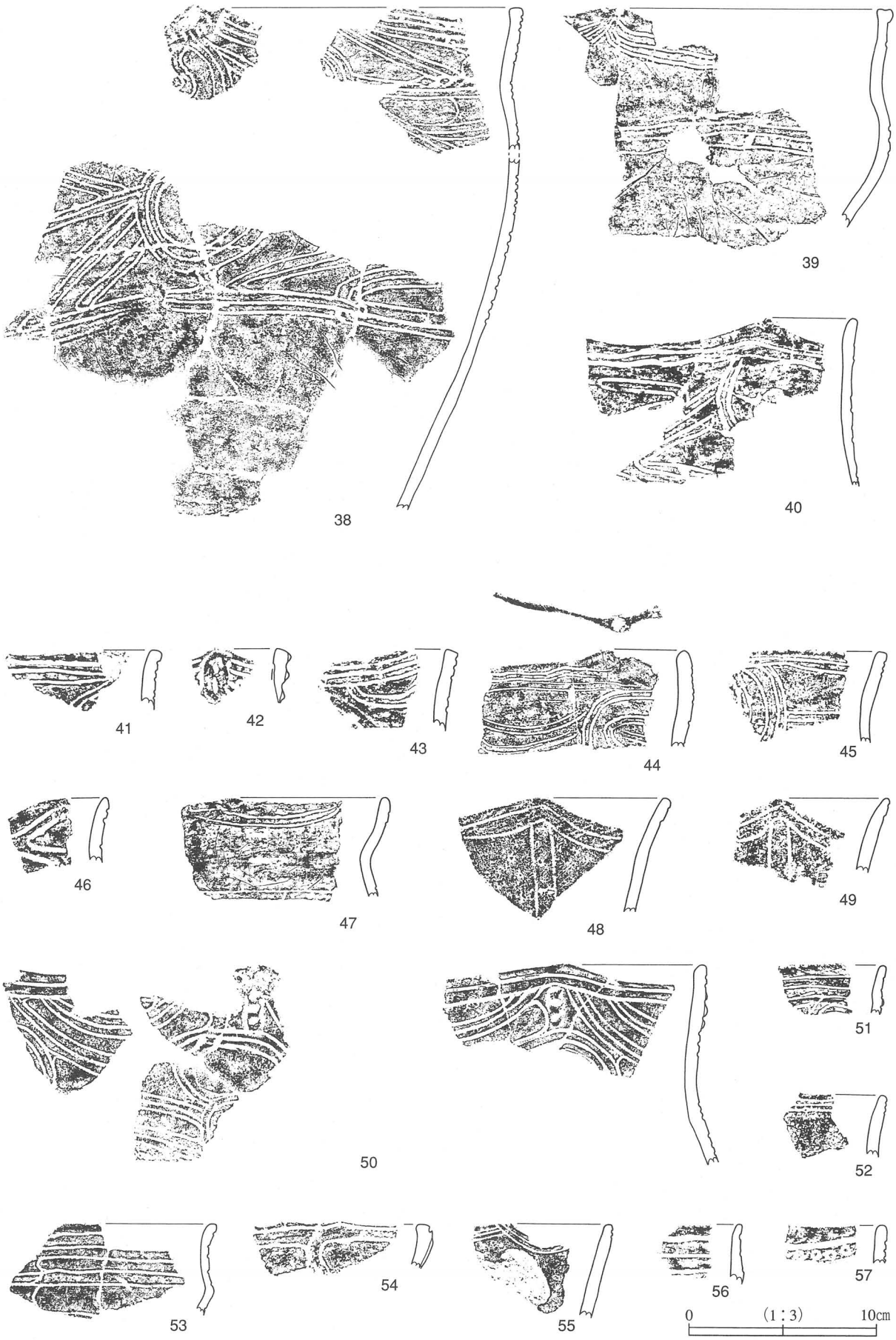
第31図　土坑、柱穴内出土土器



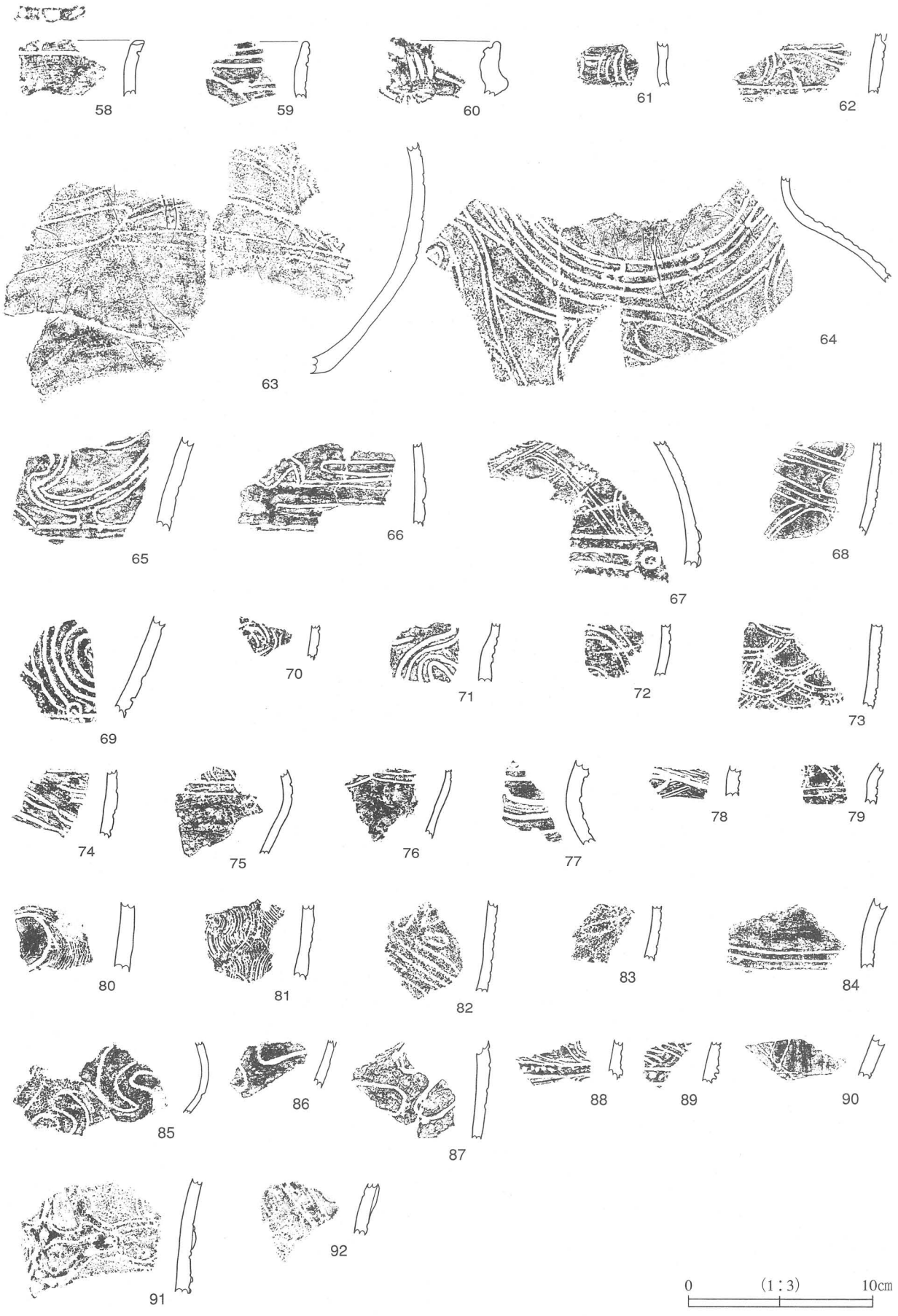
1号埋設土器



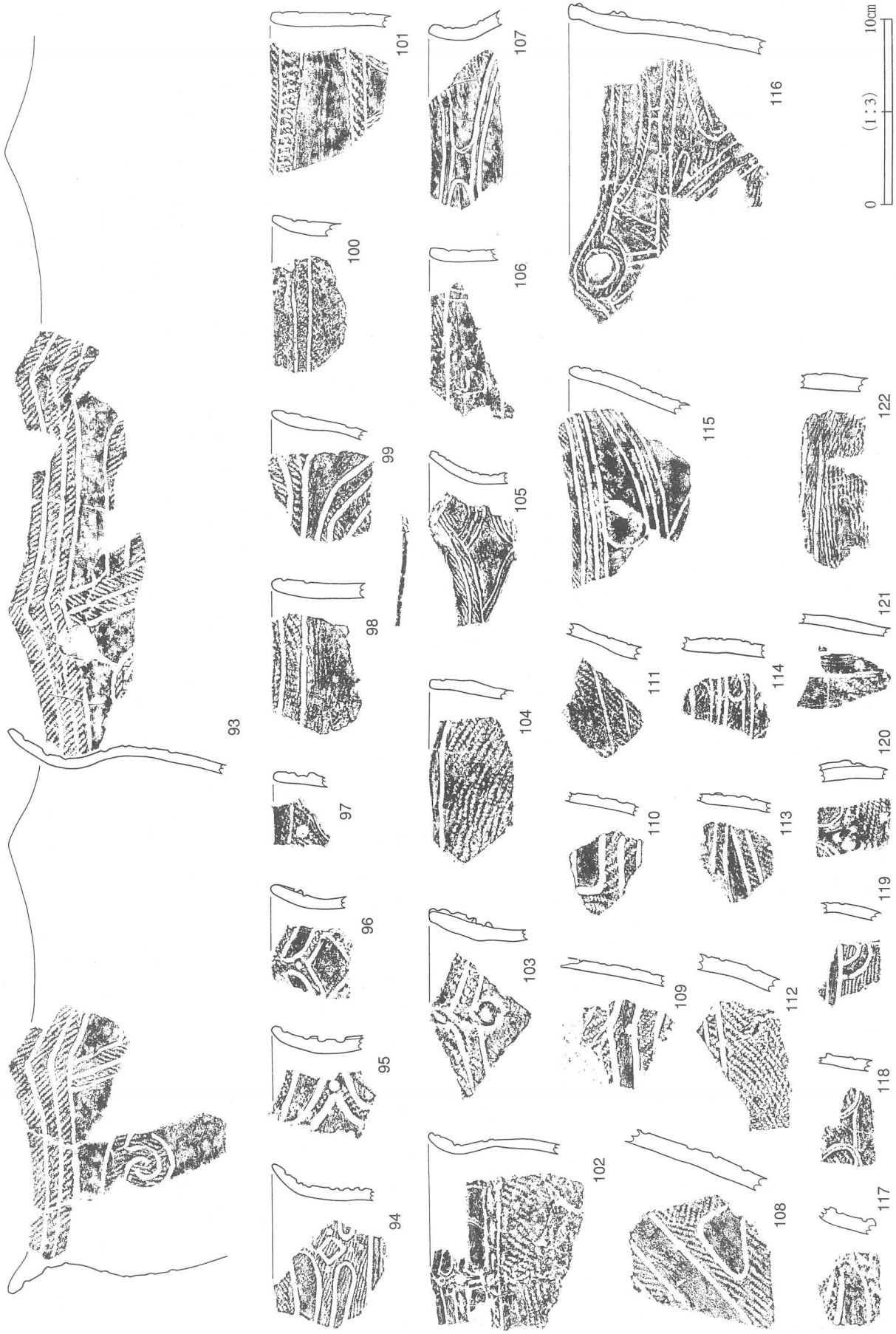
第32図　1号埋設土器、1号捨て場出土土器（1）



第33図　1号捨て場出土土器（2）

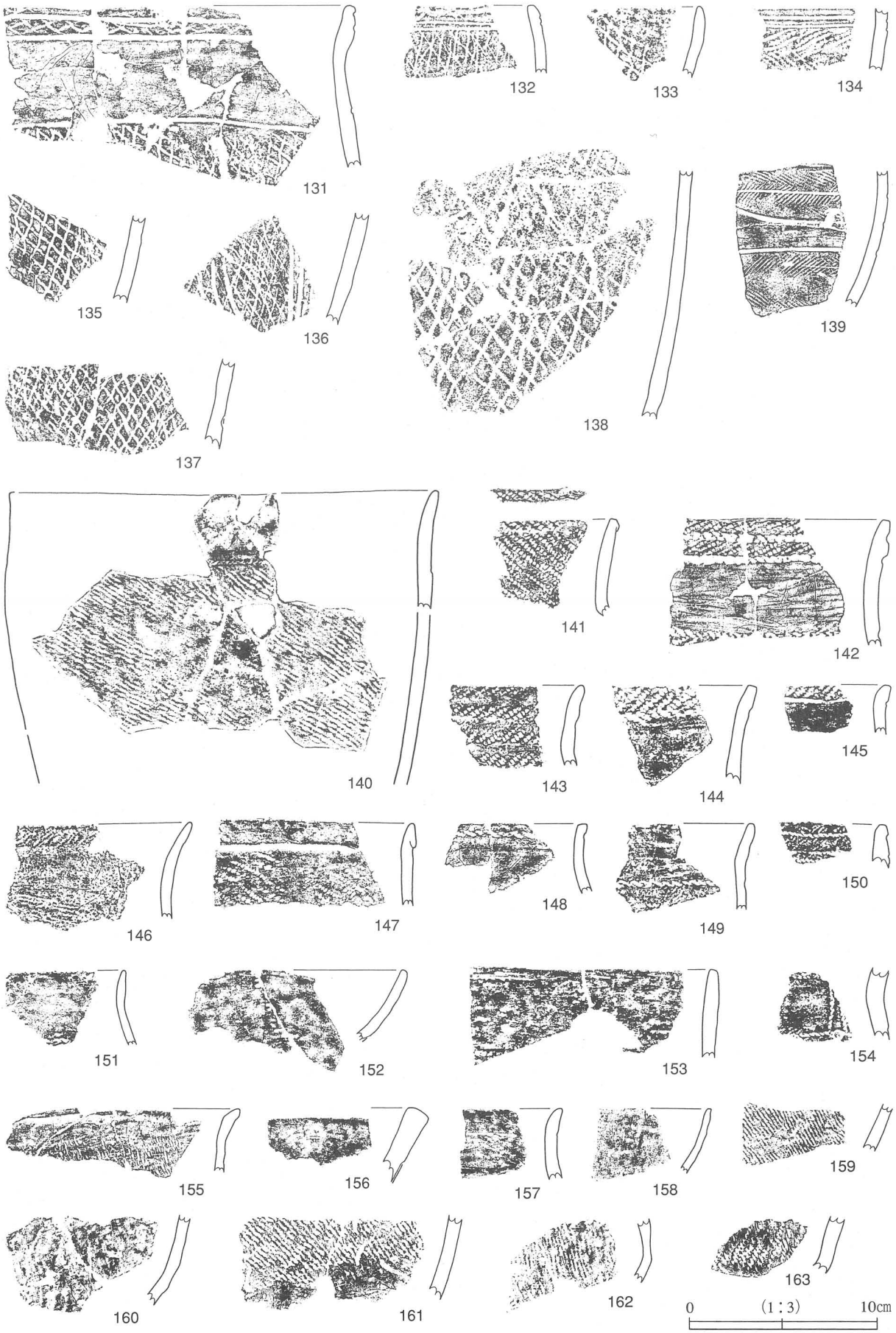


第34図　1号捨て場出土土器（3）

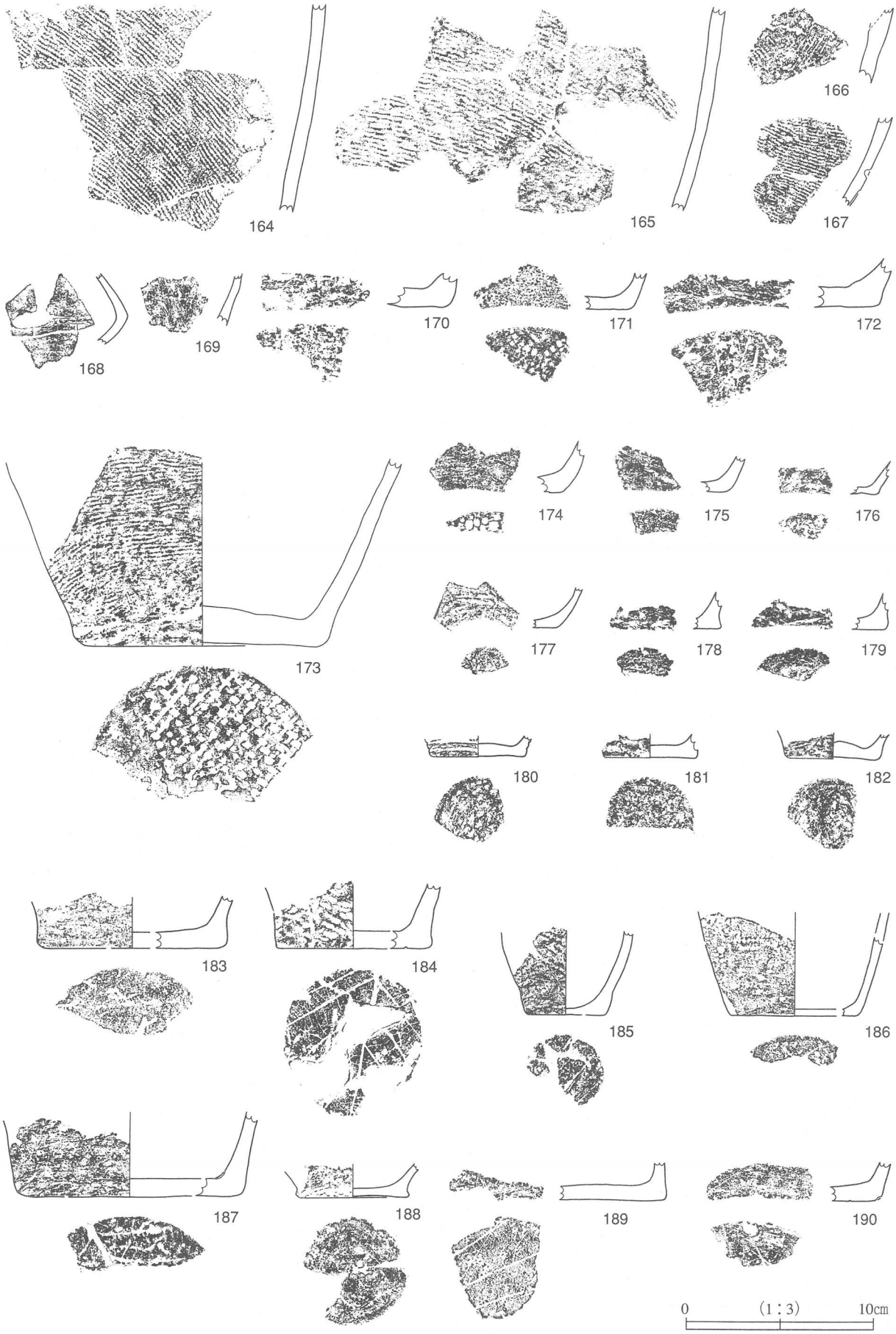


第35図　1号捨て場出土土器（4）

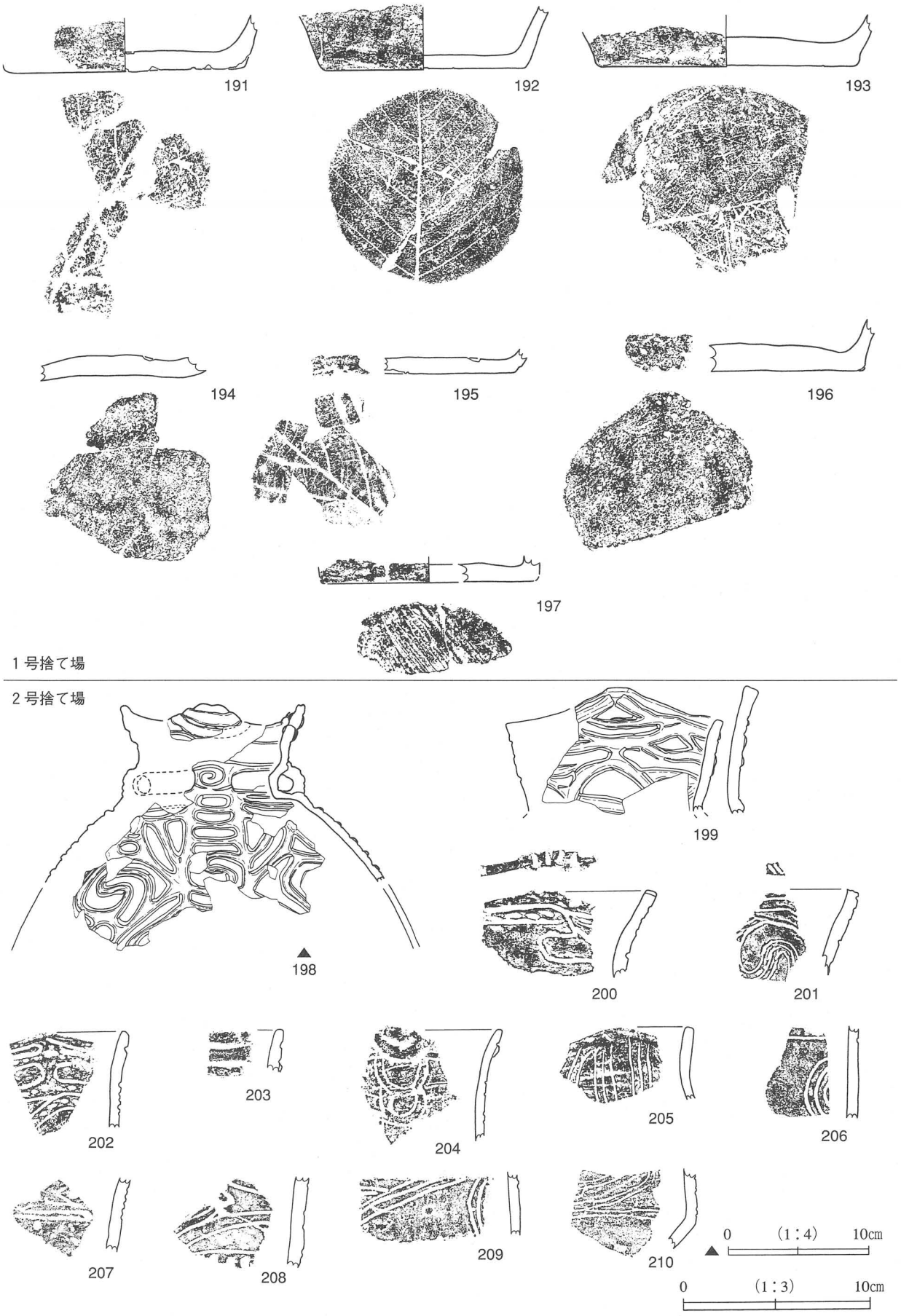
第36図　1号捨て場出土土器（5）



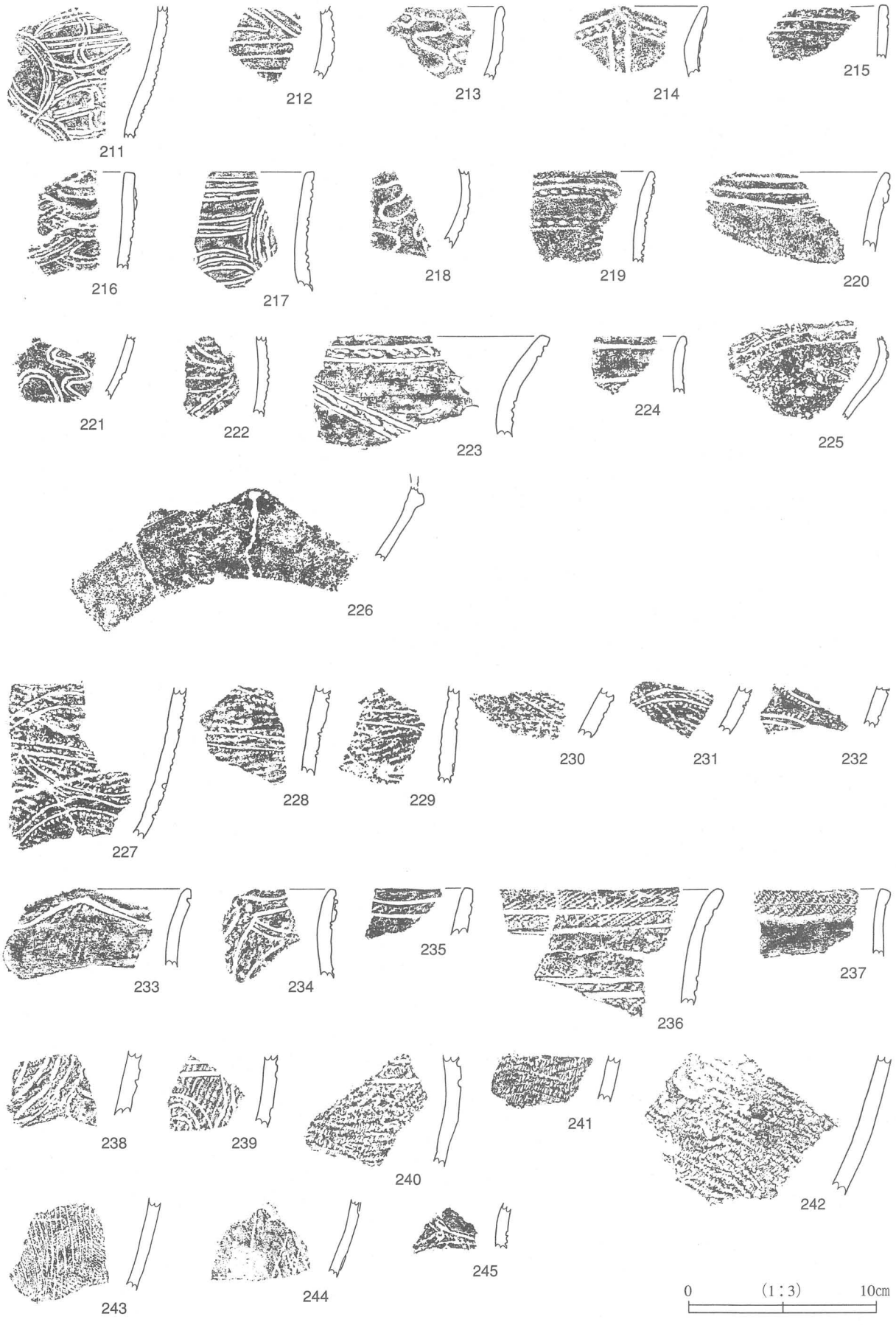
第37図　1号捨て場出土土器（6）



第38図　1号捨て場出土土器（7）

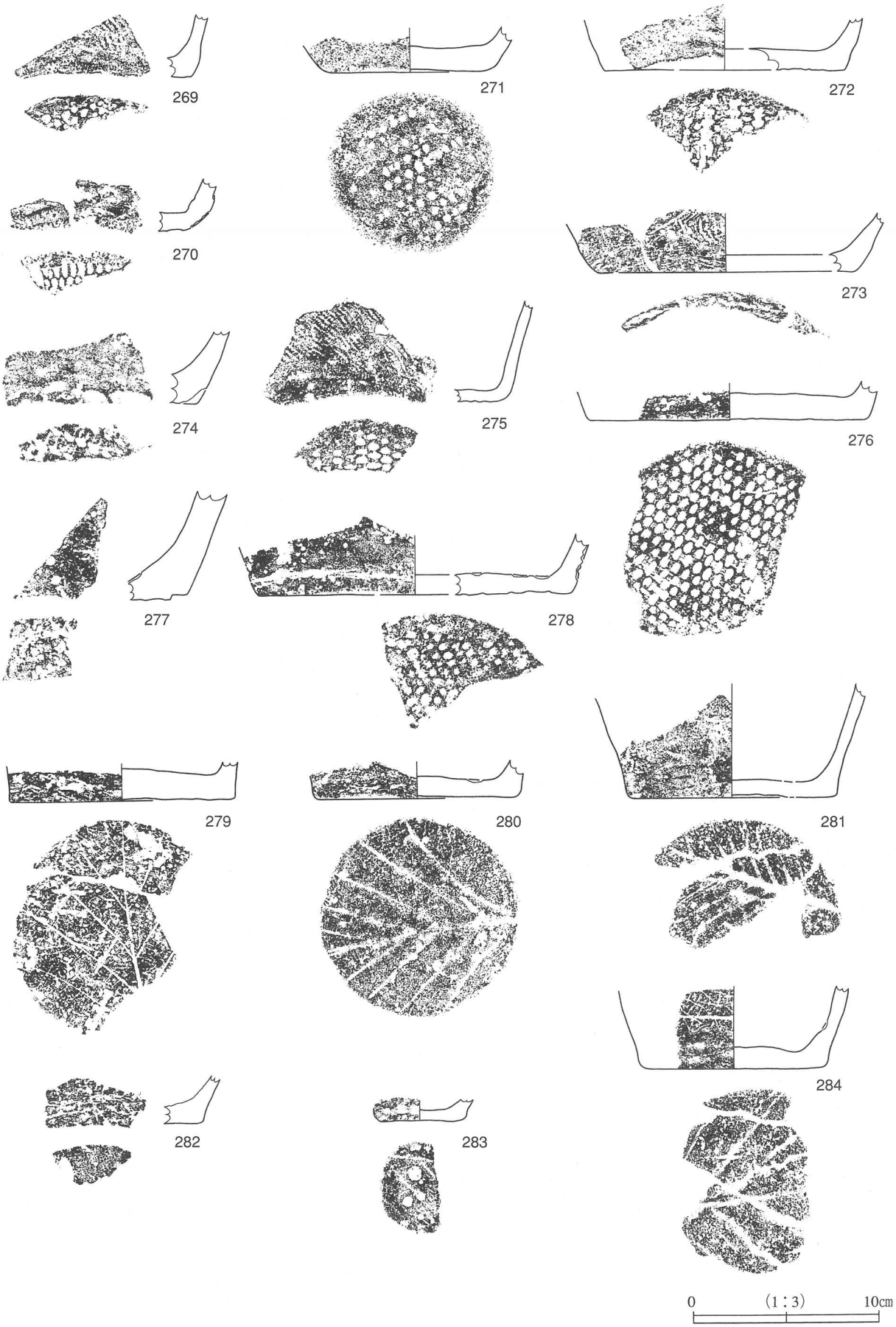


第39図　1号捨て場出土土器（8）、2号捨て場出土土器（1）

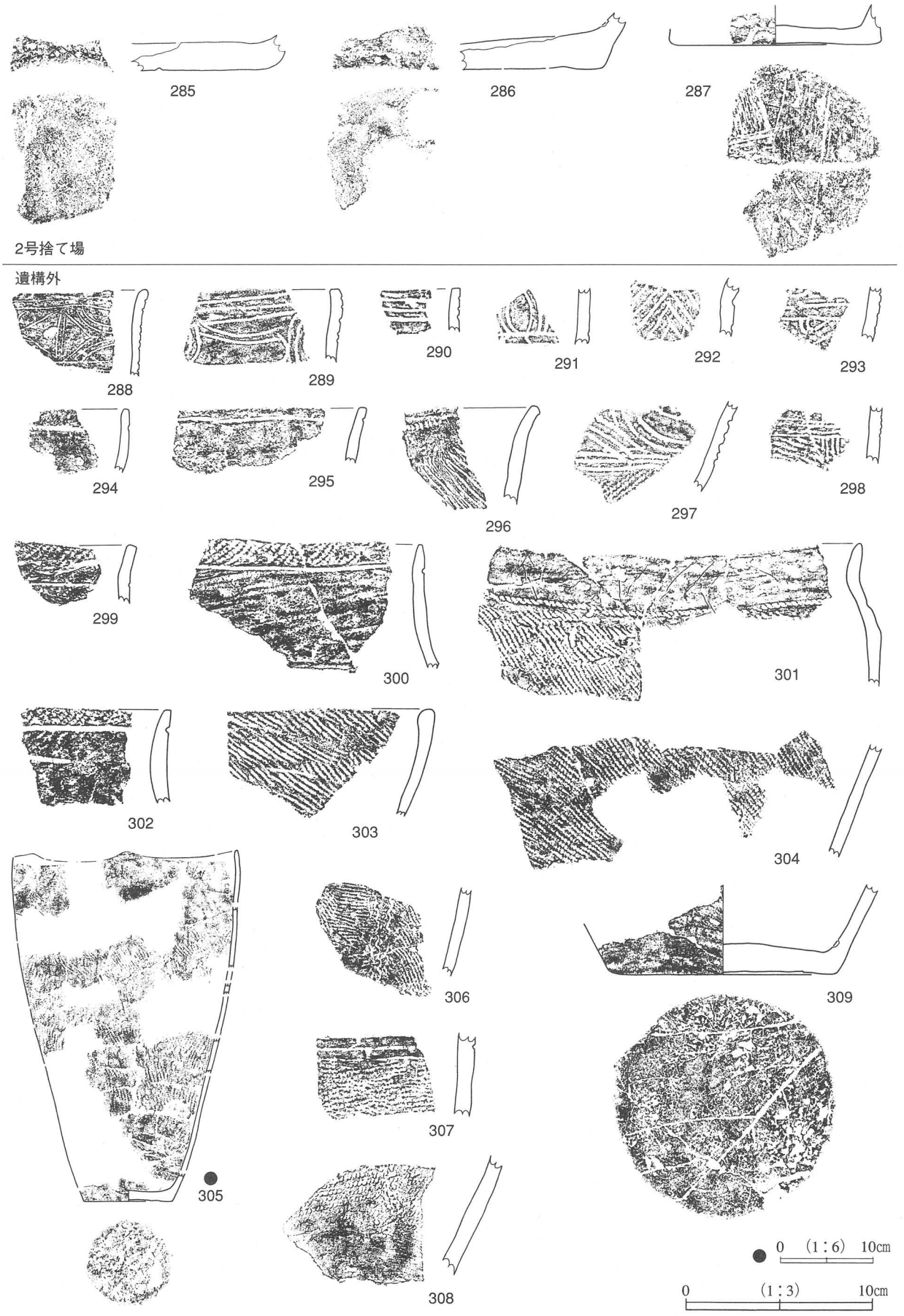


第40図　2号捨て場出土土器（2）

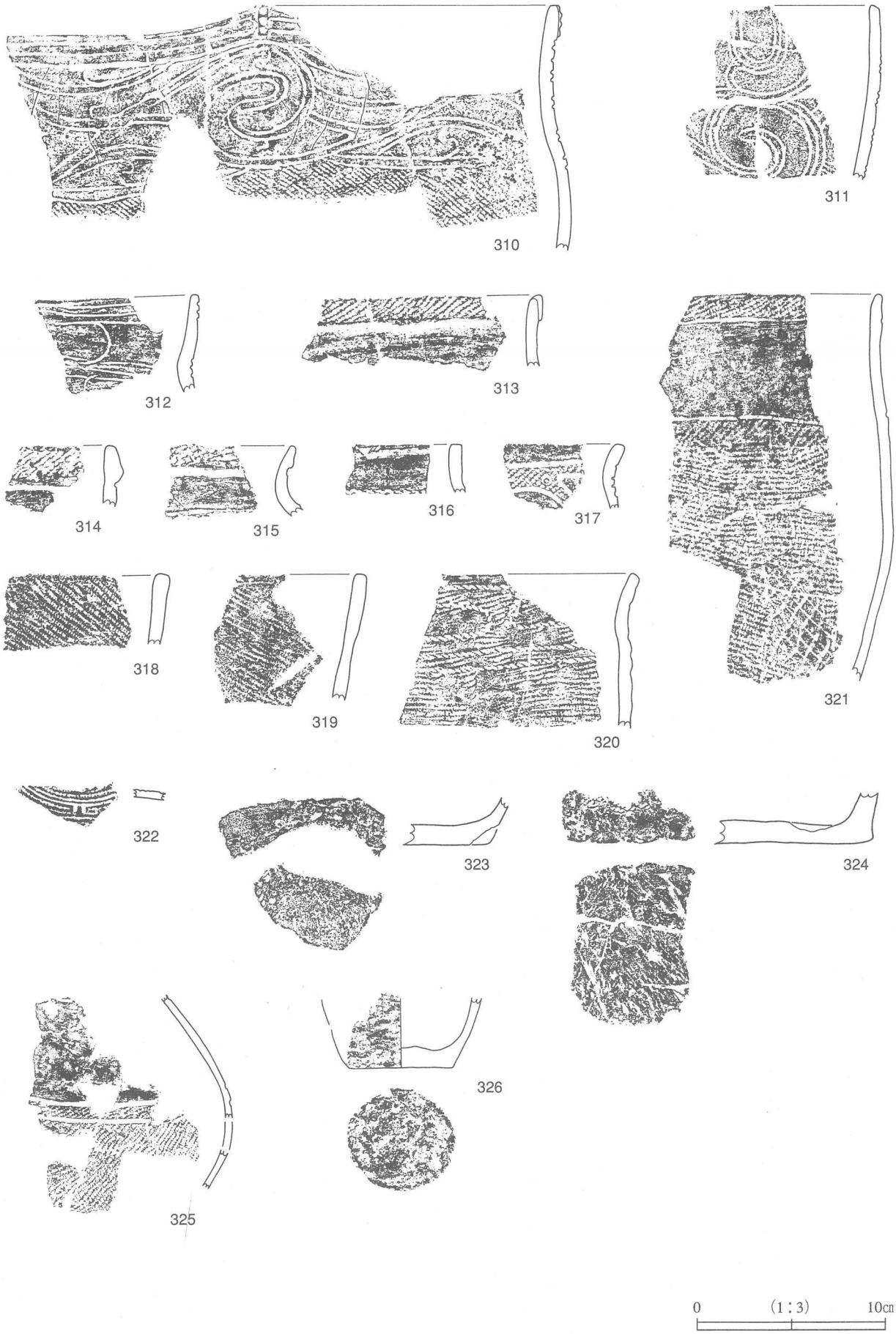
第41図　2号捨て場出土土器（3）



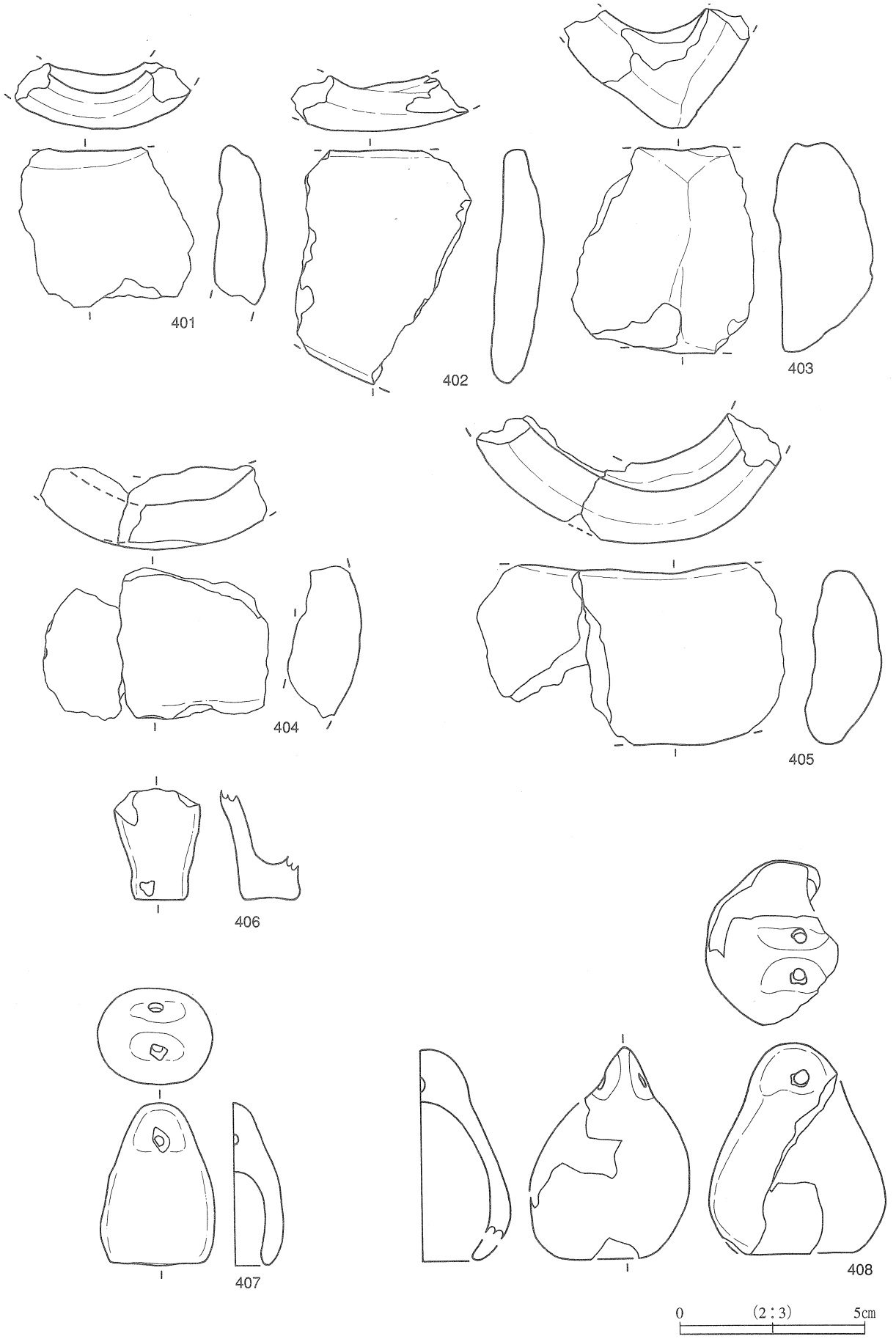
第42図　2号捨て場出土土器（4）



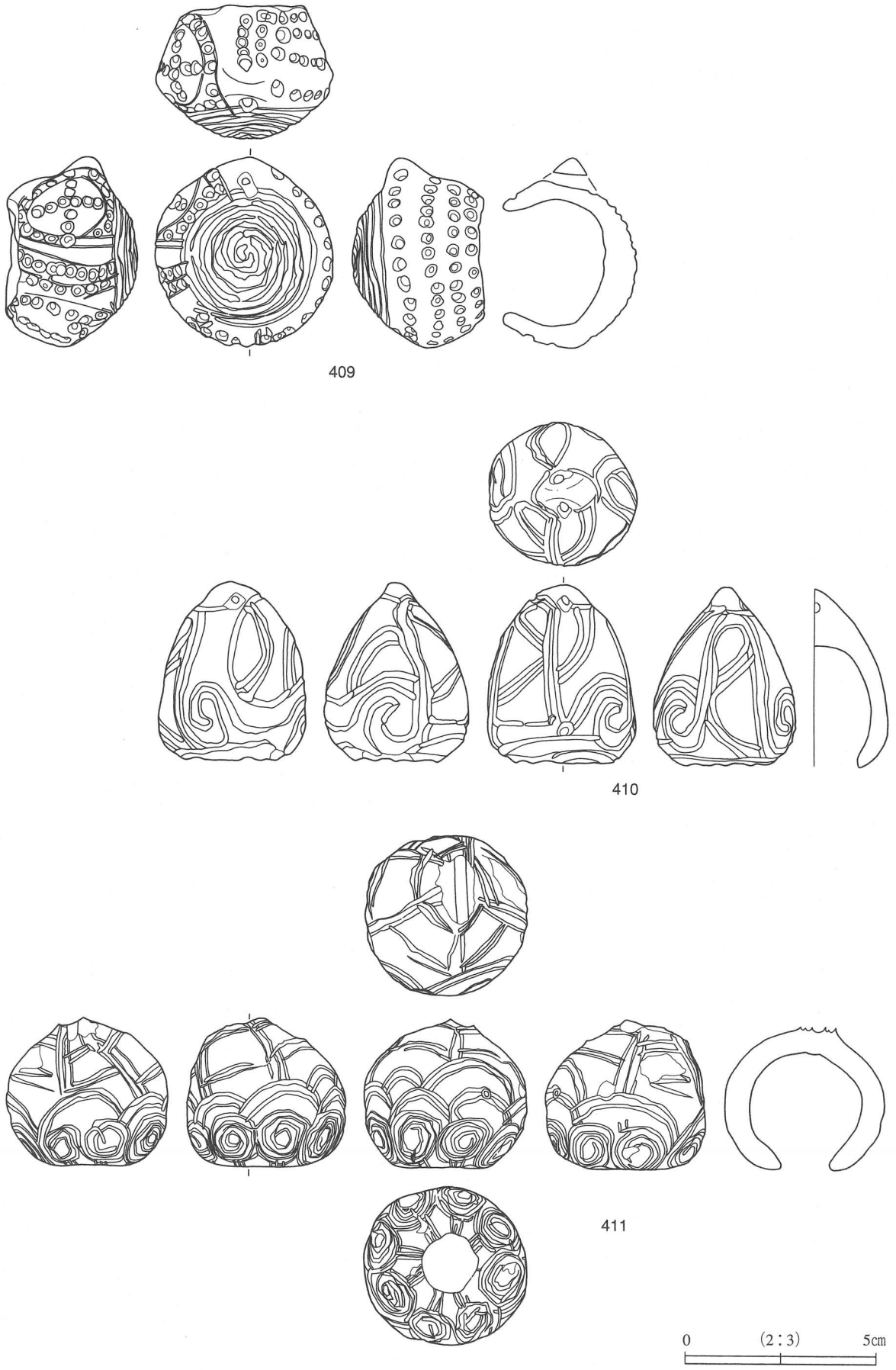
第43図　2号捨て場出土土器（5）、B区遺構外出土土器



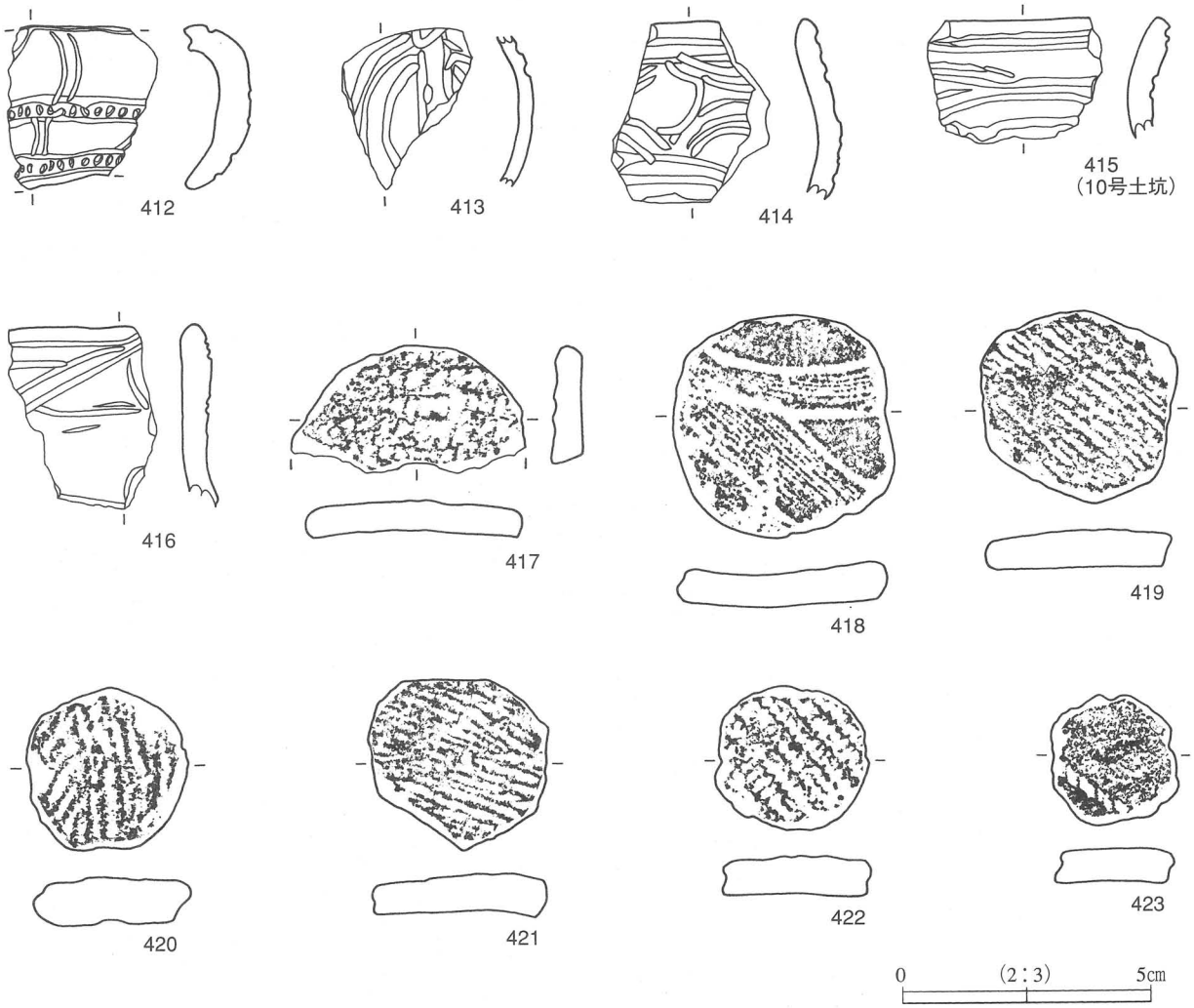
第44図　B・C区遺構外出土土器



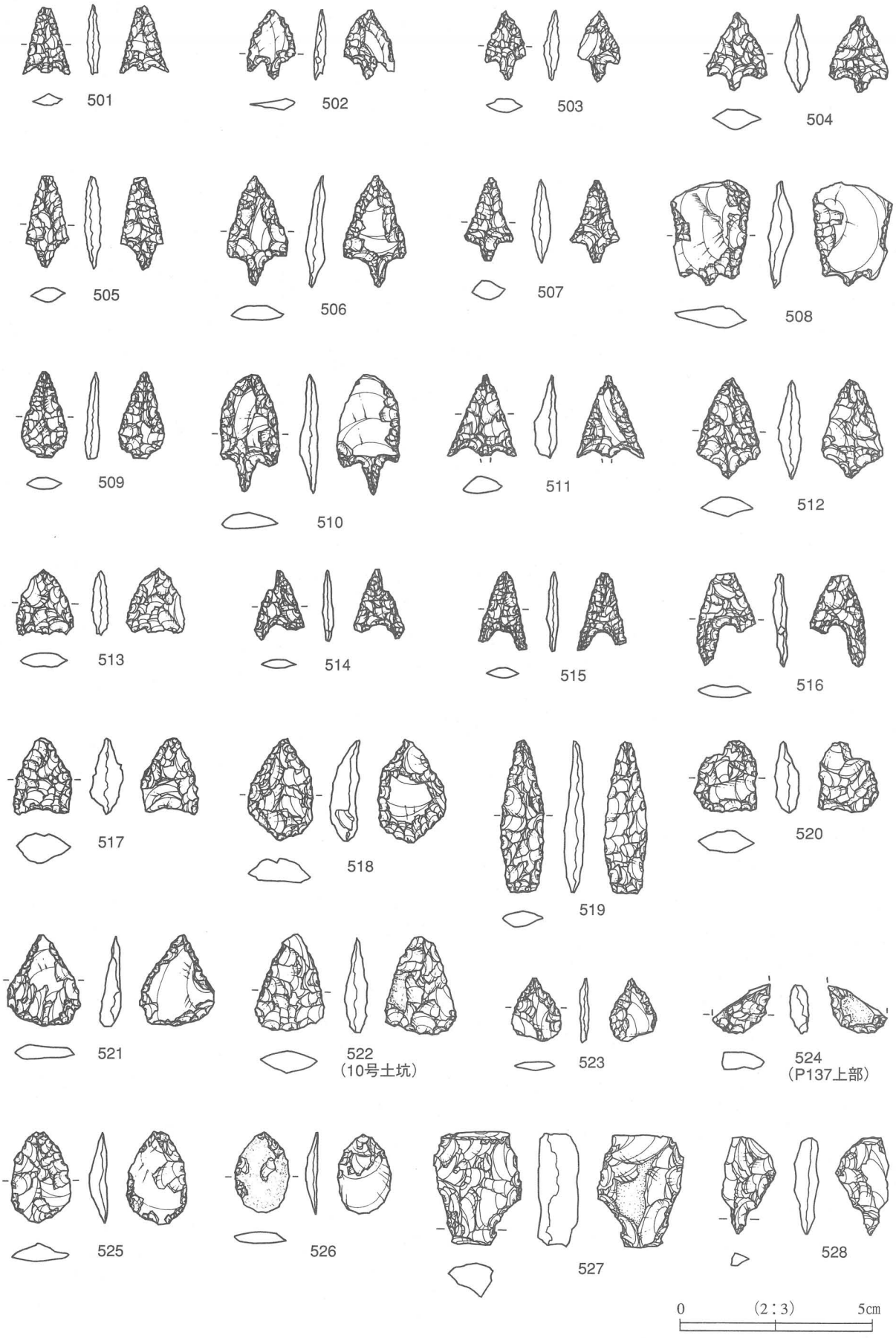
第45図　土製品（1）



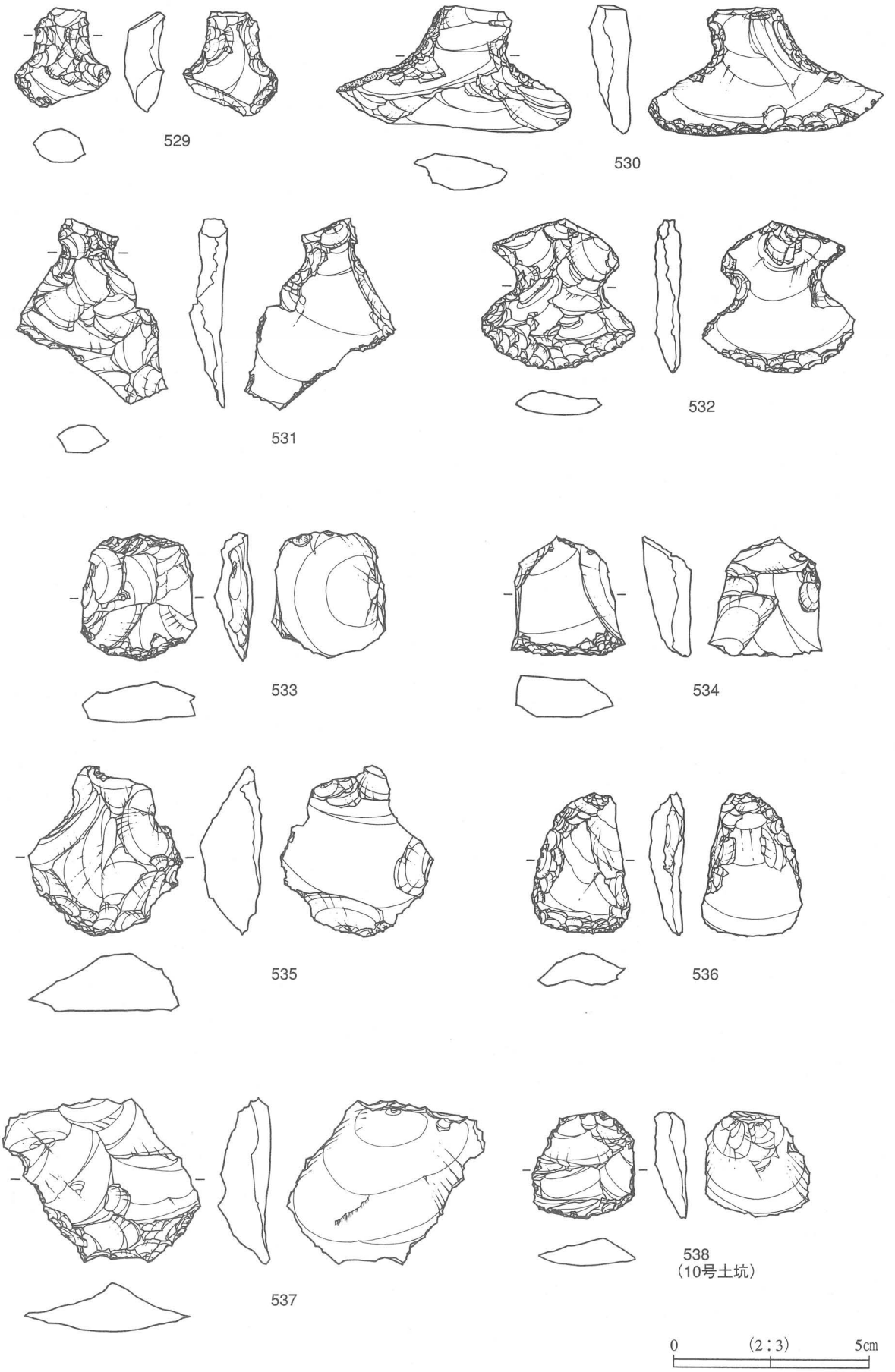
第46図　土製品（2）



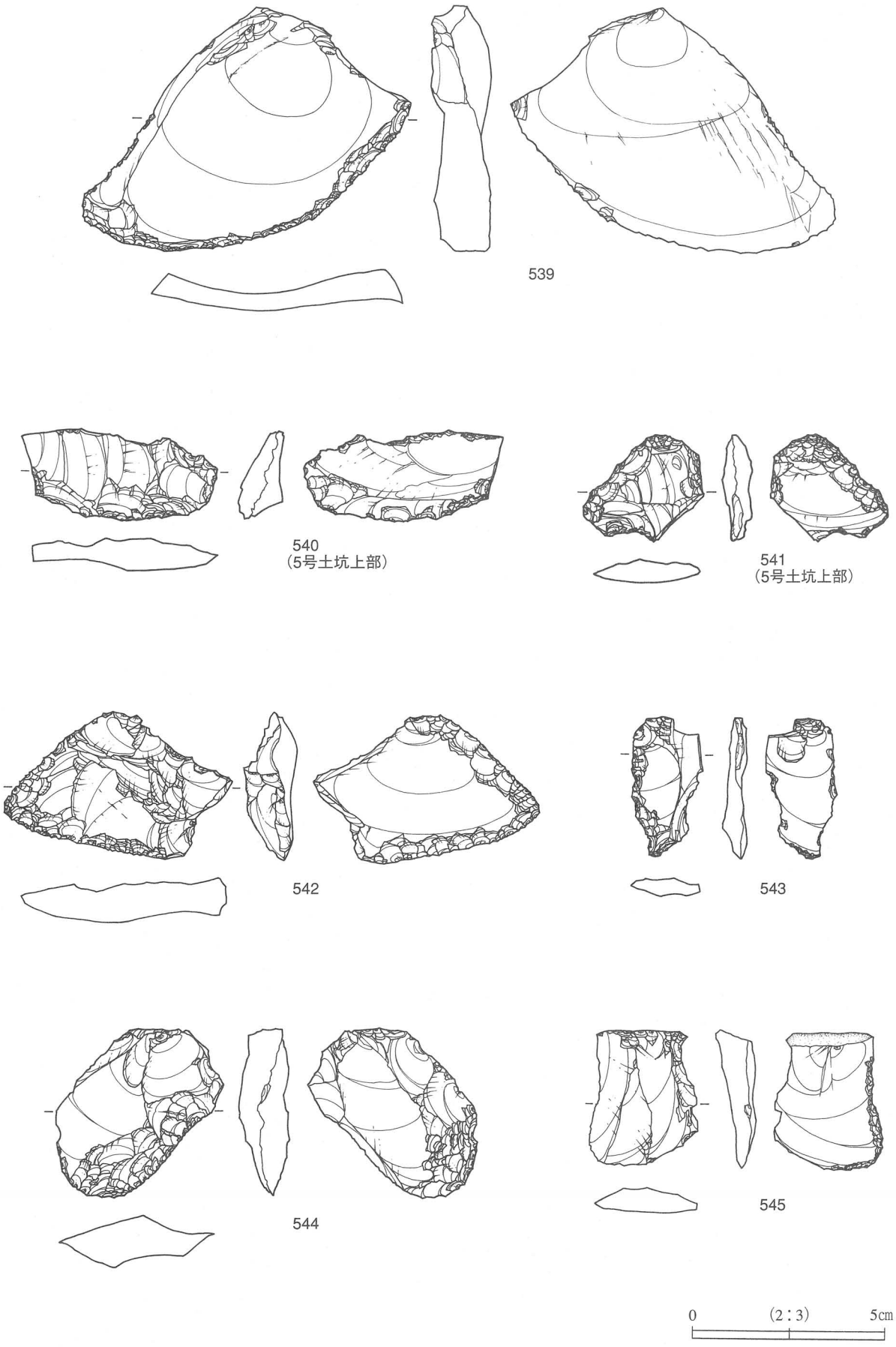
第47図　土製品（3）


501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
(10号土坑)
523
524
(P137上部)
525
526
527
528
0
(2：3)
5cm

第48図　石器（1）

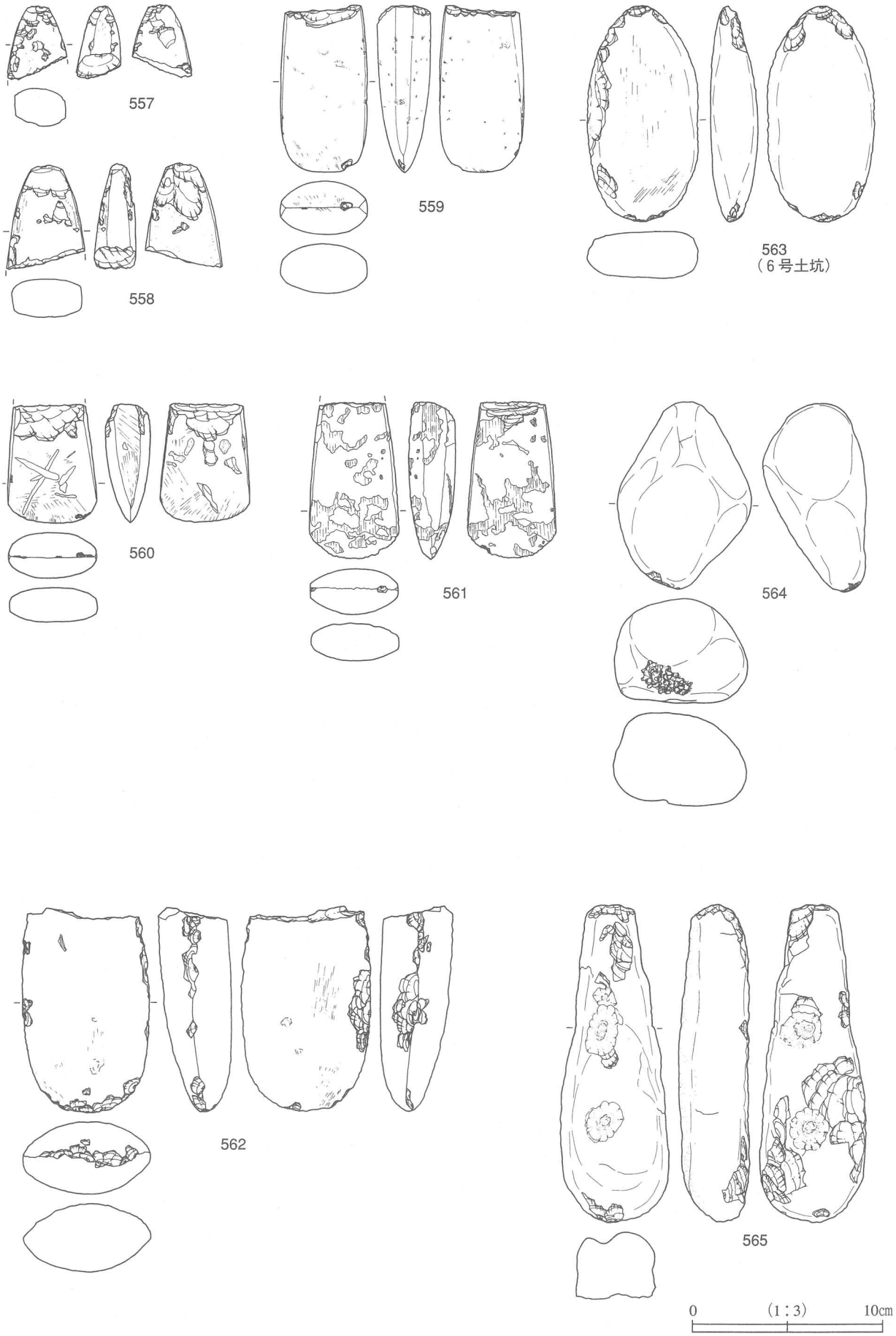


第49図　石器（2）

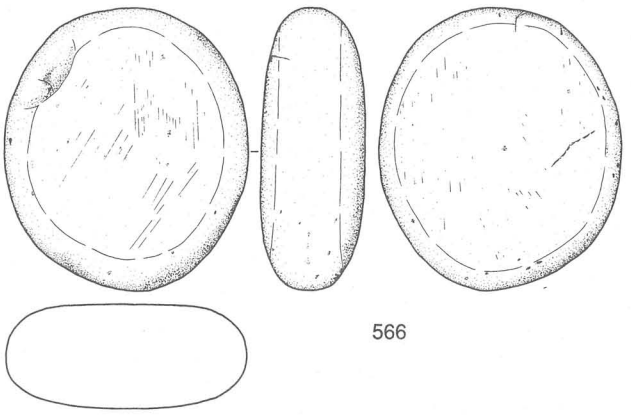


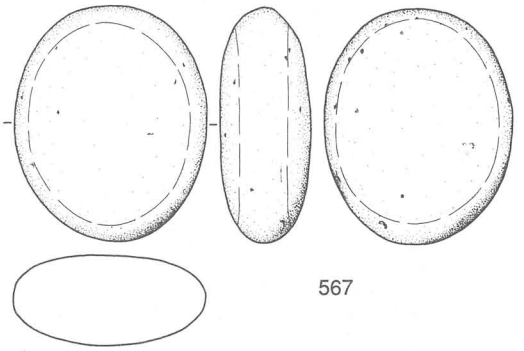
第50図　石器（3）

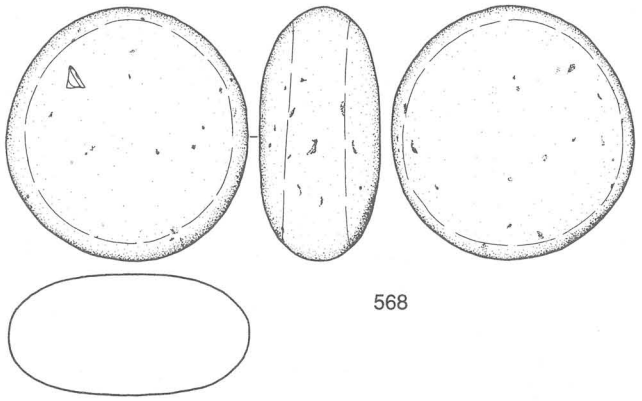
第51図　石器（4）

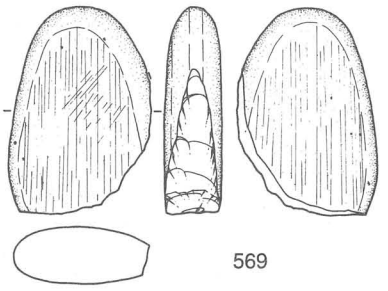


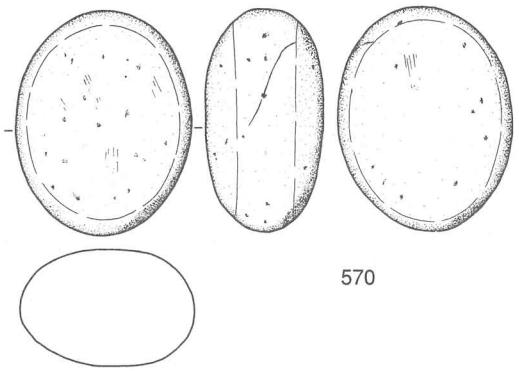
第52図　石器（5）

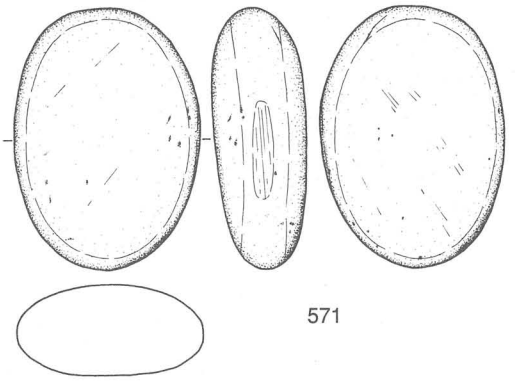






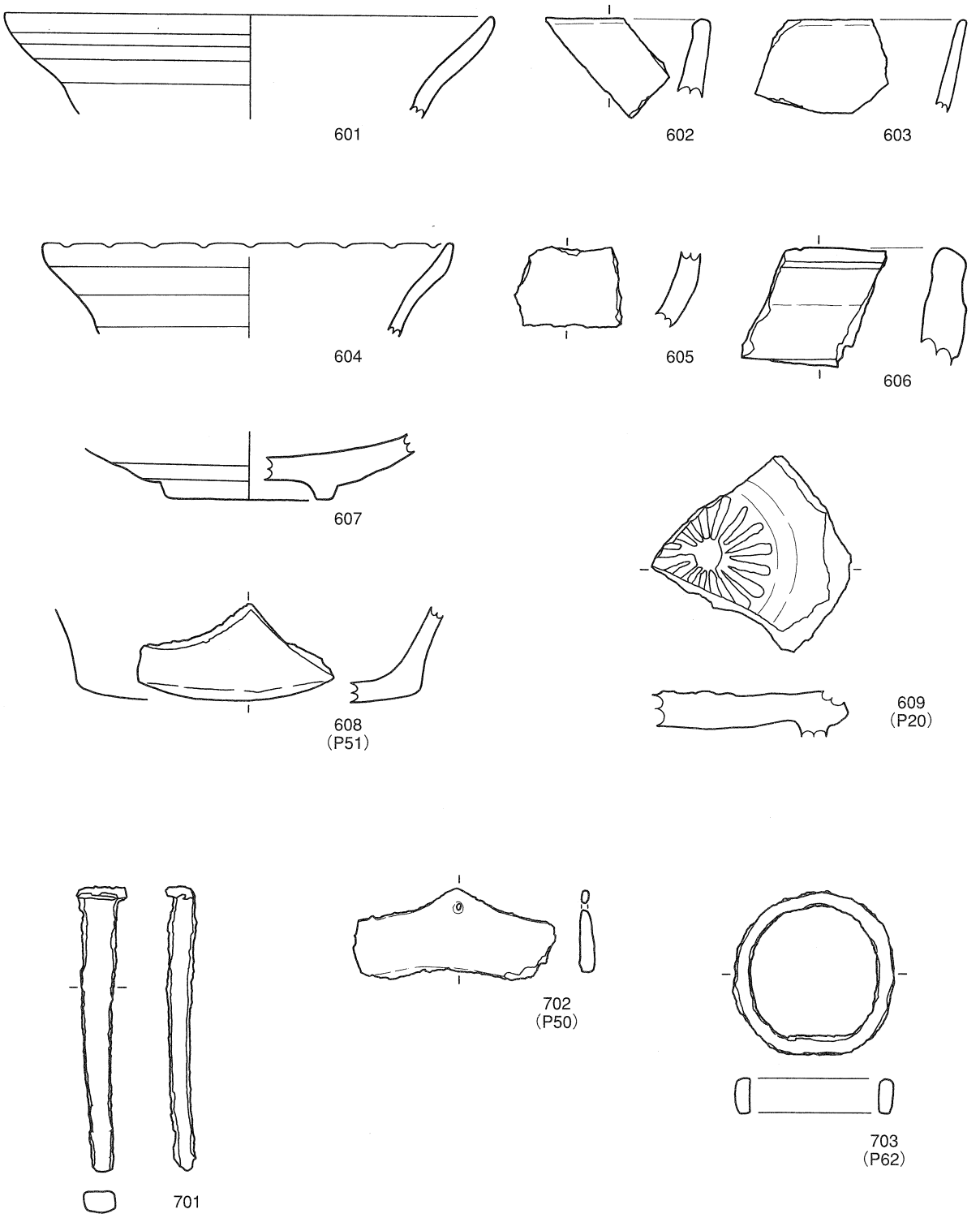




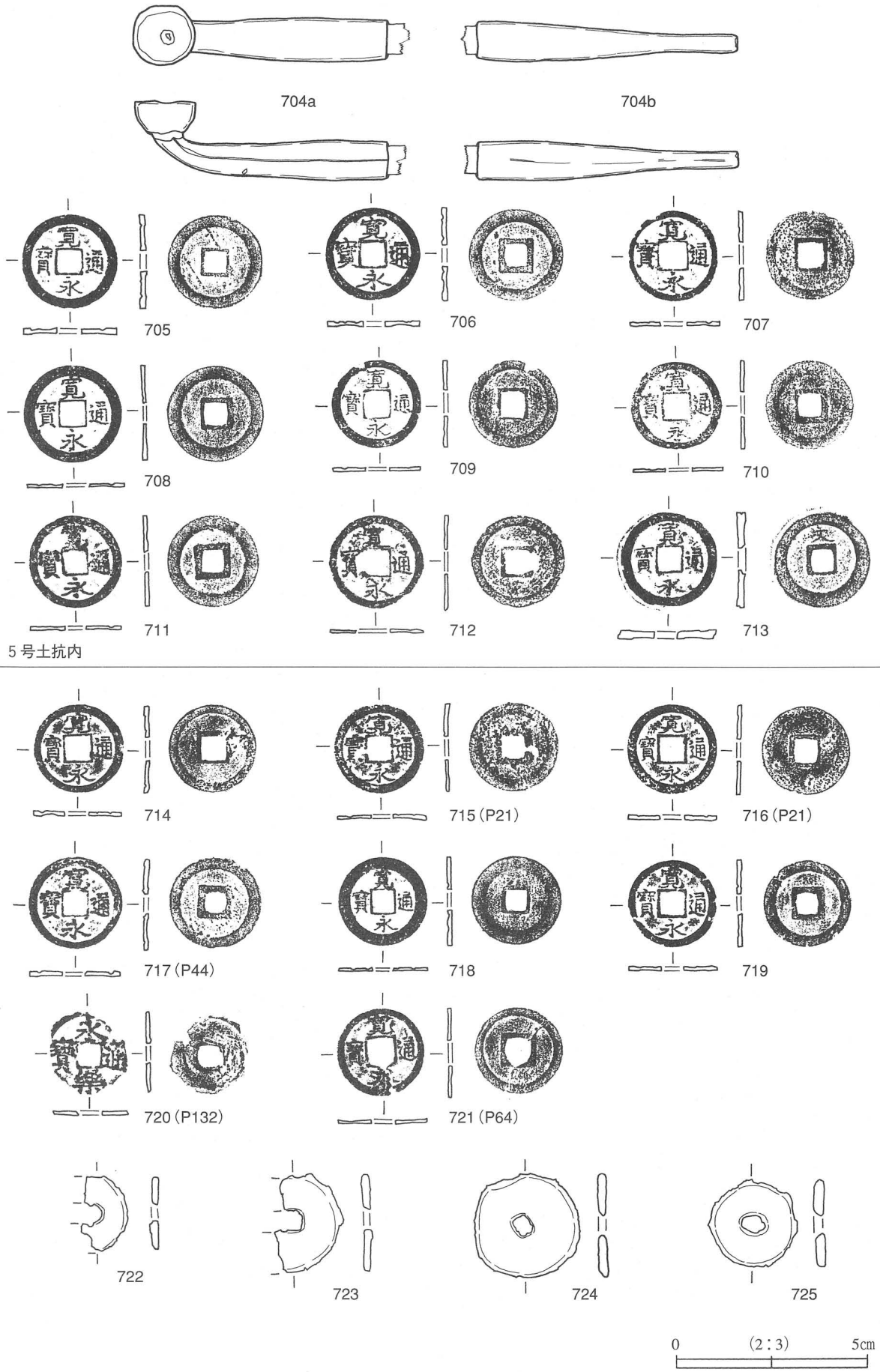


0 (1：3) 10cm

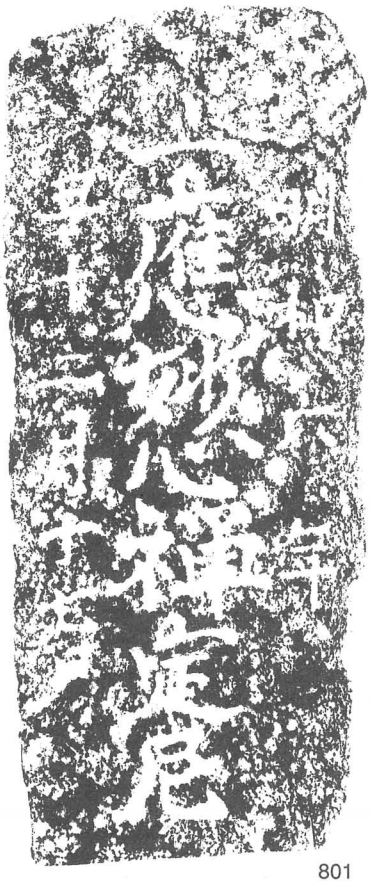
第53図　石器（6）


601
602
603
604
605
606
607
608
(P51)
609
(P20)
701
702
(P50)
703
(P62)
0
(2:3)
5cm

第54図　陶器、鉄製品


704a
704b
705
706
707
708
709
710
711
712
713
5号土抗内
714
715 (P21)
716 (P21)
717 (P44)
718
719
720 (P132)
721 (P64)
722
723
724
725
0
(2:3)
5cm

第55図　煙管、銭貨



801

明和六年　丑十二月十七日　（一應妙心禅定尼）…1769年

802

文化元年　子十二月八日　（良山禅定尼）…1804年

803

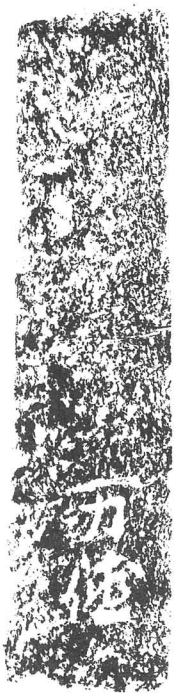
天明四年　（辰）六月（廿）三日　（一智庵禅定門）…1784年

804

文政八年？七日　（○妙○禅定尼）…1825年？

0　（1：6）　20cm

第56図　近世墓碑（1）



805b

文政十二(丑)七月六日 (等(游?瀾?)禅男) 万?〇…1829年

805a

805c

806b

文政二〇年 正月十八日 (實春禅定門)…1818~1830年間

806a

806c

0 (1:6) 20cm

第57図 近世墓碑(2)

第４表　土器観察表（縄文～弥生）

掲載	注記	遺構・層位	グリッド	座標 X	座標 Y	座標 Z	残存部位	類型	器種	文様（地文）	線描
001		2号土坑・1	ⅣB10j				底部	Ⅰc1			
002	616	2号土坑・1	ⅣB10j	-5999.991	85359.659	233.027	底部	Ⅰc2			
003		2号土坑・1	ⅣB10j				胴部	Ⅰa4		縄文LRタテ	
004		3号土坑・1	ⅣC10a				底部	Ⅰc2			
005		3号土坑・1	ⅣC10a				胴部	Ⅰa4		結節縄文LRタテ	
006		3号土坑・1	ⅣC10a				胴部	Ⅰa4		結節縄文LRタテ	
007		4号土坑・1	ⅣB9j				胴部	Ⅰa4		縄文LR斜？	
008		5号土坑・1	ⅣC8a				胴部	Ⅰa4		縄文LRタテ	
009		5号土坑・1	ⅣC8a				胴部	Ⅰa4		縄文LRタテ	
010		9号土坑・1	ⅣD2f				口縁	Ⅰa1			沈線
011		9号土坑・1	ⅣD2f				胴部	Ⅰa1			沈線
012		9号土坑・1	ⅣD2f				胴部	Ⅰa4		縄文LRタテ	
013		10号土坑・1	ⅢD10f				略完形	Ⅰa4	深鉢	縄文LRヨコ・LR圧痕	
014		10号土坑・4	ⅢD10f				口縁～胴部	Ⅰa6	深鉢	縄文LRヨコ	沈線
015		10号土坑・1	ⅢD10f				口縁	Ⅰa1			沈線
016		10号土坑・1	ⅢD10f				胴部	Ⅰa1			沈線
017		10号土坑・1	ⅢD10f				胴部	Ⅰa1			沈線
018		10号土坑・1	ⅢD10f				口縁～胴部	Ⅰa5		撚糸L	沈線
019		10号土坑・1	ⅢD10f				胴部	Ⅰa1			沈線
020		10号土坑・1	ⅢD10f				胴部	Ⅰa3		網目状撚糸	
021		10号土坑・1	ⅢD10f				胴部	Ⅰa3		網目状撚糸	
022		10号土坑・1	ⅢD10f				口縁～胴部	Ⅰa9		口縁:縄文LRヨコ　胴部:網目状撚糸	沈線
023		62号柱穴	ⅤB4e				胴部	Ⅰa1			沈線
024		124号柱穴	ⅤB1h				胴部	Ⅰa1			沈線
025		143号柱穴	ⅣD5b				胴部	Ⅰa4		縄文R	
026		142号柱穴	ⅣD6c				胴部	Ⅰa4		縄文LR斜	
027		138号柱穴	ⅣC6e				胴部	Ⅰa4		結節縄文LRタテ	
028		137号柱穴	ⅣC6d				胴部	Ⅰa1			沈線
029		137号柱穴	ⅣC6d				胴部	Ⅰa1			櫛描状沈線
030		137号柱穴	ⅣC6d				胴部	Ⅰa4		縄文LRタテ	
031		1号埋設土器	ⅡE10c				略完形	Ⅰa6	深鉢	縄文LRヨコ	沈線
032	1368	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6003.339	85358.219	233.039	口縁～胴部	Ⅰa1	深鉢		沈線
	1373	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6002.623	85357.56	233.029					
033		1号捨て場・3	ⅤB1j				口縁	Ⅰa1			沈線
034		1号捨て場・2	ⅣB9j				口縁	Ⅰa1			沈線
035		1号捨て場・1	ⅤB2h				口縁	Ⅰa1			沈線
036	743	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6006..013	85358.833	233.221	口縁～胴部	Ⅰa1	壺		沈線
	744	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6005.777	85358.792	233.233					
037	740	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6006.47	85358.997	233.274	口縁	Ⅰa1			沈線
038	338	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5992.791	85358.542	232.909	口縁～胴部	Ⅰa1	深鉢		沈線
	343	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5992.906	85359.866	232.969					
	348	1号捨て場・2	ⅣB8j	-5991.84	85359.169	232.919					
	1210	1号捨て場・2	ⅣC9a	-5992.417	85360.218	232.886					
	1211	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5992.745	85359.497	232.817					
	1276	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5993.394	85359.108	232.801					
039	656	1号捨て場・2	ⅤC1a	-6000.035	85361.303	233.29	口縁	Ⅰa1	深鉢		沈線
040	1034	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5994.282	85358.632	232.885	口縁～胴部	Ⅰa1	深鉢		沈線
	1035	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5994.227	85358.524	232.912					
	1038	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5994.33	85358.158	232.861					
	1045	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5993.888	85358.457	232.901					
	1189	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5992.861	85358.761	232.784					
	1285	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5993.982	85358.488	232.861					
041	838	1号捨て場・2	ⅤC1a	-6002.945	85360.446	233.147	口縁	Ⅰa1			沈線
042	152	1号捨て場・2	ⅤC1a	-6001.249	85360.235	233.247	口縁	Ⅰa1			沈線
043		1号捨て場・2	ⅣB9j				口縁	Ⅰa1			沈線
044		1号捨て場・1					口縁	Ⅰa1			沈線
045		1号捨て場・2	ⅤB1j				口縁	Ⅰa1			沈線
046	1237	1号捨て場・2	ⅣC9a	-5992.52	85358.92	232.74	口縁	Ⅰa1			沈線
047	266	1号捨て場・2	ⅣC10a	-5999.478	85360.543	233.236	口縁	Ⅰa1			沈線
048	1369	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6003.147	85358.441	233.049	口縁	Ⅰa1			沈線
049	684	1号捨て場・2	ⅣB10i	-5997.535	85355.315	232.924	口縁	Ⅰa1			沈線
050	337	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5993.356	85359.032	232.949	口縁～胴部	Ⅰa1	深鉢		沈線
	876	1号捨て場・2	ⅣC9a	-5994.093	85361.163	233.071					
	918	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5994.182	85359.955	232.974					
		1号捨て場・2	ⅣB9j								
	928	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5994.493	85359.437	232.941					
	1147	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5993.687	85359.285	232.918					
	1279	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5993.826	85359.901	232.892					
051		1号捨て場・1	ⅤB3				口縁	Ⅰa1			沈線
052	1384	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5999.817	85359.843	233.086	口縁	Ⅰa1			沈線
053	428	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6001.599	85357.814	233.103	口縁～胴部	Ⅰa1			沈線
	470	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5998.511	85358.911	233.112					
	1437	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5998.837	85359.108	233.12					
054	938	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5993.173	85359.844	232.874	口縁	Ⅰa7			沈線・隆帯
	1102	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5992.061	85359.213	232.812					
055	1279	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5993.826	85359.901	232.892	口縁	Ⅰa1			沈線
056		1号捨て場・2	ⅣB10j				口縁	Ⅰa1			沈線
057		1号捨て場・3	ⅤB1j				口縁	Ⅰa1			沈線
058	446	1号捨て場・2	ⅤB2i	-6005.737	85355.441	233.154	口縁	Ⅰa1			沈線
	717	1号捨て場・2	ⅤB2i	-6006.497	85355.072	233.179					
059		1号捨て場・3	ⅤB1j				口縁	Ⅰa1			沈線
060		1号捨て場・1	ⅣC9a				口縁	Ⅰa1			沈線
061		1号捨て場・2	ⅣB10h				胴部	Ⅰa1			沈線
062	579	Ⅱ					胴部	Ⅰa1			沈線
063	678	1号捨て場・2	ⅤB1i	-6001.839	85354.326	232.999	胴部	Ⅰa1			沈線
	1363	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6004.222	85357.99	233.065					
		表採									
064	1260	1号捨て場・2	ⅣB8j	-5991.618	85358.772	232.733	胴部	Ⅰa1	壺		沈線
	1340	1号捨て場・2	ⅣB8j	-5990.863	85359.06	232.766					

装　飾	手　法	胎　土	断面焼成	備　考
		砂粒少量	黒色層なし	底面木葉痕
		小礫中量	黒色層中央(2/3)	底面網代痕
	磨消（ナデ）	小礫少量	黒色層なし	
		小礫少量	黒色層中央(2/3)	底面網代痕
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(1/3)	
	磨消（ナデ）	小礫少量	黒色層中央(2/3)	
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	1号捨て場からの流入
		小礫少量	黒色層中央(2/3)	1号捨て場からの流入
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	ミニチュア？
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒少量	黒色層なし	
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	底面網代痕　外面胴上部にマキ接触黒斑　器高44.2cm　容量22.5ℓ
刺突	磨消（ナデ）	砂粒多量	黒色層なし	
刺突		砂粒中量	黒色層中央(1/2)	
刺突		砂粒中量	黒色層なし	
外面赤彩	ミガキ	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
刺突		砂粒中量	黒色層なし	掲載No.19と同一個体
刺突		砂粒中量	黒色層外側(1/3)	掲載No.18と同一個体
		砂粒少量	黒色層なし	
		砂粒中量	黒色層内側(2/3)	内面コゲ付着
		砂粒少量	黒色層なし	外側スス付着
		砂粒中量	黒色層なし	磨耗により縄文不明
	磨消？	砂粒微量	黒色層なし	
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	内面コゲ付着
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒少量	黒色層なし	
		砂粒少量	黒色層なし	
		砂粒少量	黒色層なし	
	磨消(ナデ)	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	縄文→沈線→ナデ・底面木葉痕　器高20.2cm　容量2.9ℓ
口唇上に刻目	磨消(ナデ)	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	沈線→ナデ
口唇　刺突	ミガキ	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
口唇　刺突　外面赤彩		砂粒少量	黒色層内側(1/3)	
盲孔		砂粒少量	黒色層内側(2/3)	
刺突	ミガキ	砂粒中量	黒色層中央(2/3)	外面　棒状黒斑
	ナデ	砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
刺突・貼付		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	外面胴部楕円形黒斑
外面赤彩	ミガキ	砂粒少量	黒色層なし	
波状口縁	ミガキ	砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
	ナデ	砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
鎖状隆帯・刺突・波状口縁		砂粒少量	黒色層中央(1/3)	
		砂粒少量	黒色層中央(1/3)	外面磨耗
波状口縁		砂粒少量	黒色層なし	
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
刺突		砂粒多量	黒色層なし	
	ミガキ	砂粒微量	黒色層中央(2/3)	沈線→ミガキ
波状口縁		砂粒多量	黒色層中央(2/3)	外面磨耗　掲載No49と同一個体
波状口縁		砂粒多量	黒色層中央(2/3)	外面磨耗　掲載No48と同一個体
刺突・波状口縁	ミガキ	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	沈線→ミガキ
	ミガキ	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
	ミガキ	砂粒少量	黒色層中央(1/3)	掲載No56と同一個体？
		砂粒少量	黒色層中央(1/3)	
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒少量	黒色層中央(1/3)	掲載No53と同一個体？
円形刺突		砂粒少量	黒色層中央なし	
口唇刻目	ミガキ	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒少量	黒色層なし	
刺突　突起		砂粒少量	黒色層なし	
	ナデ	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒少量	黒色層なし	
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒多量	黒色層中央(2/3)	

第４表　土器観察表（縄文～弥生）

掲載	注記	遺構・層位	グリッド	座標 X	座標 Y	座標 Z	残存部位	類型	器種	文　様（地文）	線　描
065	672	1号捨て場・2	ⅤB1i	-6003.813	85353.533	233.061	胴部	Ⅰa1			沈線
066	1033	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5994.601	85358.999	232.898	胴部	Ⅰa7			沈線・隆帯
	1059	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5994.157	85357.948	232.886					
067		1号捨て場					胴部	Ⅰa7			沈線・隆帯
068	150	1号捨て場・2	ⅤC1a	-6001.175	85361.269	233.368	胴部	Ⅰa1			沈線
069	881	1号捨て場・2	ⅣC9j	-5993.04	85361.283	232.934	胴部	Ⅰa1			沈線
070	1067	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5992.541	85357.802	232.802	胴部	Ⅰa1			沈線
071	1140	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5992.987	85358.953	232.729	胴部	Ⅰa1			沈線
072	1081	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5992.678	85358.617	232.805	胴部	Ⅰa1			沈線
073	748	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6006.159	85359.325	233.239	胴部	Ⅰa1			沈線
074	1190	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5992.785	85358.124	232.802	胴部	Ⅰa1			沈線
075	1317	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6001.529	85358.729	233.027	胴部	Ⅰa1			沈線
076	1530	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5999.816	85358.654	232.984	胴部	Ⅰa1			沈線
077	1583	1号捨て場・2	ⅣB8j	-5991.963	85359.289	231.581	胴部	Ⅰa1			沈線
078	1335	1号捨て場・2	ⅣC8a	-5990.861	85361.752	232.818	胴部	Ⅰa1			沈線
079		1号捨て場・3	ⅤB1j				胴部	Ⅰa1			沈線
080	549	1号捨て場・2	ⅣC8j	-5990.931	85360.119	232.871	胴部	Ⅰa1			沈線・櫛描状沈線
081	739	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6006.694	85358.877	233.269	胴部	Ⅰa1			櫛描状沈線
082		1号捨て場・2					胴部	Ⅰa1			沈線
083	1013	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5997.109	85359.93	233.054	胴部	Ⅰa1			沈線
084		1号捨て場・2	ⅣC9a				胴部	Ⅰa1			沈線
085	787	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6004.258	85358.007	233.22	胴部	Ⅰa1			沈線
	788	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6004.296	85357.879	233.225					
086	1528	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5998.039	85359.727	232.923	胴部	Ⅰa1			沈線
087	161	1号捨て場・2	ⅤC1a	-6002.049	85360.765	233.255	胴部	Ⅰa1			沈線
	1479	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5997.969	85359.026	232.995					
088	876	1号捨て場・2	ⅣC9a	-5994.093	85361.163	233.071	胴部	Ⅰa7			沈線・隆帯
089	1424	1号捨て場・2	ⅣB8j	-5991.644	85358.856	232.743	胴部	Ⅰa7			沈線・隆帯
090	457	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6006.486	85359.775	233.218	胴部	Ⅰa1			沈線
091	692	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5999.357	85358.356	233.081	胴部	Ⅰa7			沈線・隆帯
092	610	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5999.667	85359.252	232.922	胴部	Ⅰa7			沈線・隆帯
093	349	1号捨て場・2	ⅣB8j	-5991.908	85358.988	232.922	口縁～胴部	Ⅰa6	深鉢	縄文RLタテ・ヨコ	沈線
	1255	1号捨て場・2	ⅣB8j	-5991.493	85358.919	232.775					
	1258	1号捨て場・2	ⅣB8j	-5991.658	85358.871	232.776					
	1259	1号捨て場・2	ⅣB8j	-5991.551	85358.856	232.769					
	1262	1号捨て場・2	ⅣB8j	-5991.695	85358.623	232.748					
	1425	1号捨て場・2	ⅣB8j	-5991.707	85358.641	232.739					
	1526	1号捨て場・2	ⅣB8j	-5991.611	85358.66	232.696					
094		1号捨て場・3	ⅤB1j				口縁	Ⅰa6		縄文LRタテ・ヨコ	沈線
095	308	1号捨て場・2	ⅣC9a	-5993.838	85362.052	233.124	口縁	Ⅰa6		縄文RLタテ・ヨコ	沈線
096	1145	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5993.421	85359.106	232.91	口縁	Ⅰa6		縄文LRヨコ	沈線
097	1312	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6001.974	85358.377	232.961	口縁	Ⅰa6		縄文L？	沈線
098	895	1号捨て場・2	ⅣC9c	-5993.634	85361.042	233.038	口縁	Ⅰa6		縄文LRヨコ	沈線
099		1号捨て場・1	ⅤB2h				口縁	Ⅰa6		縄文LRヨコ	沈線
100		1号捨て場・3	ⅤB1j				口縁	Ⅰa6		縄文LRヨコ	沈線
101	498	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6002.905	85359.402	233.124	口縁	Ⅰa6		縄文LRヨコ	沈線
102	1269	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5992.189	85359.295	232.78	口縁～胴部	Ⅰa6	深鉢	縄文LRヨコ	沈線
	1270	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5992.151	85359.043	232.774					
	1423	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5992.1	85359.165	232.772					
103	1190	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5992.785	85358.124	232.802	口縁	Ⅰa8		縄文LRヨコ？	沈線・隆帯
104	1379	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6000.534	85359.121	233.043	口縁	Ⅰa6		縄文LRタテ	沈線
105	163	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6002.849	85359.924	233.178	口縁	Ⅰa6		縄文Lヨコ	沈線
106		表採					口縁	Ⅰa6		縄文LRヨコ	沈線
107	553	1号捨て場・2	ⅣB8j	-5991.123	85359.666	232.847	口縁	Ⅰa6		縄文LR？	沈線
108	1213	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5993.34	85357.358	232.824	胴部	Ⅰa6		縄文LRタテ・ヨコ	沈線
109		1号捨て場・1	ⅤB2h				胴部	Ⅰa6		縄文RLヨコ	沈線
110		1号捨て場・2	ⅤB3h				胴部	Ⅰa6		縄文RLヨコ・斜	沈線
111		1号捨て場・3	ⅤB1j				胴部	Ⅰa6		縄文LRヨコ	沈線
112	314	1号捨て場・2	ⅣC9a	-5993.611	85361.008	233.082	胴部	Ⅰa6		縄文LRヨコ	沈線
113		1号捨て場・2	ⅣB9j				胴部	Ⅰa8		縄文LRヨコ	沈線・隆帯
114	356	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5992.552	85358.258	232.897	胴部	Ⅰa6		縄文RL？	沈線
115	1448	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5997.775	85359.05	232.977	口縁～胴部	Ⅰa6	深鉢	縄文LRヨコ	沈線
	1450	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5997.92	85359.395	233.032					
116	1531	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5999.757	85358.719	232.989	口縁～胴部	Ⅰa8	深鉢	縄文LRヨコ・斜	沈線・隆帯
		表採									
117	1021	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5996.768	85356.224	232.755	胴部	Ⅰa8		縄文？	沈線・隆帯
118		1号捨て場・2	ⅤB2j				胴部	Ⅰa6		縄文LR？	沈線
119	770	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6004.849	85358.392	233.2	胴部	Ⅰa6		縄文LR斜	沈線
120	1563	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5999.815	85359.654	232.912	胴部	Ⅰa10		撚糸文R	沈線・隆帯
121	1385	1号捨て場・2	ⅤC1a	-5999.703	85359.937	233.161	胴部	Ⅰa6		縄文LR斜	沈線・櫛描状沈線
122		1号捨て場・2	ⅣC9d				胴部	Ⅰa6		縄文Lタテ・斜	沈線
123	653	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5996.316	85357.312	232.884	胴部	Ⅰa6	深鉢	縄文LR斜	沈線
	1018	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5997.798	85357.472	232.866					
124		1号捨て場・2	ⅣB10j				胴部	Ⅰa6	深鉢	縄文LR斜	沈線
125	869	1号捨て場・2	ⅣC9a	-5994.319	85360.877	233.026	口縁	Ⅰa6	深鉢	縄文RL圧痕	沈線
126	1132	1号捨て場・2	ⅣB8j	-5992.078	85360.704	232.823	胴部	Ⅰa1			沈線
127	1014	1号捨て場・2	ⅣC10a	-5996.997	85360.231	233.032	口縁～胴部	Ⅰa6	深鉢	縄文LRヨコ	沈線
	1029	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5994.61	85358.468	232.859					
128	163	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6002.849	85359.924	233.178	胴部	Ⅰa6	深鉢	縄文Lタテ	沈線
	492	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6003.034	85359.708	233.129					
	493	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6003.054	85359.836	233.113					
	641	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6002.181	85359.707	233.105					
	1331	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5992.162	85359.706	232.752					
	1476	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6001.368	85356.86	232.804					
		1号捨て場・3	ⅤB1j								
129	187	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6007.351	85356.322	233.233	口縁～胴部	Ⅰa6	深鉢	縄文LRヨコ・斜	沈線
	196	1号捨て場・2	ⅤB2i	-6007.45	85353.74	233.202					
	269	1号捨て場・2	ⅤC10a	-5999.502	85360.991	233.267					
	467	1号捨て場・2	ⅤC10a	-5999.138	85360.565	233.2					

装　飾	手　法	胎　土	断面焼成	備　考
		砂粒多量	黒色層なし	
	ナデ	砂粒中量	黒色層なし	
		砂粒少量	黒色層なし	
外面赤彩	ミガキ	砂粒中量	黒色層中央(2/3)	沈線→ミガキ
円形刺突		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒中量	黒色層なし	
外面赤彩？		砂粒多量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
	ナデ	砂粒中量	黒色層中央(2/3)	沈線→ナデ
	ミガキ	砂粒中量	黒色層内側(2/3)	沈線→ミガキ
	ナデ	砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
	ミガキ	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
	ナデ	砂粒少量	黒色層なし	
		砂粒少量	黒色層全体	
	ナデ	砂粒微量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
外面赤彩		砂粒中量	黒色層中央(1/3)	器面磨耗
外面赤彩		砂粒中量	黒色層中央(1/3)	器面磨耗
		砂粒少量	黒色層なし	
外面赤彩	ナデ	砂粒少量	黒色層なし	器面磨耗
外面赤彩	ミガキ	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
外面赤彩	ミガキ	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
隆帯上に刺突		砂粒微量	黒色層なし	
隆帯上に刺突		砂粒微量	黒色層なし	
	ミガキ	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	内面コゲ付着
隆帯上に刺突		砂粒少量	黒色層なし	
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
波状口縁	磨消（ミガキ）	砂粒中量	黒色層中央(2/3)	外面スス付着　外面楕円状黒斑
円形刺突	ナデ	砂粒中量	黒色層なし	
円形刺突	磨消（ミガキ）	砂粒中量	黒色層なし	文様施文→磨消
円形刺突	ナデ	砂粒微量	黒色層なし	
円形刺突		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	器面磨耗
	ナデ	砂粒中量	黒色層中央(2/3)	文様施文→ナデ
		砂粒少量	黒色層なし	
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
	ナデ	砂粒中量	黒色層中央(1/3)	外面円形黒斑
円形刺突・波状口縁		砂粒少量	黒色層内側（2/3）	
円形刺突		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒少量	黒色層なし	
	磨消（ナデ）	砂粒中量	黒色層内側(2/3)	文様施文→ナデ
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
	磨消（ミガキ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	文様施文→磨消
		砂粒少量	黒色層なし	縄文→沈線
		砂粒微量	黒色層中央(1/3)	
		砂粒微量	黒色層なし	
	ナデ	砂粒多量	黒色層中央(2/3)	文様施文→ナデ
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	器面磨耗
	磨消（ミガキ）	砂粒微量	黒色層なし	文様施文→ミガキ
波状口縁	磨消（ミガキ）	砂粒少量	黒色層内側(2/3)	文様施文→ミガキ
		砂粒少量	黒色層なし	器面磨耗
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層内側(2/3)	
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	
刺突		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒少量	黒色層なし	
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	文様施文→ナデ　掲載No.124、173と同一個体？
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	文様施文→ナデ　掲載No.123、173と同一個体？
	磨消（ナデ）	砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
	磨消（ナデ）	砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
刺突	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層内側(1/2)	縄文→沈線・刺突→ナデ
		砂粒少量	黒色層内側(1/3)	
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	縄文→沈線→ナデ・内面マキ接触棒状黒斑（差込み）　容量16.6ℓ

第４表　土器観察表（縄文～弥生）

掲載	注記	遺構・層位	グリッド	座標 X	座標 Y	座標 Z	残存部位	類型	器種	文様（地文）	線描
130	159	1号捨て場・2	ⅤC1a	-6001.705	85360.45	233.26	略完形	Ⅰa6	深鉢	縄文Lヨコ・タテ・斜・L圧痕	沈線
	162	1号捨て場・2	ⅤC1a	-6002.182	85360.55	233.291					
	171	1号捨て場・2	ⅤC1a	-6002.205	85360.468	233.229					
131	181	1号捨て場・2	ⅤC2a	-6006.699	85360.165	233.204	口縁～胴部	Ⅰa5	深鉢	網目状撚糸文	沈線
	1243	1号捨て場・2	ⅤC2a	-6006.639	85360.1	233.194					
	1408	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6006.607	85358.726	232.985					
132	805	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6004.458	85357.086	233.216	口縁	Ⅰa5	深鉢	網目状撚糸文	沈線
133	179	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6007.678	85359.206	233.262	口縁	Ⅰa3		網目状撚糸文	
134		1号捨て場・3	ⅤB1j				胴部	Ⅰa6	深鉢	羽状縄文LR・R	沈線
135	714	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6006.743	85356.168	233.205	胴部	Ⅰa3	深鉢	網目状撚糸文	
136	157	1号捨て場・2	ⅤC1a	-6002.302	85360.206	233.279	胴部	Ⅰa5	深鉢	網目状撚糸文	沈線
137		表採					胴部	Ⅰa3	深鉢	網目状撚糸文	
138	1386	1号捨て場・2	ⅤC1a	-6000.008	85360.303	233.121	胴部	Ⅰa3	深鉢	網目状撚糸文	
139	413	1号捨て場・2	ⅣB10i	-5996.281	85354.729	232.941	胴部	Ⅰb	深鉢	羽状縄文LR・RL	沈線
	681	1号捨て場・2	ⅣB10i	-5996.892	85354.372	232.871					
140	735	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6005.764	85358.62	233.222	口縁～胴部	Ⅰa4	深鉢	縄文R・R圧痕	
	745	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6005.534	85358.848	233.298					
	773	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6004.605	85358.242	233.244					
	782	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6004.241	85358.685	233.173					
	800	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6003.584	85357.713	233.209					
	801	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6004.016	85357.512	233.21					
	806	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6004.525	85356.826	233.22					
	850	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6003.193	85358.221	233.1					
	1368	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6003.339	85358.219	233.039					
	1411	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6005.805	85359.423	233.148					
	1420	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6004.999	85358.472	233.014					
	1534	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6005.256	85359.351	233.04					
	1610	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6004.695	85359.02	232.993					
	1613	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6004.688	85359.037	232.984					
		1号捨て場・2	ⅤB2j								
141		1号捨て場・2					口縁	Ⅰa12	深鉢	縄文LR　撚糸？	
142	557	1号捨て場・2	ⅣC9a	-5993.572	85361.473	233.087	口縁～胴部	Ⅰa4	深鉢	縄文LRヨコ・LR圧痕	
	878	1号捨て場・2	ⅣC9a	-5993.589	85361.481	233.056					
	902	1号捨て場・2	ⅣC9a	-5993.604	85361.456	232.949					
143	156	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6001.88	85359.633	233.149	口縁	Ⅰa4	深鉢	縄文LRヨコ	
144	1179	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5993.283	85357.871	232.803	口縁	Ⅰa4	深鉢	縄文LRヨコ・LR圧痕	
145	1402	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6002.843	85359.785	233.003	口縁	Ⅰa6	深鉢	縄文LRヨコ	沈線
146	152	1号捨て場・2	ⅤC1a	-6001.249	85360.235	233.247	口縁	Ⅰa4	深鉢	縄文Lヨコ・斜	
147	617	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5999.551	85359.294	232.987	口縁	Ⅰa4	深鉢	縄文RLヨコ	
148	1305	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6000.82	85358.428	233.041	口縁	Ⅰa4	深鉢	縄文LR圧痕	
149	485	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6003.793	85359.006	233.168	口縁	Ⅰa4	深鉢	縄文LR圧痕	
150	1546	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6004.517	85358.106	232.952	口縁	Ⅰa4		縄文LR圧痕	
151	793	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6003.541	85358.701	233.199	口縁	Ⅰa4	深鉢	縄文LR圧痕	
152		1号捨て場・1					口縁	Ⅰa11	鉢		
		表採									
153	1267	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5992.117	85358.673	232.745	口縁	Ⅰa1	深鉢		沈線
	1286	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5993.975	85358.539	232.821					
154	1484	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6005.979	85357.441	233.004	胴部	Ⅰa4	深鉢	縄文LR圧痕	
155	347	1号捨て場・2	ⅣB8j	-5991.991	85359.393	232.946	口縁～胴部	Ⅰa3	深鉢	撚糸L	
	1095	1号捨て場・2	ⅣB8j	-5991.745	85359.746	232.81					
	1198	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5992.369	85358.729	232.763					
156	1058	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5993.995	85356.182	232.822	口縁	Ⅰa11	鉢		
157	407	1号捨て場・2	ⅣB10i	-5999.315	85354.225	232.966	口縁	Ⅰa11	深鉢		
158	1608	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6005.669	85358.714	233.096	口縁	Ⅰa11	浅鉢		
159	1318	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6001.654	85358.95	233.118	胴部	Ⅰa4		縄文Lタテ	
160	1410	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6005.9	85359.303	233.075	胴部	Ⅰa11			
	1412	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6005.737	85359.28	233.135					
161	215	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6005.083	85358.269	233.241	胴部	Ⅰa4		結節縄文Lタテ	
	767	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6005.436	85358.649	233.213					
162	183	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6005.96	85359.637	233.231	胴部	Ⅰa3	深鉢	撚糸R	
	830	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6002.916	85359.141	233.096					
163		1号捨て場・2	ⅣC9a				胴部	Ⅰa3		撚糸R	
164	1441	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5998.11	85358.698	232.975	胴部	Ⅰa4	深鉢	縄文RLヨコ	
	1564	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5999.426	85359.496	232.981					
165	776	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6004.863	85357.987	233.258	胴部	Ⅰa4	深鉢	縄文Rヨコ	
	777	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6005.373	85358.207	233.22					
	1421	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6004.466	85359.162	233.099					
	1535	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6005.083	85358.738	233.01					
		1号捨て場・2	ⅤB2j								
166		表採					胴部	Ⅰa3		撚糸R	
167	1306	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6000.738	85358.564	233.042	胴部	Ⅰa4		縄文Rヨコ	
	1319	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6001.635	85359.081	232.973					
168	194	1号捨て場・2	ⅤB3i	-6008.193	85352.605	233.202	胴部	Ⅰa1	壺		沈線
	394	1号捨て場・2	ⅤB3i	-6008.088	85352.987	233.14					
169	435	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6000.581	85359.95	233.115	胴部	Ⅰa11			
170	1563	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5999.815	85359.654	232.912	底部	Ⅰc			
171	690	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6000.905	85356.208	233.013	底部	Ⅰc2			
172		1号捨て場・2					底部	Ⅰc1			
173	855	1号捨て場・2	ⅣC10a	-5998.704	85360.835	233.149	底部～胴部	Ⅰa4	深鉢	縄文LR斜	
174	582	1号捨て場・2					底部	Ⅰc			
175	1342	1号捨て場・2	ⅣC9a	-5994.039	85360.501	232.803	底部	Ⅰc			
176	1374	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6002.507	85357.474	232.967	底部	Ⅰc			
177	639	1号捨て場・2	ⅤC1a	-6002.194	85359.739	232.995	底部	Ⅰc			
178	1304	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6000.275	85358.729	233.016	底部	Ⅰc			
179	1303	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6000.22	85358.657	233.031	底部	Ⅰc			
180	160	1号捨て場・2	ⅤC1a	-6001.779	85360.579	233.232	底部	Ⅰc			沈線
181	1002	1号捨て場・2	ⅣC10a	-5996.797	85360.359	233.018	底部	Ⅰc		無文	
182	1541	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5998.738	85358.641	233.059	底部	Ⅰc		無文	
183	1216	1号捨て場・2	ⅣC9a	-5992.237	85360.451	232.944	底部	Ⅰc		無文	

装　飾	手　法	胎　土	断面焼成	備　考
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	縄文→沈線・外面胴上部に楕円形黒斑　器高40.1cm　容量15.8ℓ
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	撚糸→沈線→ナデ
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	撚糸→沈線→ナデ
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	撚糸→ナデ
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	縄文→沈線→ナデ
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒中量	黒色層なし	
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	撚糸→ナデ
		砂粒中量	黒色層なし	器面磨耗
	磨消（ミガキ）	砂粒少量	黒色層中央(1/3)	縄文→沈線→ミガキ
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	試掘トレンチ
	磨消（ナデ）	砂粒微量	黒色層なし	内面コゲ付着
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	縄文→ナデ
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	縄文→沈線→ナデ
波状口縁		砂粒多量	黒色層中央(2/3)	器面磨耗
折り返し口縁	磨消（ナデ）	砂粒中量	黒色層中央(2/3)	縄文→ナデ
	磨消（ミガキ）	砂粒少量	黒色層なし	縄文→ミガキ
	磨消（ナデ）	砂粒中量	黒色層中央(2/3)	縄文→ナデ
	磨消（ナデ）	砂粒中量	黒色層なし	縄文→ナデ
		砂粒中量	黒色層なし	
	ナデ	砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
	ナデ	砂粒少量	黒色層なし	
	磨消（ナデ）	砂粒中量	黒色層中央(2/3)	縄文→ナデ
		砂粒少量	黒色層なし	外面スス・コゲ付着
	ナデ	砂粒少量	黒色層なし	
	ナデ	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
	ナデ	砂粒少量	黒色層なし	
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
	ナデ	砂粒中量	黒色層なし	
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	
		砂粒少量	黒色層なし	
		砂粒少量	黒色層なし	
		砂粒少量	黒色層なし	
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層内側(1/2)	縄文→ナデ
	磨消（ナデ）	砂粒中量	黒色層中央(2/3)	撚糸→ナデ
	磨消（ナデ）	砂粒中量	黒色層中央(2/3)	縄文→ナデ
	ミガキ	砂粒微量	黒色層中央(2/3)	
	ナデ	砂粒少量	黒色層なし	ミニチュア？
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	底面網代痕
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	底面木葉痕
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	底面網代痕　掲載No123・124と同一個体？
		砂粒中量	黒色層なし	底面網代痕
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒少量	黒色層なし	
		砂粒少量	黒色層なし	
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	底面網代痕？
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒少量	黒色層なし	
		砂粒中量	黒色層中央(1/3)	底面木葉痕

第4表　土器観察表（縄文～弥生）

掲載	注記	遺構・層位	グリッド	座標 X	座標 Y	座標 Z	残存部位	類型	器種	文様（地文）	線描
184	642	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5996.052	85358.428	232.933	胴部～底部	Ⅰc1		縄文LRタテ	
	535	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5996.32	85358.743	232.985					
185	468	1号捨て場・2	ⅣC10a	-5999.104	85360.77	233.23	胴部～底部	Ⅰc1		縄文LRタテ	
186	1545	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5999.736	85359.961	233.09	胴部～底部	Ⅰc		縄文LRタテ	
187		表採					胴部～底部	Ⅰc1		無文	
188	698	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6002.878	85357.116	233.191	底部	Ⅰc		無文	
189	1308	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6001.172	85358.469	232.89	底部	Ⅰc1		無文	
190	1191	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5992.313	85358.045	232.741	底部	Ⅰc1		無文	
191	810	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6002.379	85358.282	233.215	底部	Ⅰc1	深鉢	無文	
	494	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6002.961	85359.88	233.123		Ⅰc1			
192	1236	1号捨て場・2	ⅣC9a	-5992.624	85360.107	232.86	底部	Ⅰc1	深鉢	無文	
	1238	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5992.492	85359.526	232.821		Ⅰc1			
193	1019	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5998.346	85358.143	233.037	底部	Ⅰc1	深鉢	無文	
194	1164	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5993.357	85358.12	232.864	底部	Ⅰc	深鉢	無文	
	1278	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5993.807	85359.409	232.818					
195	444	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6006.516	85356.929	233.185	底部	Ⅰc1	深鉢	無文	
	1089	1号捨て場・2	ⅣC8a	-5991.533	85360.534	232.832	底部				
	1582	1号捨て場・2	ⅣB8j	-5991.881	85359.188	231.572	底部				
196	1236	1号捨て場・2	ⅣC9a	-5992.624	85360.107	232.86	底部	Ⅰc1	深鉢	無文	
197	765	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6005.013	85359.073	233.211	底部	Ⅰc1	深鉢	無文	
	778	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6005.445	85358.047	233.209	底部				
198		2号捨て場・1	ⅣD3g				口縁～胴部	Ⅰa7	壺		沈線・隆帯
			ⅣD4f								
199		2号捨て場・1	ⅣD3g				口縁～胴部	Ⅰa7	壺		沈線・隆帯
200		2号捨て場・1	ⅣD4h				口縁	Ⅰa1	深鉢		沈線
201		2号捨て場・1	ⅣD4g				口縁	Ⅰa1	深鉢		沈線
202		2号捨て場・1	ⅣD4g				口縁	Ⅰa7	深鉢		沈線・隆帯
203		2号捨て場・1	ⅣD4g				口縁	Ⅰa7			沈線・隆帯
204		2号捨て場・1	ⅣD4h				口縁	Ⅰa1			沈線
205		2号捨て場・3	ⅣD4h				口縁	Ⅰa1			沈線
206		2号捨て場・1	ⅣD4h				胴部	Ⅰa1	深鉢		沈線
207		2号捨て場・1	ⅣD3g				胴部	Ⅰa1			沈線
208		2号捨て場・1	ⅣD4h				胴部	Ⅰa1			沈線
209		2号捨て場・1	ⅣD4h				胴部	Ⅰa1			沈線
210		2号捨て場・1	ⅣD4h				胴部	Ⅰa1			沈線
211		2号捨て場・2	ⅣD3g				胴部	Ⅰa1	深鉢		沈線
212		2号捨て場・2	ⅣD3				胴部	Ⅰa1			沈線
213		2号捨て場・2	ⅣD3g				口縁	Ⅰa1	鉢		沈線
214		2号捨て場・2	ⅣD3g				口縁	Ⅰa7	深鉢		沈線・隆帯
215		2号捨て場・2	ⅣD3g				口縁	Ⅰa1	深鉢		沈線
216		2号捨て場・3	ⅣD3g				口縁	Ⅰa7	深鉢		沈線・隆帯
217		2号捨て場・3	ⅣD3h				口縁	Ⅰa1	深鉢		沈線
218		2号捨て場・3	ⅣD3h				胴部	Ⅰa1	鉢		沈線
219		2号捨て場・3	ⅣD3h				口縁	Ⅰa7	深鉢		沈線・隆帯
220		2号捨て場・3	ⅣD4h				口縁	Ⅰa1	深鉢		沈線文
221		2号捨て場・3	ⅣD3g				胴部	Ⅰa1	深鉢		沈線
222		2号捨て場・1	ⅣD4g				胴部	Ⅰa1			沈線
223		2号捨て場・1	ⅣD4g				口縁	Ⅰa1	深鉢		沈線
224		2号捨て場・3	ⅣD3h				口縁	Ⅰa1	深鉢		沈線
225		2号捨て場・3	ⅣD3h				胴部	Ⅰa1	浅鉢		沈線
226		2号捨て場・3	ⅣD3h				胴部	Ⅰa11	浅鉢		
227		2号捨て場・1	ⅣD4g				胴部	Ⅲ	深鉢	撚糸R？	
228		2号捨て場・1	ⅣD4g								
229		2号捨て場・1	ⅣD4h								
230		2号捨て場・1	ⅣD4h								
231		2号捨て場・1	ⅣD4g								
232		2号捨て場・1	ⅣD4g								
233		2号捨て場・1	ⅣD3g				口縁	Ⅰa1	深鉢		沈線
234		2号捨て場・1	ⅣD4h				口縁	Ⅰa7	深鉢		沈線・隆帯
235		2号捨て場・1	ⅣD3g				口縁	Ⅰa6	深鉢	縄文L?	沈線
236		2号捨て場・3	ⅣD3h				口縁	Ⅰa6	深鉢	縄文LRヨコ	沈線
237		2号捨て場・1	ⅣD				口縁	Ⅰa6	深鉢	縄文LRヨコ	沈線
238		2号捨て場・1	ⅣD4h				胴部	Ⅰa6	深鉢	縄文LRヨコ	沈線
239		2号捨て場・1	ⅣD4h				胴部	Ⅰa6		縄文Lヨコ	沈線
240		2号捨て場・1	ⅣD4g				胴部	Ⅰa6	深鉢	縄文LRヨコ	沈線
241		2号捨て場・1	ⅣD4g				胴部	Ⅰa4	深鉢	縄文LRヨコ	
242		2号捨て場・1	ⅣD4g				胴部	Ⅰa4	深鉢	縄文LR斜	
243		2号捨て場・1	ⅣD3g				胴部	Ⅰa3	深鉢	撚糸R	
244		2号捨て場・2	ⅣD3				胴部	Ⅰa3	深鉢	網目状撚糸文R	
245		2号捨て場・2	ⅣD3g				胴部	Ⅰa6		縄文LR圧痕	沈線
246		2号捨て場・2	ⅣD3g				口縁	Ⅰa4	深鉢	縄文LR圧痕	
247		2号捨て場・1	ⅣD4g				口縁	Ⅰa6	深鉢	縄文LRヨコ・LR圧痕	沈線
248		2号捨て場・2	ⅣD3g				口縁～胴部	Ⅰa6	深鉢	縄文LRヨコ	沈線
249		2号捨て場・2	ⅣD3g				口縁～胴部	Ⅰa6	深鉢	縄文LRヨコ	沈線
250		2号捨て場・3	ⅣD3h				口縁～胴部	Ⅰa8	深鉢	縄文Lタテ	沈線・隆帯
251		2号捨て場・3	ⅣD3g								
252		2号捨て場・3	ⅣD3h								
253		2号捨て場・2	ⅣD3g								
254		2号捨て場・3	ⅣD3h				口縁	Ⅰa8	深鉢	縄文LRヨコ	沈線・隆帯
255		2号捨て場・3	ⅣD3h				口縁	Ⅰa6	深鉢	縄文L?	沈線
256		2号捨て場・3	ⅣD3h				口縁	Ⅰa6	深鉢	縄文LRヨコ・LR圧痕	沈線
257		2号捨て場・3	ⅣD2h				口縁	Ⅰa6	深鉢	縄文LRヨコ	沈線
258		2号捨て場・3	ⅣD3h				口縁	Ⅰa6	深鉢	縄文LR？	沈線
259		2号捨て場・3	ⅣD3h				口縁	Ⅰa4	深鉢	縄文LRヨコ・LR圧痕	
260		2号捨て場・3	ⅣD3g				口縁	Ⅰa6	深鉢	縄文LRヨコ	沈線
261		2号捨て場・3	ⅣD3h				口縁	Ⅰa4	深鉢	縄文Lタテ・L圧痕	
262		2号捨て場・3	ⅣD3h				口縁～胴部	Ⅰa11	深鉢		
263		2号捨て場・3	ⅣD3h				胴部	Ⅰa5	深鉢	撚糸L	沈線
264		2号捨て場・3	ⅣD4h				胴部	Ⅰa6	深鉢	縄文Lヨコ・L圧痕	沈線

装　飾	手　法	胎　土	断面焼成	備　考
		砂粒中量	黒色層中央(1/3)	底面木葉痕
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	底面木葉痕　底部ナデ
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	底部ナデ
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	底面木葉痕
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	底面木葉痕
		砂粒少量	黒色層外側(1/3)	底面木葉痕
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	底面木葉痕
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	底面木葉痕
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	底面木葉痕
		砂粒多量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	底面木葉痕
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	底面木葉痕
隆帯による波状口縁の強調	磨消（ミガキ）	砂粒少量	黒色層なし	沈線区画→ミガキ→隆帯→ナデ？
波状口縁・外面赤彩	ミガキ	砂粒少量	黒色層なし	外面赤彩部が一部黒色化
口唇に刻目	ナデ	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
口唇に刻目・外面赤彩	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	沈線→ナデ
隆帯上に刺突	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	沈線・隆帯→ナデ
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
隆帯上に刺突	ケズリ	砂粒少量	黒色層なし	ケズリ→沈線→隆帯
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	沈線→ナデ
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	沈線→ナデ
	磨消（ナデ）	砂粒微量	黒色層なし	沈線→ナデ
刺突	磨消（ミガキ）	砂粒中量	黒色層なし	沈線・刺突→ミガキ
	ナデ	砂粒少量	黒色層なし	
	磨消（ミガキ）	砂粒微量	黒色層なし	天地逆？沈線→ミガキ
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	沈線→ナデ
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	沈線→ナデ
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	沈線→ナデ
隆帯上に刺突・波状口縁	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	沈線・隆帯→刺突→ナデ
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	沈線→ナデ
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	沈線・隆帯→ナデ
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	沈線→ナデ
	磨消（ナデ）	砂粒微量	黒色層なし	沈線→ナデ
隆帯上に刺突	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	沈線・隆帯→ナデ
口縁肥厚	磨消（ナデ）	砂粒微量	黒色層なし	沈線→ナデ
	磨消（ナデ）	砂粒微量	黒色層中央(2/3)	沈線→ナデ
外面赤彩？	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層内側(2/3)	6号トレンチ
沈線区画内に斜めに刺突	磨消（ナデ）	砂粒中量	黒色層なし	沈線→ナデ
		砂粒微量	黒色層中央(2/3)	器面磨耗
		砂粒少量	黒色層なし	器面磨耗
突起	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	器面磨耗
刺突	磨消（ナデ）	砂粒中量	黒色層なし	後北A式の影響を受けた在地系弥生土器
波状口縁	磨消（ナデ）	砂粒中量	黒色層なし	
刺突・波状口縁		砂粒少量	黒色層なし	
	磨消（ナデ）	砂粒微量	黒色層中央(2/3)	縄文→沈線→ナデ
	磨消（ナデ）	砂粒中量	黒色層中央(2/3)	縄文→沈線→ナデ
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	縄文→沈線→ナデ
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	縄文→沈線
		砂粒少量	黒色層なし	縄文→沈線
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	縄文→沈線
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
刺突	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	沈線→縄文圧痕→刺突→ナデ
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
刺突・波状口縁	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	縄文→沈線→ナデ
		砂粒少量	黒色層なし	縄文→沈線
刺突	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	縄文→沈線→ナデ
隆帯上に刻目	磨消（ナデ）	砂粒中量	黒色層なし	縄文→沈線・隆帯→刻目→ナデ
刺突	磨消（ナデ）	砂粒中量	黒色層なし	縄文→沈線・隆帯→刺突→ナデ
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	縄文→沈線→ナデ
波状口縁	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	縄文→沈線→ナデ
	磨消（ナデ）	砂粒中量	黒色層なし	縄文→沈線→ナデ
		砂粒中量	黒色層なし	器面磨耗
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	
		砂粒少量	黒色層なし	
刺突	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	10号土坑出土掲載No.19と同一個体？
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	

第4表　土器観察表（縄文～弥生）

掲載	注記	遺構・層位	グリッド	座標 X	座標 Y	座標 Z	残存部位	類型	器種	文様（地文）	線描
265		2号捨て場・3	ⅣD3h				胴部	Ⅰa3	深鉢	網目状撚糸R	
266		2号捨て場・3	ⅣD3h				胴部	Ⅰa3	深鉢	網目状撚糸	
267		2号捨て場・3	ⅣD3g				胴部	Ⅰa4	深鉢	縄文LRタテ	
268		2号捨て場・3	ⅣD3g				胴部	Ⅰa4	深鉢	縄文LRタテ	
269		2号捨て場・1	ⅣD				胴部～底部	Ⅰa4		縄文LRタテ	
270		2号捨て場・1	ⅣD4h				底部	Ⅰc2			
271		2号捨て場・2	ⅣD3g				底部	Ⅰc2			
272		2号捨て場・1	ⅣD4h				底部	Ⅰc2	深鉢		
273		2号捨て場・3	ⅣD3h				底部	Ⅰc2	深鉢	縄文LRタテ	
274		2号捨て場・3	ⅣD3h				底部	Ⅰc2			
275		2号捨て場・3	ⅢD4h				胴部～底部	Ⅰc2		縄文LRタテ	
276		2号捨て場・3	ⅣD3h				底部	Ⅰc2	深鉢		
277		2号捨て場・3	ⅣD3h				胴部～底部	Ⅰc2	深鉢		
278		2号捨て場・1	ⅣD4h				胴部～底部	Ⅰc2	深鉢		沈線
279		2号捨て場・1	ⅣD4h				底部	Ⅰc1	深鉢		
280		2号捨て場・3	ⅣD3h				底部	Ⅰc1	深鉢		
281		2号捨て場・2	ⅣD3g				胴部～底部	Ⅰc1	深鉢	縄文LRタテ	
282		2号捨て場・1	ⅣD10h				底部	Ⅰc			
283		2号捨て場・3	ⅣD3h				底部	Ⅰc			
284		2号捨て場・2	ⅣD3g				胴部～底部	Ⅰc1	深鉢	網目状撚糸文	
285		2号捨て場・2	ⅣD3i				底部	Ⅰc			
286		2号捨て場・2	ⅣD3g				底部	Ⅰc			
287		2号捨て場・3	ⅣD3h				底部	Ⅰc1			
288		Ⅱ	ⅢD10f				口縁	Ⅰa1			沈線
289		Ⅱ	ⅢD10g				口縁	Ⅰa1			沈線
290		Ⅱ	ⅣD1h				口縁	Ⅰa1			沈線
291		Ⅱ	ⅣD1g				胴部	Ⅰa1			沈線
292		Ⅱ	ⅢD10f				胴部	Ⅰa6		縄文LRタテ？	沈線
293		Ⅱ	ⅣD2g				胴部	Ⅰa1			沈線
294		Ⅱ	ⅣD1g				口縁	Ⅰa6		縄文L	沈線
295		Ⅱ	ⅢD10f				口縁	Ⅰa1			沈線
296		Ⅱ	ⅣD1h				口縁	Ⅰa4		縄文L（0段多条）	
297		Ⅱ	ⅢD10g				胴部	Ⅰa6		縄文LRヨコ	沈線
298		Ⅱ	ⅢD8i				胴部	Ⅰa6		縄文R	沈線
299		Ⅱ	ⅢD9h				口縁	Ⅰa6		縄文IRヨコ	沈線
300		Ⅱ	ⅢD10g				口縁～胴部	Ⅰa6		縄文IRヨコ	沈線
301		Ⅱ	ⅢD10g				口縁～胴部	Ⅰa4	深鉢	縄文LR圧痕・LRタテ	
302		Ⅱ	ⅢD10g				口縁	Ⅰa6		縄文IRヨコ	沈線
303		Ⅱ	ⅢD9i				口縁	Ⅰa4		縄文R	
304		Ⅱ	ⅢD10g				胴部	Ⅰa4	深鉢	縄文LRタテ	
305	1630	Ⅱ	ⅢD10h	-5956.597	85430.124	231.622	略完形	Ⅰa4	深鉢	縄文RLタテ・ヨコ	
306		Ⅱ	ⅣD3i				胴部	Ⅰa4		結節縄文LRタテ・ヨコ	
307		Ⅱ	ⅢD10				胴部	Ⅰa6		縄文LR斜	沈線
308		Ⅱ	ⅣD1h				胴部	Ⅰa12	深鉢	撚糸文？	
309		Ⅱ	ⅢD10f				底部	Ⅰc1	深鉢		
310		C区・7	ⅡE9f				口縁～胴部	Ⅰa8	深鉢	縄文LRタテ	沈線・隆帯
311		Ⅱ	ⅢD10h				口縁～胴部	Ⅰa1	深鉢		沈線
312	117	C区・7	ⅢE4b	-5934.489	85447.341	230.339	口縁	Ⅰa1	深鉢		沈線
313	460	Ⅱ	ⅤB				口縁	Ⅰa4	深鉢	縄文LRヨコ	
	749	Ⅱ	ⅤB								
314	49	C区・7	ⅢE2b	-5926.951	85447.617	230.516	口縁	Ⅰ	深鉢	縄文Lヨコ	
315	41	C区・7	ⅢE3b	-5930.032	85446.178	230.614	口縁	Ⅰ		縄文LRヨコ	沈線
316	26	C区・7	ⅢE3d	-5930.891	85452.374	230.511	口縁	Ⅰ		縄文LR圧痕	
317	19	C区・7	ⅢE3d	-5929.145	85455.151	230.113	口縁	Ⅰ		縄文LRヨコ	沈線
318		C区・7	ⅢE				口縁	Ⅰ	深鉢	縄文RLヨコ	
319		C区・7	ⅢE				口縁	Ⅰ	深鉢	縄文RLヨコ	
320		C区・7	ⅢE				口縁～胴部	Ⅰ	深鉢	縄文LR圧痕・LRヨコ	
321	9	C区・7	ⅢE1c	-5921.227	85449.255	230.142	口縁～胴部	Ⅱ	深鉢	縄文LRヨコ・斜　網目状撚糸文	沈線
322	118	C区・7	ⅢE4b	-5934.691	85447.054	230.488	胴部	Ⅱ	壺		沈線文
323	111	C区・5	ⅡE7f	-5904.055	85463.774	229.378	底部	Ⅱ			
324	5	C区・7	ⅡE8f	-5914.414	85462.553	229.373	底部	Ⅱ	深鉢	縄文LRタテ	
	6	C区・7	ⅡE9f	-5919.223	85460.685	229.852					
325	46	C区・5	ⅢE2b	-5926.821	85447.662	230.563	胴部	Ⅱ	壺	縄文LRヨコ	沈線文
	47	C区・5	ⅢE2b	-5926.808	85447.712	230.529					
326	42	C区・7	ⅢE3b	-5931.327	85447.85	230.559	底部	Ⅱ			

装　飾	手　法	胎　土	断面焼成	備　考
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	撚糸→ナデ
		砂粒少量	黒色層内側(1/2)	原体蔓性植物？・器面磨耗
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	底面網代痕
		砂粒少量	黒色層なし	底面網代痕
		砂粒中量	黒色層外側(1/3)	底面網代痕
		砂粒少量	黒色層なし	試掘トレンチ出土
	磨消（ナデ）	砂粒中量	黒色層なし	底面網代痕
		砂粒多量	黒色層中央(2/3)	底面網代痕
	磨消（ナデ）	砂粒少量・金雲母微量	黒色層なし	底面網代痕　　縄文→磨消
		砂粒多量	黒色層中央(1/3)	底面網代痕
		砂粒多量	黒色層なし	底面網代痕？底面に黒斑
		砂粒中量	黒色層なし	試掘トレンチ出土・底面網代痕
		砂粒中量	黒色層なし	底面木葉痕
		砂粒少量	黒色層なし	底面木葉痕・内底面コゲ付着
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	底面木葉痕
		砂粒中量	黒色層なし	底面木葉痕？
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	底面木葉痕？
		砂粒少量	黒色層中央(1/3)	底面木葉痕
		砂粒少量	黒色層なし	
		砂粒多量	黒色層なし	
		砂粒多量	黒色層中央(1/3)	底面木葉痕（笹）
波状口縁	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	内外面コゲ
		砂粒少量	黒色層なし	
		砂粒中量	黒色層なし	
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	
		砂粒少量	黒色層なし	
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	
		砂粒中量	黒色層なし	
	磨消（ナデ）	砂粒中量	黒色層なし	
	磨消（ナデ）	砂粒中量	黒色層なし	
	磨消（ナデ）	砂粒多量	黒色層中央(2/3)	
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
	磨消（ナデ）	砂粒中量	黒色層中央(2/3)	文様施文→ナデ
		砂粒少量	黒色層なし	
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	文様施文→ナデ
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
波状口縁		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	口縁部にオキ接触黒斑　器高38.2cm　容量10.4ℓ
		砂粒多量	黒色層中央(2/3)	
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層なし	文様施文→ナデ
	磨消（ミガキ）	砂粒少量	黒色層なし	文様施文→ミガキ
		砂粒多量	黒色層中央(2/3)	底面木葉痕
	磨消（ミガキ）	砂粒中量	黒色層中央(2/3)	試掘トレンチ　文様施文→ミガキ
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
	磨消（ミガキ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	文様施文→ミガキ
		砂粒中量	黒色層なし	
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
	磨消（ミガキ）	砂粒少量	黒色層なし	
	磨消（ナデ）	砂粒少量	黒色層中央(2/3)	
円形刺突		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	試掘トレンチ
		砂粒中量	黒色層なし	試掘トレンチ
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	試掘トレンチ
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	晩期粗製土器
刺突		砂粒微量	黒色層中央(2/3)	大洞Ａ式
		砂粒少量	黒色層中央(1/3)	
		砂粒中量	黒色層中量(2/3)	
		砂粒中量	黒色層中央(2/3)	晩期　壺形
		砂粒少量	黒色層中央(2/3)	晩期

第５表　土製品・粘土塊観察表

掲載	器　種	注記	遺構・層位	グリッド	出土位置 x	出土位置 y	出土位置 z	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備　考
401	腕輪型土製品	1004	1号捨て場・2	ⅣC10a	-5997.538	85360.535	233.027	4.26	004.67	1.80	29.42	無文
402	腕輪型土製品	一括	1号捨て場・2	ⅤB2f				6.25	4.80	1.50	35.62	無文
403	腕輪型土製品	1353	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5996.441	85359.124	232.904	5.55	4.78	3.18	57.66	無文
404	腕輪型土製品	1250	1号捨て場・2	ⅣC9a	-5992.288	85360.454	232.857	4.01	6.01	2.21	36.63	無文
405	腕輪型土製品	一括	B区Ⅱ層	ⅣD1f				4.81	8.35	3.44	79.10	無文
406	土偶	1400	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6000.544	85359.007	232.989	2.90	2.22		6.40	無文・脚部
407	鐸形土製品	649	1号捨て場・2	ⅣB8j	-5991.721	85358.992	232.802	4.33	3.03		19.40	無文
408	鐸形土製品		B区表採					5.71	4.37		23.25	無文
409	鐸形土製品	645	1号捨て場・2	ⅣC9a	-5995.859	85361.076	233.066	4.93	4.62		41.32	沈線文、円形文
410	鐸形土製品	1375	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6001.585	85358.818	233.006	4.69	3.85		32.75	沈線文
411	鐸形土製品	644	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6002.112	85359.441	233.083	3.91	4.26		43.79	沈線文
412	鐸形土製品	1277	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5993.758	85359.516	232.886	3.24	3.11		9.00	沈線文、列点文
413	ミニチュア	1609	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6004.724	85359.05	232.97	3.12	2.61	0.34	2.76	沈線文・胴部
414	ミニチュア	一括	2号捨て場・1	ⅣD4g				3.59	3.13	0.50	6.48	沈線文・口縁部
415	ミニチュア	一括	10号土坑埋土	ⅢD10f				2.40	3.50	0.48	5.51	沈線文・口縁部
416	ミニチュア	一括	2号捨て場・3	ⅣD3h				3.60	2.82	0.58	6.73	沈線文・口縁部
417	円盤型土製品	243	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6003.08	85359.775	233.179	2.61	4.58	0.67	9.27	
418	円盤型土製品	416	1号捨て場・2	ⅤB1i	-6000.698	85355.452	232.998	4.38	4.37	0.74	19.64	
419	円盤型土製品	1307	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6000.778	85358.591	233.066	3.82	3.97	0.77	14.31	
420	円盤型土製品		2号捨て場・3	ⅣD4g				3.28	3.39	0.87	10.48	試掘トレンチ
421	円盤型土製品	674	1号捨て場・2	ⅤB1i	-6002.687	85353.845	233.022	3.33	3.64	0.79	11.44	
422	円盤型土製品		2号捨て場・1	ⅣD4f				2.89	3.11	0.82	8.60	
423	円盤型土製品		B区表採					2.55	2.50	0.64	5.26	
424	粘土塊		51号柱穴（5号掘立）	ⅤB5f				7.45	7.35	4.25	153.26	写真掲載のみ
425	粘土塊		51号柱穴（5号掘立）	ⅤB5f				4.65	4.64	3.60	38.54	写真掲載のみ

第６表　石器観察表

掲載	器　種	注記	遺構・層位	グリッド	出土位置 X	出土位置 Y	出土位置 Z	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石　材	先端角	類型	遺存
501	石鏃07		1号捨て場・2	ⅤB1j				1.83	1.26	0.33	0.52	Ag	46	B	10
502	石鏃05	1606	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5999.177	85358.678	232.719	1.86	1.24	0.30	0.53	Ag	81	B	4
503	石鏃04		1号捨て場・2	ⅣC9c				1.86	1.08	0.38	0.48	Sh	53	B	20
504	石鏃33		2号捨て場・2	ⅣD3g				2.08	1.54	0.64	1.26	Ag	55	B	20
505	石鏃13		1号捨て場・1	ⅣC8d				2.47	1.09	0.42	0.87	Sh	34	A	10
506	石鏃24		2号捨て場・1	ⅣD4g				3.00	1.64	0.48	1.53	Sh	65	A	20
507	石鏃03		1号捨て場・1	ⅤB2h				2.26	1.27	0.48	0.75	Sh	54	A	20
508	石鏃25		2号捨て場・1	ⅣD4h				2.82	2.11	0.60	3.14	Ag		B	21
509	石鏃15		Ⅱ	ⅣC9e				2.35	1.22	0.38	0.87	Sh	47	D	5
510	石鏃35		2号捨て場・3	ⅣD3g				3.18	1.60	0.49	1.89	Sh	86	B	20
511	石鏃36		2号捨て場・3	ⅣD3h				2.20	1.75	0.58	1.32	Ag	50	B	5
512	石鏃32		2号捨て場・2	ⅣD3g				2.65	1.61	0.64	1.87	Sh	88	C	20
513	石鏃06	978	Ⅱ	ⅣC10a	-5997.712	85360.521	233.033	1.71	1.51	0.42	1.13	Sh	102	B	5
514	石鏃30		2号捨て場・1	ⅣD4g				1.84	1.32	0.30	0.51	Sh		Fb	8
515	石鏃44		2号捨て場・3	ⅣD3h				2.13	1.31	0.30	0.54	Sh	37	Fb	9
516	石鏃43		2号捨て場・3	ⅣD3h				2.42	1.47	0.40	0.90	Sh		Fa	9
517	石鏃18	378	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6004.659	85358.309	233.201	2.01	1.54	0.85	2.04	Sh	65	Fc	20
518	石鏃29		Ⅱ	ⅢD10h				2.74	1.73	0.78	3.26	Sh	73	H	20
519	石鏃45		2号捨て場・3	ⅣD4h				4.07	1.15	0.56	2.59	Sh	25	E	20
520	石鏃21	976	1号捨て場・2	ⅣC10a	-5998.33	85360.724	233.142	1.89	1.64	0.60	1.67	Sh		E	10
521	石鏃34		2号捨て場・2	ⅣD2h				2.43	1.95	0.52	2.40	Ch	62	E	20
522	石鏃02		10号土坑・2	ⅢD10f				2.55	1.83	0.66	2.32	Ag	88	E	20
523	石鏃41		2号捨て場・3	ⅣD4h				1.71	1.30	0.26	0.57	Sh	72	H	20
524	石鏃01		137号柱穴・底面	ⅣC6d				1.37	1.69	0.45	0.67	Sh		H	11
525	石鏃23	175	1号捨て場・2	ⅤC1a	-6002.004	85360.541	233.228	2.46	1.57	0.52	1.71	Sh	70	H	20
526	石鏃22	459	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6006.093	85359.593	233.218	2.16	1.41	0.34	1.01	Sh	80	H	20
	石鏃08		1号捨て場・2	ⅤB1j				1.82	0.94	0.45	0.44	Sh	53	B	18
	石鏃09		1号捨て場・2	ⅣB10i				1.93	1.67	0.64	1.83	Sh	123	B	4
	石鏃10		1号捨て場・1	ⅤB2h				2.11	1.23	0.41	0.54	Sh	52	B	20
	石鏃11		1号捨て場・1	ⅣB9j				1.63	1.05	0.36	0.48	Sh	54	A	10
	石鏃12		1号捨て場・1	ⅣC9b				1.28	1.13	0.30	0.30	Sh		B	14
	石鏃14		1号捨て場	ⅤB1j				1.35	0.81	0.27	0.29	Sh		C	7
	石鏃16		1号捨て場・2	ⅣC10a				1.38	1.15	0.43	0.58	Sh	69	E	20
	石鏃17		1号捨て場	ⅣB10j				1.52	1.69	0.42	1.10	Sh		E	11
	石鏃19		1号捨て場・2	ⅤB1j				1.91	1.64	1.72	1.61	Ag	62	H	4
	石鏃20		1号捨て場	ⅤB2j				1.78	1.28	0.44	1.37	Sh		H	17
	石鏃26		2号捨て場・1	ⅣD4g				1.84	1.43	0.65	1.29	Ag	95	A	20
	石鏃27		2号捨て場・1	ⅣD1g				1.64	1.11	0.33	0.53	Sh		Fb	9
	石鏃28		2号捨て場・1	ⅣD1g				2.41	1.15	0.26	0.50	Ag	49	A	18
	石鏃31		2号捨て場・1	ⅣD3g				1.69	1.07	0.35	0.32	Sh	40	Fb	20
	石鏃37		2号捨て場・3	ⅣD3h				1.45	1.23	0.35	0.55	Sh		B	8
	石鏃38		2号捨て場・3	ⅣD3h				1.74	1.39	0.36	0.45	Ag	40	B	3
	石鏃39		2号捨て場・3	ⅣD3h				1.65	1.24	0.33	0.45	Sh	88	B	7
	石鏃40		2号捨て場・3	ⅣD3g				2.27	1.52	0.56	1.38	Sh	92	A	3
	石鏃42		2号捨て場・3	ⅣD4h				2.35	1.68	0.90	3.10	Ag	126	H	20
	石鏃46		表採					1.14	1.23	0.31	0.41	Ag	77	X	1
	石鏃47		表採					1.44	0.85	0.21	0.21	Sh	70	A	20
527	錐01		1号捨て場・2	ⅤB1j				3.01	2.25	1.11	8.38	Sh		1	
528	錐02		2号捨て場・1	ⅣD3g				2.58	1.36	0.62	1.75	Sh		2	
529	石匙01		43号柱穴	ⅤB4g				2.61	2.39	0.95	5.25	Sh			
530	石匙03		2号捨て場・2	ⅣD2i				3.35	5.97	1.01	12.89	Sh		1	
531	石匙02	521	1号捨て場・2	ⅤB1j	-6000.823	85358.672	233.067	5.00	3.87	0.97	11.17	Sh		3	
532	石匙04		2号捨て場・3	ⅣD4h				3.98	3.92	0.70	9.52	Sh		1	
	石匙05	944	1号捨て場・2	ⅣC9a	-5992.914	85361.826	233.085	2.65	3.24	0.87	5.08	Sh			
533	掻器03	566	1号捨て場・2	ⅣC8a	-5990.45	85360.927	232.959	3.36	2.96	1.03	10.64	Sh			

第6表　石器観察表

掲載	器種	注記	遺構・層位	グリッド	出土位置 X	出土位置 Y	出土位置 Z	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石材	先端角	類型	遺存
534	掻器05		1号捨て場・2	ⅣC10a				3.32	2.91	1.22	11.44	Sh			
535	掻器10		2号捨て場・3	ⅣD3h				4.38	3.97	1.60	23.06	Sh			
536	掻器08		2号捨て場・2	ⅣD3g				3.70	2.56	0.89	8.64	Ch			
537	掻器11		2号捨て場・3	ⅣD3h				4.30	5.12	1.51	23.50	Ch			
538	掻器01		10号土坑・2	ⅢD10f				2.79	2.68	0.88	5.33	Sh			
539	掻器07		2号捨て場・1	ⅣD4g				6.55	8.58	1.50	43.65	Sh			
	掻器02		1号捨て場・2	ⅣB10j				2.91	4.14	1.34	18.13	Sh			
	掻器04		1号捨て場・2	ⅣC9b				3.92	2.46	0.79	9.91	Sh			
	掻器06		2号捨て場・1	ⅣD3h				3.21	4.03	1.78	18.99	Ag			
	掻器09		2号捨て場・1	ⅣD3g				3.34	2.30	0.69	4.62	Sh			
	掻器12		2号捨て場・1	ⅣD3h				2.10	2.62	0.50	2.58	Sh			
540	削器01		5号土坑	ⅣC9a				2.43	5.13	1.23	13.29	Sh			
541	削器02		5号土坑	ⅣC9a				2.75	3.14	0.65	5.42	Sh			
542	削器07	972	1号捨て場・2	ⅤC1a	-6002.766	85360.277	233.087	3.91	5.88	1.40	20.44	Sh			
543	削器13		2号捨て場・1	ⅣD3g				3.74	1.83	0.62	3.17	Sh			
544	削器06	979	1号捨て場・2	ⅣC10a	-5997.505	85360.254	233.027	4.40	4.15	1.36	18.35	Sh			
545	削器15		2号捨て場・2	ⅣD3g				3.65	2.85	1.00	8.04	Sh			
546	削器12		2号捨て場・1	ⅣD4g				4.48	4.08	1.13	18.99	Sh			
547	削器08	458	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6006.492	85359.574	233.225	4.40	4.47	0.71	9.73	Sh			
548	削器16		2号捨て場・4層	ⅣD3g				4.42	2.99	1.22	11.68	Sh			
549	削器09	1287	1号捨て場・2	ⅣB8j	-5991.658	85358.87	232.778	4.11	4.02	1.34	13.42	Sh			
	削器03	990	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5995.639	85357.169	232.688	4.53	4.94	1.55	34.20	Sh			
	削器04	984	1号捨て場・2	ⅣC9a	-5992.315	85360.584	232.882	1.58	2.17	0.55	2.29	Sh			
	削器05	529	1号捨て場・2	ⅣC10a	-5999.291	85361.939	233.303	4.11	3.95	0.90	6.35	Sh			
	削器10	1587	1号捨て場・2	ⅤB2d	-6005.184	85334.24	231.806	4.44	3.71	1.56	17.32	Sh			
	削器11		Ⅱ	ⅢD10h				4.57	3.41	1.21	14.37	Sh			
	削器14		2号捨て場・1	ⅣD4g				4.20	3.03	0.90	10.05	Sh			
	削器17		2号捨て場・3	ⅣD3h				4.89	1.90	1.16	9.99	Sh			
550	楔形石器02		1号捨て場・2	ⅣC8d				3.08	2.70	0.94	7.98	Sh			
551	楔形石器03		Ⅱ	ⅣD1f				2.38	1.82	0.84	2.73	Sh			
552	楔形石器06		2号捨て場・2	ⅣD3g				2.67	1.97	1.05	5.61	Sh			
553	楔形石器09		2号捨て場・3	ⅣD3g				3.45	2.30	0.97	8.25	Sh			
554	楔形石器08		2号捨て場・3	ⅣD3h				2.77	2.78	0.98	8.00	Sh			
555	楔形石器01	495	1号捨て場・2	ⅤC1a	-6002.856	85360.03	233.126	1.73	1.13	0.52	1.05	Sh			
	楔形石器04		Ⅱ	ⅣD1f				2.81	2.95	1.13	7.78	Sh			
	楔形石器05		2号捨て場・1	ⅣD3h				4.20	2.66	1.43	12.97	Sh			
	楔形石器07		2号捨て場・Ⅱ	ⅣD3g				2.64	2.01	1.15	5.21	Sh			
	楔形石器10		2号捨て場・3	ⅣD4g				1.86	1.90	0.56	2.09	Sh			
556	三稜石器01		表採					1.88	1.46	0.56	1.04	Sh			
	石核01	376	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6005.621	85358.252	233.173				10.52	Sh			
	石核02	959	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6006.463	85359.846	233.166				13.55	Sh			
	石核03		1号捨て場・2	ⅣC10a							7.52	Sh			
	石核04		Ⅱ	ⅢD10h							3.07	Sh			
	石核05		2号捨て場・1	ⅣD4g							11.81	Sh			
	剥片		1号捨て場・2	ⅣC8d							0.69	深浦産Ob			
	砕片	515	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6005.116	85357.359	233.211				0.07	湯ノ倉産Ob			
557	磨製石斧03		2号捨て場・3	ⅣD3h				(3.87)	3.13	2.34	33.29	Dio			
558	磨製石斧06	654	1号捨て場・2	ⅤB1i	-6000.614	85354.767	232.857	(5.45)	4.41	2.19	70.19	Dio			
559	磨製石斧01	650	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5993.173	85358.576	232.884	(8.78)	4.50	2.81	194.46	S.S			
560	磨製石斧05	1586	Ⅱ	ⅤB1f	-6003.004	85341.881	231.966	(6.19)	4.69	2.41	118.69	Dio			
561	磨製石斧02	652	1号捨て場・2	ⅣB10j	-5996.375	85357.8	232.863	(8.30)	4.57	2.40	154.58	Dio			
562	磨製石斧04		2号捨て場・3	ⅣD3h				(10.85)	6.70	3.73	445.28	An			
	磨製石斧07		墓碑集中区	ⅤC9c				8.78	4.89	2.79	200.20				
564	敲石01	1515	1号捨て場・2	ⅤB3h	-6008.563	85351.901	233.075	9.95	6.73	5.24	435.59	Sch			
565	凹石01	657	1号捨て場・2	ⅣC10a	-5999.614	85361.242	233.266	16.70	5.45	3.67	485.48	Sch			
563	磨石01		6号土坑	ⅣB10j				11.35	5.68	2.53	262.52	An	B		
566	磨石04	1100	1号捨て場・2	ⅣC7d	-5986.904	85373.188	233.114	10.79	9.42	4.01	655.26	S.S	D		
567	磨石07	1509	1号捨て場・2	ⅤB2j	-6004.522	85357.959	233.05	9.04	7.31	3.37	334.02	S.S	D		
568	磨石09		Ⅱ	ⅢD10h				9.81	9.23	4.53	615.63	An	D		
569	磨石06		1号捨て場・2	ⅤB1i				(8.08)	(5.34)	2.31	154.33	S.S	D		
570	磨石08		Ⅱ	ⅢD9h				8.62	6.78	4.45	372.47	An	D		
571	磨石02	651	1号捨て場・2	ⅣB9j	-5993.605	85357.569	232.799	10.06	7.10	3.56	367.23	S.S	D		
	磨石03		1号捨て場・2	ⅣB9j				(2.56)	(5.59)	(2.31)	47.71	S.S	D		
	磨石05		1号捨て場・2					(3.25)	(2.67)	(3.68)	36.95	S.S	D		

第７表　陶器観察表

掲載	器　種	注記	遺構・層位	グリッド	出土位置			備　考
					x	y	z	
601	皿		Ⅰb	ⅤC9c				産地：唐津16世紀後半　口径：12.0cm
602	鉢	368	Ⅱ	ⅣB10h	-5998.771	85350.695	232.941	産地：在地系19世紀前半
603	碗	437	Ⅱ	ⅣB10j	-5996.056	85356.095	233.04	産地：在地系19世紀前半
604	菊花皿		Ⅰb	ⅣC8d				産地：唐津16世紀後半　口径：9.8cm
605	碗	932	Ⅱ	ⅣC9a	-5993.797	85360.046	232.938	産地：在地系19世紀前半
606	擂鉢	364	Ⅰb	ⅣB10i	-5998.35	85352.208	232.941	産地：瀬戸・美濃19世紀前半
607	皿	385	Ⅱ	ⅤB1h	-6000.099	85350.289	232.909	産地：唐津16世紀後半　底径：4.2cm
608	腰折碗	662	51号柱穴	ⅤB5g	-6017.075	85343.288	232.907	産地：相馬系19世紀前半
609	皿		20号柱穴	ⅤB5e				産地：在地系19世紀前半　文様：菊花文

第８表　金属器観察表

掲載	器　種	注記	遺構・層位	グリッド	出土位置			長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備　考
					x	y	z					
701	鉄釘		Ⅰb	ⅤB1h				7.11	1.26	0.56	14.38	
702	火打ち金	648	50号柱穴	ⅤB5f	-6016.47	85342.892	232.873	2.37	4.99	0.50	14.60	両端欠損
703	環状鉄製品	646	62号柱穴	ⅤB4e	-6013.315	85338.613	232.988	4.00	4.06	0.43	14.87	
704a	銅製煙管（雁首）		5号土坑	ⅣC8a				6.61			9.77	
704b	銅製煙管（吸口）		5号土坑	ⅣC8a				6.78			5.72	
705	銅銭（新寛永）		5号土坑	ⅣC8a				2.46			3.43	
706	銅銭（古寛永）		5号土坑	ⅣC8a				2.46			3.88	
707	銅銭（新寛永）		5号土坑	ⅣC8a				2.37			2.28	
708	銅銭（新寛永）		5号土坑	ⅣC8a				2.54			3.10	
709	銅銭（新寛永）		5号土坑	ⅣC8a				2.30			2.04	
710	銅銭（新寛永）		5号土坑	ⅣC8a				2.33			2.25	
711	銅銭（古寛永）		5号土坑	ⅣC8a				2.42			2.46	
712	銅銭（古寛永）		5号土坑	ⅣC8a				2.45			2.04	
713	銅銭（文銭）		5号土坑	ⅣC8a				2.54			6.12	2枚重ね
714	銅銭（新寛永）		表採					2.31			2.23	
715	銅銭（新寛永）	659	21号柱穴	ⅤB5f	-6018.365	85340.248	232.914	2.34			2.10	
716	銅銭（新寛永）	661	21号柱穴	ⅤB5e	-6017.846	85339.538	232.85	2.33			2.87	
717	銅銭（古寛永）	898	44号柱穴	ⅤB4e	-6015.561	85339.842	232.764	2.41			2.52	
718	銅銭（新寛永）		Ⅰb	ⅤB4e				2.32			2.27	
719	銅銭（新寛永）		C区試掘					2.31			2.95	
720	銅銭（永樂通宝）		132号柱穴底面	ⅣB10i				2.12			1.11	
721	銅銭（新寛永）		64号柱穴	ⅤB5f				2.29			2.00	
722	鉄銭		Ⅱ	ⅤB1i				1.95			1.02	
723	鉄銭		Ⅰb	ⅣB9j				2.58			1.91	
724	鉄銭		Ⅱ	ⅣC9a				2.74			5.55	
725	鉄銭		Ⅱ	ⅤB1j				2.27			3.87	

Ⅴ まとめ

1 遺　　構

(1) 掘立柱建物跡

9棟検出し、縄文時代2棟、中・近世以降6棟、時期不明1棟を検出した。

縄文時代の掘立柱建物跡は、近世以降の掘立柱建物跡に比べると、柱穴規模が大きく深い。8・9号掘立柱建物跡は4本柱で構成され、平面形は正方形ないしは長方形を呈する。いずれも柱痕跡が確認でき、底面には敷石が見られた。本遺跡では竪穴住居跡が発見されなかったが、8号掘立柱建物跡は1号捨て場と、9号掘立柱建物跡は2号捨て場に近接している。柱穴底面から出土した土器は胴部破片ではあるが、胎土・焼成の点で捨て場出土土器と類似しており、所属時期は縄文後期と考えられる。捨て場は埋没沢を覆うように形成されているが、立地の点でも捨て場の形成には掘立柱建物跡の位置する微高地からの投げ込み行為が関与したと想定される。

ところで、後期初頭～前葉は遺物量の豊富さと比べ、居住の痕跡が貧弱であることが特徴であるとされる（菅野2003）。菅野によれば、一関市清水遺跡例のように掘立柱建物や平地式住居が集落の主体となっている遺跡も見られることから、実際には集落として考えられる遺跡は見かけより多いのではないかという。本遺跡では、より高位の河岸段丘面にも集落の存在が予想されるものの、この指摘が縄文後期の全体的な傾向として追えるならば、今回の調査範囲が掘立柱建物跡を居住活動の中心とした小集落の一部であった可能性も否定できない。

中・近世以降の掘立柱建物跡は、出土遺物の年代から7号掘立柱建物跡が16世紀後半で、その他は19世紀前半代の母屋・小屋の性格を持つと想定される。7号掘立柱建物跡は梁行の柱間寸法が24尺あり、屋根を支えるにはやや難がある。本遺構は1号捨て場範囲内に構築されており、中間に位置する柱穴を捨て場調査によって発見できなかった可能性も否定できない。また、建物跡ではなく柵列が東側と西側の2条と考えることもできるが、各柱穴の柱間寸法が東西両側で一定に保たれていることから、何らかの建物跡の可能性が高い。7号掘立柱建物跡からは16世紀後半の唐津焼や永楽通宝など、中世に遡る資料が出土しているが、田野畑村では、これまで発掘調査によって明確に中世期の遺構・遺物を確認していない。

近世の掘立柱建物跡は複数存在し、3～6号掘立柱建物跡は民家の母屋と小屋のセット関係と捉えられる。母屋と考えられる3号・5号掘立柱建物跡は、当初は1棟の総柱建物跡ではないかと考えたが、その後の埋土の検討や柱の配置関係から2棟に分離した。切り合い関係があり、3号掘立柱建物跡の廃絶後に5号掘立柱建物跡を新しい母屋として建て替えたと考えられる。

(2) 土　　坑

10基を検出し、内訳は縄文時代9基、近世墓壙1基である。

縄文時代の土坑は1号捨て場範囲内と2号捨て場周辺に位置し、捨て場と同時期の縄文時代後期の構築と考えられる。縄文時代の土坑は楕円形や長方形に近い平面形だが、大半が不整形である。1号捨て場範囲内出土土坑は浅い。最も良好な堆積と出土遺物に恵まれたのは10号土坑で、ほぼ完形近く復元できた深鉢やミニチュア土器片、2号捨て場第3層出土資料と同一個体の可能性がある土器片などが

出土している。

一方、近世墓壙の５号土坑は人骨１体と寛永通宝・煙管が出土しており、人骨は老年期の男性で、遺物の年代は17世紀後半～18世紀代と捉えられる。掘立柱建物跡とは年代的に離れているが、付近に寄せられていた近世墓碑集中部内の墓碑には近い年代の墓碑が存在している。墓碑と墓壙の関係については後述する。

(3) 捨　て　場

捨て場は２ヵ所検出した。２ヵ所とも沢の流水によって作られた谷状の地形を覆うように形成されており、微高地上からの投げ込み行為による埋没過程が想定される。時期は２ヵ所とも縄文時代後期前葉を主体とするが、１号捨て場のほうが若干古期の様相を示す。１号捨て場範囲内には土坑・焼土遺構があり、範囲西側には柱穴群が存在する。柱穴群は一部建物跡を構成する可能性があり、これを居住痕跡と捉えるならば、１号捨て場形成には東側（微高地側）と西側の２方向からの投げ込み行為があったものと考えられる。

(4) 埋　設　土　器

埋設土器は１基のみ出土した。他の遺構よりも標高の低い場所に設置されている。使用された土器は小型深鉢で磨消手法が多用されている。埋土下部の第２層には周囲の土壌中に見られる白色砂礫とは異なる白色粒子が認められたため、土壌の理化学分析を実施した。埋設土器の用途は貯蔵具・埋葬施設としての骨蔵器が考えられるため、分析によるリン濃度の高さに注目していたが、用途を示す明確なデータは得られなかった。

2　遺　　物

(1) 土　　器

土器では大コンテナ（30×40×30㎝）14箱分の縄文土器のほか、わずかながら弥生土器が出土している。大半が後期前葉の土器で、１・２号捨て場で出土した。ほかに後期中葉、晩期の土器片が少量出土した。弥生土器は後北A式の影響を受けて在地化したものと思われ、後北A式に特徴的な刺突文が施されているが、厚手で焼成は良くない。田野畑村内では弥生時代の土器がわずかながら表採されているものの、該期の遺構の発見には至っていない。今後の資料的蓄積が望まれる。

(2) 土　製　品

土製品は腕輪形土製品・鐸形土製品・円盤形土製品・ミニチュア土器・土偶が出土している。出土数はそれぞれ少数であるが、いずれも東北地方後期前葉の特徴を示している。文様は無文・沈線・刺突による表現方法で構成される。

本遺跡出土の腕輪形土製品はすべて無文で厚い。この傾向は、東北地方では「円筒形で器厚が厚いものが多」く、また「無文のものが多い」（吹野2000）という指摘と整合する。

鐸形土製品では無文のものと、沈線による文様描出が見られる。なかでも409は開口部が横位にあり、類例は多くない。鐸形土製品は機能的には孔部に紐を通して吊り下げることが予想されることから、開口部が下位にくるよう実測図では表記しているが、文様施文は同時期の土器と類似の傾向が認められ、むしろ土器口縁部と同様に開口部側に丁寧な施文が行われている。用途とは別の問題として注意

を要する。

円盤形土製品は土器片錘とも言われ、主として錘としての機能、網漁業の沈子としての認識が一般化している。本遺跡は普代川と接するため、河川漁撈を行っていた可能性は十分にあるが、出土数は７点と少ない。沈子としての機能を土器片錘の分類から考察した事例によれば、「立体的」か「偏平」かの形状差は水流に対する抵抗力の違いと関係することが１つの要因（小笠原1998）としてあげられている。偏平な土器片錘は「海中の途中にある場合は水流の抵抗を強く受けるが、反面、海底に達して横位に伏せた状態となった場合はその抵抗力が小さな錘となって」（小笠原1998）いるという。本遺跡出土品はいずれも偏平で、立体的なものはなかった。今後の周辺地域の資料増加によっては、上記事例のように沿岸地域の漁撈活動の一端を検討できるだろう。

(3) 石　　器

石器は剥片石器・礫石器あわせて468点出土した。礫石器は磨石・凹石・敲石・磨製石斧があるが、掌大が多く、大形品はない。一般に長期的な居住地には大形の生活道具が多い傾向にあり、石皿や大形礫などが居住地内で散見される。本遺跡の石器組成はいずれも小形品が多く、長期的な居住の証拠を見出すことが難しい。１号捨て場では在地の砂岩・ホルンフェルス礫が出土しているが量は少ない。したがって本遺跡は通年の居住地ではなかった可能性がある。

剥片石器では、石鏃がトゥール類のなかで最も多く出土した。完形品は少なく、基部や先端部が破損しているものが多い。石匙・掻器・削器などスクレーパー類がまとまっているが、不定形な資料が多い。

礫石器では、磨製石斧はすべて破損品で、刃部の損傷が著しい。磨石は断面が円形に近いものはみられず、偏平なものが多い。石器の多くは１・２号捨て場から出土しているが、破損の多さは捨て場という遺構の性格を反映したものであろう。ただし、長期にわたる居住地に形成された捨て場では、道具の刷新が行われる過程で完形品が捨てられることは一般的であり、その観点からも本遺跡での捨て場遺構内の完形品比率の低さは通年居住の可能性を支持しない。こうした出土石器の特徴と遺跡滞在期間との関連性は、掘立柱建物跡、竪穴住居跡、平地式住居跡など縄文後期の建物跡を考えるうえで示唆的である。

3　近世墓壙とその年代論的位置

Ｂ区内より近世墓碑６点、墓壙１基（５号土坑）を発見している。６点の墓碑は全て後世の土地利用によって人為的に寄せられた可能性が高い。そのため、墓碑が伴わない墓である可能性も含めて、どの墓碑が墓壙と対応するか出土遺物の年代から検討する必要がある。墓碑の年号はすべて近世のもので、以下のとおりである。

墓碑銘			
①明和六年	丑十二月十七日	（一應妙心禅定尼）	1769年
②天明四年	（辰）六月（廿）三日	（一智庵禅定門）	1784年
③文化元年	子十二月八日	（良山禅定尼）	1804年
④文政二？年	正月十八日	（實春禅定門）	1818～1830年間
⑤文政八年？	七日	（○妙○禅定尼）	1825年？
⑥文政十二年	（丑）七月六日	（等（游？瀰？）禅男）　万？○	1829年

墓碑は18世紀後半～19世紀前半のものであることが理解できる。このうち①～③が大形品で④～⑥が小形品である。では近世墓壙である５号土坑の構築はいつごろであろうか。

墓壙からは人骨1体と副葬品として煙管１点、銭貨10枚が出土している。煙管は18世紀前半代の形態を呈し、18世紀中ごろまでの利用が考えられる。銭貨は10点のうち、古寛永３枚、文銭１枚、新寛永６枚である。すべて銅銭で占められ、鉄銭がないことから、18世紀中頃の組成である。また、新寛永（1697～1747と1767～1781年間に鋳造）の存在からも墓の年代は18世紀中頃と言えよう。

墓碑で18世紀代は①・②であり、人骨鑑定の「熟年男性」という結果から考えれば、②の年代は中頃とは言いがたいが、大きな誤差とは言えない。よって、５号土坑の年代は18世紀中頃以降で、墓壙に伴っていた墓碑は、熟年男性人骨という鑑定結果から、②の可能性があると結論する。

Ⅵ 考　　察

1　縄文時代後期における土器の野焼き方法

は　じ　め　に

岩手県清水遺跡の例では中期末と後期初頭の土器の比較から、時期によって野焼き方法に変化が認められ、薪燃料の利用方法と土器の薄手化及び括れの少ない個体の増加には相関関係があると指摘された（須原ほか2005）。野焼き方法は器形に応じて変えるものと想定されているが、後期土器については検討資料数が少ないため、具体的な議論には至っていないのが現状である。そこで、本章では後期土器の野焼き方法を検討する上での基礎資料提示を目的として、岩手県田野畑村沼袋遺跡資料（後期前葉）、北海道函館市石倉貝塚出土資料（後期前葉）、岩手県一関市清水遺跡資料（中期末～後期前葉）のうち深鉢に限定して取り上げる。

(1) 土器の観察とサイズクラス

観察の視点は清水遺跡資料の検討で用いた基準（須原ほか2005）に従う。沼袋遺跡では後期前葉の土器が多数取り上げられているが、口縁から底部まで残る土器は少なく、検討可能な深鉢は５個である。石倉貝塚資料は黒斑の観察できた深鉢を15個選択した。清水資料は、前回の検討データを利用する。

沼袋遺跡では資料が少ないため、遺跡内出土土器の容量分布を知ることはできない。したがってここでは清水遺跡で利用したサイズクラスを基準に検討したい。容量の小さいもの（左側）から大きいものへと並べた容量順グラフ（第61図）をみると、清水遺跡では10㍑付近と20㍑付近に分布の断絶がみられる。よって、10㍑未満を中・小型、10㍑台と大型、20㍑以上を特大型とした。沼袋では５個体のうち129・130・305が大型で、13が特大型である（第58図）。石倉貝塚資料は黒斑の観察しやすい類似個体を選択したため、結果として中・小型のみとなった（第59・60図）。清水遺跡では、大型深鉢が縄文施文主体で、中・小型深鉢が沈線・刺突を主体とする有文土器が大半を占める。特大型は有文と縄文がほぼ半々で、中期と後期の両時期ともに認められる。このような「中・小型は有文、大型は素文」という作り分けは中期末よりも後期初頭の方がより明瞭であり、器形も頸部の括れが弱まり円筒

形ないしはバケツ形になるという変化がみられる。なお、第58～60図は縮尺1/10に統一し、土器が野焼き最終段階で寝かせられていることを前提として、左上：接地面側外面、左下：接地面側内面、右上：上向き面側外面、右下：上向き面側内面の計4面の黒斑・スス・コゲの範囲を表現している。遺物の番号は各報告書の遺物掲載番号をそのまま利用した。

(2) 野焼き方法の検討

縄文土器は「最初から横倒しにして焼く」、「最初は立てて置き、途中で横倒しにする」など、野焼き方法を変えていると推定されている（久世ほか1999）が、土器の設置方法、燃料の多寡、野焼き時の土器の動かし方など個別手法としての野焼き方法の差異は、土器の火回り不良を防ぐための解決策の差と考えられる。これまでの野焼き実験による黒斑の分布傾向からは、以下の違いが確認されている（須原ほか2005から再録）。

①最初から横倒しの場合は、接地面が火回り不良にならないように薪かオキの上に置く必要があるため接地面に棒状黒斑が付くことが多い。一方、オキに埋もれるように接地したことを示すオキ密着黒斑は最初から横倒しに置かれた場合には付きにくい。

②途中で横倒しする方が、内面の火回りを良くするために薪を差し入れる必要性がより高い。

③土器が水平に置かれたことを示すオキ密着黒斑が接地面に付くにも関わらず、対応する内面下部～内底面にオキ溜まり黒斑が付く場合、「直立していた段階があった（＝途中で横倒しした）」と言える。

④「大きなスス・炎が出る状態の薪が接触したことを示す逆U字形・２個１対の薪接触黒斑」は、薪を内面に入れた土器を最終段階で横倒しした場合に付きやすい。一方、最初から横倒し状態の土器の内面に薪を差し入れた場合は、薪から出たススが下側の内面に整った形の逆U字形・２個１対黒斑を残すことは考えにくい。なお、棒状・逆U字形・２個１対の薪接触黒斑が複数の側面に縦方向に付く場合は、転がされたか、または、横倒しされる前・後の薪接触を示す。

⑤薪を差し入れて直立した土器では、内面下半部の方が上半部よりも明るい色調を呈する。

⑥最初から横倒しに置いた方が上向き側外面の中軸線上に多くの薪・オキが載りやすい。

沼袋遺跡では129（16.6㌢）・13（22.5㌢）に接地面側内面に薪差し入れの痕跡と思われる太い棒状黒斑があり、129の棒状黒斑は下部が逆U字形を呈する。13には接地面側外面にオキ密着黒斑が多数観察できた。上記②と④の理由から大型以上は「最初は立てて置き、途中で横倒しにする」手法が採用された可能性が高い。130（15.8㌢）は上向き面側外面の中央軸線上と胴中部側面よりに逆U字形の黒斑が縦方向に見られるため、やはり④が当てはまる。

清水遺跡の検討（須原ほか2005）では接地面側外面に大型棒状黒斑が付くことが多く、①の特徴である。また、内面に逆U字形や２個１対の薪接触黒斑がほとんどなく、④の特徴も見られ、転がし痕を示す土器がないことから「最初から横倒し」にして野焼きが行われたと考えられる。

石倉貝塚では「薪の差し入れ」が行われた痕跡が154（6.7㌢）、200（0.5㌢）、1006（5.1㌢）に見られるが、それらの土器の内面には逆U字形、２個１対の薪接触黒斑がないことから④に当てはまる。①の特徴である「接地面側外面に多数の薪接触黒斑が付くもの」は、８（5.0㌢）、198（7.6㌢）、480（4.1㌢）、200、474（1.8㌢）ある。また、⑥の特徴を示す「上向き面側外面に薪接触黒斑が付くもの」は154、198、200、480、1005（7.7㌢）、1006と６個体ある。これらの痕跡から、石倉貝塚では「最初から横倒し」して野焼きを行った可能性が高い。一方、薪の差し入れと考えられる接地面側内面の棒

状黒斑が見られない土器については、1004（3.7㌘）、979（6.6㌘）、982（4.7㌘）、288（1.8㌘）、471（1.1㌘）など口縁部の小範囲のみのオキ溜まり黒斑が多く、下半部には少ない。このことは、薪の差し入れをしなかったが、口縁部に薪を立て掛けた可能性を示す。これもオキの上で焼かれた証拠と考えられるため、「最初から横倒し」の可能性を支持する。

(3) 遺跡間・時期間の差異

以上の検討から、沼袋については「途中で横倒し」、清水と石倉貝塚は「最初から横倒し」の可能性が高い。しかし、いずれも資料数不足は否めないので、さらに多くの資料検討を要する。

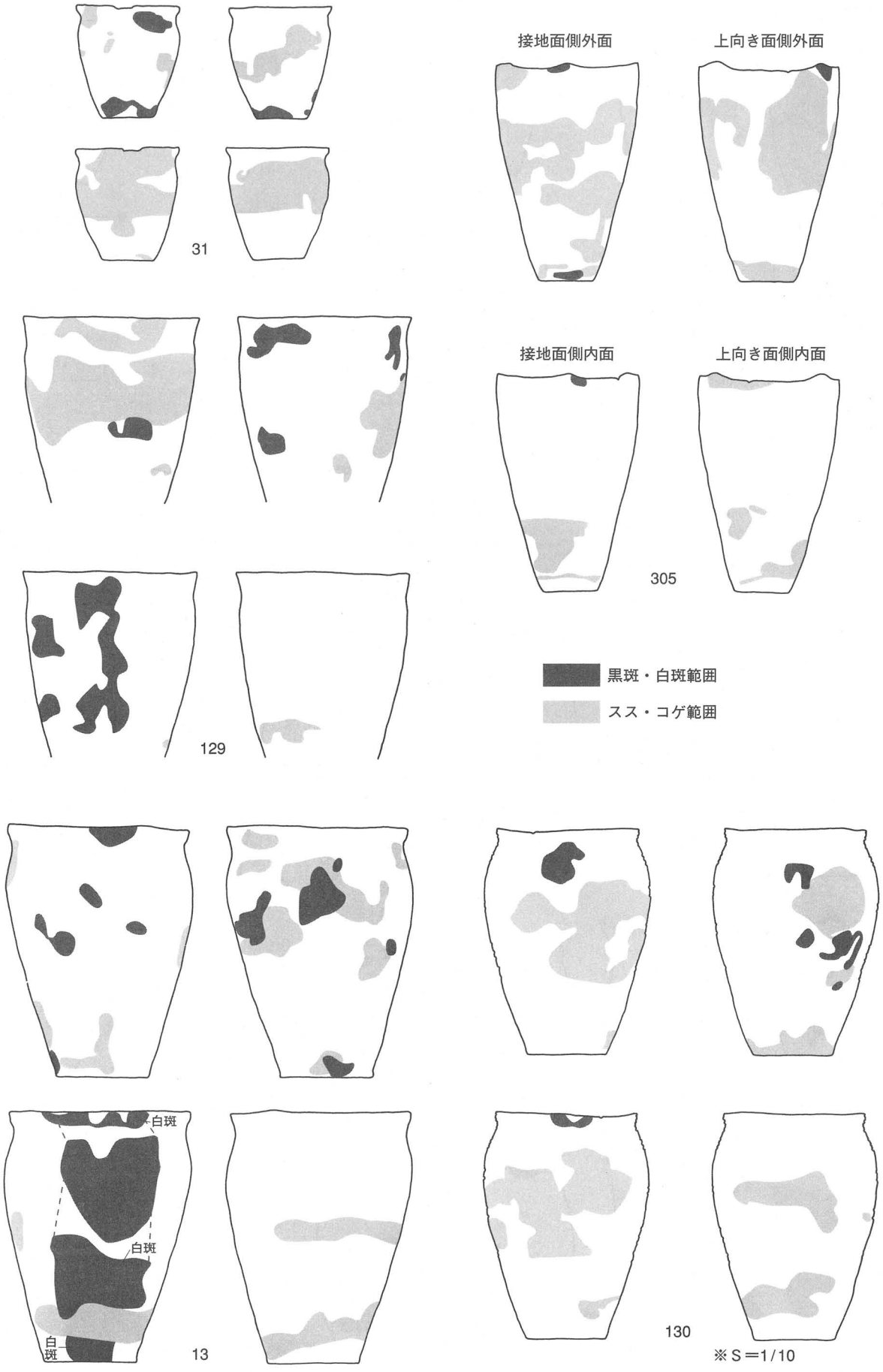
以前の清水遺跡中期末～後期初頭の分析では、接地面側の黒斑は、小さめの薪／オキ接触黒斑のみの例が多いことから、地面に薪を並べた上に土器を置いたと結論した。また、清水遺跡の中期土器では後期土器よりも太薪との接触を示す例が多く、燃料が多い、あるいは火力が強く長持ちした可能性を指摘している（須原ほか2005）。石倉貝塚でも清水と同様に接地面側に薪接触黒斑の見られる土器が一定量存在している。ただし、太薪との接触を示す例は少ないため、清水の後期土器により近いと言える。

時期間の検討は清水のみであるが、中期土器は後期に比べて、①接地面黒斑が太薪を示す比率が高い、②側面に薪を立て掛ける比率がやや高い、③色調が明るい、という傾向であった。①・②より、中期土器のほうが後期土器よりも焼成時に地面側や側面により多くの薪を置いたと言える。中期土器の方が明るい色調なのは、このように薪を多用した結果であろう。

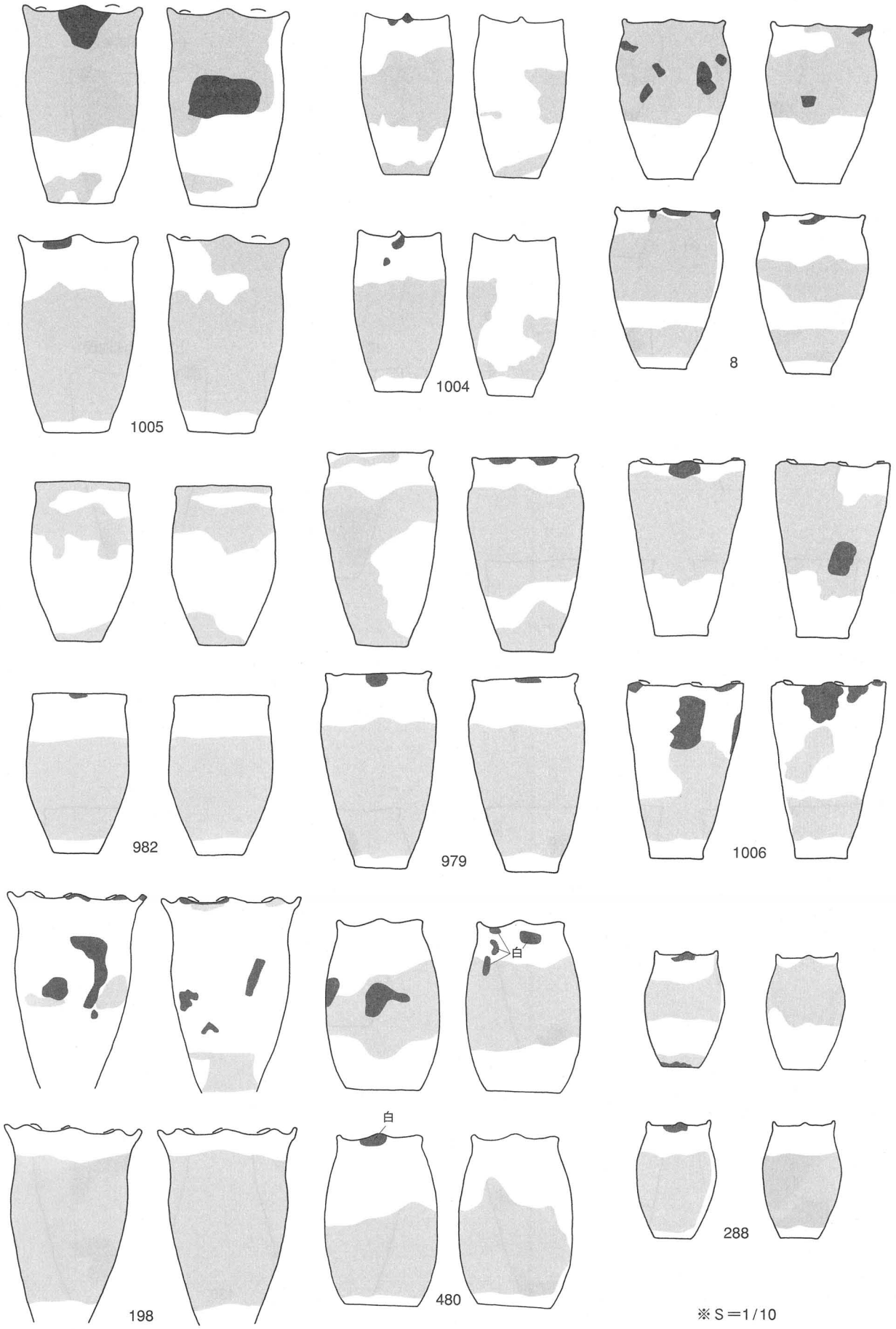
(4) ま　と　め

清水遺跡例によれば、中期から後期にかけて野焼き方法が変化していることが窺えるが、その背景として、中期土器は総じて厚みがあるため土器が火回り不良にならないよう多量の燃料を必要としたことが考えられる。一方、後期土器は中期に比べて省エネ傾向にあり、使用した薪燃料が中期に比べて少ないため焼成温度が上がらず、結果、白っぽい土器が多くなったかもしれない。また、焼成途上で土器を取り出してしまっている可能性もあるだろう。つまり生焼け状態の土器が多い可能性があり、後期土器の断面に黒色層が厚く残存する例が多いことが証拠と言える。この断面黒色層の残存は清水遺跡ばかりでなく、沼袋・石倉貝塚でも確認できる。したがって、薪燃料の減少傾向は中期から後期への器形変化とリンクする事象であると考えられる。縄文中期から後期への薪燃料の節約化、および土器の相対的な薄手化と器形の括れの減少は何に起因しているのであろうか。現状では1つの要因に求めることはできないが、縄文中期から後期にかけて地球規模の環境変動と密接なかかわりを指摘できるかもしれない。この時期では低温化による海水面の低下と乾燥化による年間雨量の低下が人類の居住環境を激変させ、結果として燃料獲得コストが増大したと想定されるが、その回避策として燃料の節約とそれに対応する器形・器厚の変化が模索されたのはないだろうか。

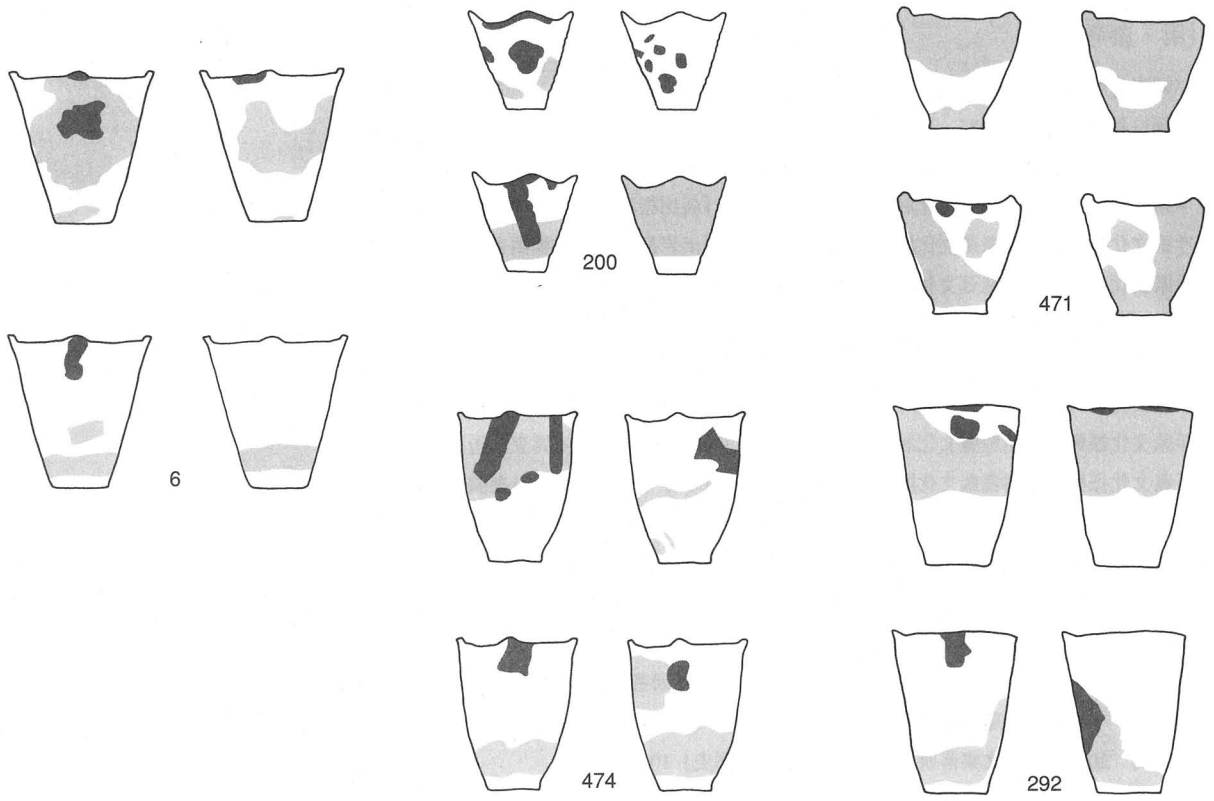
ただし、今回の後期土器の地域間対比では、太薪燃料の少なさや生焼けに近い白っぽい土器が一定比率あることを読み取れるものの、地域間格差を明確にあらわす現象を抽出できなかった。今後の課題として資料の豊富な別遺跡の検討数を増やなければならない。

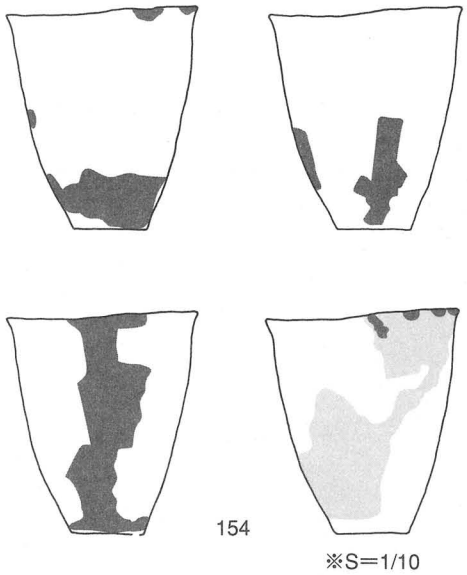


第58図　黒斑の分布（沼袋遺跡）

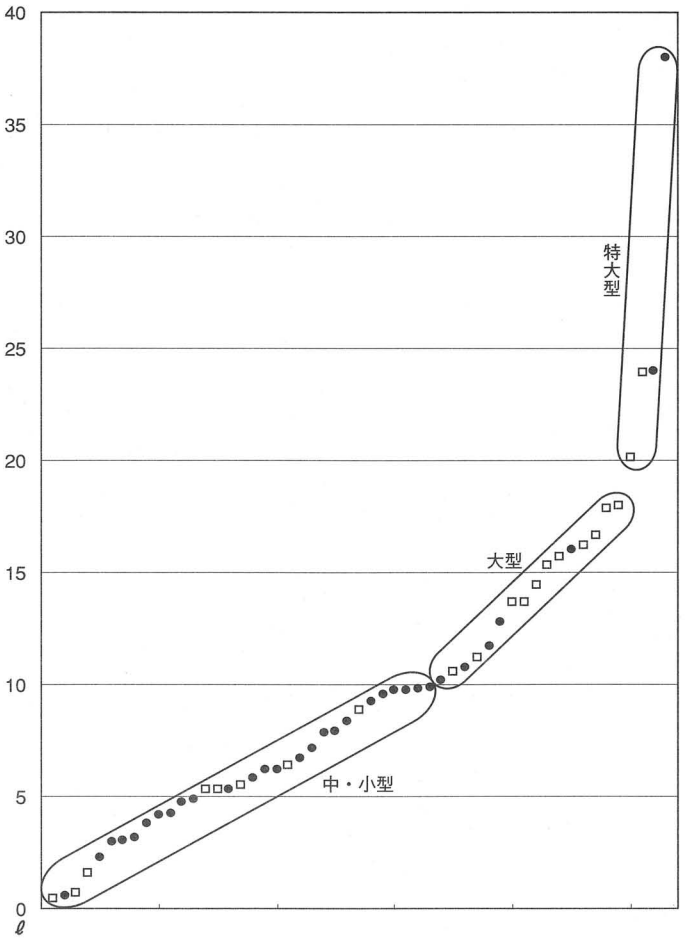


第59図　黒斑の分布（石倉貝塚①）





第60図　黒斑の分布（石倉貝塚②）



第61図　清水遺跡後期層の深鉢

引用・参考文献

（報告書等）

田野畑村教育委員会　1985　『田野畑村史』

田野畑村教育委員会　1994　『子木地の台遺跡』

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1993　『新山権現社遺跡発掘調査報告書』第188集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1998　『浜岩泉Ⅰ遺跡発掘調査報告書』第276集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1999　『下館銅屋遺跡発掘調査報告書』第297集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2000　『相ノ沢遺跡発掘調査報告書』第332集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2002　『清水遺跡発掘調査報告書』第382集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2004　『長谷堂貝塚発掘調査報告書』第434集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2004　『和野Ⅰ遺跡発掘調査報告書』第452集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2004　『和野ソマナイ遺跡発掘調査報告書』第466集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2005　『平成16年度発掘調査報告書』第469集

山形県埋蔵文化財センター　2003　『かっぱ遺跡発掘調査報告書』第114集

（論文・研究ノート等）

小笠原永隆　1998　「土器片錘についての一考察」『貝塚研究』3　園生貝塚研究会

加藤晋平・小林達夫・藤本強編　1994　『縄文文化の研究５　縄文土器Ⅲ』　雄山閣

菅野智則　2003　「縄文集落研究の初期的操作」『歴史』101

久世健二・小島俊彰・北野博司・小林正史　1999　「黒斑からみた縄文土器の野焼き方法」『日本考古学』8　日本考古学協会

須原　拓・米田　寛・北村忠昭・小林正史・長友朋子・中村大介　2005　「黒斑からみた東北地方の縄文土器の野焼き方法」『日本考古学協会第71回総会研究発表要旨』

吹野富美夫　2000　「縄文時代の土製腕輪」『常総台地』15　常総台地研究会

藁科哲男　1999　「下館銅屋遺跡出土の黒曜石製遺物の原材産地分析」『下館銅屋遺跡発掘調査報告所』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

藁科哲男　2000　「岩手県相ノ沢遺跡出土の黒曜石製石器の原材産地分析」『相ノ沢遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

Ⅶ 分析・鑑定

1 分析目的

沼袋遺跡において土壌理化学分析、黒曜石産地同定分析、火山灰同定分析をそれぞれ委託し、下記の結果を得た。

土壌理化学分析はC区1号埋設土器内の土壌分析によって、骨蔵器の可能性を探求する目的で実施した。埋設土器は集落からやや離れた、水辺に近く地形的に低い場所に設置される例がたびたび報告されており、土器内土壌の洗浄で人骨・獣骨が見つかる事例が増加している。本遺跡でも地形的な条件が合致し、その可能性をリン残留濃度の測定によって追求できるものと判断した。

火山灰同定は遺跡の相対年代や形成過程を知る上で必要不可欠な分析である。B区内で基本土層第Ⅳ層として明確に捉えられた黄褐色火山灰層から採取し、分析を委託した。田野畑村内では十和田系火山灰の堆積、特に十和田中掫火山灰（To-cu）が見つかっており、今後本遺跡データが遺跡間対比に有効となろう。

人骨鑑定は田野畑村内の近世墓出土資料としては初めての事例である。本遺跡からは近世関連資料が多数発見され、それらとの関連性を探る上で、人骨の分析・鑑定は欠かせないものであった。

黒曜石は沼袋遺跡周辺では産出しない。遠隔地産石材である黒曜石の産地同定をすることで、沼袋遺跡の交易領域を考察することを目的とした。今回の調査で出土した黒曜石製石器はわずか2点のみで、いずれも1号捨て場内から出土していることから縄文時代後期前葉の可能性が高い。（米田）

2 沼袋遺跡土壌理化学分析業務委託報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

沼袋遺跡は、岩手県下閉伊郡田野畑村沼袋に所在し、普代川右岸の河岸段丘面上に立地する。本遺跡の発掘調査の結果、縄文時代後期前葉の竪穴住居跡や埋設土器、捨て場、土坑、近世の掘立柱建物跡や墓等の遺構が検出されており、縄文時代後期前葉～晩期の土器や石器、近世～近代の陶磁器等の遺物が確認されている。

なお、上述した縄文時代後期前葉と考えられる埋設土器は、これまでの考古学的成果及び調査所見から骨蔵器の可能性が指摘されている。そこで、本報告では、当埋設土器の用途、特に骨蔵器の可能性の検証を目的とし、土器内土壌中のリン酸、カルシウム含量に着目し、検討する。

(1) 試料

試料は、洪水砂礫層、黒色土の再堆積層が堆積する調査区東側から検出されたC区1号埋設土器内の土壌1点（以下、埋設土器内土壌）と、比較対照試料として当埋設土器が出土した地点より5m離れた地点の縄文時代後期前葉の遺構検出面（地山）とされるC区第1黒色帯（C区7層）より採取された土壌1点の計2点である。

なお、これらの試料は、調査地点の地下水位が高いことから湿性な土壌となっており、土壌中のリン酸の移動、拡散が懸念され、また、一括採取された土壌ではリン酸の濃集・局在性や偏在性を見出

すことは困難と判断された。そのため、分析試料は、各試料より無作為に5回採取した土壌を用い、それぞれ覆土1～5、対照1～5とし扱い、上記した問題を緩和することとした。また、植物遺体の供給量の目安を得るため、覆土及び対照試料より各1点（覆土1、対照1）を対象とし、土壌の腐植含量の調査を行い、参考値を得ることとした。

(2) 分　析　方　法

1）腐植含量

試料を風乾後、軽く粉砕して2.00㎜の篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、5時間）により測定する。風乾細土試料の一部を粉砕し、0.5㎜のふるいを全通させる（粉砕土試料）。粉砕土試料0.100～0.500ｇを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2％フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第１鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（Org-C乾土％）を求める。これに1.724を乗じて腐植含量（％）を算出する。

2）リン酸・カルシウム含量

粉砕土試料1.00ｇをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸（HNO_3）約5mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸（$HClO_4$）約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P_2O_5）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム（CaO）濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P_2O_5mg/g）とカルシウム含量（CaOmg/g）を求める。

(3) 結　　果

表１．土壌理化学分析結果

試　料　名	土性	土色	試料番号	腐植含量(％)	P_2O_5(mg/g)	CaO(mg/g)
C区 1号埋設土器内	LiC	10YR1.7/1 黒	覆土1	7.53	2.88	5.09
			覆土2	－	3.05	5.49
			覆土3	－	2.95	6.20
			覆土4	－	2.72	5.00
			覆土5	－	3.00	5.87
			平均値	－	2.92	5.53
			標準偏差	－	0.13	0.51
C区 第1黒色層	LiC	10YR1.7/1 黒	対照1	9.15	3.10	4.35
			対照2	－	2.63	3.85
			対照3	－	3.00	4.64
			対照4	－	2.44	3.68
			対照5	－	3.15	4.39
			平均値	－	2.86	4.18
			標準偏差		0.31	0.40

注．(1) 土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）による。
(2) 土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編，1984）の野外土性による。
LiC･･･軽埴土（粘土25～45％、シルト0～45％、砂10～55％）

結果を表1に示す。埋設土器内土壌および第1黒色帯は、いずれも粘質土であり、国際法区分における野外土性（ペドロジスト懇談会編，1984）はLiC（軽埴土）に分類される。両者は土色も10YR1.7/1と黒色味が強く、腐植集積量が多いことが伺える。覆土1、対照1の腐植含量は埋設土器内土壌は7.53％、第1黒色層は9.15％を示し、第1黒色帯においてやや有機物量が多い傾向が認められている。

リン酸含量は、埋設土器内土壌は2.72～3.05P_2O_5mg/g、第1黒色層は2.44～3.15P_2O_5mg/gの値となっており、両試料間のリン酸含量に特徴的な違いは見られない。一方、カルシウム含量は、埋設土器内土壌は5.00～6.20CaOmg/g、第1黒色層は3.68～4.64CaOmg/gと埋設土器内土壌において僅かに高い傾向が認められる。ただし、土壌中のカルシウム含量の変動幅は比較的大きいこともあり、本分析結果では有意差を指摘することはできない。

(4) 考　　察

一般的に土壌中に含まれるリン酸量、いわゆる天然賦存量については、いくつかの報告事例があるが（Bowen,1983、Bolt・Bruggenwert,1980、川崎ほか,1991、天野ほか,1991）、これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約3.0P_2O_5mg/g程度である。また、人為的な影響（化学肥料の施用など）を受けた黒ボク土の既耕地では5.5P_2O_5mg/g（川崎ほか,1991）という報告例があり、当社におけるこれまでの分析調査事例では骨片などの痕跡が認められる土壌では6.0P_2O_5mg/gを越える場合が多い。

C区1号埋設土器内の土壌について、主にリン酸含量を中心に調査を行った結果、天然賦存量の上限に近いリン酸が検出されたが、腐植含量が高いことから、埋設土器内に内容物の痕跡を示唆するような高いリン酸含量にあると指摘することはできない。さらに、埋設土器内土壌では、比較対照とした第1黒色帯と比べてリン酸の変動幅が小さく（標準偏差は、土器内土壌で0.13、第1黒色帯で0.31）、リン酸が偏在している傾向も認められないことから、局所的にリン酸が濃集している可能性も低いと判断される。このことから、埋設土器内の土壌に遺体成分の痕跡を見出すことは出来ず、骨蔵器とされる用途については本分析結果からは支持することはできない。なお、本分析結果では遺体成分の痕跡を見出すことはできなかったが、調査所見では埋設土器底面に由来不明の白色粒子の存在なども示唆されている。今後は、このような物質を含めた微細遺物の分析を合せて行うことで、総合的に検証できると期待される。

引用文献

Bowen,H.J.M.　1979　Environmental Cemistry of Elements.［浅見　輝男・茅野　充男（訳）　1983　環境無機化学,元素の循環と生化学　博友社　297p.］

Bolt,G.H. & Bruggenwert,M.G.M.　1976　SOILCHEMISTRY.［岩田　進午・三輪　睿太郎・井上　隆弘・陽　捷行（訳）　1980　土壌の化学.学会出版センター　309p.］

天野　洋司・太田　健・草場　敬・中井　信　1991　中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量.土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発.農林水産省農林水産技術会議事務局編　28-36.

川崎　弘・吉田　澪・井上　恒久　1991　九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量. 土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発.農林水産省農林水産技術会議事務局編　23-27.

土壌標準分析・測定法委員会編　1986　土壌標準分析・測定法.博友社　354p.

土壌養分測定法委員会編　1981　土壌養分分析法.養賢堂　440p.

農林省農林水産技術会議事務局監修　1967　新版標準土色帖.

ペドロジスト懇談会編　1984　土壌調査ハンドブック.博友社　156p.

3　沼袋遺跡の火山灰屈折率測定分析

株式会社古環境研究所

(1) 測定分析の目的

東北地方岩手県域の北上山地から三陸海岸部にかけて分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、焼石、鳴子、岩手、秋田駒ヶ岳、十和田など東北地方の火山のほか、姶良、阿蘇、洞爺など九州地方、中国地方、北海道など遠方の火山に由来するテフラ（火山砕屑物，いわゆる火山灰）が数多く挟在されている。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を求めることで、地形の形成年代や地層の堆積年代、さらに遺構の構築年代や遺物包含層の形成年代などを知ることができるようになっている。そこで火山灰層が認められた田野畑村沼袋遺跡においても、発掘調査担当者により採取されたテフラ試料を対象に、屈折率測定により指標テフラとの同定のための資料の収集が試みられた。

(2) 屈折率測定

1）測定試料と測定方法

分析測定試料を対象として、温度変化型屈折率測定装置（京都フィッション・トラック社製，RIMS86）により、屈折率測定を行った。

2）測定結果

試料に含まれる火山ガラスに含まれる火山ガラスの屈折率（n）は、1.510-1.516である。この値は、先に分析が行われている田野畑村和野Ⅰ遺跡で採取された試料中に含まれる火山ガラスの屈折率（n：1.509-1.514）と非常によく似ている。その一方で、この値は東北地方において歴史時代の重要な指標テフラとして盛んに利用されている十和田ａ火山灰（To-a，915年AD，大池，1972，町田ほか，1981，町田・新井，1992，2003）に含まれる火山ガラスの屈折率（n：1.500-1.508，町田・新井，2003）や、東北地方中部以北で後期旧石器時代の指標として利用されている十和田八戸テフラ（To-H，約1.5万年前，中川ほか，1972，Hayakawa，1995，町田・新井，2003）のそれ（n：1.505-1.509，町田・新井，2003）と比較して有意に高い。

以上のことから、試料が採取されたテフラ層が一次堆積層であれば、約6,000年前に十和田火山から噴出したと推定されている十和田中掫テフラ（To-Cu，大池ほか，1966，早川，1983）の可能性がもっとも高いと考えられる。

文献

早川由紀夫　1983　十和田火山中掫テフラ層の分布，粒度組成，年代．火山，第２集，28　p.263-273.
Hayakawa, Y.　1985　Pyroclastic geology of Towada volcano. Bull. Earthq. Res. Inst. Univ. Tokyo, 60　p.507-592.
町田　洋・新井房夫　1992　火山灰アトラス．東京大学出版会　276p.
町田　洋・新井房夫　2003　新編火山灰アトラス．東京大学出版会　336p.
町田　洋・新井房夫・森脇　広　1981　日本海を渡ってきたテフラ．科学，51　p.562-569.
中川久夫・中馬教充・石田琢二・松山　力・七崎　修　1972　十和田火山発達史概要．岩井淳一教授記念論文集　p.7-17.
大池昭二　1972　十和田火山東麓における完新世テフラの編年．第四紀研究，11　p.232-233.
大池昭二・中川久夫・七崎　修・松山　力・米倉伸之　1966　馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰．第四紀研究，5　p.29-35.

4　岩手県下閉伊郡田野畑村沼袋遺跡出土の近世人骨

瀧　川　　渉
東北大学大学院医学系研究科人体構造学分野

(1) は　じ　め　に

田野畑村沼袋遺跡は縄文時代後期と近世の文化層を含む複合遺跡であるが、このうち近世に属すると考えられる土坑から人骨が1個体分出土した。当遺跡の表土からは、畑の整備時に移動した近世墓碑が確認されている。このうち2基の墓碑と当遺構の出土遺物の年代が対応すると推測され、18世紀後半に該当する可能性が高いという。本稿は、その近世人骨の形態人類学・肉眼解剖学的鑑定報告である。

(2) 遺　存　状　況

頭蓋：後頭骨と左右の側頭骨が遺存するが、脳頭蓋全体の接合復元は不能である。顔面では、上顎骨の歯槽周辺部をとどめる程度で、下顎骨は下顎枝が左右とも破損する。

体幹：ほとんどの部位が消失しており、椎骨のうち環椎と軸椎の歯突起周辺の他は、腰椎の椎弓が確認される。肋骨は断片が数点認められる程度。

上肢：上肢帯では左肩甲骨の関節窩と肩峰基部を残すのみ。上腕骨は左右とも遺存するが、骨幹部のみにとどまる。橈骨は左の近位端、尺骨は両側の近位端がそれぞれ確認される。手の骨は数点の断片を残すのみで同定は困難である。

下肢：寛骨は左右とも認められるが、どちらも寛骨臼と大坐骨切痕の周辺だけが確認される。大腿骨は右がほぼ完存するが、左の近位部は欠損している。膝蓋骨は左のみ残存。脛骨は左右とも遠位端を欠く。腓骨は左右とも骨幹部のみを残す。足の骨は踵骨隆起の一部が確認されるにすぎない。

本個体の歯式は次の通りである。

	2	2-3	2	2	3		2-3	3	3	2	2	2	3	3	3
×	M2	M1	P2	P1	C	△	I1	I1	I2	C	P1	P2	M1	M2	M3
△	M2	M1	P2	P1	C	△	△	△	△	C	P1	P2	M1	M2	M3
	2-3	2-3	2	2	2					2	2	2	3	2-3	3-4

〔凡例〕△：歯槽開放　×：歯槽破損・歯冠も消失

各歯種の上ないし下に示された数字は、Brocaによる咬耗度を示す。

0：全く咬耗が見られない。

1：エナメル質に咬耗が認められるが、咬頭の形状は明瞭。

2：象牙質がところどころ露出している。

3：咬合面においてエナメル質が全体に磨耗し、象牙質が全面に露出する。

4：歯根近くまで磨耗が進行する。

(3) 年　齢　推　定

第3大臼歯を含む永久歯が全て萌出している上、歯冠がBrocaの咬耗度でいずれも2度から3度にまで達していること、わずかに後頭部にうかがえるラムダ縫合が内板においてほとんど閉塞していることから、熟年期（40～60歳）に相当するものと推測される。

(4) 性　別　判　定

寛骨における大坐骨切痕の角度が鋭角を呈すること、側頭骨の乳様突起が拇指大でほぼ鉛直方向を向いていること、上腕骨や大腿骨などの筋付着部が発達していることから、男性の可能性が高いと考えられる。

(5) 身　長　推　定

本個体を男性と判定した場合、藤井の身長推定式（藤井1960）を利用して右大腿骨の最大長から計算すれば153.7㎝、自然位全長から計算すれば154.4㎝となる。いずれにしても、関東や西日本における江戸時代男性の平均身長（関東：155～157㎝、西日本：159㎝）を下回る結果である。

(6) 各 部 の 特 徴

頭蓋：側頭部の乳様突起が拇指大を呈し鉛直方向を向くが、乳突上稜の発達は弱い。後頭骨の外後頭隆起も発達が弱い。また、左の舌下神経管では二分化が認められる。

四肢骨：上腕骨において三角筋粗面の隆起が観察される。大腿骨の粗線は内側・外側唇とも明瞭だが、骨幹中央部の断面示数はさほど強くない。一方、骨体上部の扁平性はかなり強い。脛骨ではヒラメ筋線が著しく膨隆する状況が見られ、骨幹部の扁平性が強い（表1）。

歯：上・下顎における左の中・側切歯が密接に咬合せず、上下の咬合面の間に間隙が形成されており、偏磨耗の様相を呈している（写真5）。

(7) ま　と　め

沼袋遺跡の近世土坑から出土した人骨は、熟年期の男性の可能性が高い。この性別判定が妥当であれば、生前の推定身長は154㎝前後で、当時としては平均よりやや低身長であったと考えられる。また、左の中・側切歯に見られる偏磨耗は、生前にある特定の物を口にくわえる習慣を永らく続けていた可能性を示唆させる。

参考文献

藤井　明　1960　四肢長骨の長さと身長の関係について．順天堂大学体育学部紀要，3　p.49-61.

表1　四肢骨計測値

上腕骨	r.t.	l.t.
5.中央最大径	—	22.5
6.中央最小径	—	17
6/5.中央断面示数	—	75.6
7a.中央周	—	66
7.最小周	—	63

大腿骨	r.t.	l.t.
1.最大長	400	—
2.自然位全長	396	—
6.中央矢状径	27.5	27
7.中央横径	(26)	26.5
6/7.中央断面示数	(105.8)	101.9
8.中央周	—	85
9.骨体上横径	31	—
10.骨体上矢状径	22.5	—
10/9.骨体上断面示数	72.6	—
9'.骨体上最大径	31	30
10'.骨体上最小径	22	20.5
10'/9'.骨体上断面示数	71.0	68.3

脛骨	r.t.	l.t.
8.中央最大矢状径	29.5	30.5
9.中央横径	20	19.5
9/8.中央断面示数	67.8	63.9
8a.栄養孔位最大径	31.5	—
9a.栄養孔位横径	21.5	22
9a/8a.栄養孔位断面示数	68.3	—
10.中央周	78	79
10a.栄養孔位周	85	—
10b.最小周	70	70

腓骨	r.t.	l.t.
2.中央最大径	15	—
3.中央最小径	11	—
4.中央周	42	—
3/2.中央断面示数	73.3	—

単位はmm（計測値）と％（示数）

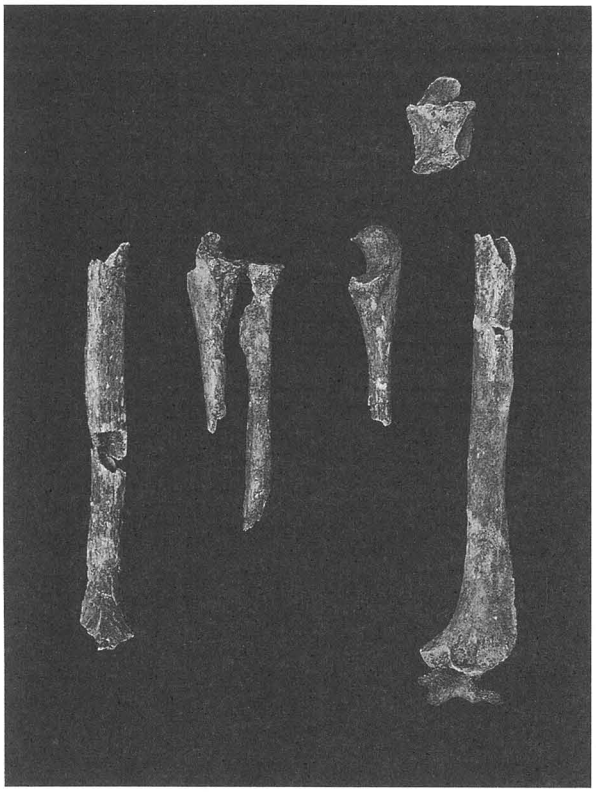


写真１．上肢骨（上腕骨・橈骨・尺骨・肩甲骨）

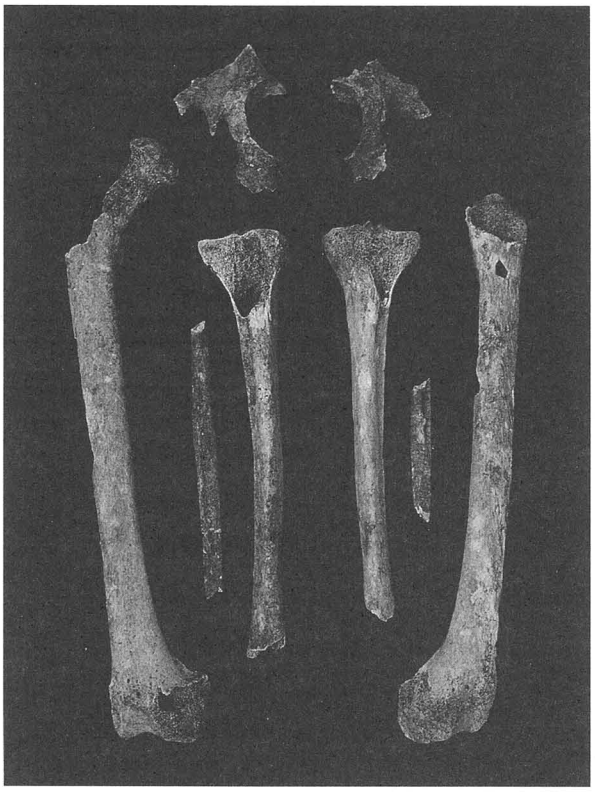


写真２．下肢骨（寛骨・大腿骨・脛骨・腓骨）

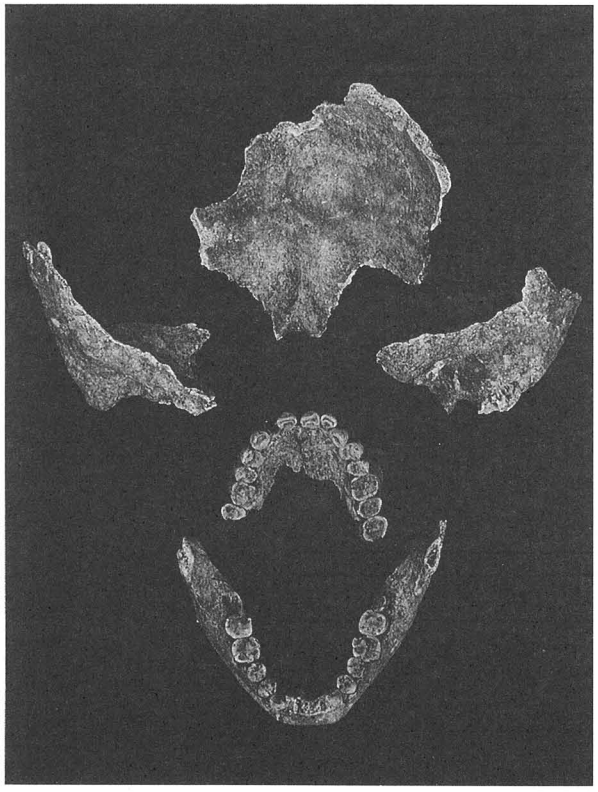


写真３．頭蓋（後頭骨・側頭骨・上顎・下顎）

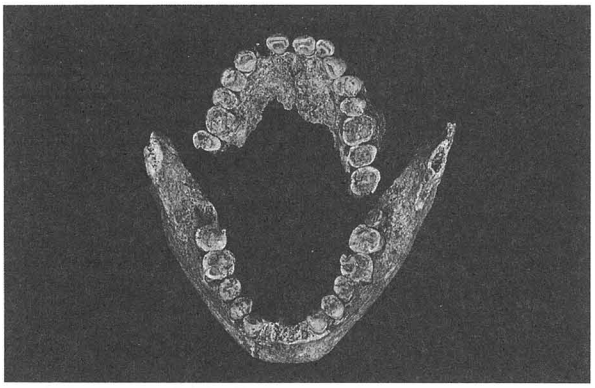


写真４．上顎・下顎の歯冠咬合面

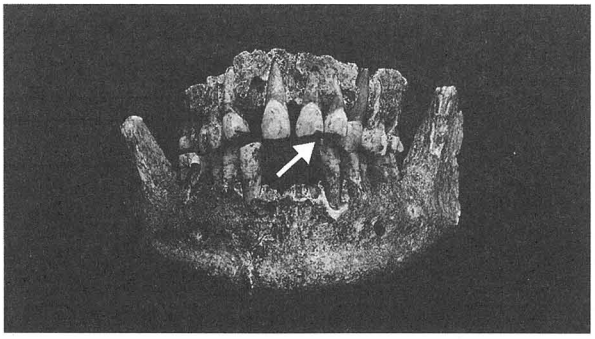


写真５．咬合時における左切歯の偏磨耗（矢印）

5　沼袋遺跡黒曜石産地分析業務委託報告

㈱第四紀 地質研究所

(1) 分析試料の調整と実験条件

分析試料の調整

分析試料は黒曜石の岩体では岩体のなかで５個所程度選択し、１個所で５～10 試料を採取した。分析結果は岩体の中で選択した各個所について１分析値で代表させた。例えば、西餅屋の岩体では孔道内の４個所を４分析値で表示した。岩体が貧弱である場合には１岩体の中で10 個以上を採取し、試料数分の分析結果を表示した。岩体が消滅しているものや、明確な岩体としての露頭が認められないものや河床の中の転石あるいは斜面に露出する堆積した黒曜石は10個以上採取し、試料数分の分析結果を表示した。

分析にあたっては、露頭より採取した黒曜石を打ちかき、比較的平滑な面を分析面とする未整形試料を作成した。

ガラス質安山岩は表面が風化しており、表面には鉄分が付着して、岩石本来の分析値を反映することが出来ないので、ダイヤモンドカッターで切断し、剥片を作成し、新鮮な面を分析した。分析した結果は黒曜石と同様に酸化物濃度で表示した。

実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置（日本電子製ＪＳＸ-3200）で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（ＦＰ法）による自動定量計算システムが採用されており、６Ｃ～92Ｕまでの元素分析ができ、ハイパワーＸ線源(最大30ｋＶ、4ｍＡ）の採用で微量試料～最大290㎜φ×80㎜Ｈまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクＦＰ法でおこなった。ＦＰ法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、Ｘ線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

分析にあたっては、露頭より採取した黒曜石を打ちかき、比較的平滑な面を分析面とする未整形試料をＸ線照射範囲が約15㎜φの試料台に直接のせ分析した。実験条件はバルクＦＰ法（スタンダードレス方式)、分析雰囲気＝真空、Ｘ線管ターゲット素材＝Ｒｈ、加速電圧＝30ｋＶ、管電流＝自動制御、分析時間＝200秒（有効分析時間）である。また、分析にあたっては標準サンプルを分析し、キャリブレーションを行い、装置の正常さを保って行った。

分析対象元素はSi, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K, P, Rb, Sr, Y, Zrの14元素、分析値は黒曜石の含水量＝０と仮定し、酸化物の重量％を100％にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量％は小数点以下２桁で表示することになっているが、微量元素のRb, Sr, Y, Zrは重量％では小数点以下３～４桁の微量となり、小数点以下２桁では０と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下４桁を用いて化学分析結果を表示した。

岩石の化学組成を構成する主要元素と微量元素の中から、岩石の骨格となるSiとAl、有色鉱物の主要元素であるFe, Ca,無色鉱物の主要元素であるNaとKの関連からK、副成分鉱物のイルメナイトからFeとTi、微量元素ではRbとSrの各元素組み合わせにより黒曜石を分類する図を作製した（周藤他2002)。

基本的には主要元素の各元素が重複しない組み合わせとしたが、Fe, Mn, Tiは鉄質関連として相関性の高い元素であり、TiはFeとMnの２元素との対比となっている。主要元素と微量元素の酸化物濃度（重量％）でSiO_2-Al_2O_3,Fe_2O_3-TiO_2,K_2O-CaO, 積分強度でRb-SrOの４組の組み合わせで図を作成した。

(2) 分析結果

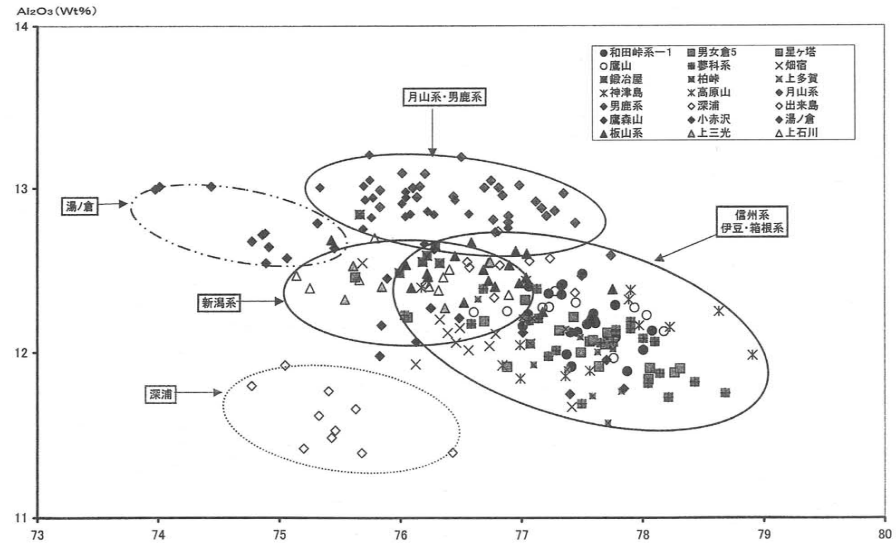
沼袋遺跡より出土した黒曜石遺物は第１表化学分析表の原産地欄に示すように２個の分析のうち、沼袋－１は青森県の深浦、沼袋－２は宮城県の湯ノ倉である。

引用文献

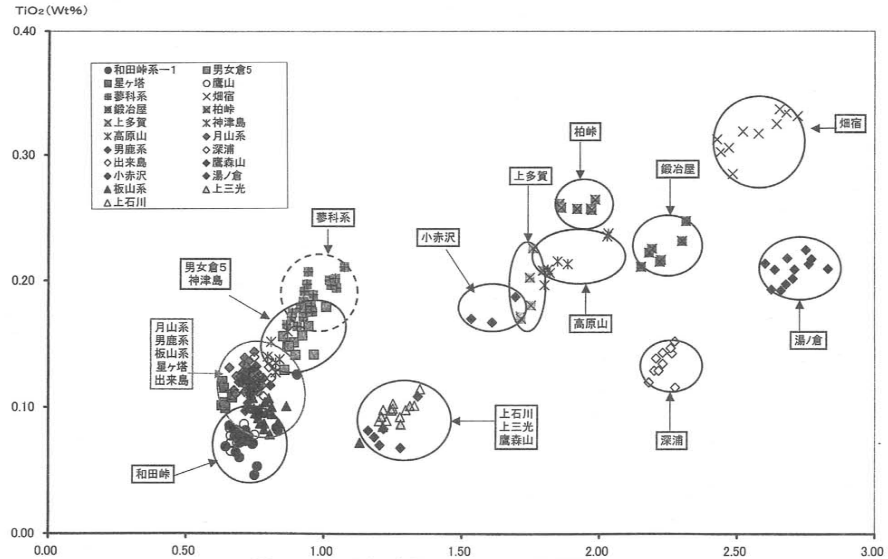
周藤賢治・小山内康人　2002　共立出版、記載岩石学上　p5-20.

第１表　化学分析表

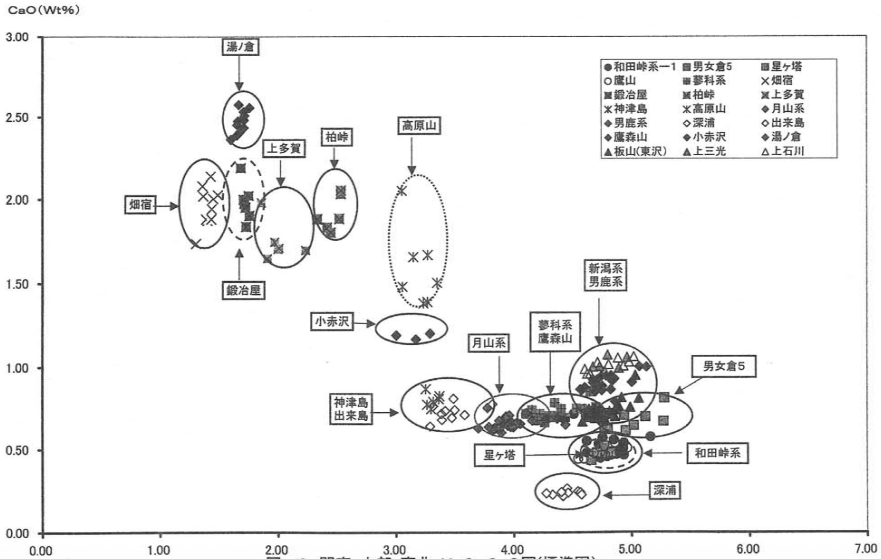
試料名	沼袋－１	沼袋－２
Na_2O	4.4226	4.2935
MgO	0.0000	0.0586
Al_2O_3	12.3940	13.2332
SiO_2	75.5487	75.2066
P_2O_5	0.0000	0.0000
K_2O	4.4271	1.7153
CaO	0.2535	2.3889
TiO_2	0.1823	0.2211
MnO	0.0694	0.0832
Fe_2O_3	2.5953	2.7534
Rb_2O	0.0121	0.0075
SrO	0.0024	0.0204
Y_2O_3	0.0096	0.0000
ZrO_2	0.0830	0.0182
Total	1000.0000	99.99990.0000
Rb(1)	815	492
Sr(1)	158	1312
原産地	**深浦**	**湯ノ倉**
備　考	縄文後期前葉・剥片 １号捨て場出土	縄文後期前葉・砕片 １号捨て場出土



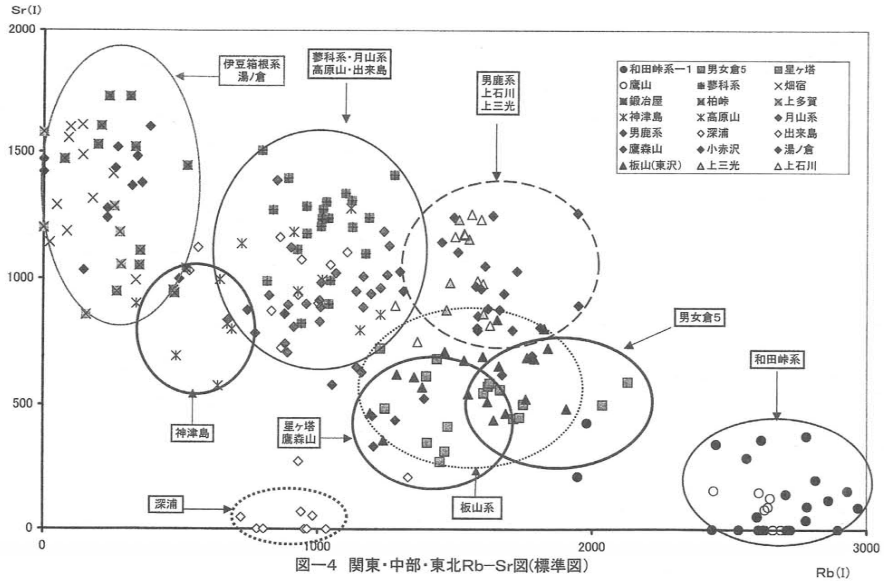
図―1 関東・中部・東北：SiO2―Al2O3図（標準図）



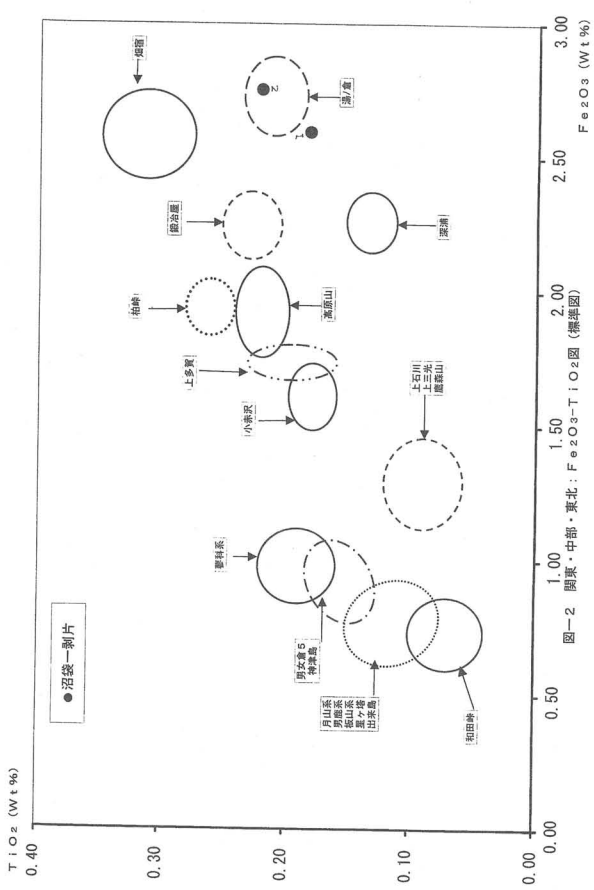
図―2 関東・中部・東北：Fe2O3―TiO2図（標準図）

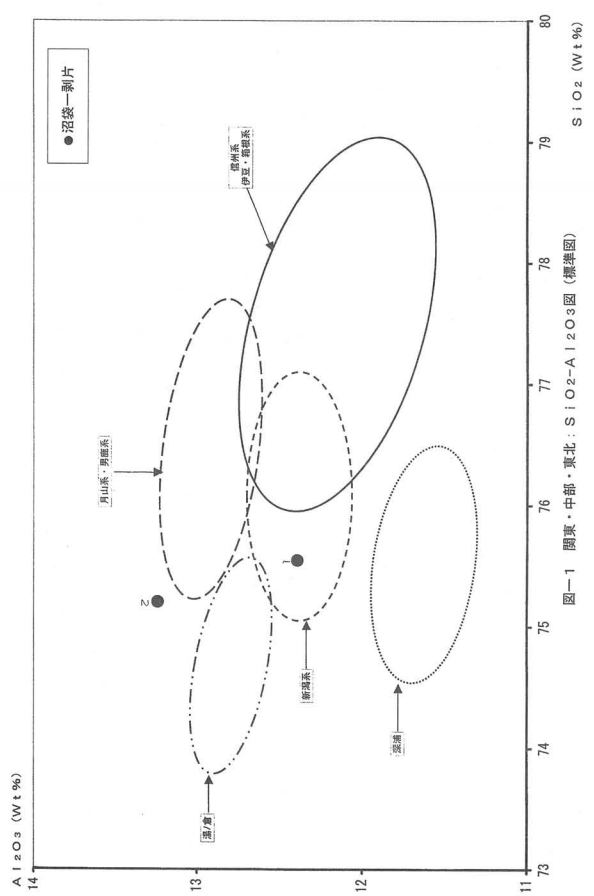


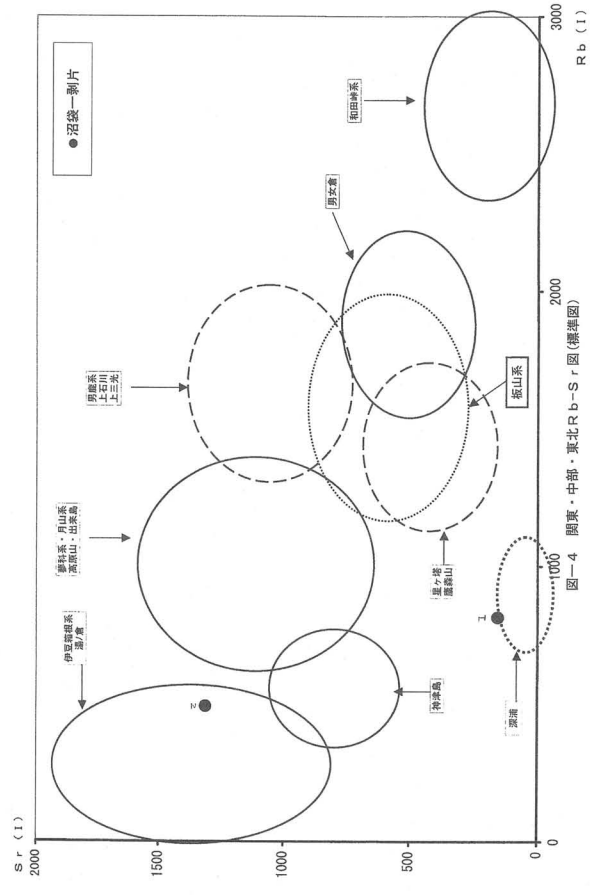
図―3 関東・中部・東北：K2O―CaO図(標準図)

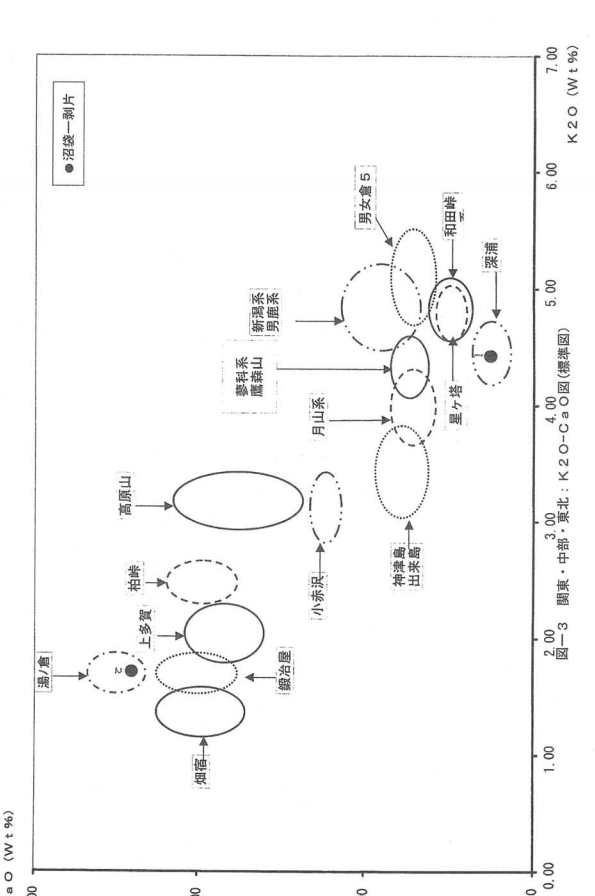


図―4 関東・中部・東北Rb―Sr図(標準図)









図―1　関東・中部・東北：SiO2-Al2O3図（標準図）

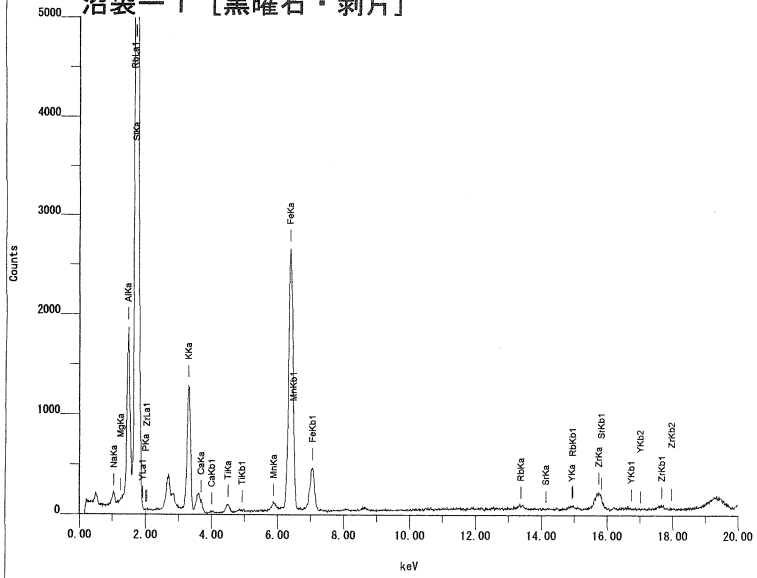
図―2　関東・中部・東北：Fe2O3-TiO2図（標準図）

図―3　関東・中部・東北：K2O-CaO図（標準図）

図―4　関東・中部・東北Rb-Srr図（標準図）

印刷: 2004年12月 2日 10時12分49秒

沼袋ー１［黒曜石・剥片］

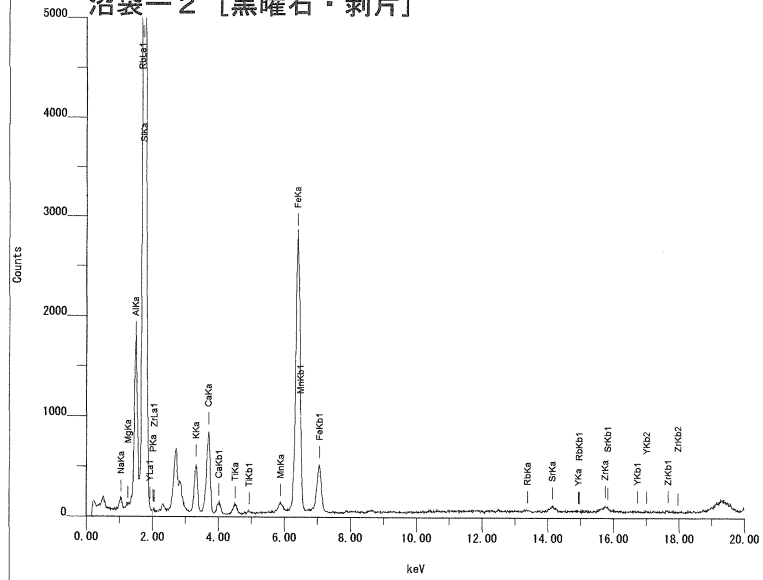


ファイル名： C:¥Jsx3200¥data¥沼袋ー１.spc　　測定日時： 2004年12月 2日 9時57分 5秒
試料名　　： 黒曜石・剥片
メモ　　： 縄文後期前葉
測定条件　： 電圧: 30.0kV　電流: 0.480mA　ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ: 200.00sec　パス：Vac
定量条件
　定量法： 標準
分析元素： Na,Mg,Al,Si,P,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Rb,Sr,Y,Zr

Num	元素/	化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	11	Na2O	4.4226	4.6879	0.0534547	1048	0.3261
2	12	MgO	nd				
3	13	Al2O3	12.3940	7.9859	0.0290839	15448	0.0712
4	14	SiO2	75.5487	82.6070	0.2577703	143606	0.0824
5	15	P2O5	nd				
6	19	K2O	4.4271	3.0875	0.0344922	16578	0.0301
7	20	CaO	0.2535	0.2969	0.0017035	1170	0.0269
8	22	TiO2	0.1823	0.1499	0.0009747	1192	0.0206
9	25	MnO	0.0694	0.0643	0.0006852	1174	0.0093
10	26	Fe2O3	2.5953	1.0677	0.0246955	46824	0.0091
11	37	Rb2O	0.0121	0.0043	0.0005192	815	0.0048
12	38	SrO	0.0024	0.0015	0.0000965	158	0.0053
13	39	Y2O3	0.0096	0.0028	0.0003779	591	0.0061
14	40	ZrO2	0.0830	0.0443	0.0034703	4707	0.0071

印刷: 2004年12月 2日 10時12分57秒

沼袋ー２［黒曜石・剥片］

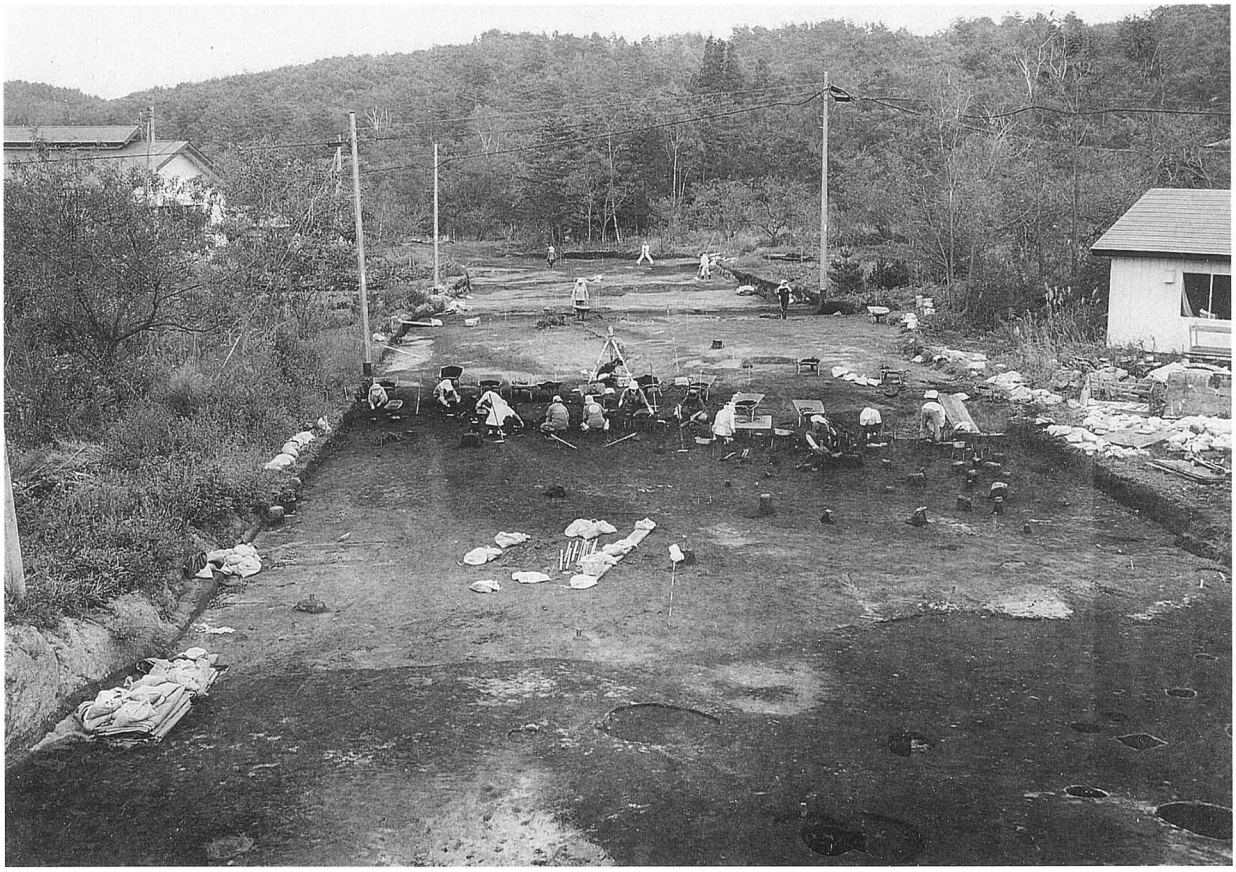


ファイル名： C:¥Jsx3200¥data¥沼袋ー２.spc　　測定日時： 2004年12月 2日10時 1分56秒
試料名　　： 黒曜石・剥片
メモ　　： 縄文後期前葉
測定条件　： 電圧: 30.0kV　電流: 1.040mA　ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ: 200.00sec　パス：Vac
定量条件
　定量法： 標準
分析元素： Na,Mg,Al,Si,P,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Rb,Sr,Y,Zr

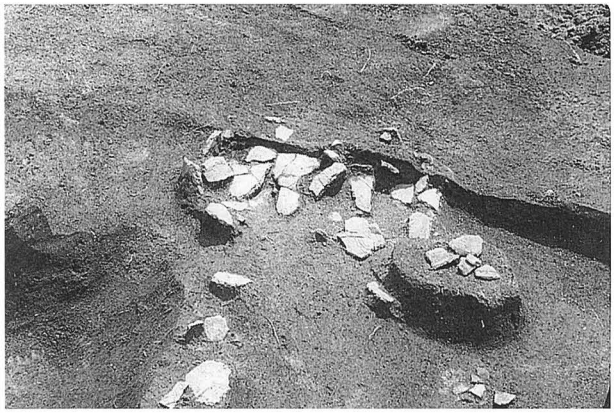
Num	元素/	化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	11	Na2O	4.2935	4.5142	0.0232955	989	0.4738
2	12	MgO	0.0586	0.0948	0.0001154	31	0.2297
3	13	Al2O3	13.2332	8.4575	0.0139558	16061	0.1040
4	14	SiO2	75.2066	81.5657	0.1144498	138149	0.1164
5	15	P2O5	nd				
6	19	K2O	1.7153	1.1866	0.0060815	6333	0.0430
7	20	CaO	2.3889	2.7759	0.0076575	11394	0.0367
8	22	TiO2	0.2211	0.1803	0.0005401	1431	0.0294
9	25	MnO	0.0832	0.0765	0.0003743	1390	0.0133
10	26	Fe2O3	2.7534	1.1236	0.0119311	49014	0.0130
11	37	Rb2O	0.0075	0.0026	0.0001446	492	0.0068
12	38	SrO	0.0204	0.0129	0.0003709	1312	0.0076
13	39	Y2O3	nd				
14	40	ZrO2	0.0182	0.0096	0.0003449	1014	0.0102

写 真 図 版

5号土坑出土人骨

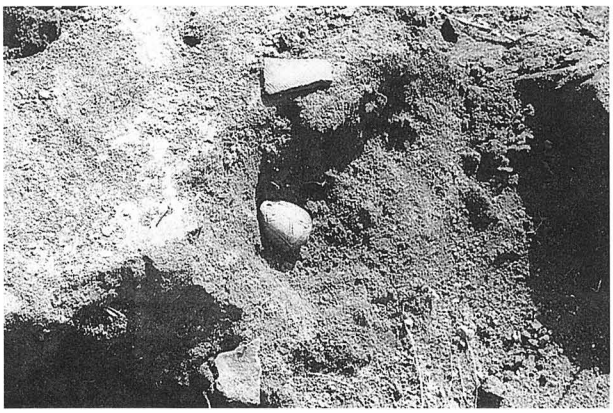


B区調査風景（中央は１号捨て場範囲）



遺物集中部①　No. 130土器出土状況

遺物集中部②　No. 129土器出土状況



No. 410鐸形土製品出土状況

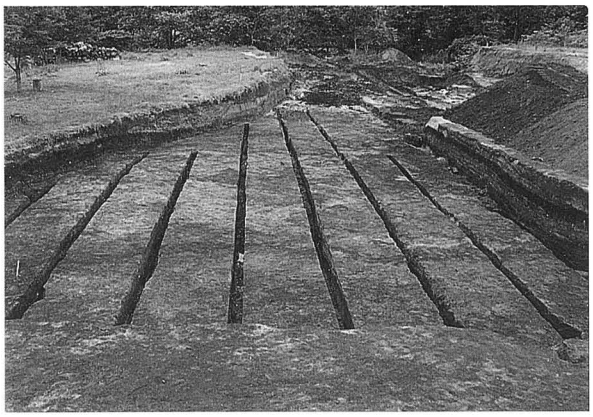
No. 409鐸形土製品出土状況

写真図版１　B区調査風景、１号捨て場遺物出土状況

B区　２号捨て場

B区　２号捨て場セクション

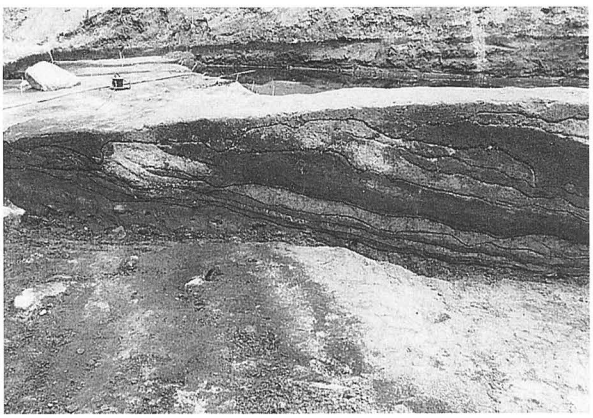
写真図版２　２号捨て場



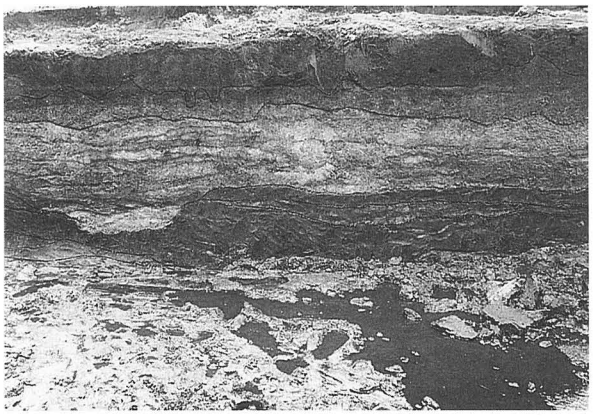
C区西側　完掘

C区東側①　完掘

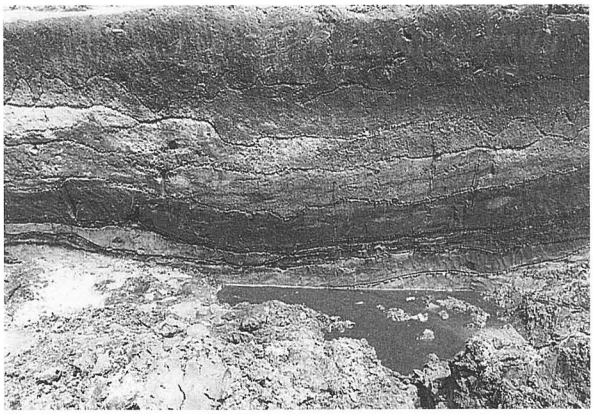
C区東側②　完掘



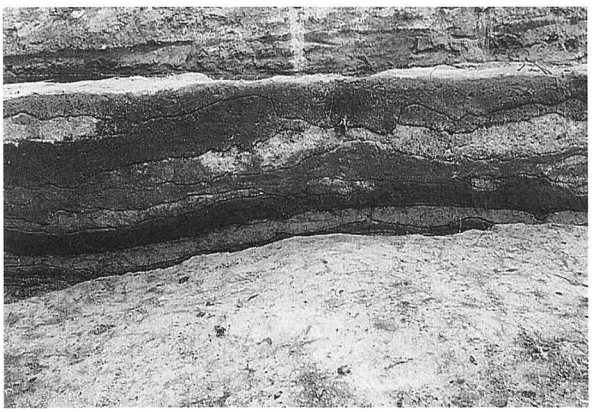
C区中央ベルト①（北端）



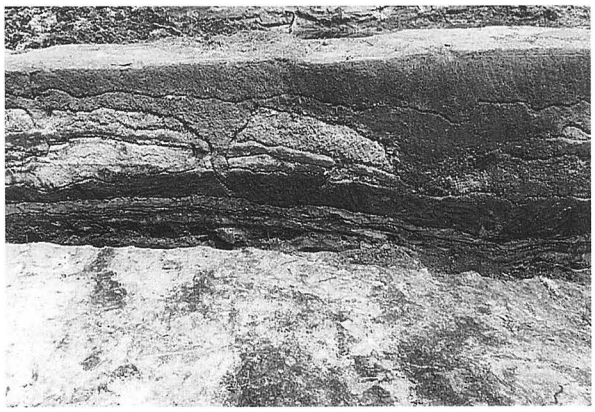
C区中央ベルト②



C区中央ベルト③

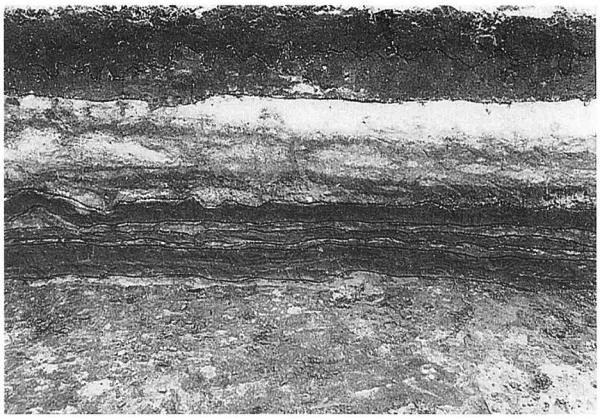


C区中央ベルト④

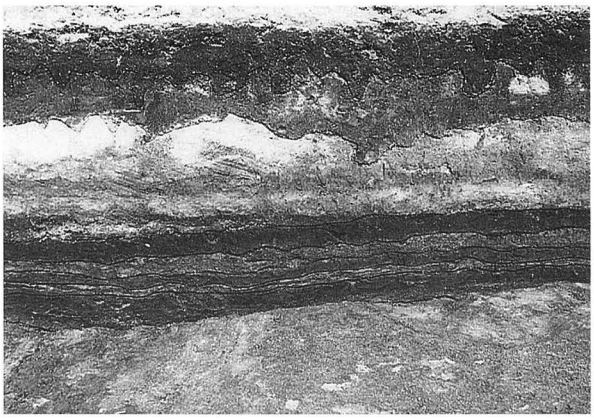


C区中央ベルト⑤

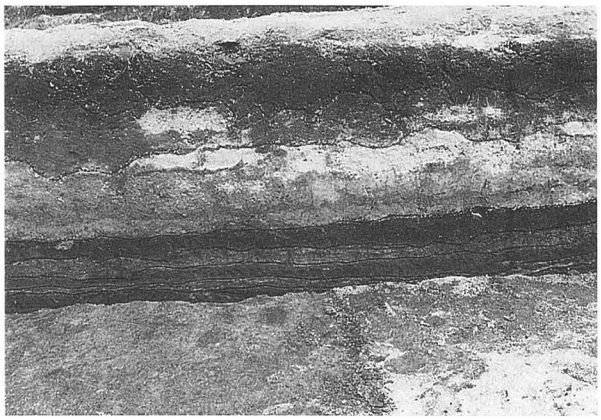
写真図版 3　C区完掘、層序（1）



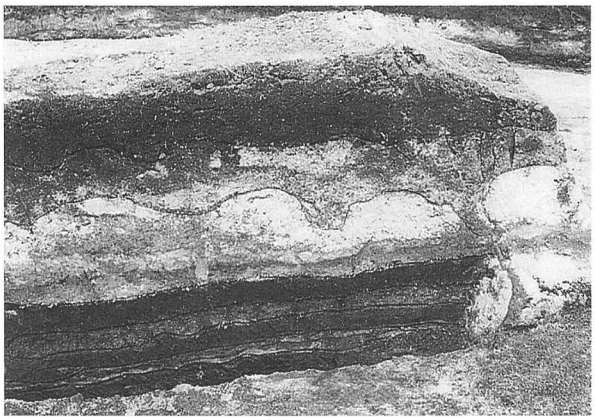
C区中央ベルト⑥



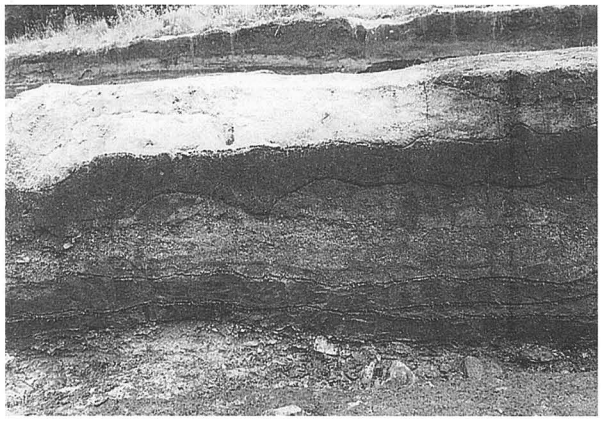
C区中央ベルト⑦



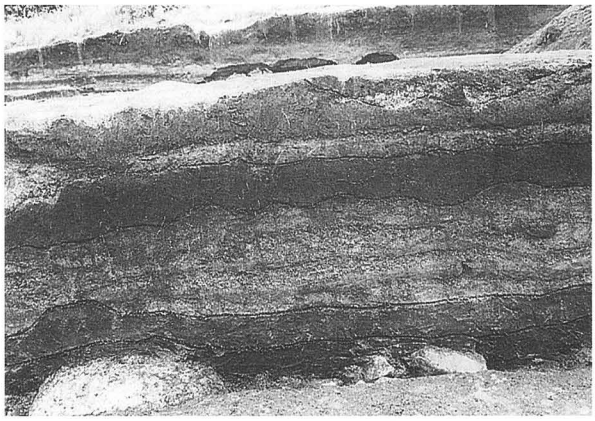
C区中央ベルト⑧



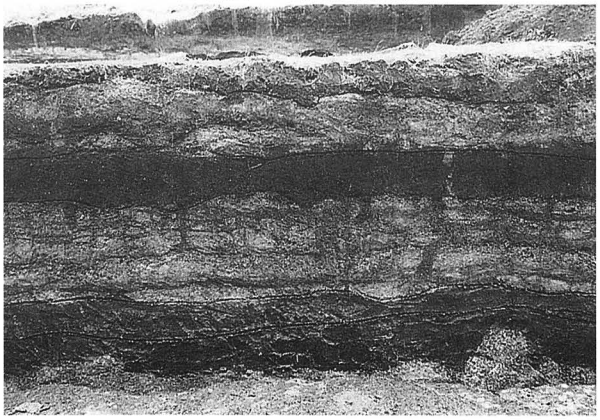
C区中央ベルト⑨（南端）



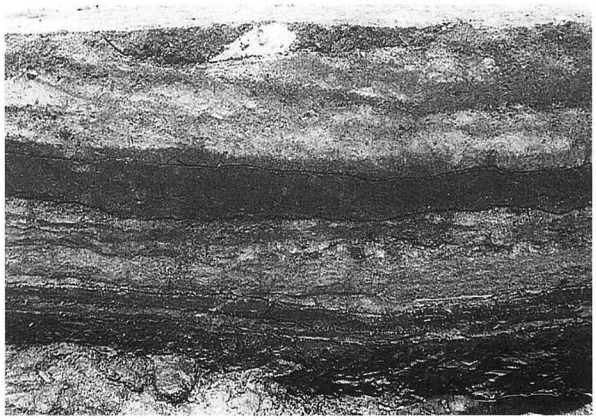
C区西ベルト①（北端）



C区西ベルト②



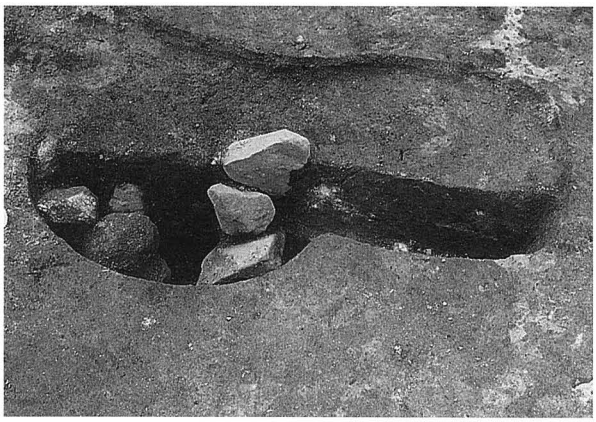
C区西ベルト③



C区西ベルト④

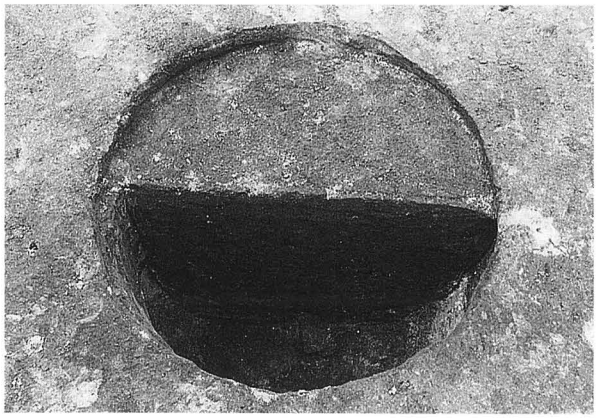
写真図版４　C区層序（2）

1号掘立柱建物跡

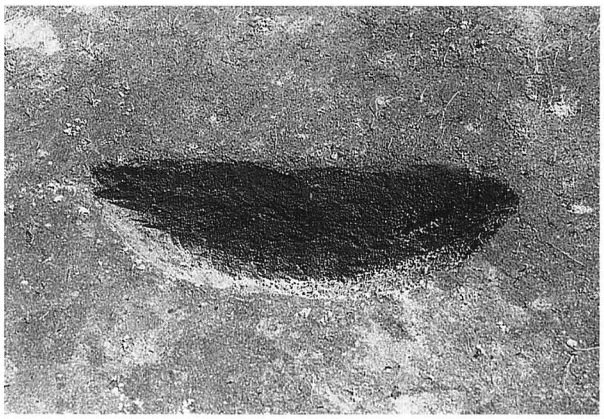


1号柱穴断面

6号柱穴断面



8号柱穴断面



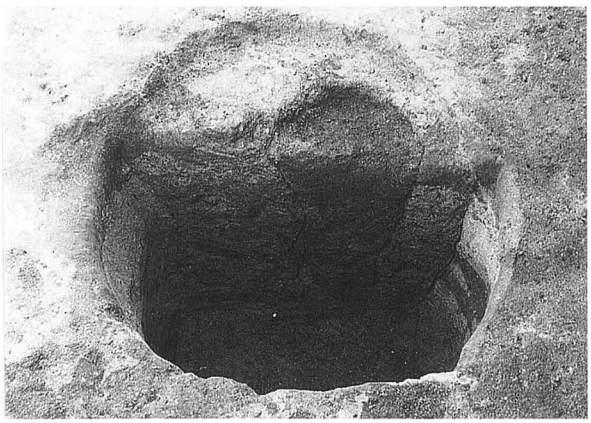
9号柱穴断面

写真図版5　1号掘立柱建物跡

2 号掘立柱建物跡

11号柱穴断面

12号柱穴断面

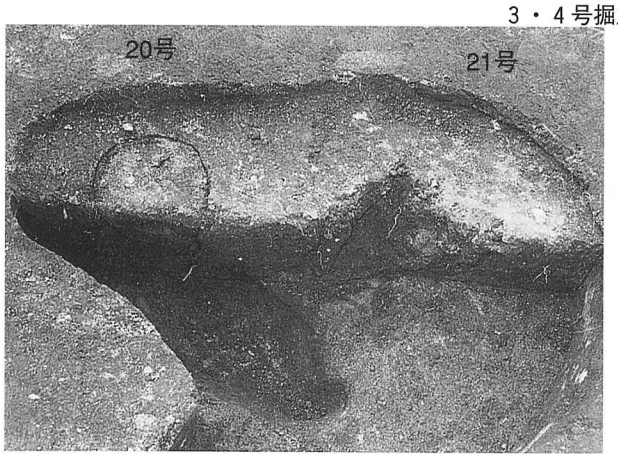


13号柱穴断面

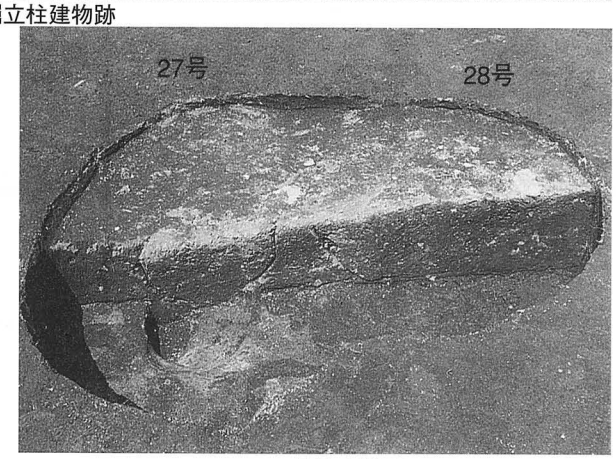
14号柱穴断面

写真図版 6　2 号掘立柱建物跡

3・4号掘立柱建物跡

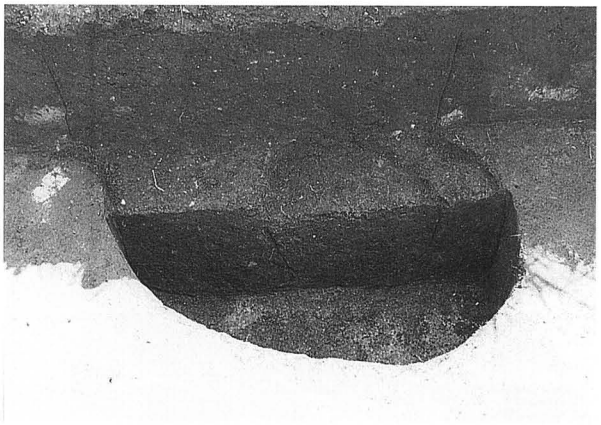


20・21号柱穴断面



27・28号柱穴断面

50号柱穴断面

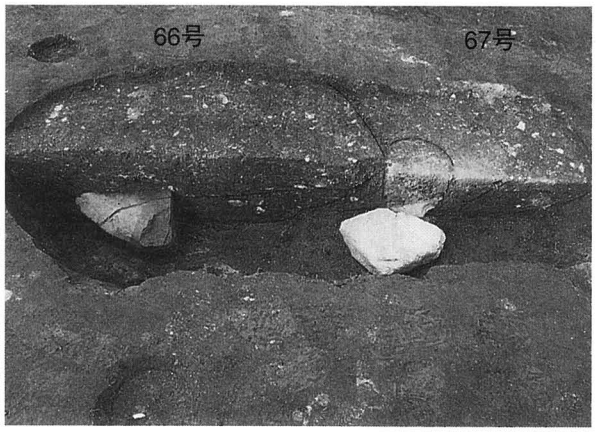


55号柱穴断面

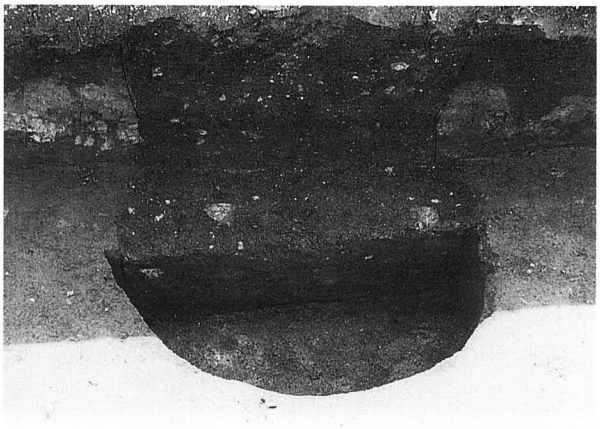
写真図版７　３・４号掘立柱建物跡（1）

62号柱穴断面

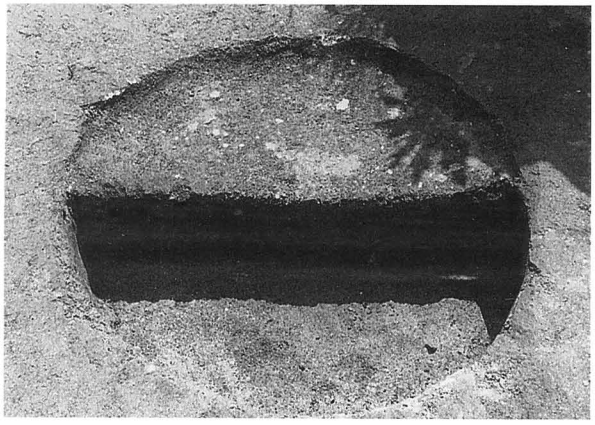
64号柱穴断面



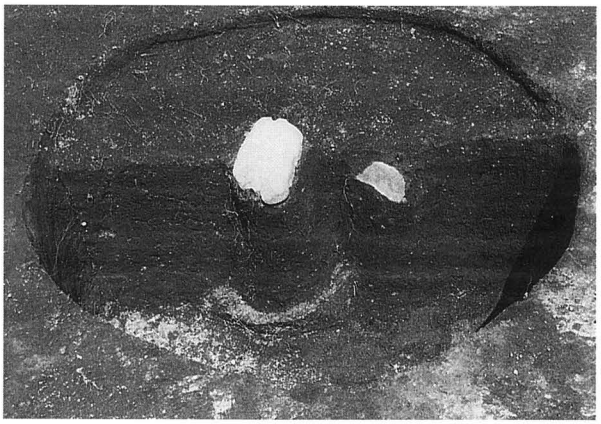
66・67号柱穴断面



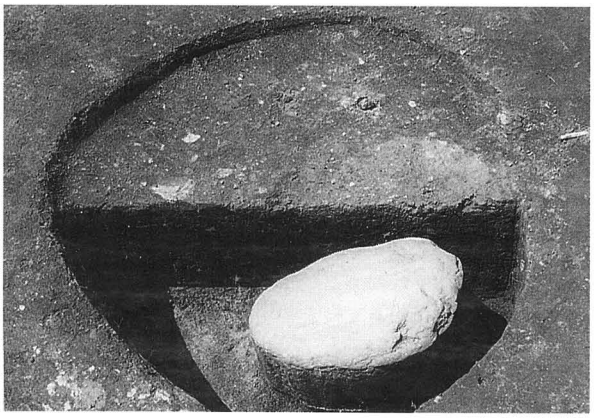
72号柱穴断面



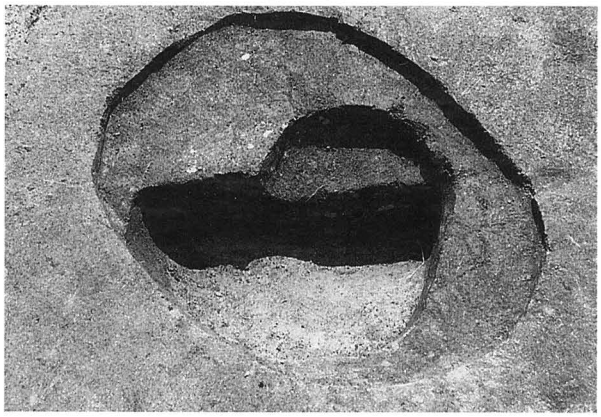
73号柱穴断面



76号柱穴断面



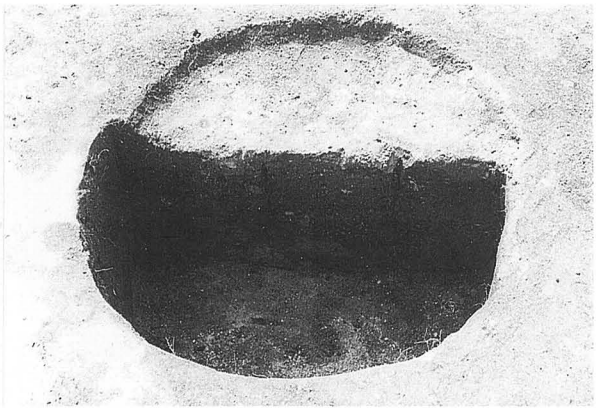
78号柱穴断面



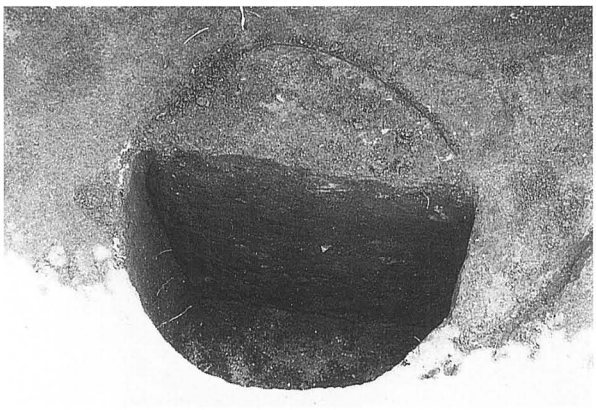
79号柱穴断面

写真図版８　３・４号掘立柱建物跡（２）

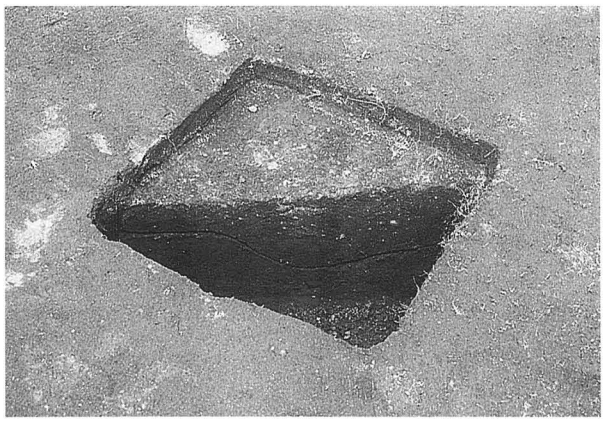
5・6号掘立柱建物跡



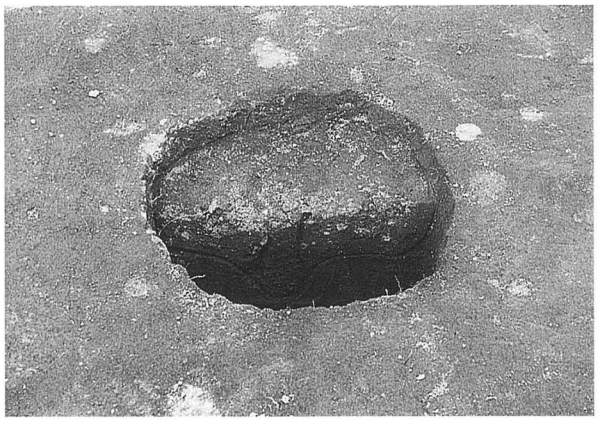
42号柱穴断面



53号柱穴断面

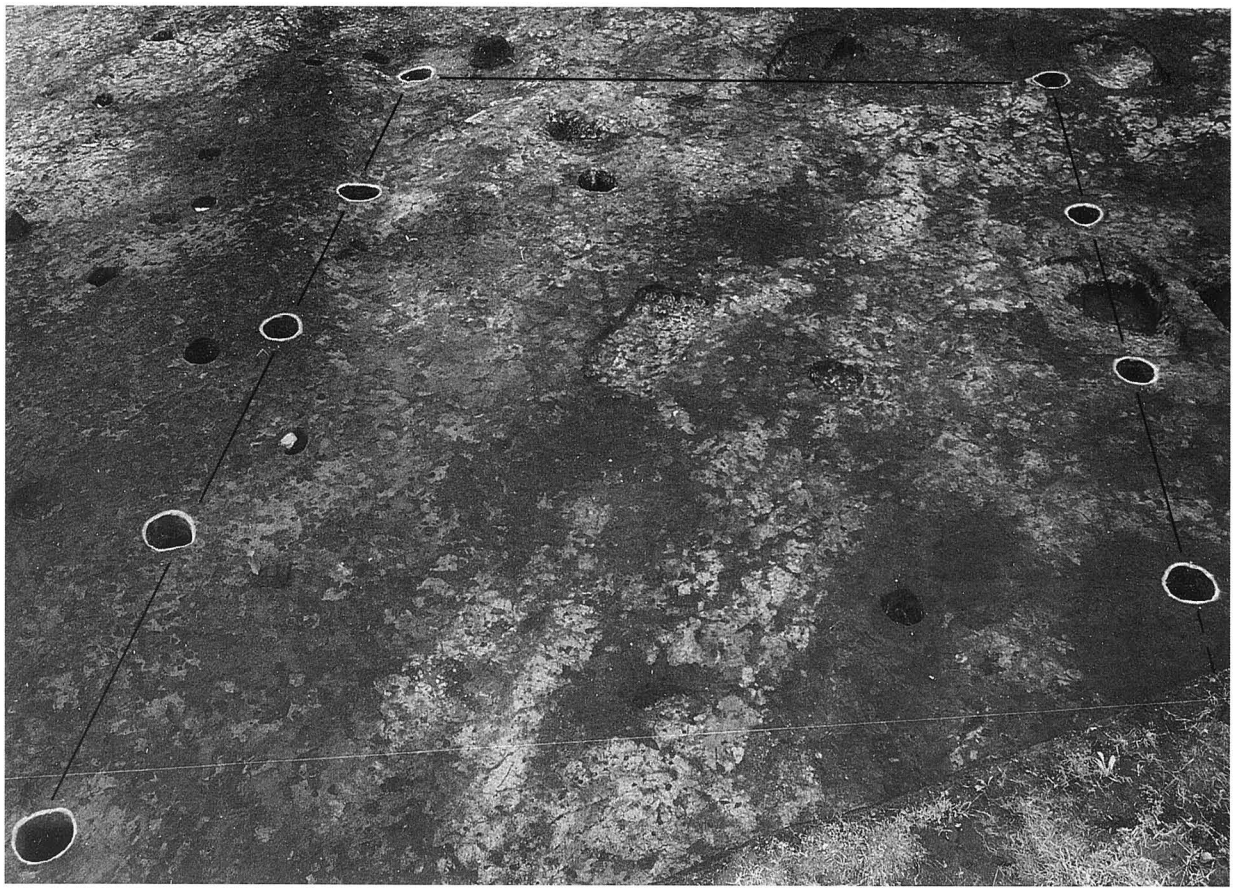


83号柱穴断面

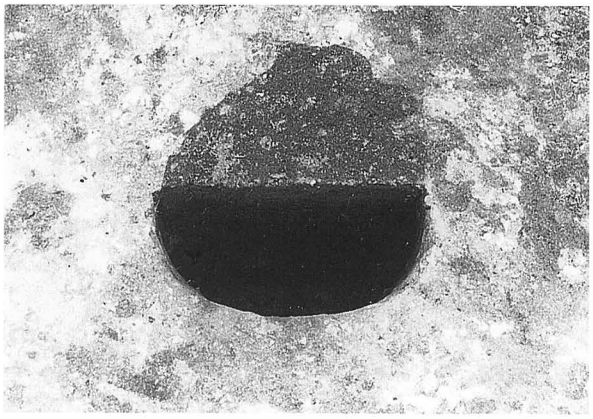


84号柱穴断面

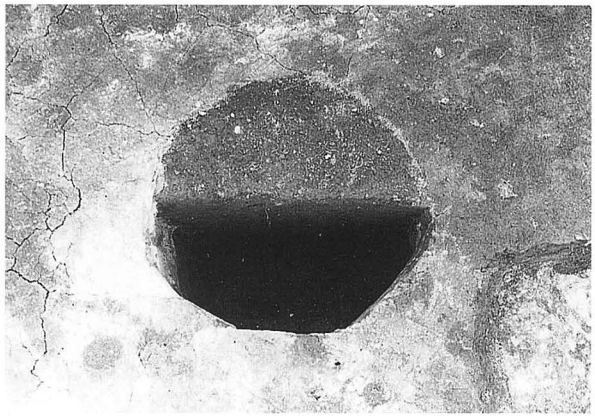
写真図版９　５・６号掘立柱建物跡



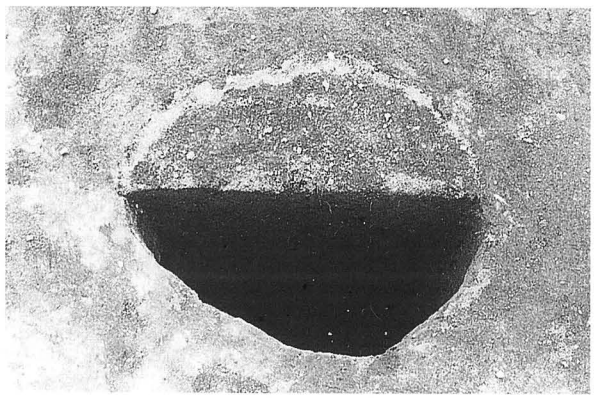
7号掘立柱建物跡



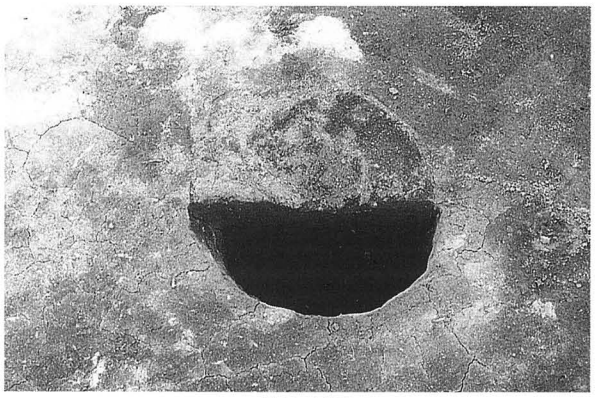
123号柱穴断面



130号柱穴断面

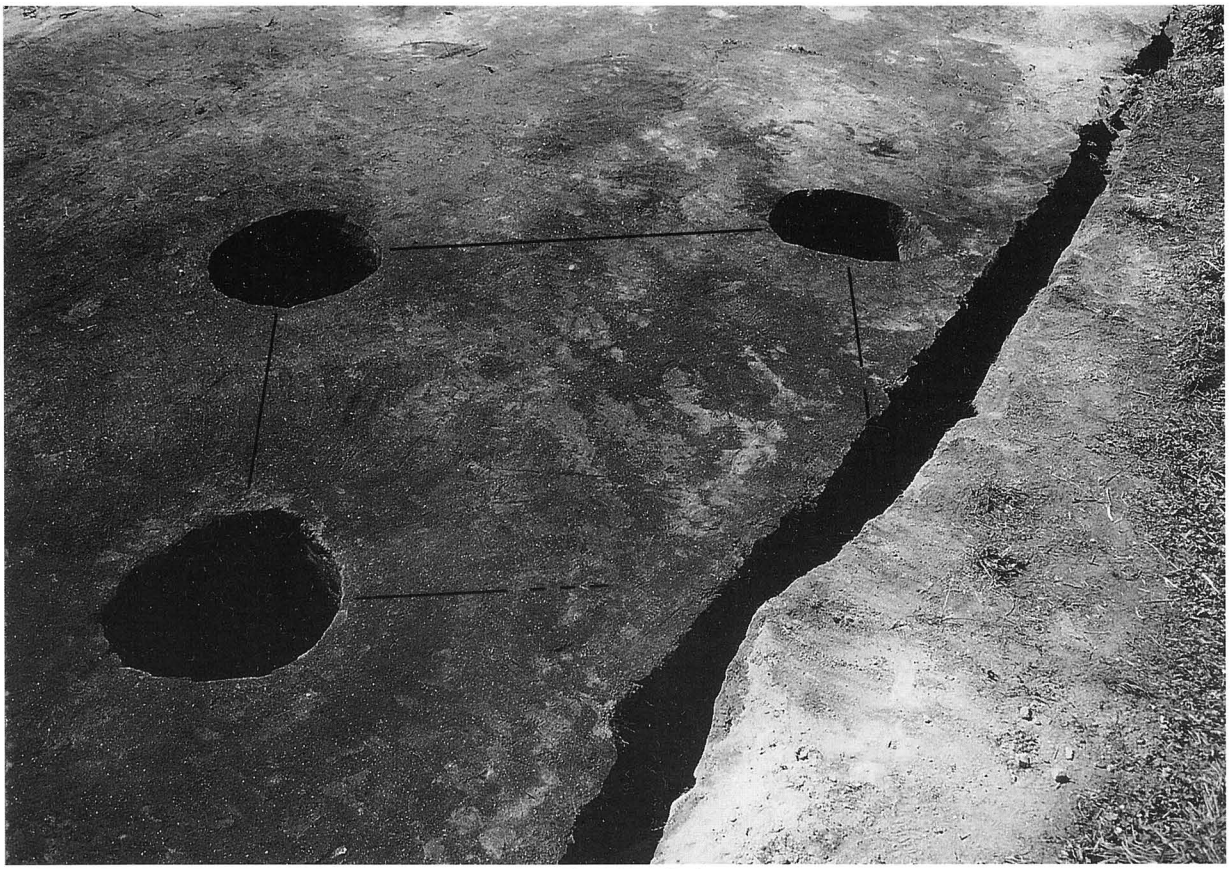


131号柱穴断面

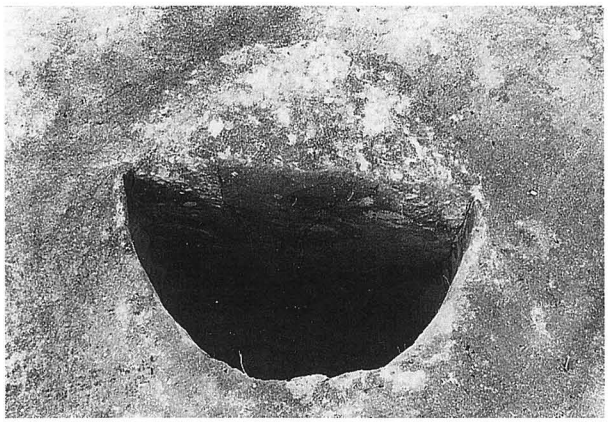


132号柱穴断面

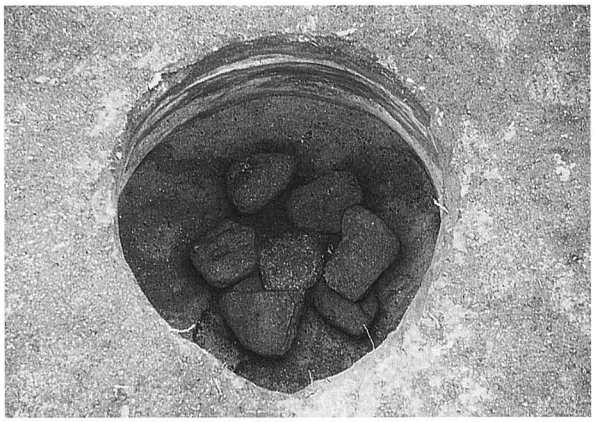
写真図版10　7号掘立柱建物跡



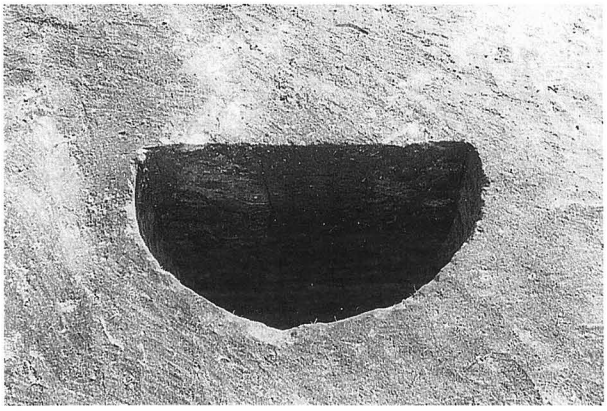
8 号掘立柱建物跡



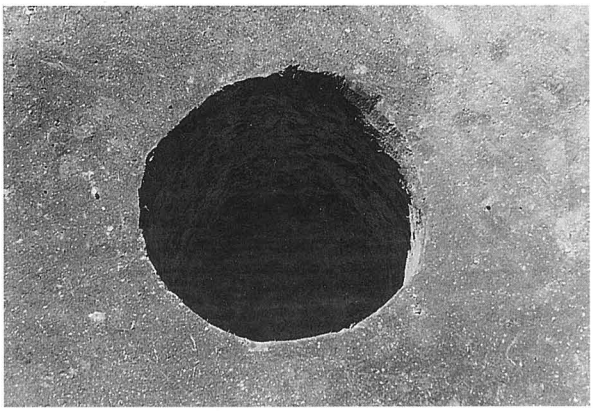
137号柱穴断面



139号柱穴完掘

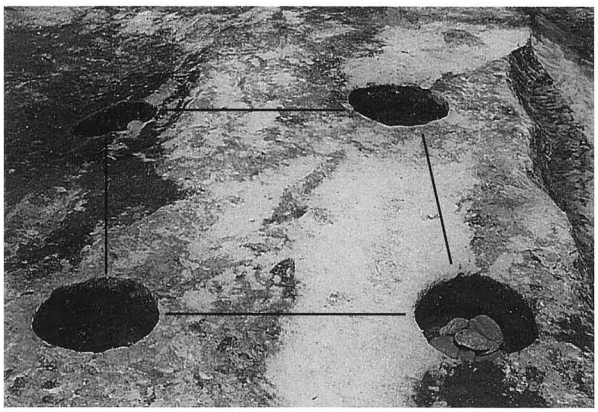


138号柱穴断面

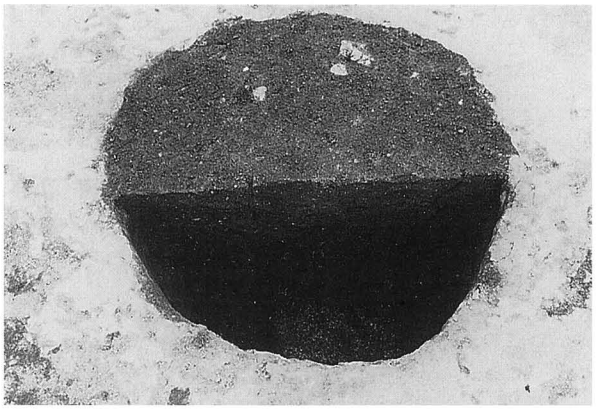


138号柱穴完掘

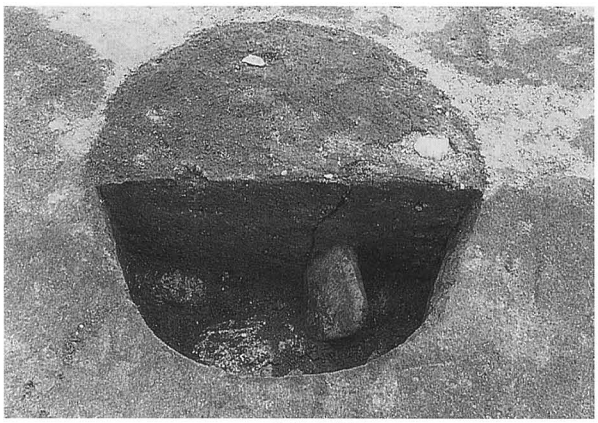
写真図版11　8 号掘立柱建物跡



9 号掘立柱建物跡

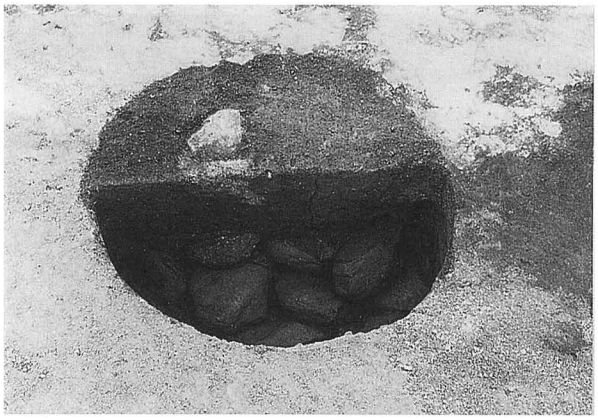


141号柱穴断面

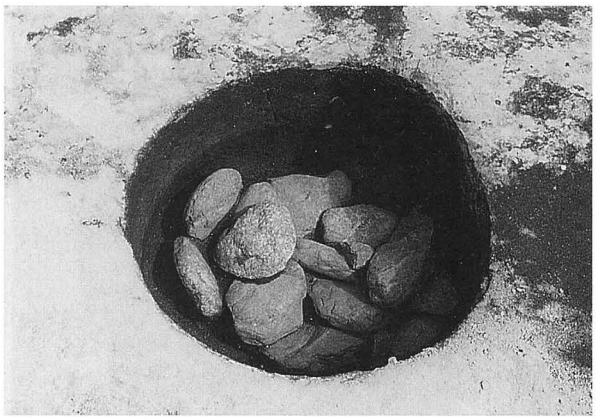


140号柱穴断面

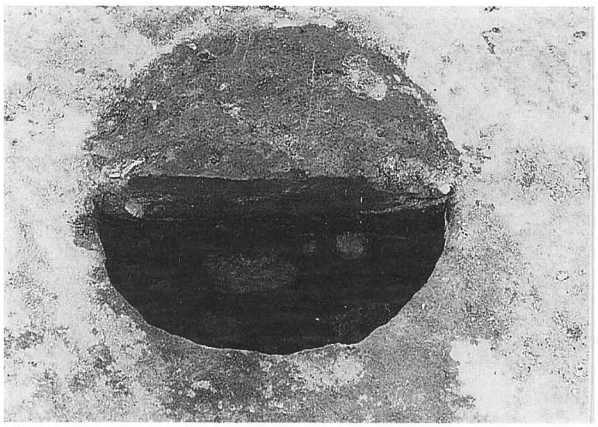
140号柱穴完掘



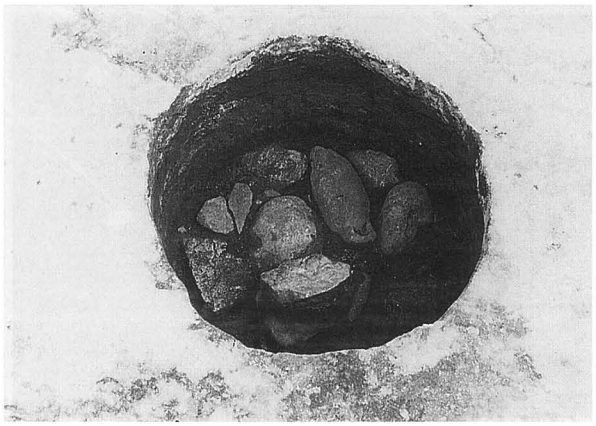
142号柱穴断面



142号柱穴完掘



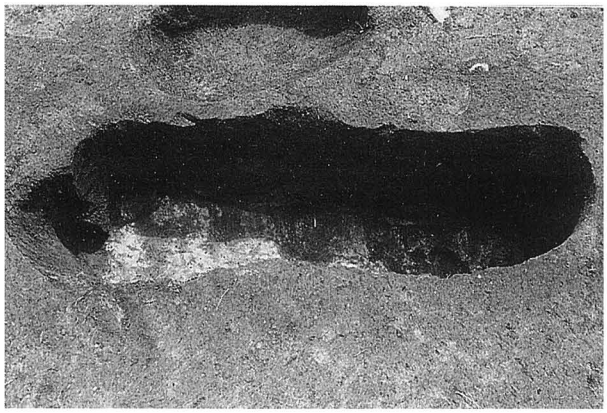
143号柱穴断面



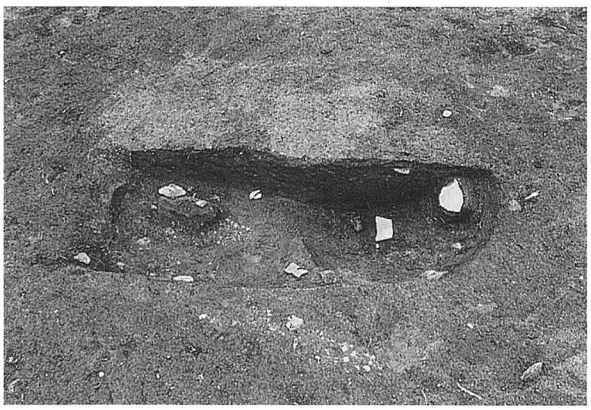
143号柱穴完掘

写真図版12　9 号掘立柱建物跡

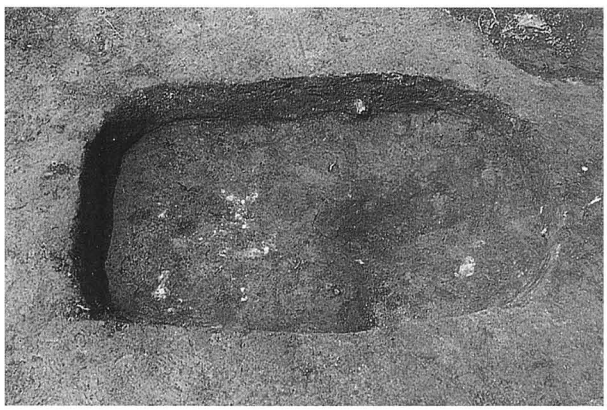
1号土坑断面



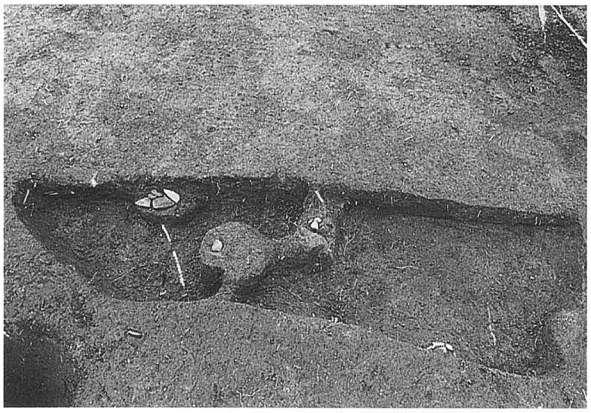
1号土坑完掘



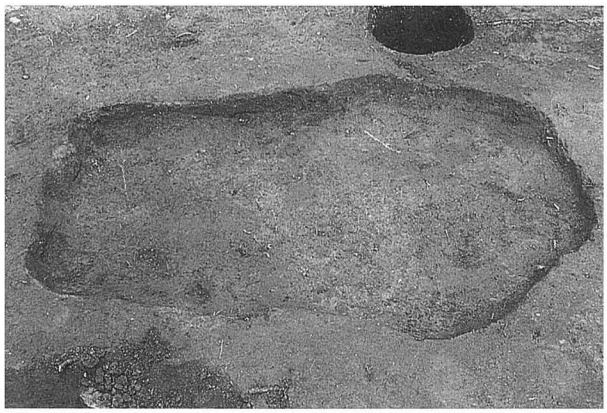
2号土坑断面



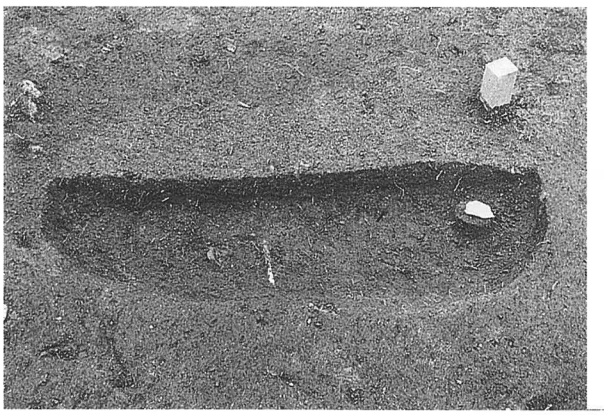
2号土坑完掘



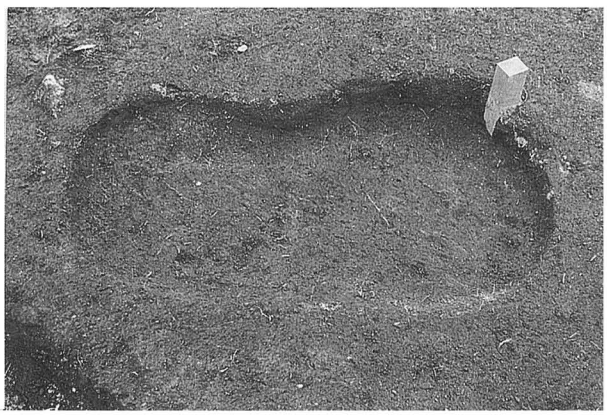
3号土坑断面



3号土坑完掘

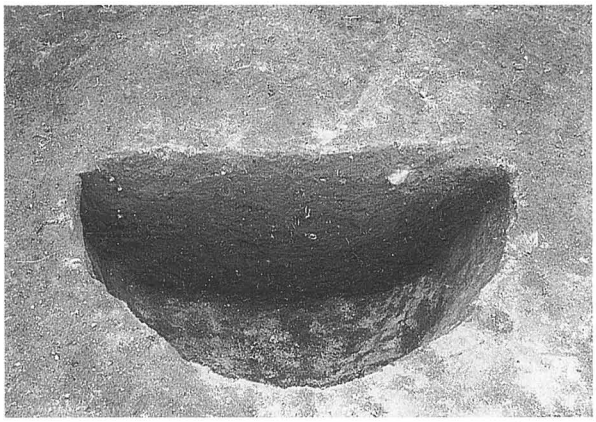


4号土坑断面

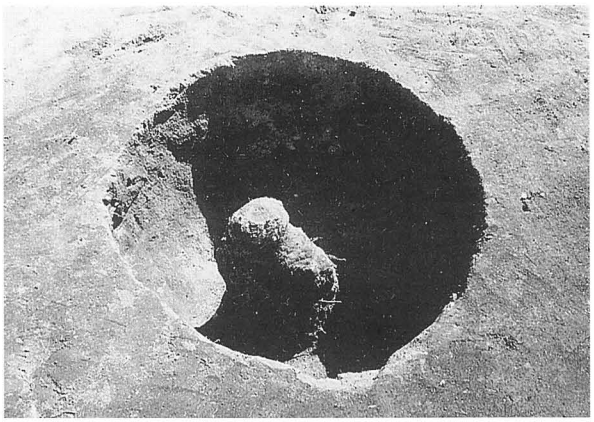


4号土坑完掘

写真図版13　1～4号土坑

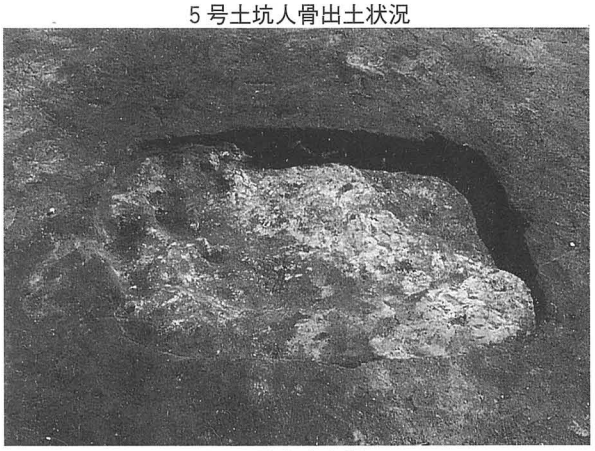


5 号土坑断面

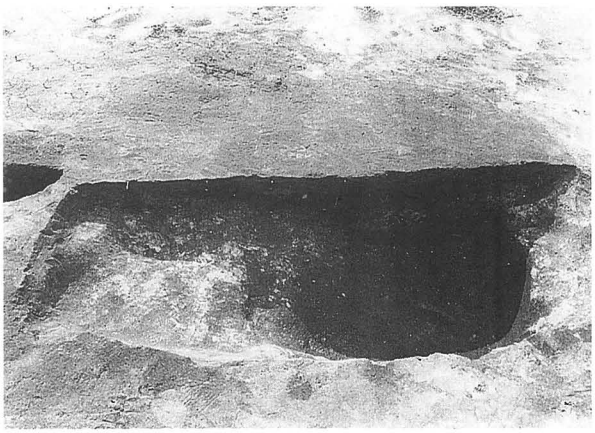


5 号土坑人骨出土状況

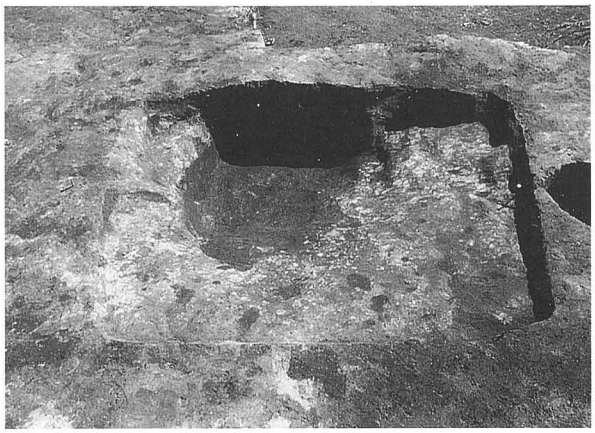
6 号土坑断面



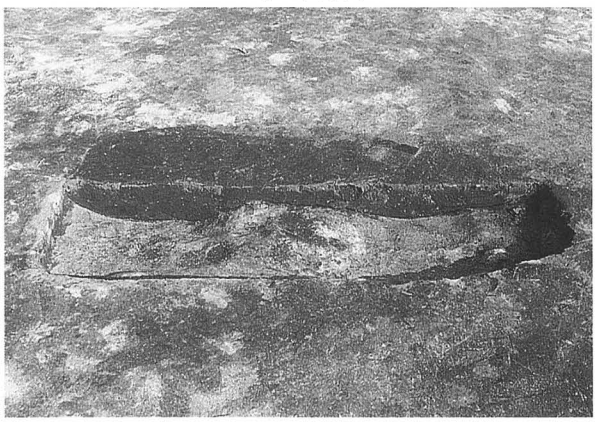
6 号土坑完掘



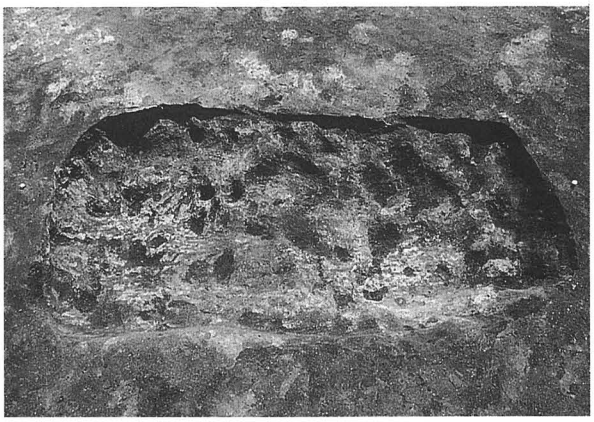
7 号土坑断面



7 号土坑完掘

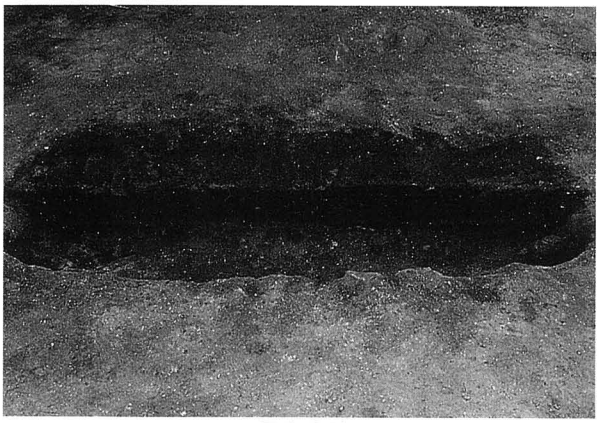


8 号土坑断面

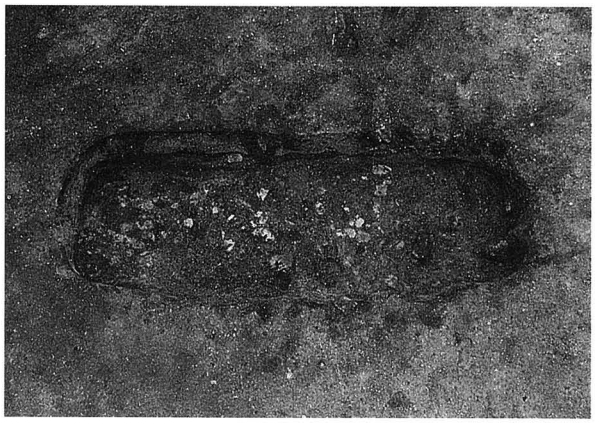


8 号土坑完掘

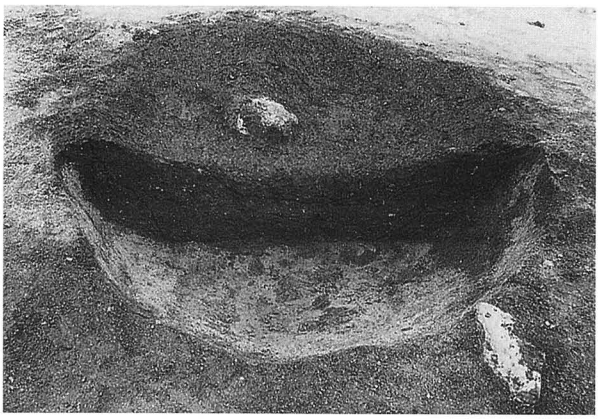
写真図版14　5～8 号土坑



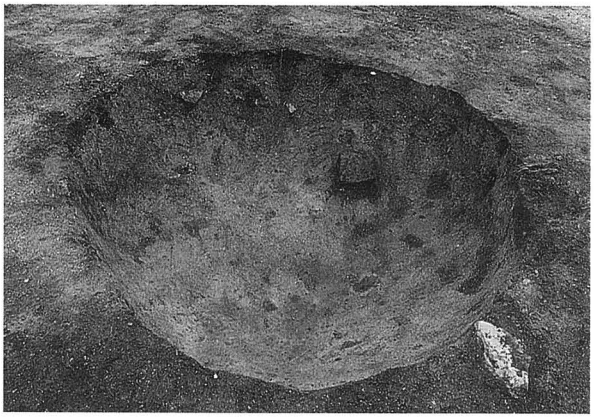
9号土坑断面



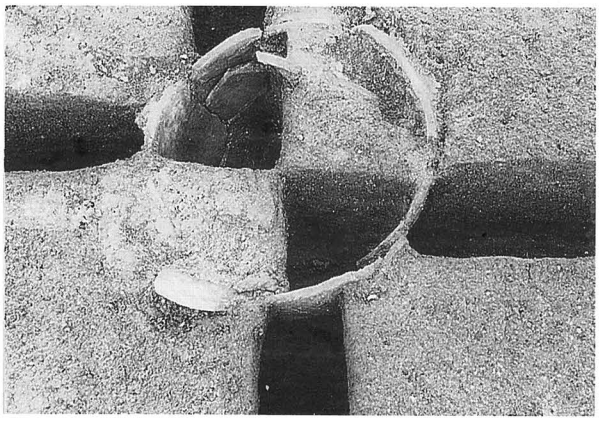
9号土坑完掘



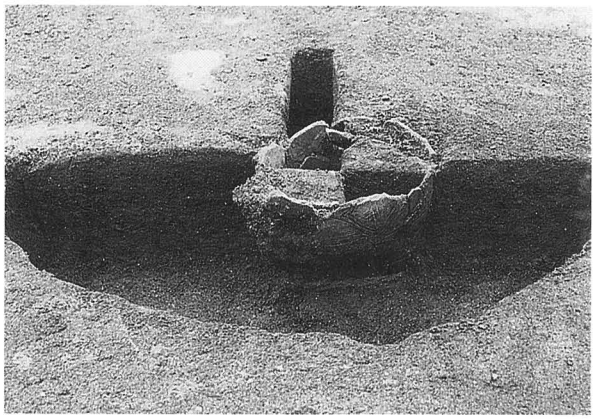
10号土坑断面



10号土坑完掘



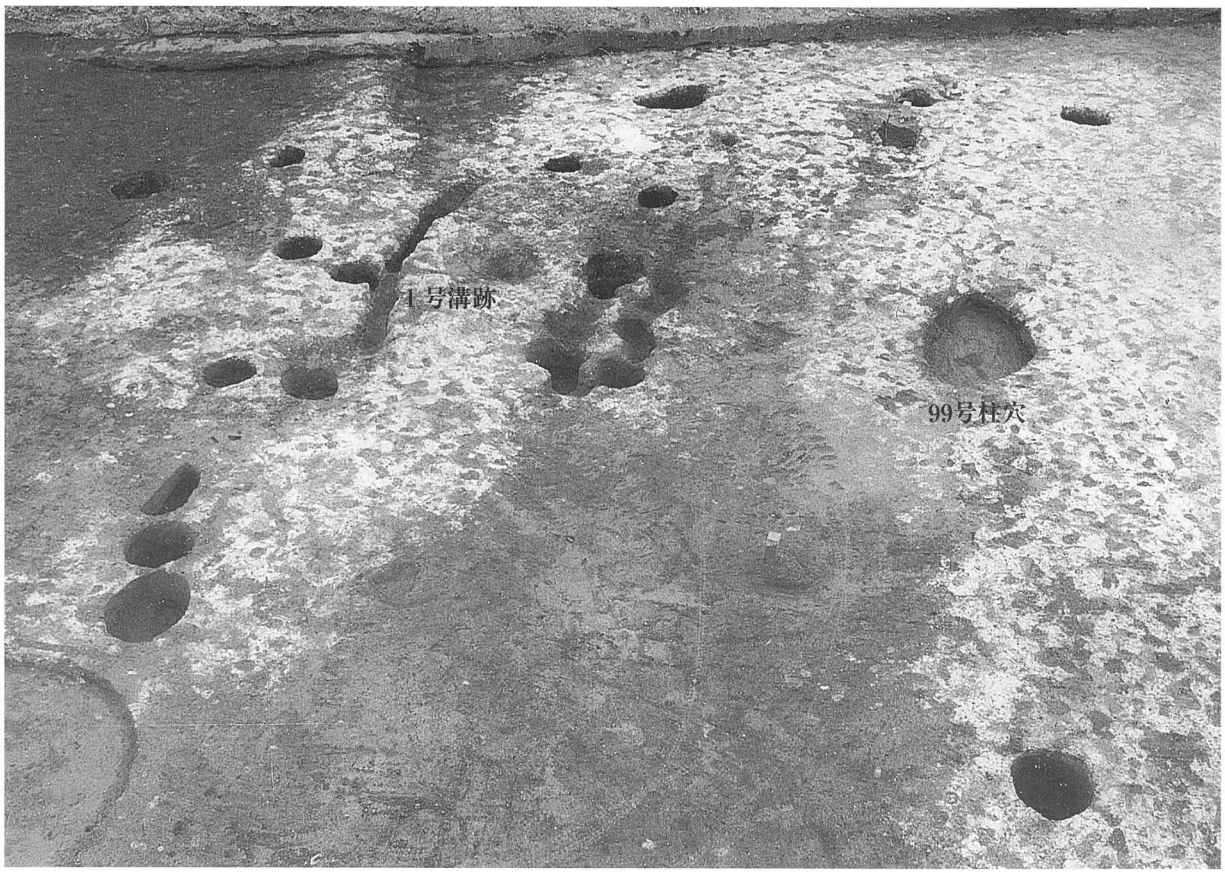
1号埋設土器断面



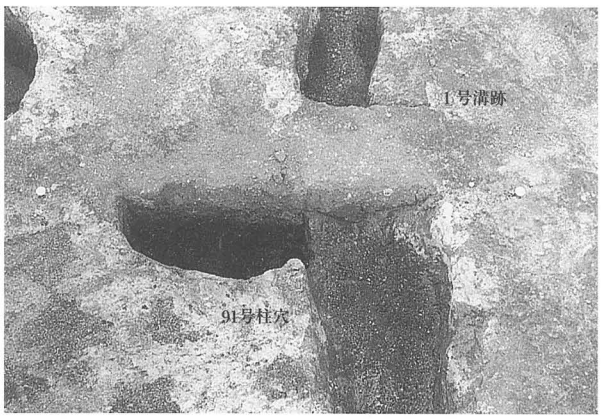
1号埋設土器出土状況

1号焼土断面

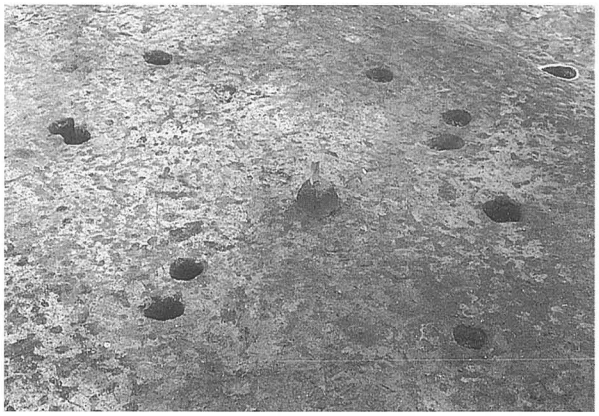
写真図版15　9・10号土坑、1号埋設土器、1号焼土



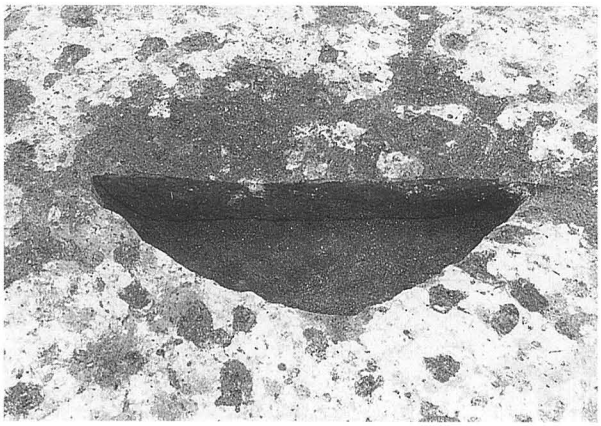
B区柱穴群①・1号溝跡



91号柱穴・1号溝跡断面



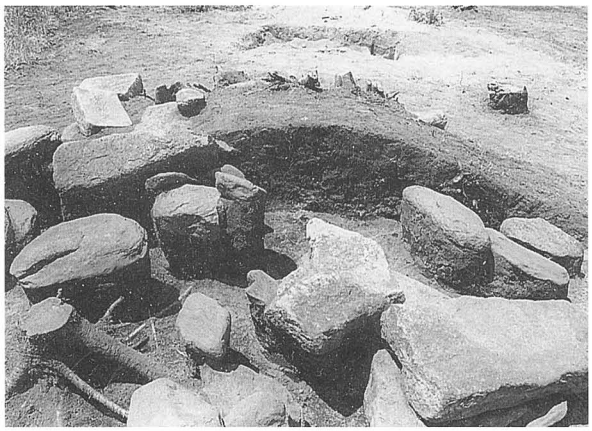
B区柱穴群②



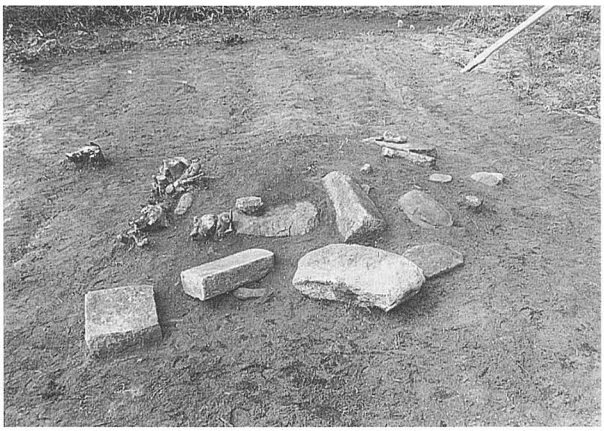
99号柱穴断面

112号柱穴断面

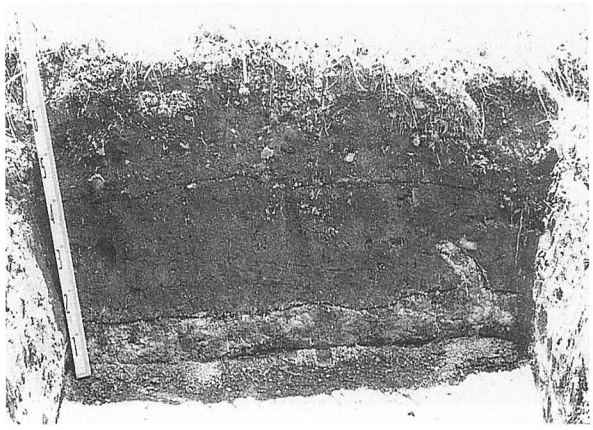
写真図版16　B区柱穴群、1号溝跡



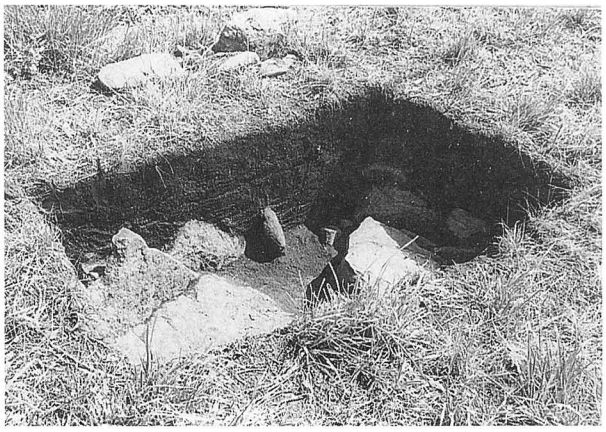
B区近世墓碑集中部①



B区近世墓碑集中部②



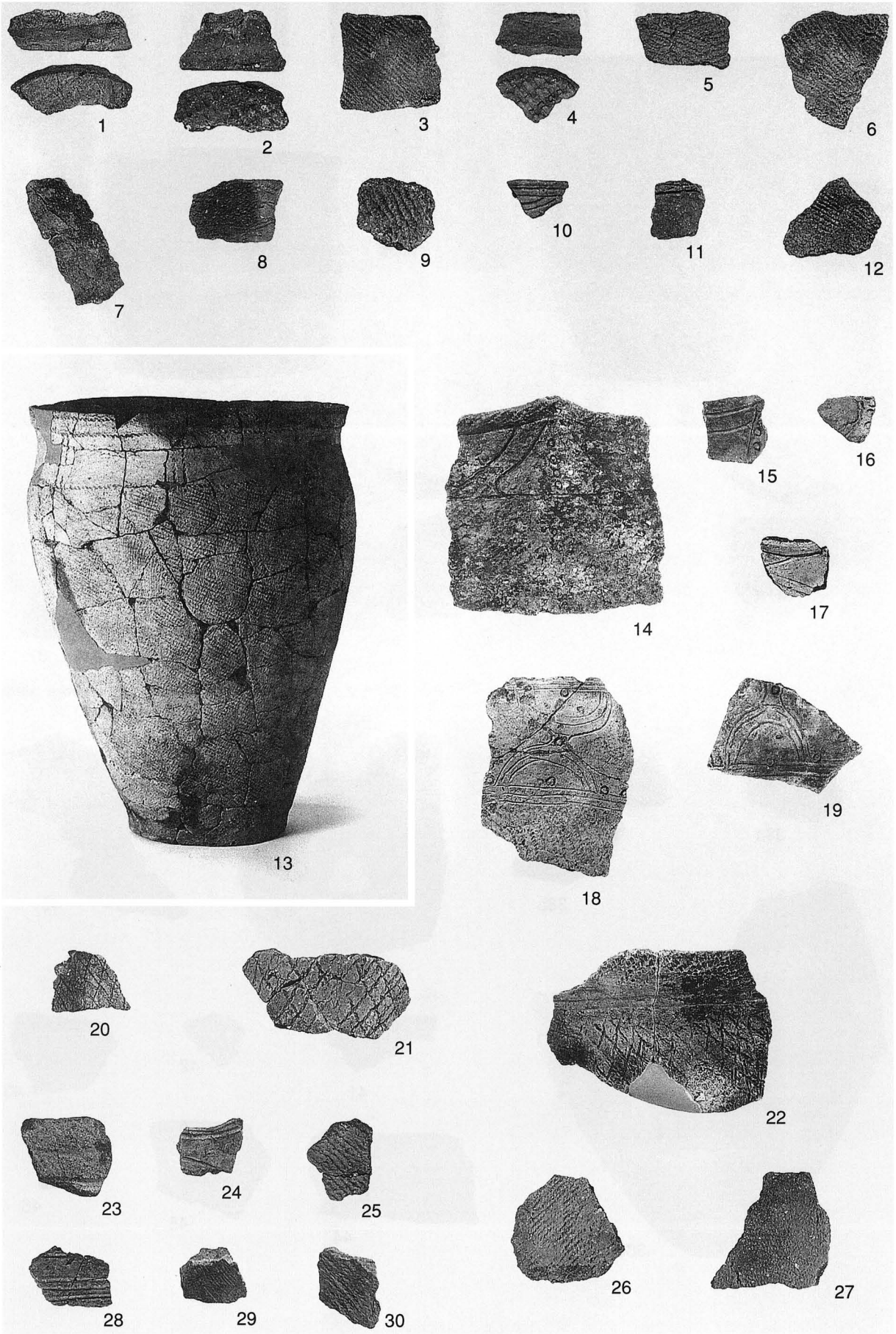
A区試掘トレンチ①



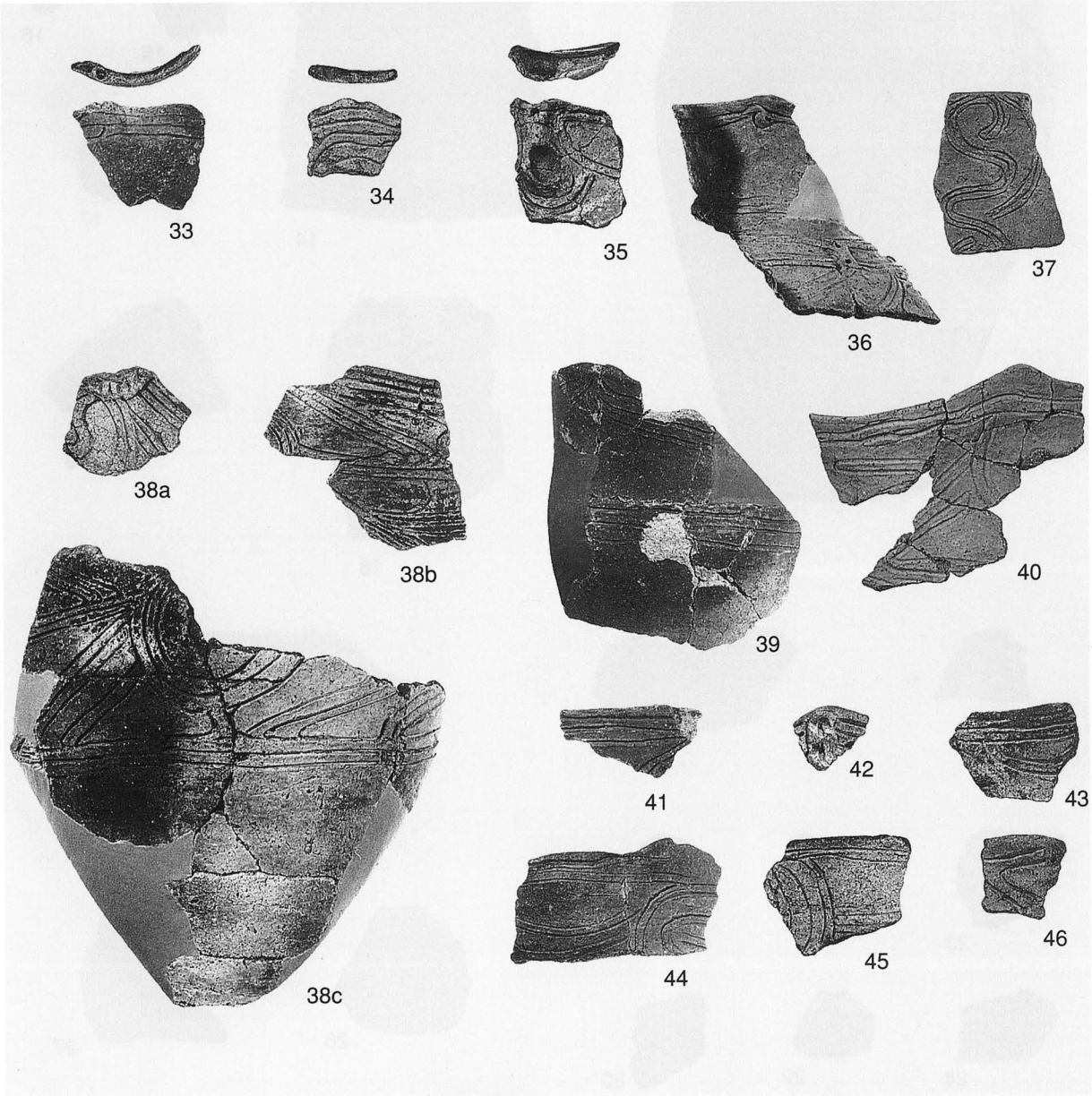
A区試掘トレンチ②

調査区周辺の供養碑（近世～近代）

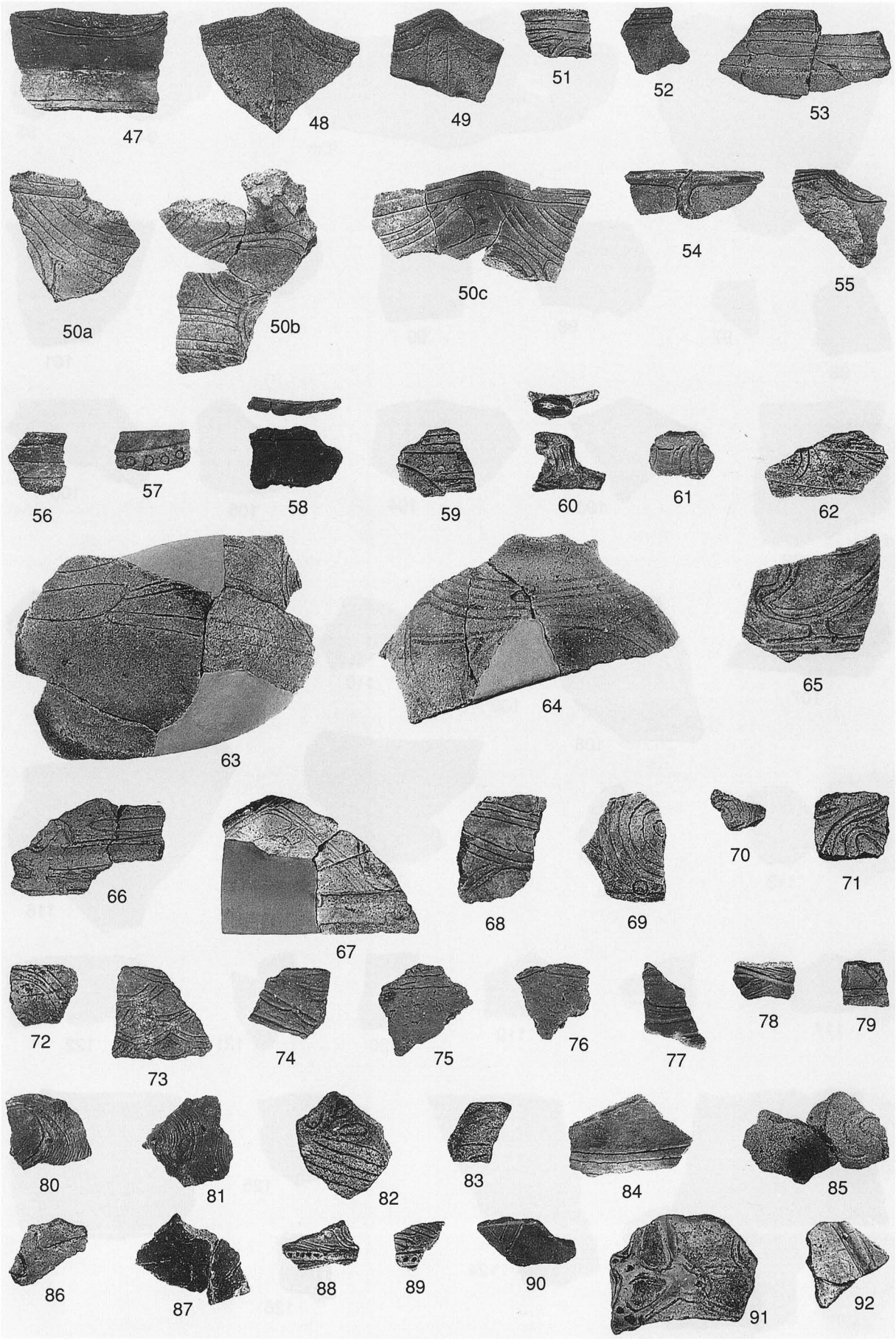
写真図版17　墓碑集中部、試掘、近世～近代の供養碑


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30

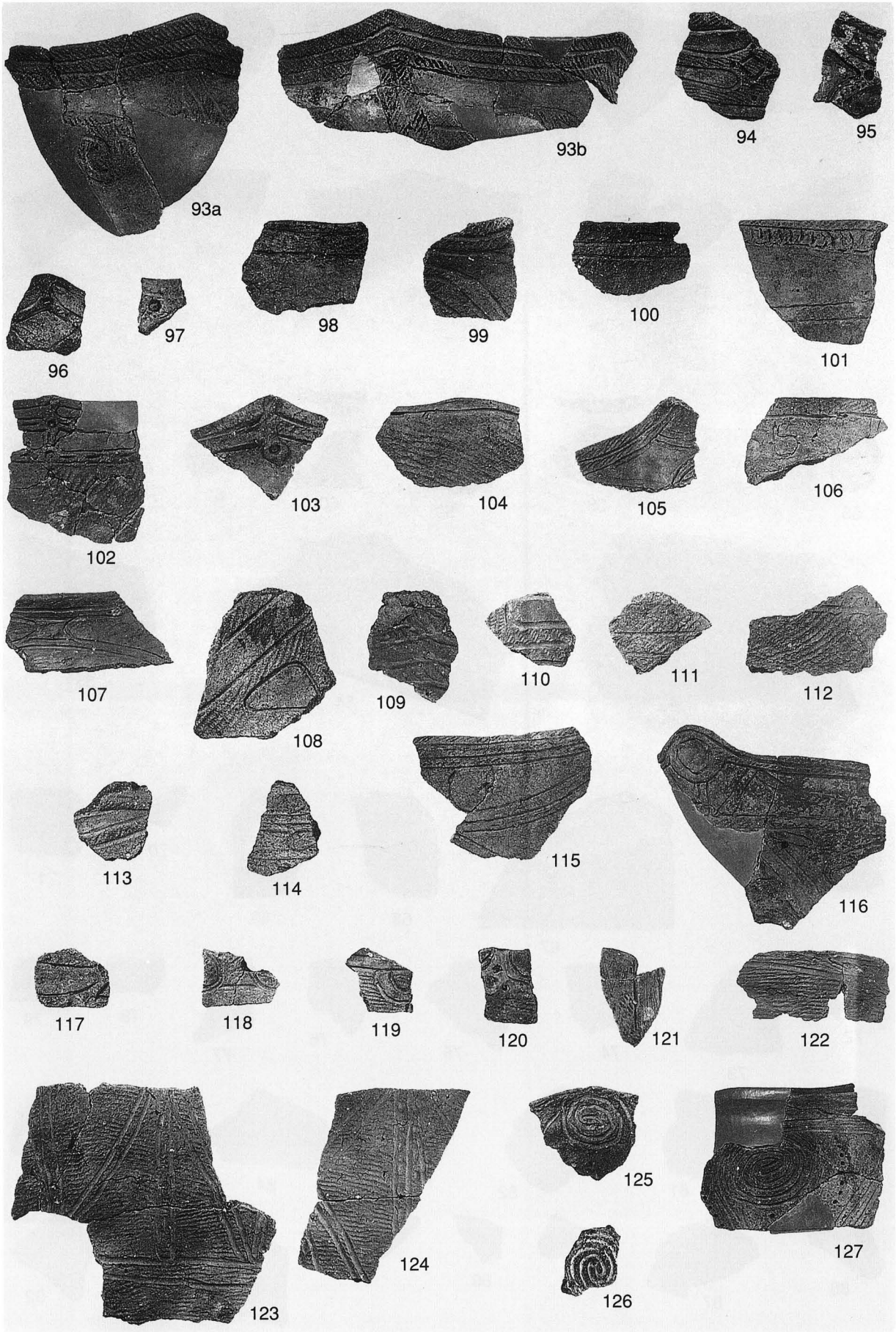
写真図版18　土器（1）



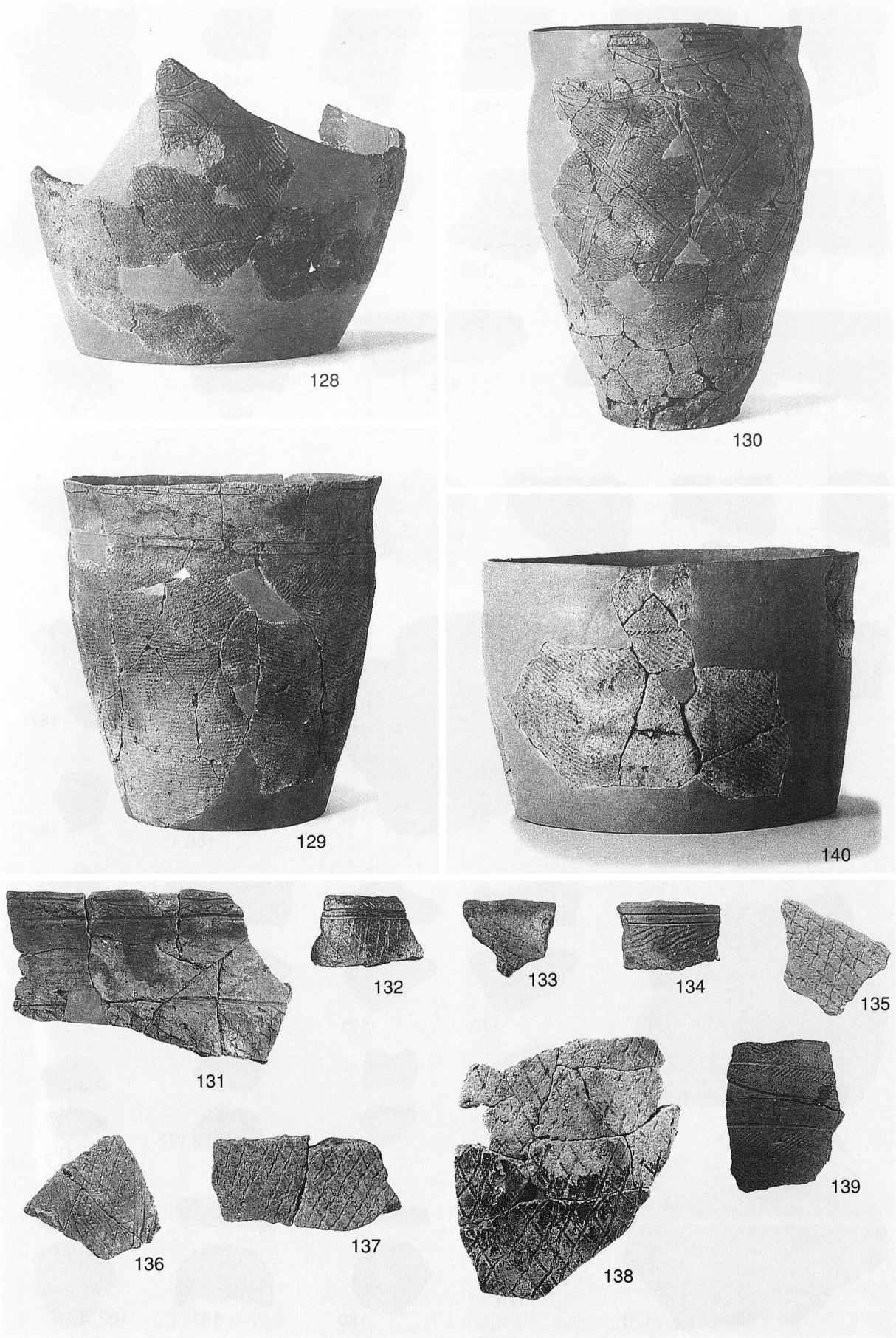
写真図版19　土器（2）


47
48
49
51
52
53
50a
50b
50c
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92

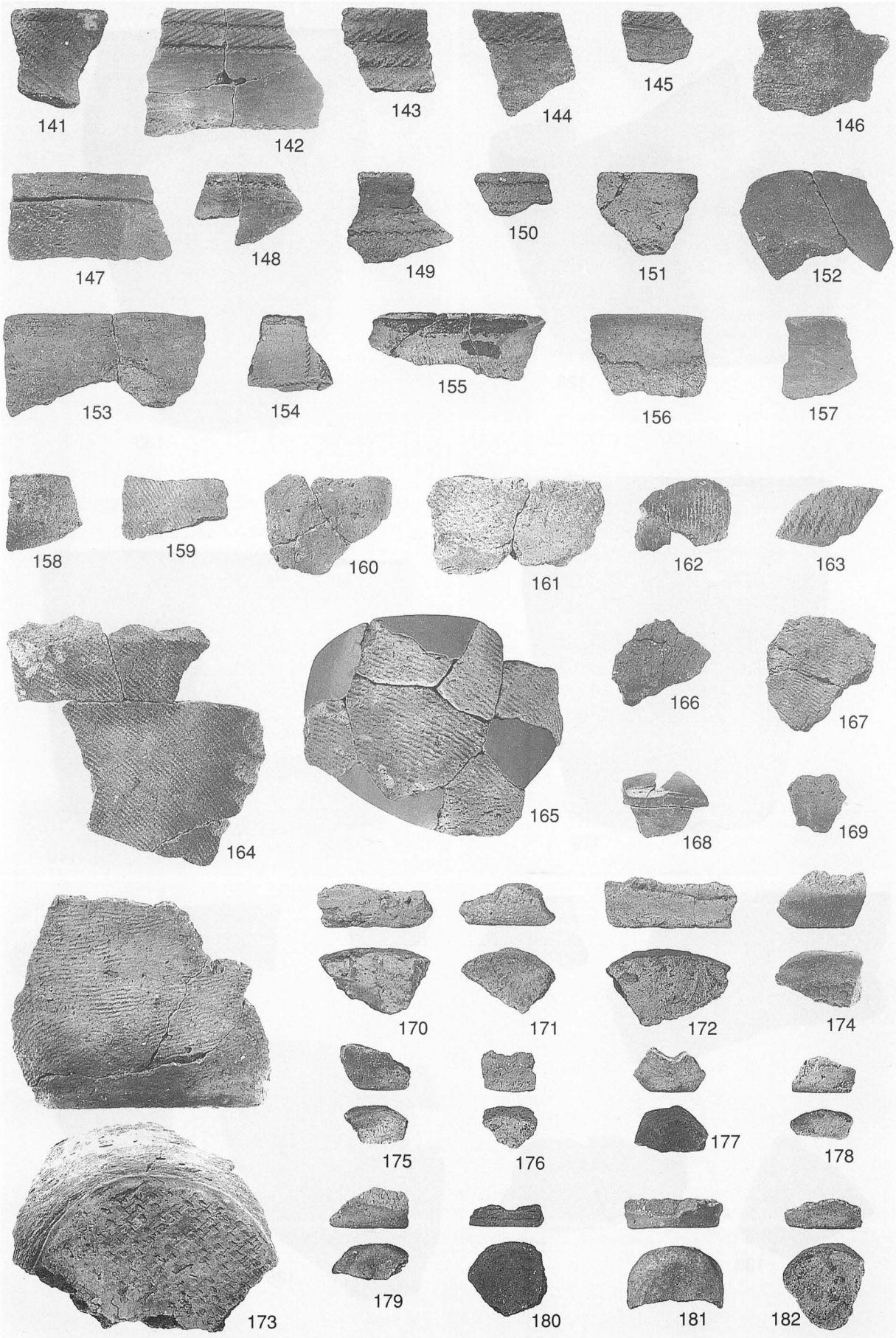
写真図版20　土器（3）


93a
93b
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127

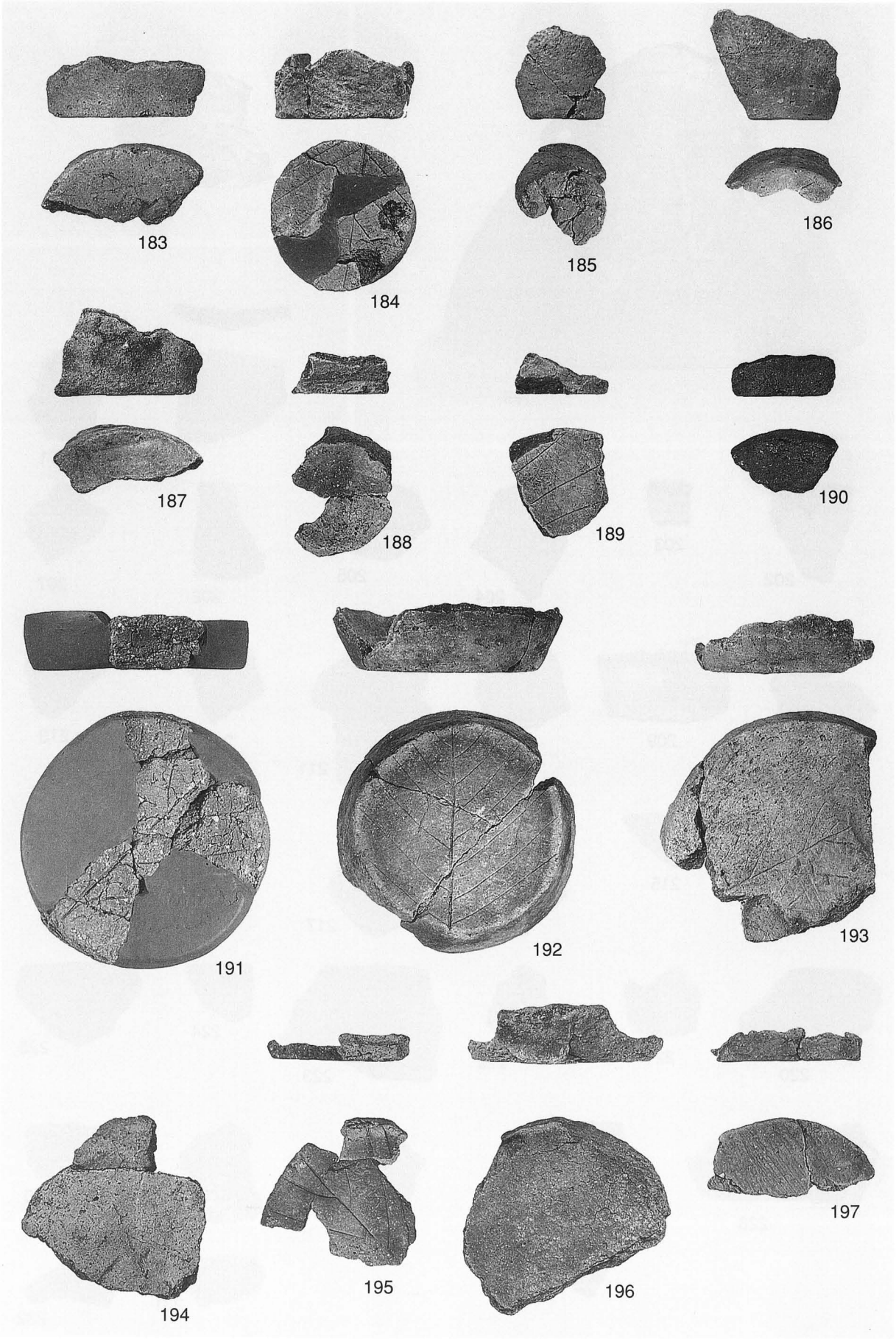
写真図版21　土器（4）



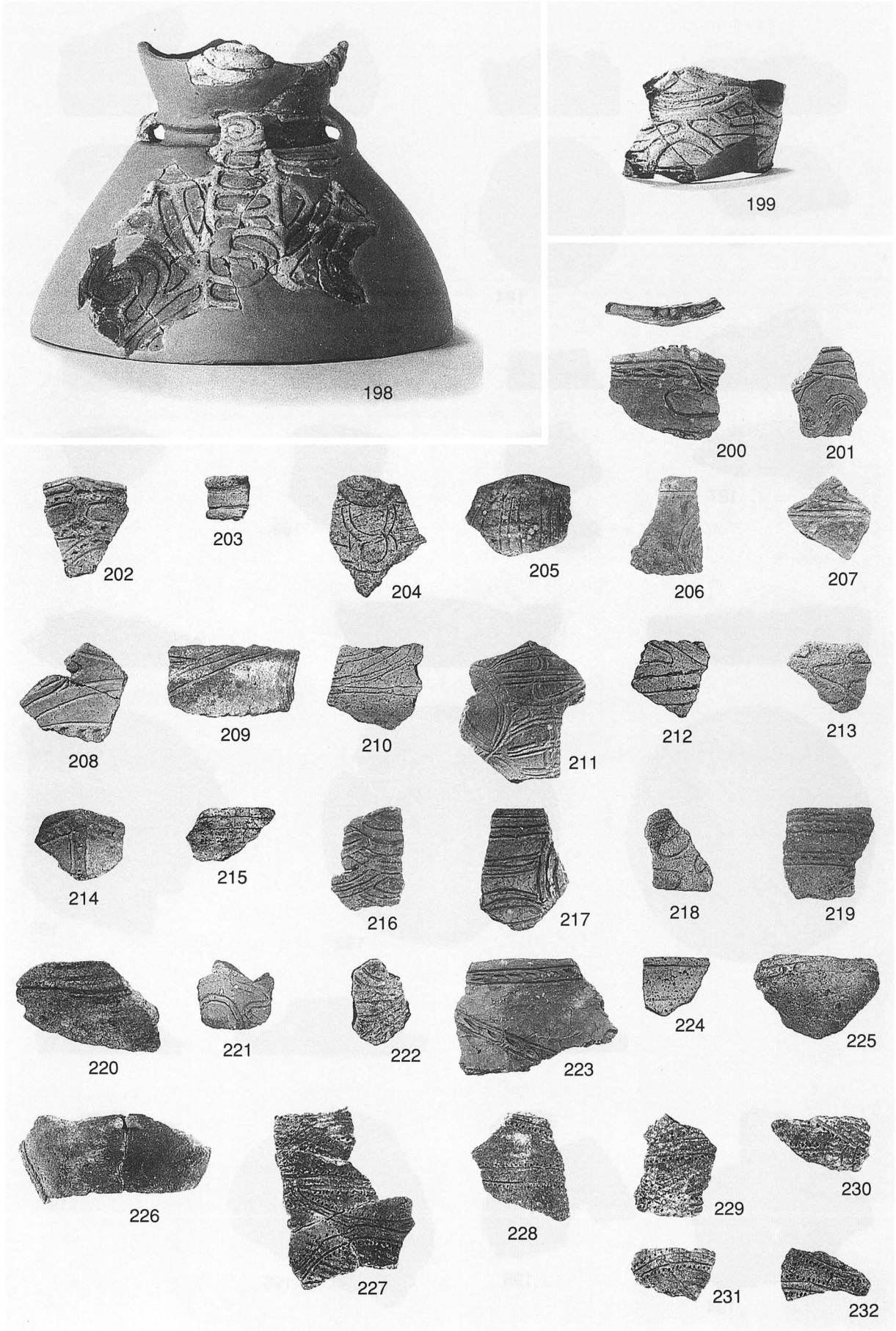
写真図版22　土器（5）


141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182

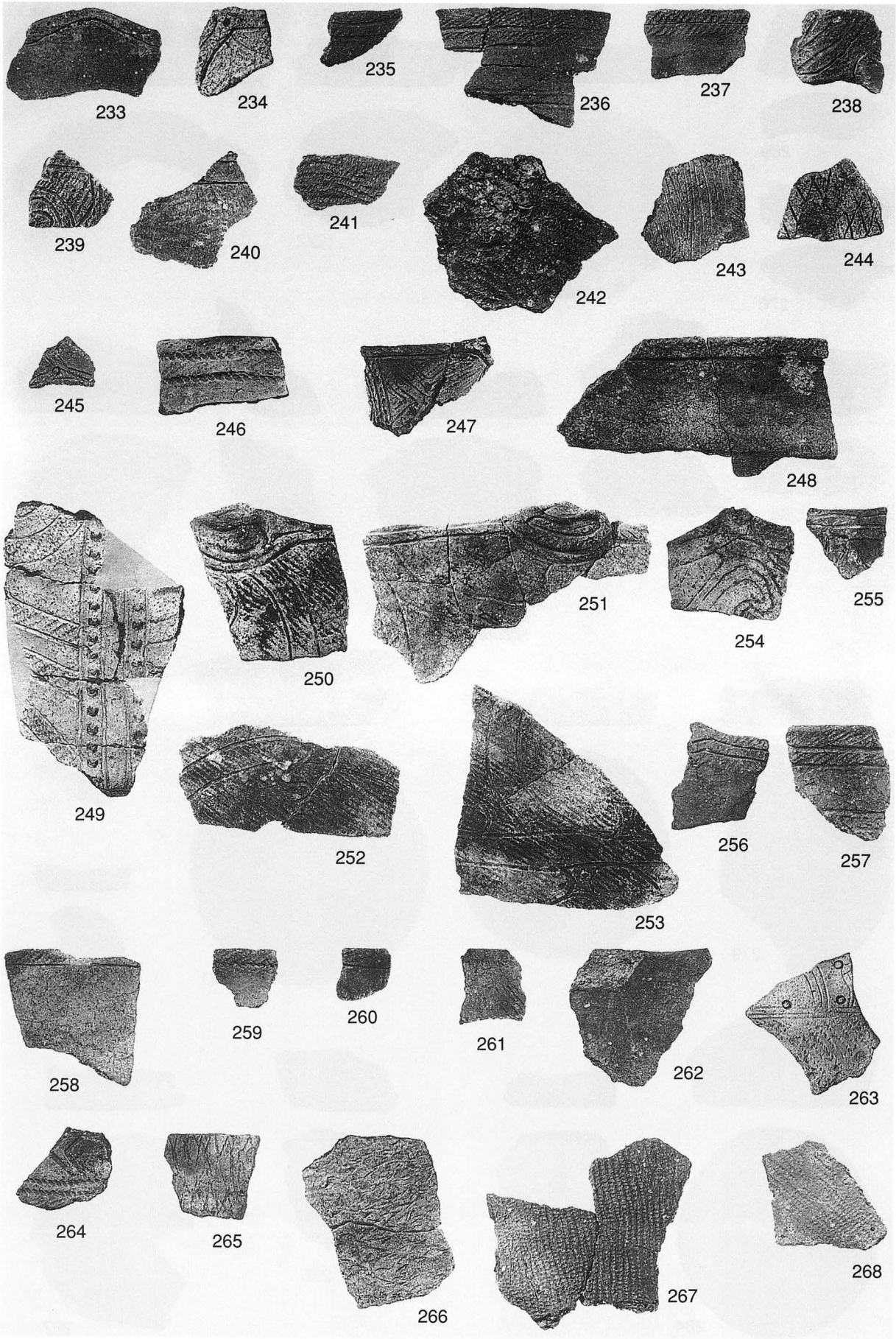
写真図版23　土器（6）



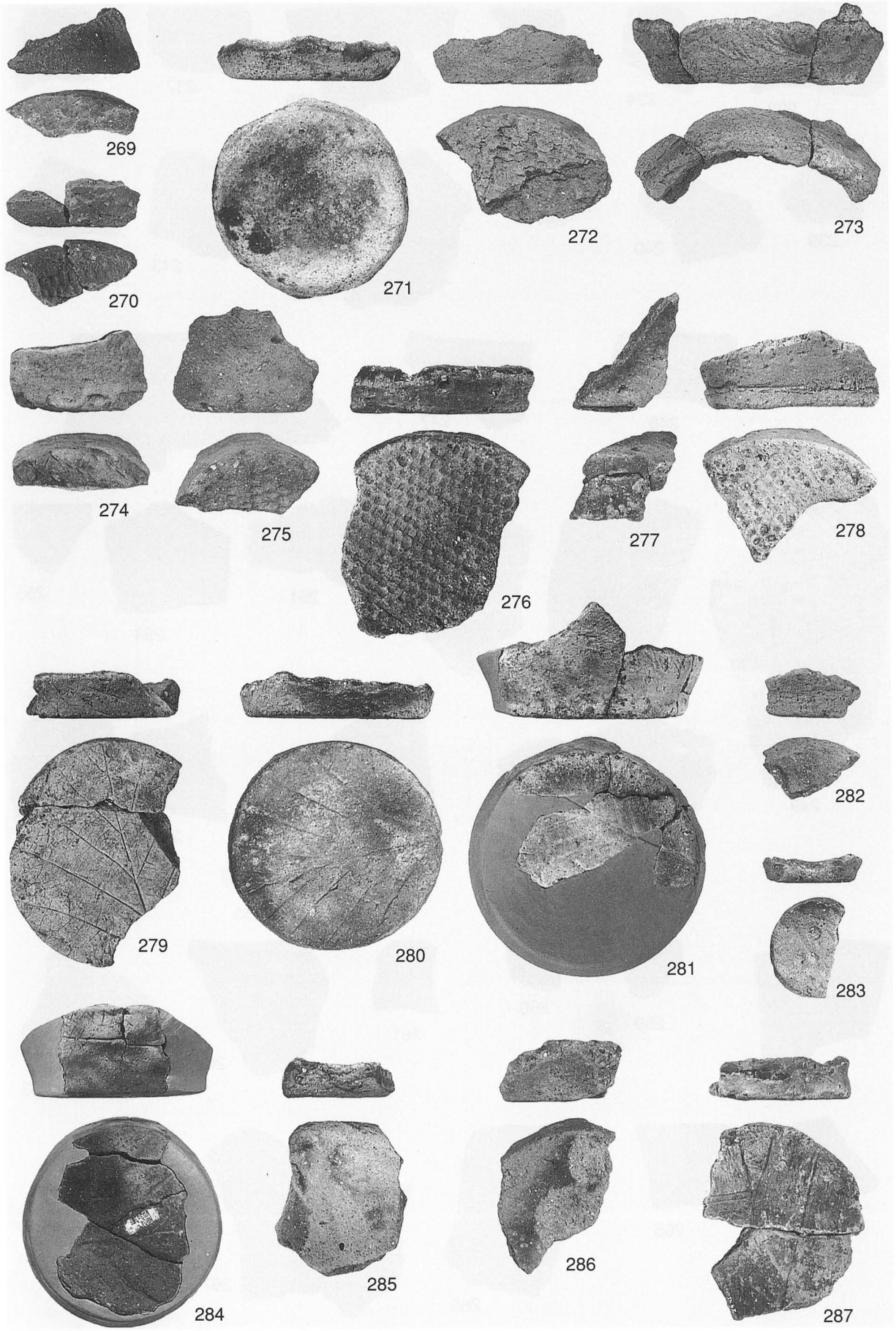
写真図版24　土器（7）


198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232

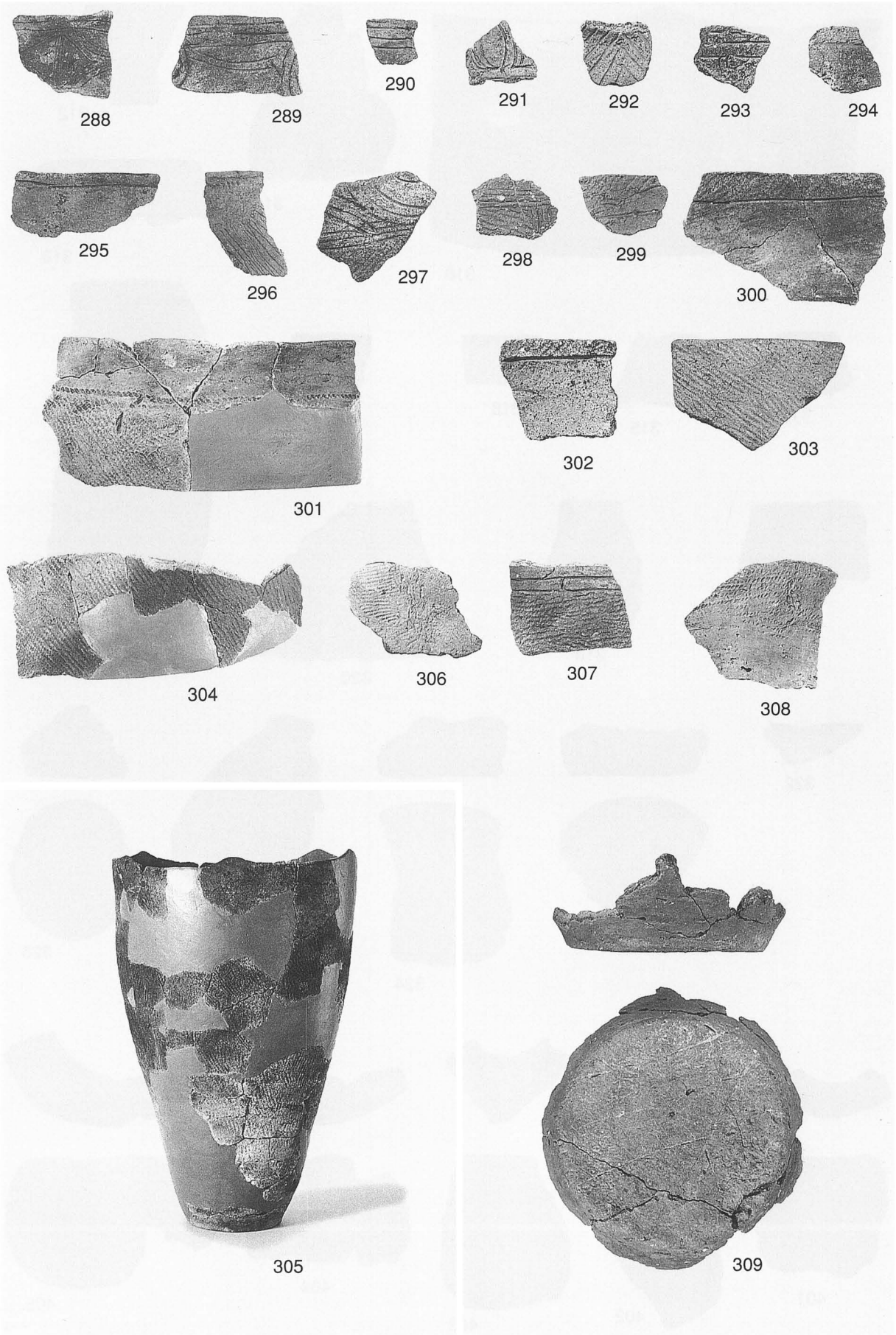
写真図版25　土器（8）


233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268

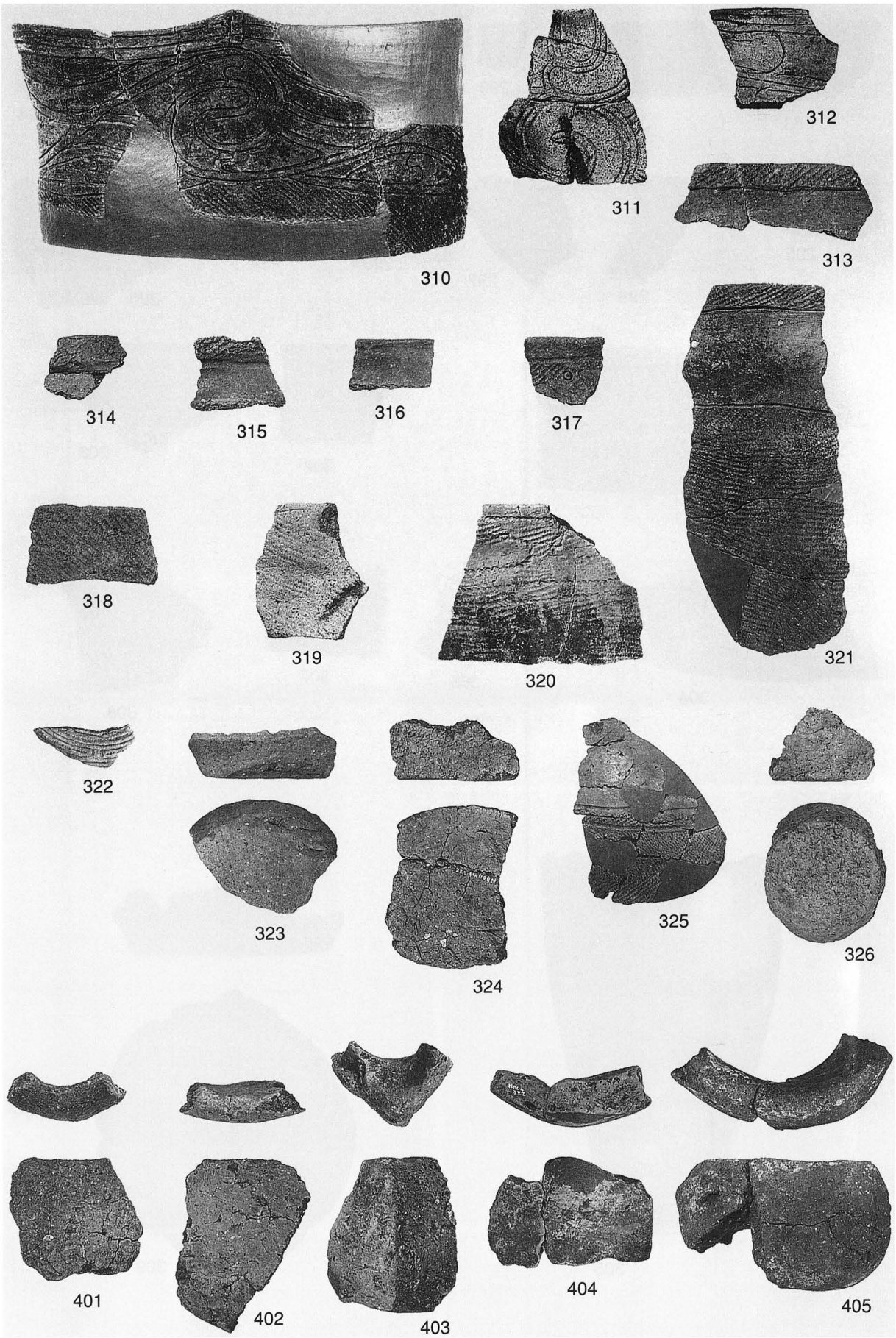
写真図版26　土器（9）


269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287

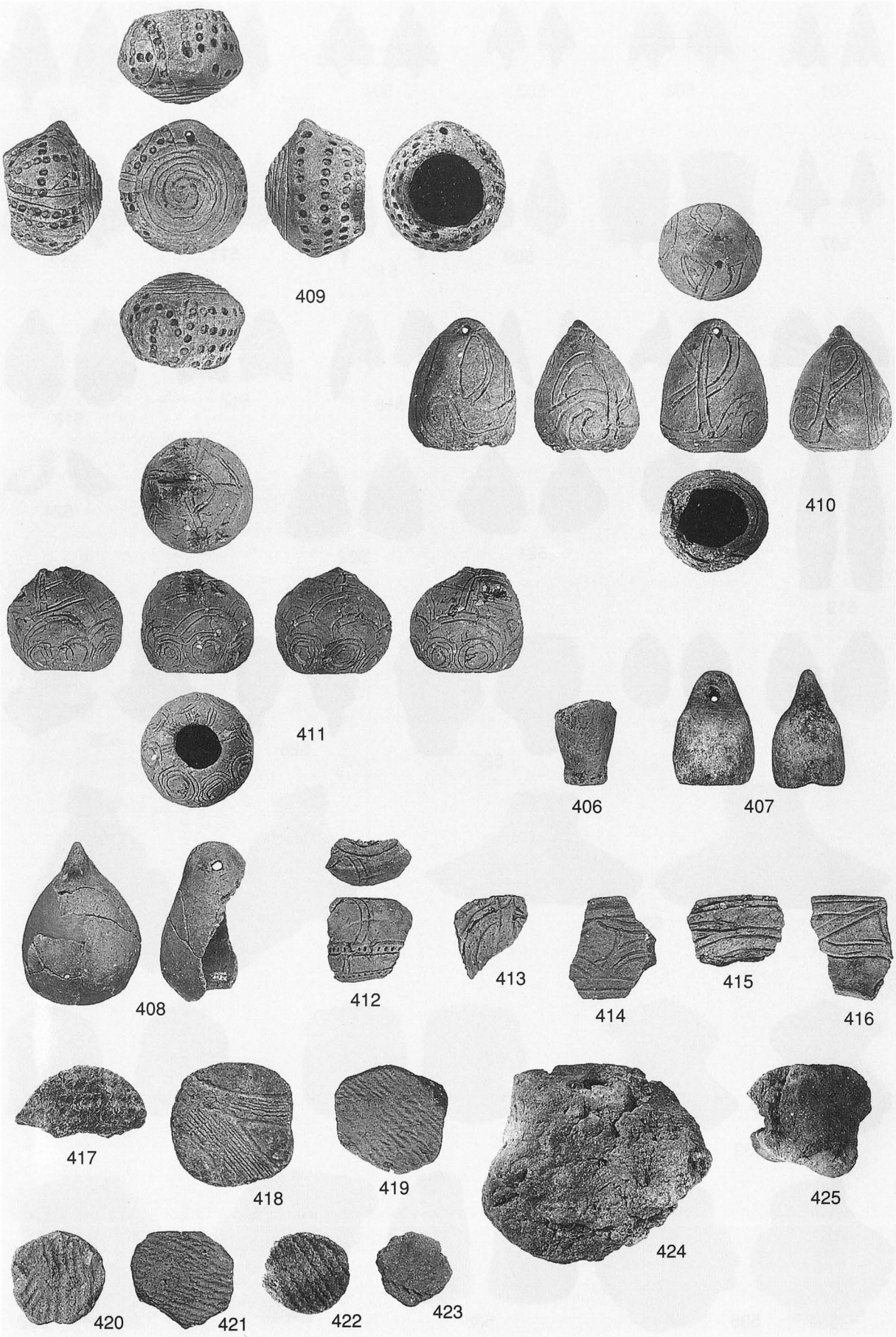
写真図版27　土器（10）


288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
306
307
308
305
309

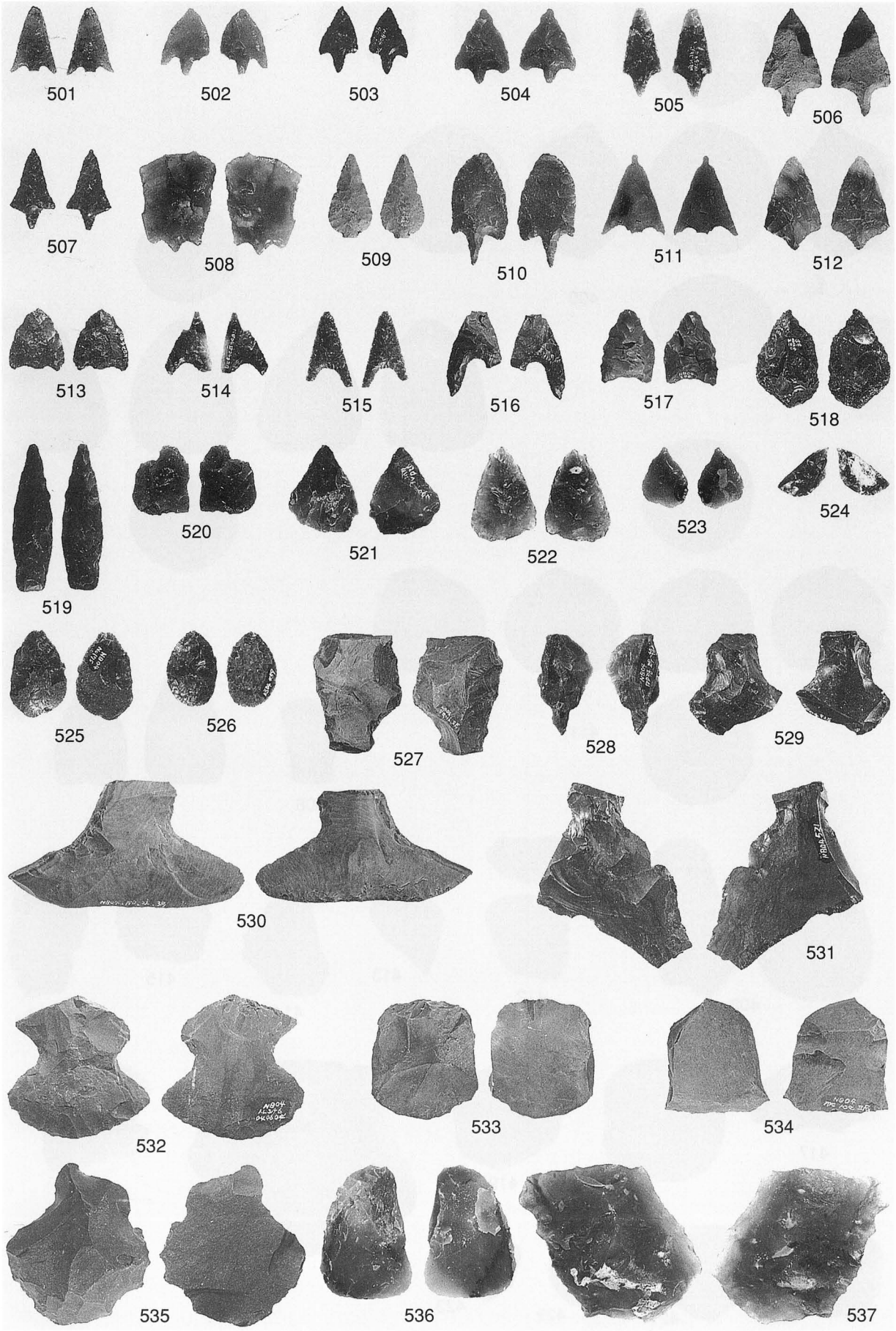
写真図版28　土器（11）



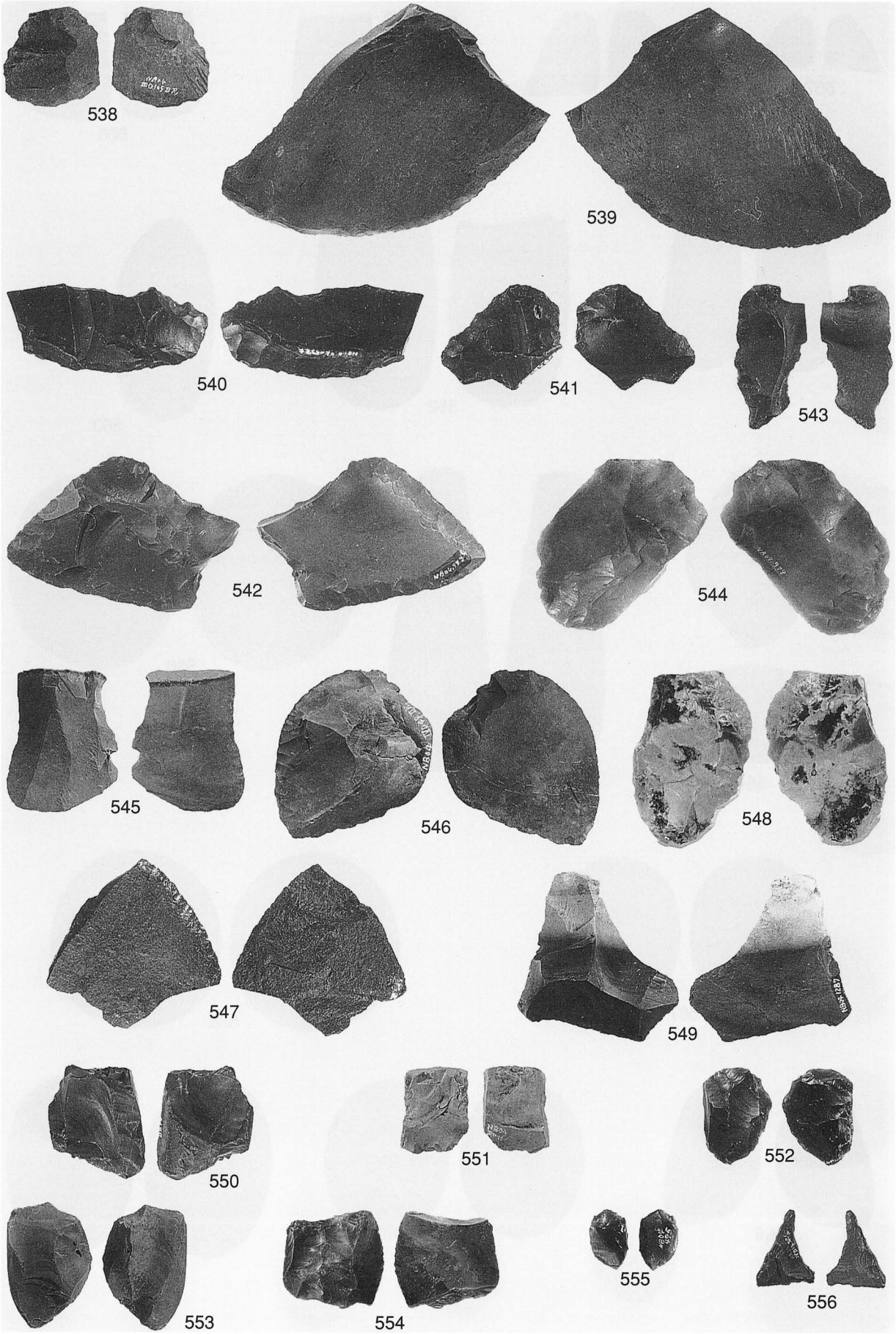
写真図版29　土器（12）、土製品（1）



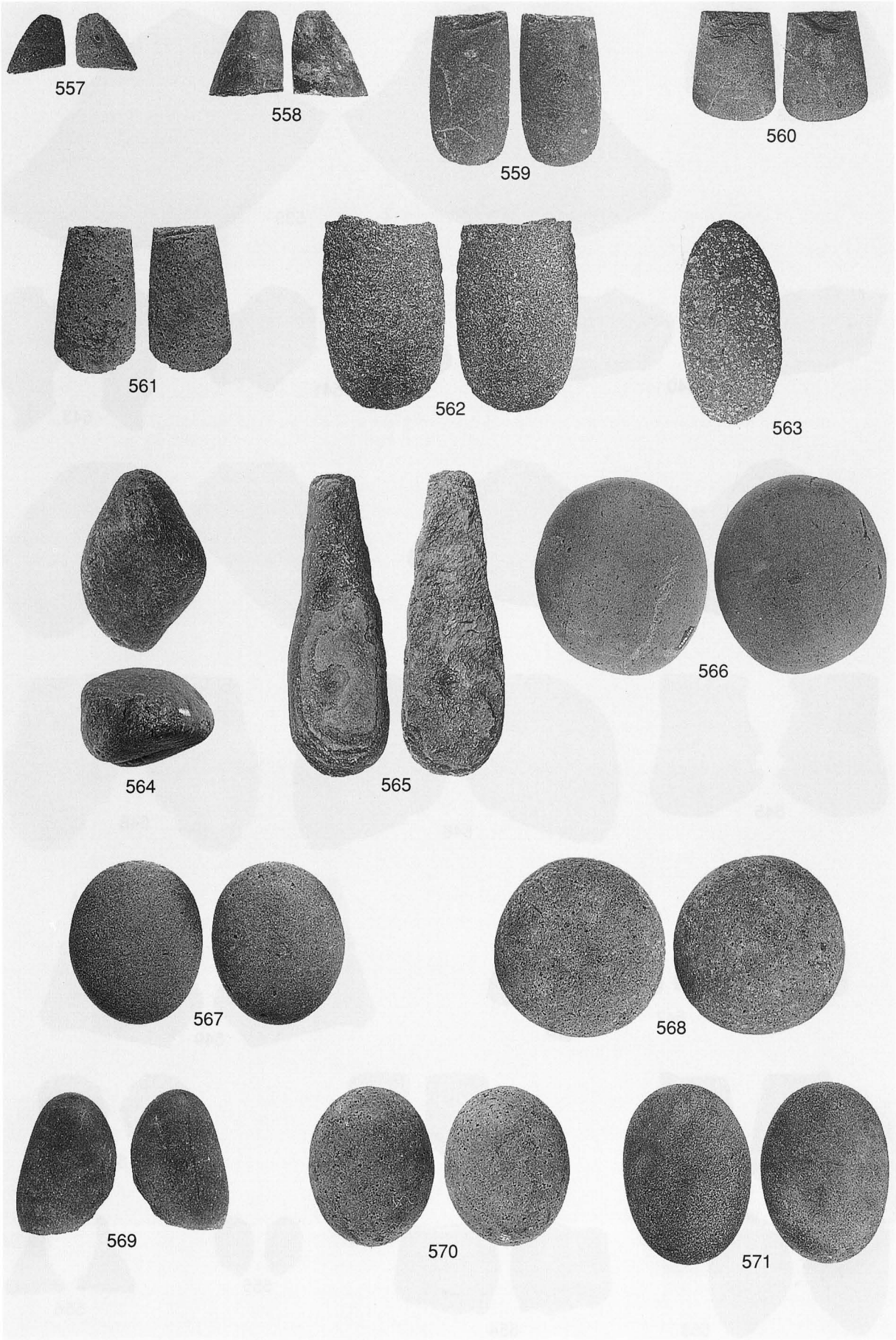
写真図版30　土製品（2）、粘土塊


501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537

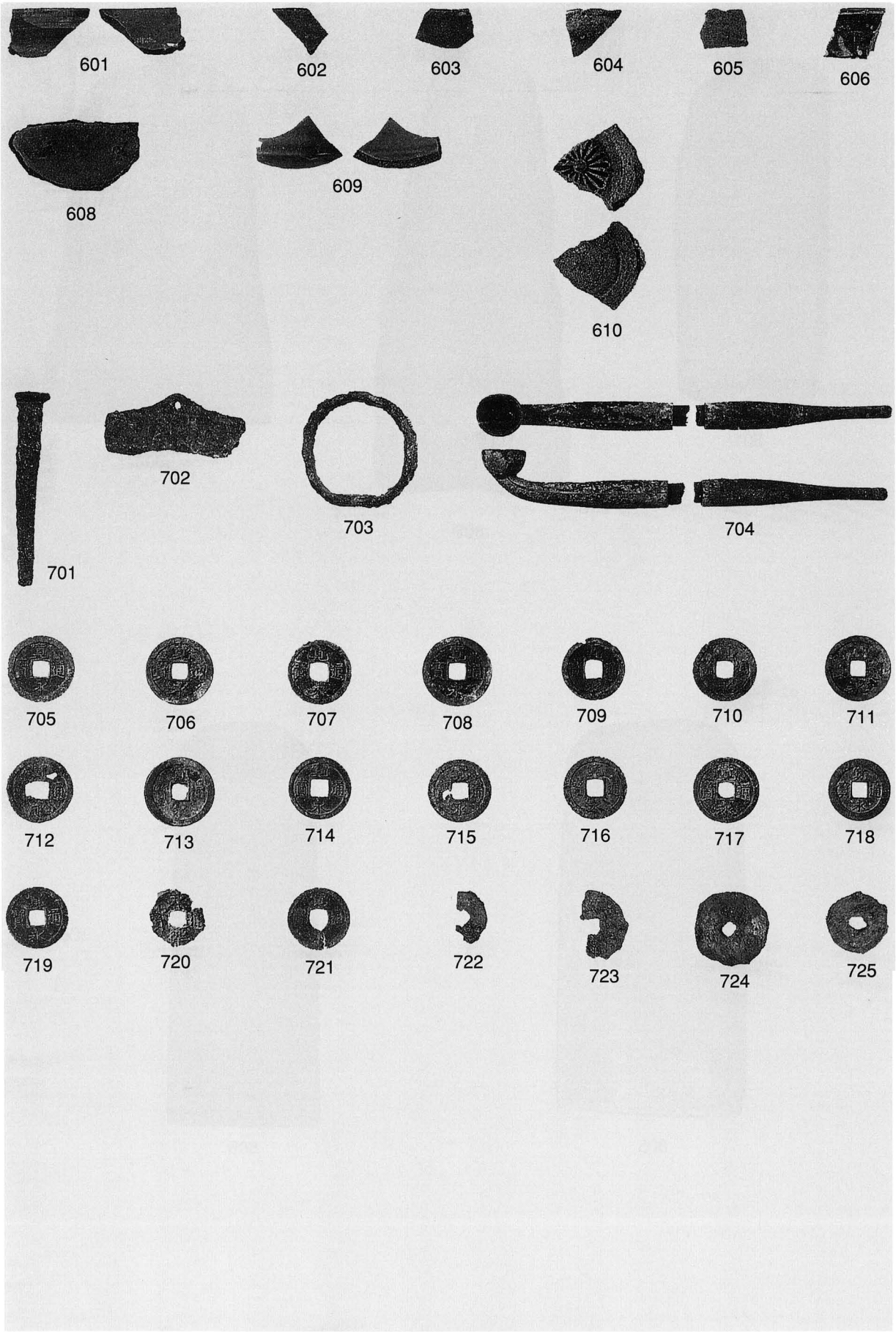
写真図版31　石器（1）


538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556

写真図版32　石器（2）



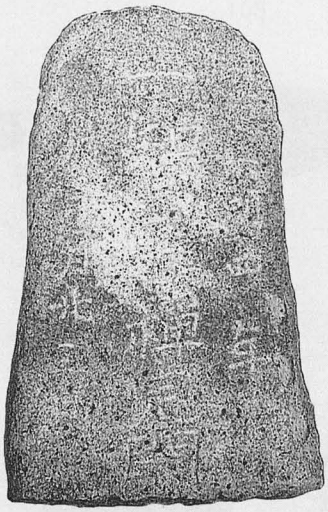
写真図版33　石器（3）



写真図版34　陶器、鉄製品、煙管、銭貨

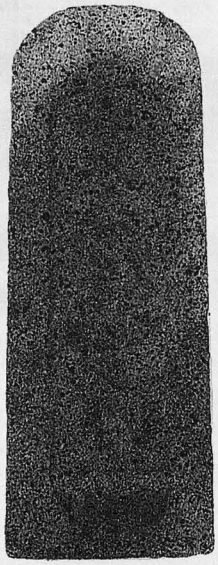
801

802



803

805



806

写真図版35　近世墓碑

報告書抄録

ふりがな	ぬまぶくろいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	沼袋遺跡発掘調査報告書
副書名	一般県道田野畑岩泉線緊急地方道路整備事業関連調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第483集
編著者名	米田　寛
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡第11地割185番地　TEL(019)638－9001
発行年月日	2006年2月3日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
沼袋遺跡	岩手県下閉伊郡 田野畑村尾肝要 118番地3ほか	03484	KG21-0127	39度 56分 32秒	141度 49分 51秒	2004.05.19 ～ 2004.10.05	4,910m²	道路整備事業に伴う緊急発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
沼袋遺跡	集落	縄文時代 (後・晩期)	掘立柱建物跡　2棟 土坑　9基 埋設土器　1基 焼土遺構　1ヵ所 捨て場　2ヵ所	縄文土器 (後期前葉～晩期) 鐸形型土製品 腕輪形土製品 土偶 剥片石器 (石鏃・石匙ほか) 礫石器 (磨製石斧ほか)	江戸時代を主体とする掘立柱建物跡
		弥生時代中期		弥生土器 (中期)	
		江戸時代以降	掘立柱建物跡　6棟 土坑(墓壙)　1基	唐津焼 (16世紀末) 美濃焼 (19世紀初頭) 永楽通宝 寛永通宝 煙管	

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第483集

沼袋遺跡発掘調査報告書

一般県道田野畑岩泉線緊急地方道路整備事業関連遺跡発掘調査

印刷　平成18年２月１日
発行　平成18年２月３日

発行　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話　(019) 639－9001
FAX　(019) 638－8563

印刷　有限会社　橋本印刷
〒020-0853　岩手県盛岡市本町通１丁目15番29号
電話　(019) 652－1354

© (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2006